

東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）

－ 東京都レッドリスト（本土部）2020年版 －



2020 Red List of Threatened Species Tokyo:
23-ward and Tama area version

東京都環境局

【表紙の版画】

絵 東郷なりさ

種名 タマノカンアオイ（植物）

イノカシラフラスコモ（藻類）

カヤネズミ（哺乳類）

ミゾゴイ（鳥類）

ヤマカガシ（爬虫類）

トウキョウダルマガエル（両生類）

ホトケドジョウ（淡水魚類）

ムカシヤンマ（昆虫類）

ヌカエビ（甲殻類）

コガネグモ（クモ類）

ナタネキバサナギガイ（貝類）

*) 東京都レッドリスト 2020 年版掲載種より

まえがき

東京は、わが国の首都として、政治・経済・文化など様々な分野において発展し続ける世界有数の大都市であると同時に、西は関東山地から東は東京湾にいたるまで、山地、丘陵地、台地、低地といった様々な地形や、伊豆諸島や小笠原諸島といった島しょ部も併せ持っている都市でもあり、そこには多種多様な生態系が存在しています。

都では、東京における自然の保護と回復を図り、都民が快適に生活を営むことができる環境を確保できるよう、「東京における自然の保護と回復に関する条例」（自然保護条例）を昭和 47 年に制定し、高度経済成長期における無秩序な開発から、都内に残された貴重な緑を守る上で一定の成果を上げてきました。また、平成 24（2012）年 5 月には、生物多様性地域戦略の性格を持つ「緑施策の新展開」を策定し、生物多様性に配慮した緑の質を高める取組みについても推進してきました。

しかし、近年、都内の野生生物を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。開発による生息地の消失、人為による捕獲や採集、里山の手入れ不足による荒廃、外来種による生態系のかく乱、さらには地球環境の変動など、多くの要因が野生生物の生存を脅かしている現状があります。

都では、都内に生育、生息する野生生物の個々の種について生物学的観点から絶滅のリスクを評価した「レッドリスト」を「東京都の保護上重要な野生生物種（1998 年版）」として平成 10（1998）年に発行し、約 10 年毎に見直しを行ってきました。本土部では平成 22（2010）年に 2 度目の改定版を発行し、今回が 3 度目の改定となります。こうして刻々と変化する東京の自然環境の現況や絶滅のおそれのある野生生物の実態を把握することは、都の自然環境行政を推進する際の基礎的資料の充実だけでなく、開発等に際して実施する環境影響評価や開発規制等において、野生生物に配慮した適切な計画策定への活用が期待されます。さらには、都内の野生生物を取り巻く状況に多くの都民が関心を抱くきっかけとなり、地域で行われている保全活動への参加促進につながることも期待されます。都としては、そうした取り組みを原動力に、野生生物の生育、生息環境の保全等をより一層進めてまいります。

最後に、調査の実施と成果の取りまとめにあたり、長期間にわたりご指導、ご助言をいただいた「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）」改定に関する検討会と 7 つの専門部会の委員の皆様、及び現地調査や情報提供においてご協力いただいた専門機関の皆様にご心から感謝を申し上げます。また、表紙のイラスト制作について快くお引き受け下さった東郷なりさ氏にも御礼申し上げます。

令和 3（2021）年 3 月

東京都環境局

目 次

まえがき

I 選定・評価方法	1
1. 調査の体制	1
2. 対象分類群と対象とする生物の範囲	7
3. 対象地域と地域区分	7
4. 調査方法	9
5. 選定及び評価の手順	9
6. 評価の基準	9
II 選定・評価結果の概要	18
III 自然環境の概要	30
IV 保護上重要な野生生物種	36
1. 植物	36
2. 藻類	71
3. 哺乳類	76
4. 鳥類	81
5. 爬虫類	90
6. 両生類	94
7. 淡水魚類	97
8. 昆虫類	104
(1) トンボ目	107
(2) カマキリ目・バッタ目	111
(3) カメムシ目	115
(4) ヘビトンボ目・アミメカゲロウ目	118
(5) コウチュウ目	122
(6) ハチ目	130
(7) ハエ目	133
(8) チョウ目チョウ類	137
(9) チョウ目ガ類	142
9. 甲殻類	146
10. クモ類	151
11. 貝類	155
V 評価作業を終えて	162
和名索引（植物・藻類）	164
和名索引（動物）	177
学名索引（植物・藻類）	188
学名索引（動物）	200

I 選定・評価方法

本書は、「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010 年版」（以下「2010 年版」という。）の改定版であるが、選定・評価方法については 2010 年版から分類群の追加などの見直しを行った。

評価の基準については、2010 年版と同様に最新の環境省レッドリスト（今回は第 4 次レッドリスト*）のカテゴリーと判定基準に準拠し、可能な限り定量的な要件も取り入れ、「定性的要件」と「定量的要件」を併用して評価を行った。評価対象とする分類群についても、2010 年版で対象としていた分類群に加えて、藻類を新たに対象とした。今回の改定で対象とした分類群は合計 11 分類群（植物、藻類、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、甲殻類、クモ類、貝類）である。

なお、今回の改定では東京都の本土部と島しょ部（伊豆諸島、小笠原諸島）を別々に検討しており、本書は本土部の改定版である。

* 平成 24 (2012) 年度に公表され、その後 5 回の改訂が実施され、第 5 回目（2020 年）の改訂で絶滅危惧種は合計 3,716 種となった。対象種やそのランクについては見直し変更があるが、カテゴリーと判定基準については 2020 年まで変更等は行われていない。

1. 調査の体制

(1) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）」改定に関する検討会の設置

調査実施にあたり、情報収集、選択、調査計画の作成、調査遂行上の課題と対応策の検討、調査成果の確認、選定基準の検討、掲載種の選定などを行うため、検討会を設置した。

検討会の委員構成は、次のとおりである。（所属は平成 31 (2019) 年 4 月時点）

座長	大場秀章	東京大学名誉教授（植物部会）
委員	北山太樹	国立科学博物館研究主幹（藻類部会）
	石井信夫	東京女子大学教授（哺乳類部会）
	金井 裕	公益財団法人日本野鳥の会参与（鳥類部会）
	福山欣司	慶応義塾大学教授（爬虫類・両生類・淡水魚類部会）
	矢島 稔	群馬県立ぐんま昆虫の森名誉園長（昆虫類部会 令和元年 8 月まで）
	須田真一	中央大学協力研究員（昆虫類部会 令和元年 9 月から）
	武田正倫	国立科学博物館名誉館員（その他無脊椎動物部会）

(2) 「専門部会」の設置

検討会の下に、専門分野における情報収集、選択、調査計画の作成、調査遂行上の課題と対応策の検討、調査成果の確認、選定基準の検討、掲載種の選定などを行う専門部会を設置した。

専門部会は、「植物」、「藻類」、「哺乳類」、「鳥類」、「爬虫類・両生類・淡水魚類」、「昆虫類」、「その他無脊椎動物」の7部会を設置し、「その他無脊椎動物」では、甲殻類、クモ類、貝類を対象とした。

各専門部会の委員構成と担当分類群は次のとおりである。(所属は平成31(2019)年4月時点)

<植物部会>

座長	大場秀章	東京大学名誉教授
委員	畔上能力	社団法人日本植物友の会理事
	池田 博	東京大学総合研究博物館准教授
	内野秀重	八王子市長池公園園長
	奥田重俊	横浜国立大学名誉教授
	加藤英寿	首都大学東京助教
	村上哲明	首都大学東京教授

<藻類部会>

座長	北山太樹	国立科学博物館研究主幹
委員	加藤 将	新潟大学特任助教

<哺乳類部会>

座長	石井信夫	東京女子大学教授
委員	岩佐真宏	日本大学教授
	重昆達也	東京コウモリ研究会代表
	三浦慎悟	早稲田大学教授
	山崎晃司	東京農業大学教授

<鳥類部会>

座長	金井 裕	公益財団法人日本野鳥の会参与
委員	植田睦之	認定NPO法人バードリサーチ代表
	川内 博	日本野鳥の会東京研究部長
	御手洗望	青梅自然誌研究グループ

<爬虫類・両生類・淡水魚類部会>

座長	福山欣司	慶応義塾大学教授	(両生類)
委員	草野 保	元首都大学東京助教	(両生類)
	坂田修一	東京動物園協会	(爬虫類)
	丸山 隆	元東京海洋大学助教	(淡水魚類)
	山崎充哲	川崎河川漁業協同組合総代	(淡水魚類)

<昆虫類部会>

- 座長 矢島 稔 群馬県立ぐんま昆虫の森名誉園長（令和元年8月まで）
須田真一 中央大学協力研究員（令和元年9月から）
委員 荻部治紀 神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員
岸田泰則 日本蛾類学会会長
須田真一 中央大学協力研究員（令和元年8月まで）
矢後勝也 東京大学総合研究博物館助教

<その他無脊椎動物部会>

- 座長 武田正倫 国立科学博物館名誉館員（甲殻類）
委員 小野展嗣 国立科学博物館名誉研究員（クモ類）
黒住耐二 千葉県立中央博物館上席研究員（貝類）

掲載種（亜種・変種・一部の品種を含む。以下同じ。）の選定及び評価は、基本的にそれぞれの専門部会の委員が行ったが、淡水魚類及び昆虫類については委員のほかにも、次の7名（淡水魚類：1名、昆虫類：6名）の協力者に選定・評価作業を担当していただいた。

淡水魚類

- 宮崎佑介 白梅学園短期大学講師

昆虫類

- | | |
|-----------------------------|--|
| 伊藤 元 (株)地域環境計画 | カマキリ目、バッタ目担当 |
| 亀澤 洋 (株)環境指標生物 | コウチュウ目カワラゴミムシ科、ハンミョウ科、オサムシ科、ホソクビゴミムシ科、エンマムシ科、シデムシ科、ハネカクシ科担当 |
| 雛倉正人 日本甲虫学会会員 | コウチュウ目クワガタムシ科、コガネムシ科、ヒメドロムシ科、ナガドロムシ科、ジョウカイボン科、ヒゲボソケシキスイ科、コメツキモドキ科、ハムシ科、ゾウムシ科担当 |
| 松原 豊 東京都本土部昆虫目録作成プロジェクトメンバー | コウチュウ目タマムシ科、コメツキムシ科、ホタル科、テントウムシ科、カミキリムシ科担当 |
| 高橋秀男 日本昆虫分類学会会員 | ハチ目担当 |
| 伊東憲正 双翅目談話会会員 | ハエ目担当 |

また、現地確認調査、ヒアリング、情報提供などで多くの方々や専門機関に御協力いただいた。お名前を下に挙げて心より感謝の意を表したい。なお、お名前の後に括弧書きでご協力いただいた分類群を示した。(五十音順、敬称略)

<個人>

秋葉哲男 (昆虫類)	久保田繁男	須藤尋美 (昆虫類)
新井二郎 (植物)	(爬虫類、昆虫類)	関伸雄 (昆虫類)
荒井もみの (昆虫類)	久保田潤一	仙仁径 (植物)
安藤元一 (哺乳類)	(爬虫類、両生類)	高山順子 (貝類)
安藤夏太郎 (哺乳類)	倉地正 (昆虫類)	田島光代 (両生類)
石川一 (昆虫類)	栗山究 (植物)	田島良久 (両生類)
井上裕由 (鳥類)	栗山定 (昆虫類)	田畑伊織
内山裕 (植物)	小林健人 (植物)	(植物、哺乳類、鳥類)
浦野守雄 (哺乳類)	小林陽一 (植物)	田村典子 (哺乳類)
大西一博 (藻類)	五味元	塚谷裕一 (昆虫類)
大森雄二 (植物)	(爬虫類、両生類)	土屋学
岡崎弘幸 (哺乳類)	酒井藤夫 (植物)	(爬虫類、両生類)
岡島修 (哺乳類)	佐久間聡	筒井千代子 (植物)
岡武利 (植物)	(爬虫類、両生類)	手塚牧人 (哺乳類)
桶田太一 (昆虫類)	佐藤望 (鳥類)	照井進介 (植物)
小俣重信 (哺乳類)	佐藤方博 (鳥類)	東馬哲雄 (昆虫類)
折原磨寸男 (昆虫類)	塩谷暢生	富永孝昭 (藻類)
粕谷和夫 (鳥類)	(爬虫類、両生類)	長岡聡子 (植物)
金子凱彦 (鳥類)	繁田真由美 (哺乳類)	中島淳 (淡水魚類)
金子弥生 (哺乳類)	清水海渡 (哺乳類)	中原ゆうじ (貝類)
金本敦志 (植物)	新海栄一 (クモ類)	中村忠昌 (鳥類)
川北篤 (昆虫類)	神保宇嗣 (昆虫類)	中村文夫 (鳥類)
菊地則雄 (藻類)	須貝郁子 (藻類)	成島忠之 (植物)
岸本年郎 (昆虫類)	杉村健一 (昆虫類)	野村亮 (鳥類)
喜多英人 (昆虫類)	鈴木雅大 (藻類)	橋本敏和 (哺乳類)

長谷川博之（両生類）	古川嘉勇	御手洗望
初芝伸吾（クモ類）	（爬虫類、両生類）	（植物、爬虫類、両生類）
花井幸子（植物）	古屋信三（哺乳類）	三瀬章裕（植物）
パプロ・アパリシオ	堀江孝之（植物）	峰下耕（哺乳類）
（鳥類、爬虫類、両生類）	堀清鷹（植物）	宮内隆夫（昆虫類）
林友彦（昆虫類）	前原惠二	宮下俊之（昆虫類）
原島真二（両生類）	（爬虫類、両生類）	明主光（哺乳類）
平井規央（昆虫類）	松崎花（哺乳類）	守屋年史（鳥類）
藤井良造（植物）	松山龍太（哺乳類）	山崎厚（植物）
舟木匡志（植物）	水野昌彦（哺乳類）	吉川正人（植物）

<団体・専門機関等>

NPO 多摩川干潟ネットワーク	世田谷区土木部
奥多摩工業株式会社	東京たま広域資源循環組合
奥多摩町観光産業課	東京東部漁業組合
学校法人拓殖大学	東京都建設局河川部
環境省関東地方環境事務所奥多摩自然保 護官事務所	東京都港湾局臨海開発部
環境省自然環境局皇居外苑管理事務所	東京都植物研究会奥多摩植物誌調査プロ ジェクト
雲取山荘	東京都水道局水源管理事務所
小石川植物園（東京大学大学院理学系研究 科附属植物園）	東京都水道局西部建設事務所
公益財団法人日本野鳥の会	東京都水道局羽村取水管理事務所
公益財団法人リバーフロント研究所	東京都島しょ農林水産総合センター
国土交通省関東地方整備局東京外かく環 状国道事務所	東京薬科大学薬用植物園
桜ヶ丘カントリークラブ	独立行政法人国立科学博物館
白子川源流・水辺の会	都市鳥研究会
森林レンジャーあきる野	都立農業高等学校神代農場
	西多摩昆虫同好会
	日本野鳥の会奥多摩支部

日本野鳥の会東京・研究部
日本鱗翅学会自然保護委員会
認定 NPO 法人生態工房
練馬区土木部
八王子市教育委員会

東村山市みどりと公園課
兵庫県立人と自然の博物館
文京区土木部
瑞穂町都市整備部

※上記のほか、東京都建設局公園緑地部、東部公園緑地事務所、西部公園緑地事務所をはじめ都立公園指定管理者等の関係者に御協力をいただいた。

なお、各種調査のとりまとめ等については、(株)緑生研究所が東京都から業務を受託して実施した。

2. 対象分類群と対象とする生物の範囲

2010年版で対象としていた植物（維管束植物）、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、甲殻類、クモ類、貝類のほかに、藻類を新たに追加した。植物では種・亜種・変種・一部の品種を、動物では種・亜種を評価の対象とした。

なお、これらの分類群において生息が確認されている種であっても、東京都の本土部が本来の生息域ではない外来種（国内外来種含む）や、迷鳥*1及び偶産種*2等については評価対象外とした。各分類群における調査対象の詳細については、それぞれの分類群ごとの【選定・評価方法の概要】や【選定・評価結果の概要】を参照されたい。

*1 台風やその他偶然の機会により、本来の分布域や渡りのコースを外れて現れた鳥。

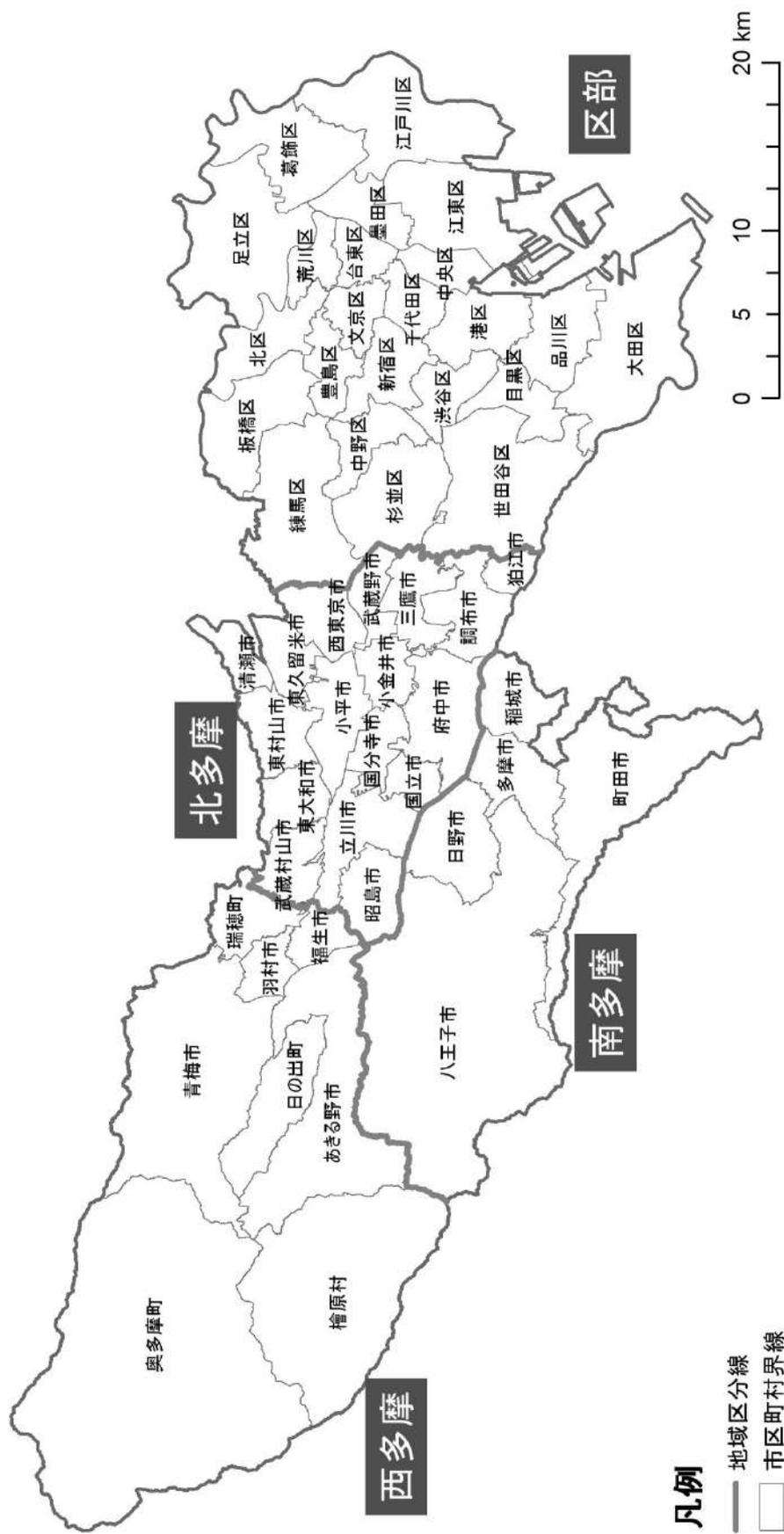
*2 その地域では定着していないと判断される種。台風や季節風などによって偶発的に飛来する種などが該当する。

3. 対象地域と地域区分

今回の改定作業は、東京都に属する地域のうち、島しょ部を除いた本土部を対象とした。本土部は地域によって環境が大きく異なることから、区部、北多摩、南多摩、西多摩の4地域に区分し、それぞれの地域区分ごとに評価を行った（昆虫類については区部及び多摩部の2区分）。地域区分図、地形区分図、標高図は、それぞれ図1（P.8）、図2（P.34）、図3（P.35）に示した。本土部各地における生物の保全対策や自然環境調査等の参考とする際には、この地域区分による評価を採用することが望ましい。

なお、瑞穂町が西多摩に行政区分されていることで、狭山丘陵が北多摩と西多摩に分断されている。瑞穂町の狭山丘陵地域については、丘陵地と台地を主要部分とする北多摩の評価を用いる必要がある。

さらに今回は、全国の他の道府県との比較を容易にする観点から、前回の昆虫類、甲殻類、クモ類、貝類だけでなく、すべての分類群において本土部全体としての評価も行った。



この地図は、「国土数値情報（行政区域データ）」（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gmi/datalist/KsjTmplt-N03-v2.3.html>）をもとに作成した。

図1 地域区分図

4. 調査方法

(1) 文献調査及びヒアリング調査

都内本土部全域における生物の生育、生息情報について既存文献の収集を行った。調査対象文献は、東京都や都内区市町村の発行する自然環境調査報告書、研究機関等の報告書、学会誌、専門雑誌等、あらゆる文献・資料を対象に情報の把握を行った。収集は、2010年版の発行後に発表されたものを中心としたが、必要に応じてさらに古い年代にさかのぼって収集を行った。

また、研究者や市民団体、NPO 法人等が所有する未発表データや標本等については、個別にヒアリング調査を実施するなどして情報を収集した。

(2) 現地確認調査

既存文献や資料による情報が著しく不足している種のうち、実際に調査を行うことで評価の精度が高められる可能性があるものについて、現地確認調査を実施した。

5. 選定及び評価の手順

掲載種の選定・評価にあたっては、まず2010年版の掲載種とともに、各分類群における近年の研究結果や都内での確認記録などの生物情報を基に専門部会の委員がそれぞれの担当分類群について、専門的知見による判断のもとで検討対象種を挙げる形で、検討対象種の抽出を行った。

抽出した検討対象種について、1種1地域ごとに評価を行い、評価作業の際には、カテゴリを判定するに至った根拠を記録用紙（チェックシート）に残した。

本書には、少なくとも1つの地域区分（あるいは本土部全体）で、「絶滅（EX）」、「野生絶滅（EW）」、「絶滅危惧ⅠA類（CR）」、「絶滅危惧ⅠB類（EN）」、「絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）」、「絶滅危惧Ⅱ類（VU）」、「準絶滅危惧（NT）」、「情報不足（DD）」及び「留意種」のいずれかに評価されたものを掲載した。

6. 評価の基準

評価の基準は、原則として環境省版レッドリストカテゴリー（2020）に準拠し、「絶滅（EX）」、「野生絶滅（EW）」、「絶滅危惧ⅠA類（CR）」、「絶滅危惧ⅠB類（EN）」、「絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）」、「絶滅危惧Ⅱ類（VU）」、「準絶滅危惧（NT）」、「情報不足（DD）」を用い（表1）、評価にあたっては定性的要件と定量的要件を併用した。

また、絶滅危惧Ⅰ類についてはそれぞれの評価対象ごとに、可能な限り絶滅危惧ⅠA類（CR）と絶滅危惧ⅠB類（EN）に分けることとし、それが困難な場合には絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）としてまとめることとした。

前回から設けた東京都独自のカテゴリーである「留意種」については、今回の改定でも評価基準のひとつとしたが、選定理由については、レッドリストの趣旨である希少性を前

提とすることから、表 1 のように改めた。「留意種」とは、現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、生育、生息条件の変化に伴い容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があると考えられることから選定されたものである。具体的には表 1 に示す①～⑥の選定理由のうちのいずれかの基準に該当し、かつ個体数の減少が生じる可能性が高いものである。よって①～⑥の選定理由に該当しても個体数の減少が生じる可能性が低いと判断されたものは留意種に選定されていない。

なお、「孤立個体群」であることに留意が必要な場合は留意種に含み、環境省版で用いられている「絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)」の категорияは用いないこととした。

表 1 カテゴリー区分と基本概念

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧 I 類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧 I A 類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B 類	EN	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの

カテゴリー名称	表示	基本概念
留意種	*	<p>現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、次の理由（選定理由①～⑥）のいずれかにより容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの</p> <p><選定理由></p> <p>①生育、生息環境が減少もしくは悪化することで、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>②生息地の限定もしくは分断による個体群の縮小あるいは孤立化により、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>③人為的な環境配慮により個体群が維持されているが、人為的な環境配慮が失われた場合、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>④外来種の影響により、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている種であり、これら特殊な環境が失われた場合、個体数が減少するおそれがある。</p> <p>⑥かつて悪化していた環境の回復にともない個体群規模が戻ったが、その状況は不安定であり、環境が変化すれば個体数が減少するおそれがある。</p>
ランク外	○	当該地域で生育、生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し	—	当該地域において生育、生息している（していた）可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。ただし、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域ではないと判断される場合 ^注 は、非分布として扱った。

注 鳥類は、移動能力が大きいため通常の生息地域を離れて偶発的に飛来する場合がある。そのため、都内で生息記録があっても、記録回数が少なくかつ既知の生息地域から大きく外れているなど、主たる分布域ではないと判断された場合には「非分布」とした。

<参考> 環境省版レッドリストカテゴリー (2020) のカテゴリー定義

カテゴリーおよび基本概念	定性的要件	定量的要件		
<p>絶滅 Extinct (EX) 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種(注 1.以下同じ)</p>	<p>過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種</p> <p>具体的には、以下のいずれかの事項を満たす場合が想定される。</p> <p>①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。</p> <p>②信頼できる複数の調査によって、生息が確認できなかった。</p> <p>③過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。</p>			
<p>野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種</p>	<p>過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、我が国において本来の自然の生息地ではすでに絶滅したと考えられる種 (具体的な要件は「絶滅」と同じ)</p>			
<p>絶滅 危惧 T H R E A T E N E D</p>	<p>絶滅危惧 I 類 Critically Endangered+ Endangered (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。</p> <p>②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。</p> <p>③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。</p> <p>【情報量が少ないもの】</p> <p>⑤それほど遠くない過去(30 年～50 年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。</p>	<p>絶滅危惧 IA 類 Critically Endangered (CR)</p> <p>ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</p>	<p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <p>1. 過去 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間(注 2. 以下同じ)を通じて、90%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなり、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。</p> <p>2. 過去 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</p> <p>3. 今後 10 年間もしくは3世代のどちらか長期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。</p>

	カテゴリーおよび基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅危惧 T H R E A T E N E D	<p>絶滅危惧 I 類 Critically Endangered+ Endangered (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p>		<p>絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR)</p> <p>ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</p> <p>4. 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間において 80%以上の減少があると推定され、その原因がなくならない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</p> <p>B. 出現範囲が 100km² 未満もしくは生息地面積が 10km² 未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <p>1. 生息地が過度に分断されているか、ただ1カ所の地点に限定されている。</p> <p>2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。</p> <p>3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。</p> <p>C. 個体群の成熟個体数が 250 未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <p>1. 3年間もしくは1世代のどちらか長い期間に 25%以上の継続的な減少が推定される。</p> <p>2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。</p> <p>a) 個体群構造が次のいずれかに該当</p> <p>i) 50 以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。</p> <p>ii) 1つの下位個体群中に 90%以上の成熟個体が属している。</p> <p>b) 成熟個体数の極度の減少</p> <p>D. 成熟個体数が 50 未満であると推定される個体群である場合。</p>

	カテゴリーおよび基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅危惧	<p>絶滅危惧 I 類 Critically Endangered+ Endangered (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p>		<p>絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR)</p> <p>ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。</p> <p>絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN)</p> <p>I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p> <p>E. 数量解析により、10 年間、もしくは3世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が 50%以上と予測される場合。</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 過去 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、70%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 過去 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 今後 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間において 50%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が 5,000km² 未満もしくは生息地面積が 500km² 未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生息地が過度に分断されているか、5以下の地点に限定されている。
T			
H			
R			
E			
A			
T			
E			
N			
E			
D			

	カテゴリおよび基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅危惧	<p>絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered+ Endangered (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。</p>		<p>絶滅危惧ⅠB類 Endangered (EN)</p> <p>ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p> <p>2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。</p> <p>3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。</p> <p>C. 個体群の成熟個体数が2,500未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <p>1. 5年間もしくは2世代のどちらか長い期間に20%以上の継続的な減少が推定される。</p> <p>2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。</p> <p>a) 個体群構造が次のいずれかに該当</p> <p>i) 250以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。</p> <p>ii) 1つの下位個体群中に95%以上の成熟個体が属している。</p> <p>b) 成熟個体数の極度の減少</p> <p>D. 成熟個体数が250未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、20年間、もしくは5世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が20%以上と予測される場合。</p>
T H R E A T E N E D	<p>絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <p>① 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。</p> <p>② 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。</p> <p>③ 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。</p> <p>④ 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。</p>	<p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <p>1. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。</p> <p>2. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</p>

カテゴリーおよび基本概念	定性的要件	定量的要件
<p style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)</p> <p>絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。</p> <p style="text-align: center;">絶滅危惧Ⅱ類</p>		<p>3. 今後 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があると予測される。</p> <p>4. 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間において 30%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。</p> <p>B. 出現範囲が 20,000km² 未満もしくは生息地面積が 2,000km² 未満であると推定され、また次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <p>1. 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。</p> <p>2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等について、継続的な減少が予測される。</p> <p>3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。</p> <p>C. 個体群の成熟個体数が 10,000 未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <p>1. 10 年間もしくは3世代のどちらか長い期間に 10%以上の継続的な減少が推定される。</p> <p>2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。</p> <p style="margin-left: 20px;">a) 個体群構造が次のいずれかに該当</p> <p style="margin-left: 40px;">i) 1,000 以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。</p> <p style="margin-left: 40px;">ii) 1つの下位個体群中にすべての成熟個体が属している。</p> <p style="margin-left: 20px;">b) 成熟個体数の極度の減少</p> <p>D. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が 1,000 未満と推定されるか、生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。</p> <p>E. 数量解析により、100 年間における絶滅の可能性が 10%以上と予測される場合。</p>
<p>準絶滅危惧 Near Threatened (NT)</p> <p>存続基盤が脆弱な種</p> <p>現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>次に該当する種</p> <p>生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <p>a) 個体数が減少している。</p> <p>b) 生息条件が悪化している。</p>	

カテゴリおよび基本概念	定性的要件	定量的要件
<p>準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。</p>	<p>c)過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d)交雑可能な別種が侵入している。</p>	
<p>情報不足 Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種</p>	<p>次に該当する種 環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリを判定するに足る情報が得られていない種。 a) どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b) 生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。</p>	

(注 1) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種（一部に品種を含む）を示す。

(注 2) 過去 10 年間もしくは 3 世代：1 世代が短く 3 世代に要する期間が 10 年未満のものは年数を、1 世代が長く 3 世代に要する期間が 10 年を超えるものは世代数を採用する。

II 選定・評価結果の概要

それぞれの分類群における検討対象種（植物では亜種、変種、一部の品種を、動物では亜種を含む。）の種数、及び評価の結果、選定された本レッドリスト掲載種の種数を表 2 に記した。さらに、カテゴリ別の種数の内訳を表 3～24 に記した。

表 2 では、2010 年版に掲載されておらず今回新たに掲載された種を新規掲載種、2010 年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種を削除種として示した。

なお、1998 年版とそれ以降の掲載種数を比較する際には、評価基準が異なることに留意されたい（1998 年版では環境庁レッドデータブック（当時）のカテゴリを参考に、絶滅危惧種、危急種、希少種、絶滅に相当する種をそれぞれ A～D ランクとしている。）。

分類群ごとの評価方法については、それぞれの【選定・評価方法の概要】を参照していただきたい。

表 2 検討対象種及び掲載種の種数

分類群	項目	1998 年版 掲載種	2010 年版 掲載種	2020 年版			
				検討対象 種(注)	掲載種	新規 掲載種	削除種
植物		642	800	1,050	941	177	36
藻類		対象外	対象外	31	31	31	0
哺乳類		31	37	43	42	5	0
鳥類		107	162	173	162	10	10
爬虫類		13	14	14	13	0	1
両生類		14	15	15	15	0	0
淡水魚類		37	38	54	52	16	2
昆虫類		459	394	596	444	179	129
	トンボ目	67	59	60	50	1	10
	カマキリ目	対象外	3	3	2	0	1
	バッタ目	22	28	41	23	10	15
	カメムシ目	8	19	20	16	1	4
	ヘビトンボ目	対象外	5	5	5	0	0
	アミメカゲロウ目	対象外	1	2	2	1	0
	コウチュウ目	308	195	274	175	69	89
	ハチ目	対象外	15	21	20	6	1
	ハエ目	対象外	12	34	22	16	6
	チョウ目チョウ類	54	50	76	73	26	3
	チョウ目ガ類	対象外	7	60	56	49	0
甲殻類		対象外	15	31	22	8	1
クモ類		対象外	33	36	36	3	0
貝類		対象外	71	93	87	18	2
合計		1,303	1,579	2,136	1,845	447	181

注 検討対象種には、2010 年版掲載種が全て含まれている。

表3 植物の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	188	3	72	33	0	53	21	57	1	428
北多摩	112	5	76	77	0	76	36	54	1	437
南多摩	76	2	169	147	0	133	55	36	1	619
西多摩	37	2	221	184	0	153	94	54	1	746
本土部	100	5	276	225	0	211	94	28	1	940

表4 藻類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
本土部	4	0	0	0	2	2	2	21	0	31

注 現時点では十分な評価資料を得ることが難しいため、地域区分は行わず本土部全体を対象として評価を行った。

表5 哺乳類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	18	0	0	0	0	0	2	5	2	27
北多摩	1	0	0	2	0	1	4	4	0	12
南多摩	1	0	0	0	0	12	3	2	0	18
西多摩	2	0	0	4	0	8	11	1	1	27
本土部	2	0	0	4	0	8	11	2	0	27

表6 鳥類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	8	0	36	20	0	26	13	17	3	123
北多摩	0	0	16	5	0	32	21	6	2	82
南多摩	0	0	14	15	0	34	36	6	0	105
西多摩	0	0	14	10	0	32	31	11	1	99
本土部	2	0	31	23	0	45	36	19	4	160

表 7 爬虫類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	6	0	4	2	1	0	0	13
北多摩	0	0	5	0	2	4	1	0	1	13
南多摩	0	0	2	1	1	5	3	0	1	13
西多摩	0	0	1	1	1	1	8	0	1	13
本土部	0	0	1	1	1	8	2	0	0	13

表 8 両生類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	4	2	0	1	0	0	0	7
北多摩	0	0	3	3	0	4	1	0	0	11
南多摩	0	0	1	6	0	6	1	0	0	14
西多摩	0	0	0	4	0	3	8	0	0	15
本土部	0	0	0	4	0	3	8	0	0	15

表 9 淡水魚類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	7	0	7	3	0	5	9	19	0	50
北多摩	5	0	3	3	0	4	5	13	0	33
南多摩	2	0	3	4	0	2	5	14	0	30
西多摩	1	0	4	5	0	1	3	13	0	27
本土部	7	0	7	4	0	6	9	19	0	52

表 10 昆虫類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳（各目の合計）

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	95	0	66	30	0	46	32	17	0	286
多摩部	48	0	46	32	0	72	82	41	0	321
本土部	82	0	84	46	0	78	94	43	0	427

表 11 トンボ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	16	0	12	4	0	10	3	1	0	46
多摩部	8	0	7	7	0	12	6	2	0	42
本土部	9	0	12	10	0	9	7	2	0	49

表 12 カマキリ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
多摩部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
本土部	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2

表 13 バッタ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	6	0	5	0	0	2	0	7	0	20
多摩部	2	0	6	3	0	1	3	4	0	19
本土部	4	0	6	3	0	2	3	5	0	23

表 14 カメムシ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	4	0	5	3	0	0	0	2	0	14
多摩部	4	0	3	2	0	1	1	1	0	12
本土部	3	0	6	3	0	1	1	2	0	16

表 15 ヘビトンボ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
多摩部	0	0	1	0	0	2	1	1	0	5
本土部	0	0	1	0	0	2	1	1	0	5

表 16 アミメカゲロウ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
多摩部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
本土部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2

表 17 コウチュウ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	44	0	22	14	0	20	7	1	0	108
多摩部	12	0	18	7	0	19	34	5	0	95
本土部	42	0	47	17	0	25	37	7	0	175

表 18 ハチ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	4	0	0	0	0	0	5	4	0	13
多摩部	4	0	0	0	0	0	4	11	0	19
本土部	4	0	0	0	0	0	7	9	0	20

表 19 ハエ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	8	0	0	8
多摩部	1	0	0	0	0	0	2	15	0	18
本土部	2	0	0	0	0	0	5	15	0	22

表 20 チョウ目チョウ類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	15	0	14	5	0	6	2	0	0	42
多摩部	12	0	3	8	0	12	18	2	0	55
本土部	13	0	3	8	0	14	18	2	0	58

表 21 チョウ目ガ類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	4	0	7	4	0	7	6	0	0	28
多摩部	3	0	7	5	0	25	13	0	0	53
本土部	3	0	8	5	0	25	14	0	0	55

表 22 甲殻類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	0	10	12	22
北多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
西多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
本土部	0	0	0	0	0	0	0	10	12	22

表 23 クモ類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	1	0	0	0	0	9	4	7	0	21
北多摩	0	0	0	0	0	3	4	15	0	22
南多摩	0	0	0	0	0	1	15	13	0	29
西多摩	0	0	0	0	0	3	8	25	0	36
本土部	0	0	0	0	0	3	17	16	0	36

表 24 貝類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	12	0	0	0	12	4	10	13	0	51
北多摩	0	0	0	0	5	2	6	3	0	16
南多摩	0	0	0	0	8	7	10	10	2	37
西多摩	0	0	0	0	7	11	13	8	1	40
本土部	10	0	0	0	24	14	21	16	2	87

前回（2010年版）掲載種のうち、今回の改定において対象外となった181種（表2の「削除種」）を以下に示す。その経緯や理由については、各分類群の【選定・評価方法の概要】や【選定・評価結果の概要】を参照していただきたい。

—前回の掲載種で今回対象外となった種（計181種）—
植物（36種）

- ヒメスギラン *Lycopodium chinense*
トウゲシバ *Lycopodium serratum*
ウチワゴケ *Crepidomanes minutum*
ハイホラゴケ *Crepidomanes birmanicum*
オウレンシダ *Dennstaedtia wilfordii*
イワヒメワラビ *Hypolepis punctata*
ミヤマシダ *Deparia pycnosora* var. *pycnosora*
ハシゴシダ *Thelypteris glanduligera*
ハリガネワラビ *Thelypteris japonica*
キヨスミヒメワラビ *Ctenitis maximowicziana*
マメヅタ *Lemmaphyllum microphyllum*
ヤツシロヒトツバ *Pyrrosia* × *nipponica*
ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrima*
ヒロハツリシュスラン *Goodyera pendula* var. *brachyphylla*
ヒメマイヅルソウ（ケマイヅルソウ） *Maianthemum bifolium*
タカオワニグチソウ *Polygonatum desoulavyi* var. *azegamii*
ササクサ *Lophatherum gracile*
マコモ *Zizania latifolia*
カザグルマ *Clematis patens*
ツノハシバミ *Corylus sieboldiana*
モクレイシ *Microtropis japonica*
ネコヤナギ *Salix gracilistyla*
チチブヤナギ *Salix shiraii* var. *kenoensis*
オノエヤナギ *Salix sachalinensis*
ツリフネソウ *Impatiens textorii*
ヒメイワカガミ *Schizocodon ilicifolius*
サラサドウダン *Enkianthus campanulatus*
イチヤクソウ *Pyrola japonica*
アズマカモメヅル *Cynanchum sub lanceolatum* var. *sub lanceolatum* f. *albiflorum*
ラショウモンカズラ *Meehania urticifolia*
キバナアキギリ *Salvia nipponica*
ミミカキグサ *Utricularia bifida*

ナガバノコウヤボウキ *Pertya glabrescens*
カンボク *Viburnum opulus* var. *calvescens*
ツルカノコソウ *Valeriana flaccidissima*
イワツクバネウツギ *Zabelia integrifolia*

鳥類 (10 種)

アメリカヒドリ *Anas americana*
シラコバト *Streptopelia decaocto*
オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*
タゲリ *Vanellus vanellus*
オオハシシギ *Limnodromus scolopaceus*
ヒバリシギ *Calidris subminuta*
ウズラシギ *Calidris acuminata*
エナガ *Aegithalos caudatus*
イワヒバリ *Prunella collaris*
ノジコ *Emberiza sulphurata*

爬虫類 (1 種)

クサガメ *Chinemys reevesii*

淡水魚類 (2 種)

カマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus*
ナマズ *Silurus asotus*

昆虫類 (129 種)

トンボ目 (10 種)

ムスジイトトンボ *Cercion sexlineatum*
オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava*
ミルンヤンマ *Planaeschna milnei*
ダビドサナエ *Davidius nanus*
ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus*
オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus*
コオニヤンマ *Sieboldius albardae*
ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus*
オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*
タカネトンボ *Somatochlora uchidai*

カマキリ目 (1 種)

ヒメカマキリ *Acromantis japonica*

バッタ目 (15 種)

- タンボコオロギ *Modicogryllus siamensis*
クマコオロギ *Mitius minor*
ヒメコオロギ *Comidogryllus nipponensis*
クマスズムシ *Sclerogryllus punctatus*
ヒロバネカンタン *Oecanthus euryelytra*
キンヒバリ *Natula matsuurai*
ヤチスズ *Pteronemobius ohmachii*
ヒゲシロスズ *Polionemobius flavoantennalis*
コロギス *Prosopogryllacris japonica*
ハネナシコロギス *Nippancistroger testaceus*
シブイロカヤキリ *Xestophrys javanicus*
アシグロツユムシ *Phaneroptera nigroantennata*
ヘリグロツユムシ *Psyrana japonica*
アオフキバッタ *Aopodisma subaptera*
ショウリョウバッタモドキ *Gonista bicolor*

カメムシ目 (4 種)

- アカエゾゼミ *Tibicen flammatus*
ヒグラシ *Tanna japonensis*
チッチゼミ *Cicadetta radiator*
シマアメンボ *Metrocoris histrio*

コウチュウ目 (89 種)

- エリザハンミョウ *Cicindela elisae*
ニワハンミョウ *Cicindela japana*
コハンミョウ *Cicindela specularis*
ヒメマイマイカブリ *Damaster blaptoides oxuroides*
クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus*
クラサワメクラチビゴミムシ *Kurasawatrechus eriophorus*
キアシルリミズギワゴミムシ *Bembidion trajectum*
アトモンコミズギワゴミムシ *Tachyura klugi euglypta*
ルイスオオナガゴミムシ *Trigonotoma lewisii*
ヒメクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus congruus*
コクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus melantho*
ヒョウゴマルガタゴミムシ *Amara hiogoensis*
ツヤマルガタゴミムシ *Amara obscuripes*
タナカツヤハネゴミムシ *Anisodactylus andrewesi*
オオクロツヤゴモクムシ *Trichotichnus lewisi*
オオイクビツヤゴモクムシ *Trichotichnus nipponicus*

ヒコサンツヤゴモクムシ *Trichotichnus noctuabundus*
キュウシュウツヤゴモクムシ *Trichotichnus vespertinus*
ニッポンヨツボシゴミムシ *Dischissus japonicus*
トックリゴミムシ *Lachnocrepis prolixa*
チャバネクビナガゴミムシ *Odacantha aegrota*
アトグロジュウジアトキリゴミムシ *Lebia idae*
キイロアトキリゴミムシ *Philorhizus optimus*
アオヘリホソゴミムシ *Drypta japonica*
オサシデムシモドキ *Apatetica princeps*
シラオビシデムシモドキ *Nodynus leucofasciatus*
クロヒゲオレハネカクシ *Acylophorus honshuensis*
キンボシハネカクシ *Ocypus weisei*
クロガネハネカクシ *Platydracus inornatus*
クシヒゲハネカクシ *Velleius pectinatus*
ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus*
スジクワガタ *Macrodercas striatipennis*
ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*
マエカドコエンマコガネ *Caccobius jessoensis*
ツヤスジコガネ *Mimela difcilis*
ヒメトラハナムグリ *Lasiotrichius succinctus*
トラハナムグリ *Trichius japonicus*
クロカナブン *Rhomborrhina polita*
コカブトムシ *Eophileurus chinensis*
マスダクロホシタマムシ *Ovalisia vivata*
ホソカミキリ *Distenia gracilis*
ウスバカミキリ *Megopsis sinica*
ノコギリカミキリ *Prionus insularis*
コバネカミキリ *Psephactus remiger*
クロカミキリ *Spondylis buprestoides*
サビカミキリ *Arhopalus coreanus*
オオマルクビヒラタカミキリ *Asemum striatum*
ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes*
アカハナカミキリ *Corymbia succedanea*
ヒナルリハナカミキリ *Dinoptera minuta*
ムネアカクロハナカミキリ *Leptura dimorpha*
カタキハナカミキリ *Pedostrangalia femoralis*
ツマグロハナカミキリ *Leptura modicenotata*
ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata*

オオヨツスジハナカミキリ *Megaleptura regalis*
ホンドニセハイイロハナカミキリ *Rhagium femorale*
フタコブルリハナカミキリ *Stenocorus caeruleipennis*
キマダラヤマカミキリ *Aeolesthes chrysothrix*
ミヤマカミキリ *Massicus raddei*
マルクビケマダラカミキリ *Trichoferus campestris*
タイワンメダカカミキリ *Stenhomalus taiwanus*
オダヒゲナガコバネカミキリ *Glaphyra gracilis*
クスベニカミキリ *Pyrestes nipponicus*
ミドリカミキリ *Chloridolum viride*
アオカミキリ *Schwarzerium quadricolle*
スギカミキリ *Semanotus japonicus*
タケトラカミキリ *Chlorophorus annularis*
クロトラカミキリ *Chlorophorus diadema inhirsutus*
シロオビトラカミキリ *Clytus raddensis*
キスジトラカミキリ *Cyrtoclytus caproides*
キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*
ホソトラカミキリ *Rhaphuma xenisca*
ブドウトラカミキリ *Xylotrechus pyrrhoderus*
トガリバアカネトラカミキリ *Anaglyptus niponensis*
スギノアカネトラカミキリ *Anaglyptus subfasciatus*
ホタルカミキリ *Dere thoracica*
シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*
キクスイモドキカミキリ *Asaperda rufipes*
ハイイロヤハズカミキリ *Niphona furcata*
センノカミキリ *Acalolepta luxuriosa*
ヒゲナガカミキリ *Monochamus grandis*
ヒメヒゲナガカミキリ *Monochamus subfasciatus*
ヒゲナガゴマフカミキリ *Palimna liturata*
カッコウカミキリ *Miccolamia cleroides*
フタオビアラゲカミキリ *Rhopaloscelis bifasciatus*
シラオビゴマフケシカミキリ *Exocentrus guttulatus*
ヤツメカミキリ *Eutetrappa ocelota*
オニグルミノキモンカミキリ *Menesia flavotecta*
ヘリグロリンゴカミキリ *Nupserha marginella*

ハチ目 (1種)

クロマルハナバチ *Bombus ignitus*

ハエ目 (6種)

- ミカドガガンボ *Ctenacroscelis mikado*
- ハマダラハルカ *Haruka elegans*
- オオイシアブ *Laphria mitsukurii*
- チャイロオオイシアブ *Laphria rufa*
- クロベッコウハナアブ *Volucella nigricans*
- ミドリバエ *Isomyia senomera*

チョウ目チョウ類 (3種)

- ウスバアゲハ (ウスバシロチョウ) *Parnassius citrinarius*
- ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia*
- コムラサキ *Apatura metis*

甲殻類 (1種)

- ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus*

貝類 (2種)

- カワグチツボ *Iravadia elegantula*
- ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ) *Stenothyra edogawensis*

Ⅲ 自然環境の概要

【地形の概略】

東京都の本土部（島しょ部を除く地域）は、関東平野から関東山地にかけての東西約 90km、南北約 45km に広がり、東西に長い形をしている。地勢は西高東低となっており、低地、台地、丘陵地、山地の 4 つの地形に大別できる。

低地は、荒川付近の東部低地帯、東京湾の臨海地域、多摩川の下流域などを中心に広がる。氾濫原や砂州などに由来する軟弱な地層が広く分布し、縄文海進（今から約 1 万～5,500 年前となる縄文時代前期に、地球の温暖化により生じた海面上昇）以降に形成された平坦な地形となっている。都市化に伴う開発の影響により、自然の地形はほとんど残っていない。

台地は、区部の「山の手」から「武蔵野」にかけての、低地よりも高所に位置する平坦地で、かつ古い地形である。いわゆる「関東ローム」と呼ばれる褐色に風化した火山灰土が、広く地表を覆っている。火山灰土の下には礫などからなる透水性の高い地層が分布しており、地下水面は低い。

丘陵地は、多摩丘陵などが関東山地の東縁に連なる一方で、狭山丘陵のみは武蔵野台地の内に孤立して存在する。丘陵地とは浸食されて平坦面がなくなりつつある台地であり、尾根と谷が入り組んでいて、地形としては台地よりもさらに古くなる。3 方向を尾根に囲まれた谷状の地形は谷戸（やと）と呼ばれ、なだらかな谷底には湧水による湿地が分布し、水田としても利用されてきた。

山地は、関東山地の一角を占め、東京都最高峰の雲取山（標高 2,017m）が位置する。古生代から中生代にかけての海底堆積物が付加・隆起したことによって形づくられた。谷は深く斜面も急だが、尾根上には比較的なだらかな場所もみられる。主として砂岩や泥岩が分布し、一部の地域には石灰岩やチャート、深成岩類なども分布する。なお、東京都の本土部には火山は存在しない。

東京都の行政区分でみると、区部は低地および台地、北多摩は台地および丘陵地、南多摩および西多摩は丘陵地ならびに山地が分布し、それぞれの地域における景観の基盤となっている。

【植生の概略】

植生とは地球の地表を被う植物のまとまりをいうが、自然環境の相違に基づく植物相の違いを反映したものであり、同時に、生態系の中の生産者として、消費者である多様な動物種の存続を保証している。

東京都は、日本列島中部の太平洋側に位置し、気候帯では大部分が温帯に含まれる。垂直分布としての植生帯は、低地から丘陵および低山は照葉樹林域に、山地は夏緑広葉樹林域に含まれ、両者の境界は海拔 600m 付近であるが、境界付近には、イヌブナ、ツ

ガなどを中心とした常落混交林（中間温帯林）が認められる場合もある。さらに、都内最高峰である雲取山（標高 2,017m）は亜高山針葉樹林域の下限に存在している。

現存の植生は、人為の影響の少ない自然植生と、人為によって置き換えられた代償植生（人為植生）に分けられる。東京都の低地から低山にかけての主要な自然植生はシイ・カシ林であるが、東京湾沿いの武蔵野台地の縁辺部にはスダジイとタブノキの林が分布し、その残存林が寺社領地などにわずかに見られる。武蔵野台地やその段丘崖、多摩丘陵、更に低山にはシラカシ、ウラジロガシ、ツクバネガシなどを主体としたカシ林が断続的に存在し、とくに高尾山周辺に集中的に存在している。多摩川沿いの低地は開発が著しいため、河辺林や冠水草原などの自然植生は、中流域に部分的に限られている。

山地の夏緑広葉樹林域では、三頭山や日原川上流域などに、面積的には小規模であるが自然植生のブナ林が出現する。ブナ林は林床にスズダケやミヤマクマザサを伴う寡雪地型のブナ林である。さらに、尾根や急斜面などの乾性立地には、モミとツガからなる針葉樹林が生育している。ただし、夏緑広葉樹林域上部に成立するシラビソ、コメツガなどを主とする亜高山針葉樹林は、雲取山から長沢背稜付近に限られて分布しているのみである。

人口の密集する都市の代表である東京都においては、現存植生の大部分は代償植生である。東京湾沿いの低地や埋立地などに見られる都市公園の緑地はほとんどが人工の緑地である。さらに、かつて存在していたと思われる低湿地の湿原や水辺植生は皆無となっている。武蔵野台地や多摩丘陵においても宅地造成に伴う都市化が進行し、残存する森林植生の多くは、薪炭林が放棄されたコナラ、クヌギなどの落葉樹で構成される二次林である。また、屋敷林、竹林、果樹園、耕作地などとともに構成される里山景観も断片的となっている。近年保存緑地の指定などで残存緑地が保存されているが、薪炭林由来の雑木林は伐採、更新が行われないうえに高木林に発達しているところも多い。一方、奥多摩を主とする山地では、薪炭林の放棄により落葉樹林が自然林的な様相を示している場所がある一方で、拡大造林施策によるスギやヒノキの植林が広範囲に行われたまま荒廃した地域も少なくない。さらに、近年はニホンジカの増加により、これらの林床植生が広く食害され、山地植生全体の種の多様性は急速に失われている。

種の希少性や多様性を考慮する場合、自然植生の保護と保存は基本的に重要である。一方、薪炭林や刈り取り草地、更に畑地や水路を伴う水田などの里山利用は、本来の自然植生域を多様化させ、同時に多様な生物相を出現させる要因になっている。しかし、都市農業の衰退や著しい都市化による自然環境の改変によってこれらの面積も減少し、人間生活との共存を続けていた生物相は、保存緑地や一部の都市公園、水源地や用水路沿いなどに断片的に残存しているだけになっている。また、近年では地球環境の変化に伴う温暖化をはじめ、関連して起こる異常な気象災害、更に外来種の影響などにより、断片化した生物相が継続的、あるいは突発的にダメージを受ける機会はますます増大しているといえるだろう。

【地域区分の概略】

東京都本土部は地域により環境が大きく異なることから、東京都レッドリストでは行政区分を基本として4つの地域に区分し評価を行っている。東側に位置し23区が範囲となる「区部」、中央北側に位置し立川市や府中市など17市が範囲である「北多摩」、中央南側に位置し八王子市や町田市など5市が範囲である「南多摩」、そして奥多摩町や青梅市など4市3町1村が範囲である「西多摩」である。面積としては東京都本土部全体が約1,787平方キロメートルであり、区部は約35%（約628平方キロメートル）、北多摩は約15%（約263平方キロメートル）、南多摩は約18%（約324平方キロメートル）、西多摩は約32%（約572平方キロメートル）となっている。

区部は政治、経済の中心地として首都機能を発達させてきた大都市であり、自然の緑地を見ることはほとんどできない。しかしながら、そうしたなかで長年にわたり多様な植生が守られてきた皇居（千代田区）と明治神宮（渋谷区）は特筆すべき場所であり、都心部において数多くの生物の生育、生息を支えてきた場所である。さらに、水元公園や浜離宮恩賜庭園などの都市公園は身近な生き物を観察できる場所となっている。低地と台地が主要な地形であり、4地域の中で唯一、海岸線を有することも地域的特徴のひとつであるが、海岸線のほぼ全域が埋立地となっており、自然海岸はわずかに残るのみである。また、隅田川、多摩川、荒川などの河口部に汽水域という特殊な環境を有することも区部の特徴といえる。

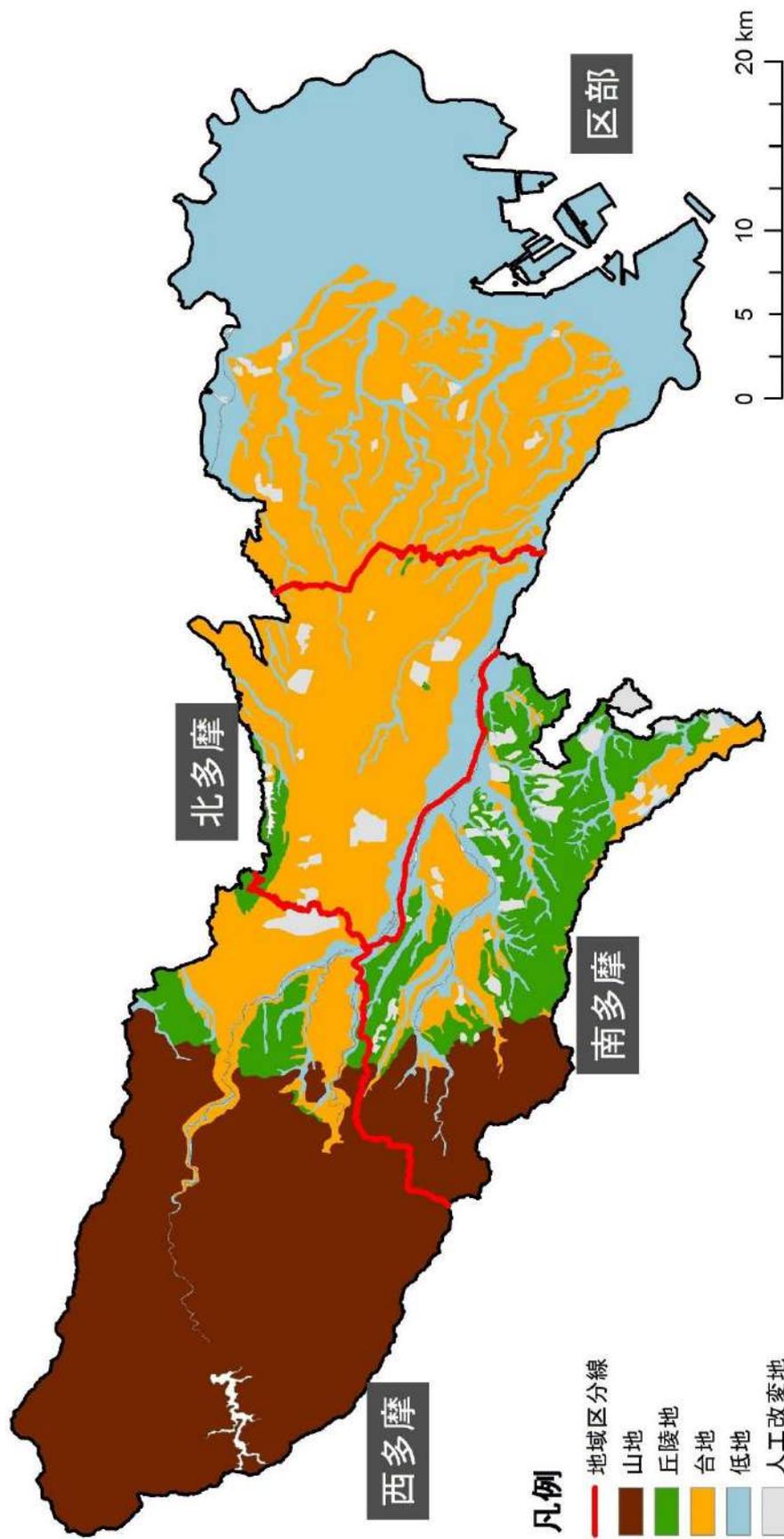
北多摩は主要な地形が台地と丘陵地であり、北側には狭山丘陵、南側には東西に延びる国分寺崖線などの緑地が見られる。台地面は「武蔵野」と呼ばれ、かつては雑木林や屋敷林の点在する畑地が広がり、多様な生物の生育、生息の場所となっていたが、1980年代以降の急速な開発により、現在ではこうした緑地が大きく減少し、市街地化が著しい。主な水域である多摩川は中流域となり、台地面にはいくつかの中小河川も見られ、それらの河川沿いには自然豊かな都市公園や緑道が整備されている。多摩川以外の主な水域としては狭山丘陵に多摩川を水源とする村山貯水池（多摩湖）が存在する。

南多摩は東京都西部の関東山地から神奈川県南部の三浦丘陵をつなぐ多摩丘陵の一部を有し、その周辺には複数の帯状丘陵地や多摩川沿いの低地帯などが見られ、複雑な地形を形成している。西側には高尾山（標高599m）や陣馬山（標高855m）から成る低山帯も見られる。複数の丘陵地を持つこの地域では、丘陵地が浸食されてできる谷戸地形が多く、古くから水田として利用されており、こうした水田が他の地域に比べ広範である。しかし近年、耕作放棄や開発に伴う水田の減少により、この地域の特徴でもあるこうした水辺環境の衰退が進んでいる。さらに、丘陵地では大規模な地形改変により宅地化が著しい。主な水域である多摩川は中流域となり、その流入河川である浅川の上流域は溪谷的景観を成し、下流域では自然豊かな都市公園や緑道が整備されている。

西多摩では「東京の屋根」と言われる雲取山（標高2,017m）を頂点として、三頭山（標高1,531m）や御前山（標高1,405m）などの1,000m級の山々が約20座連なっ

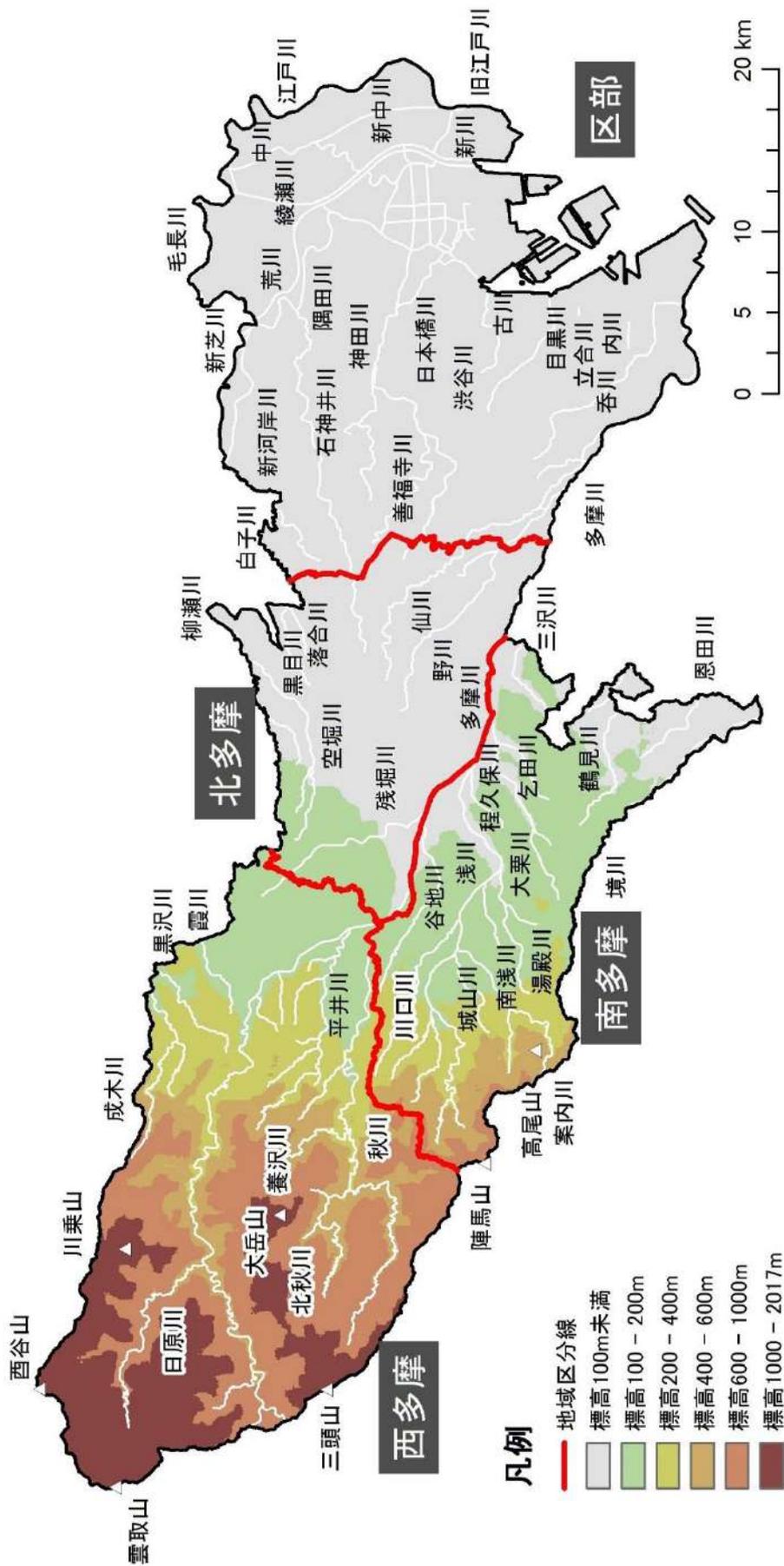
おり、雲取山山頂周辺は東京都で唯一の亜高山帯である。こうした山々のほとんどが秩父多摩甲斐国立公園や水道水源林となっており、良好な自然環境が保護管理されている。さらに、この地域はこうした西側の山地から東に低山帯、丘陵地、台地、そして多摩川沿いの低地帯へと至る変化に富んだ多様な地形を有している。主な水域である多摩川は上流域となり、ほかに多摩川の流入河川である秋川や多摩川を小河内ダムで堰き止めて造られた奥多摩湖が存在する。また、この地域では石灰岩地や鍾乳洞などの特殊な環境が見られることも特徴のひとつである。

注 本土部全体および地域区分ごとの面積は、東京都 HP の「区市町村別 人口・面積(平成 30 年(2018 年) 4 月 17 日更新)」をもとに集計した。



この地図は、「土地分類基本調査・水調査(土地分類基本調査 20 万分の 1 土地分類基本調査 GIS データ)」「(国土交通省) (<https://nftfp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download.html>) および「国土数値情報(行政区域データ)」「(国土交通省) (<https://nftfp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v2.3.html>)」をもとに作成した。

図 2 東京の地形区分図



この地図は、「基礎地図情報 数値標高モデル 10m メッシュ DEM」(国土地理院)および「国土数値情報(行政区域データ)」(国土交通省) (https://nftp.mlit.go.jp/ksj/gmi/datalist/KsjTmplt-N03-v2.3.html)、
「国土数値情報(河川データ)」(国土交通省) (https://nftp.mlit.go.jp/ksj/gmi/datalist/KsjTmplt-W05.html) をもとに作成した。

図 3 東京の標高図

IV 保護上重要な野生生物種

1. 植物

【選定・評価方法の概要】

絶滅や絶滅のおそれのある種の選定と評価は、原則として環境省版レッドリストカテゴリー（2020）の定量的要件を用いた。その際、IUCN（2003）による「地域レベルでレッドリスト基準を適用する場合のガイドライン」（Guidelines for Application of IUCN Red List Criteria at Regional Levels, Version3.0）を参考に、隣接地域にふつうに生育する種については、当該地域での生育状況について得られるランクから1ないし2段階下げて評価を行った。

本評価では、東京都全体を区部、北多摩、南多摩、西多摩の4地域に区分し、それぞれの地域について評価を行った。上記区分は行政上での区分けに対応するものであるが、概ね低地（区部）、台地（北多摩）、丘陵地（南多摩）、山地（西多摩）と主要な植生帯を異にしており、東京都における絶滅や絶滅のおそれのある種の植生帯ごとの選定と評価の区分として適切である。

前回まで植物は本土部全体としての評価を見送ってきたが、今回は本土部全体としての評価のランク付けを行った。新たに本土部全体としての評価を加えたのは、都道府県を単位とした評価を求める全国的な傾向への対応が主たる理由である。

検討対象種は、東京都（本土部）に自生する植物全種の一覧を含む『東京都の野生生物種目録 1998年版』を基礎に、前回（2010年版）の掲載種800種に新たに250種を加えた計1,050種とした。検討対象種の選定にあたっては、まず現状と前回（2010年）からの変化を把握するために、前回以降の確認記録の収集と整理を行った。文献資料の収集とともに現地確認調査を行い、更に各地域における植物の分布状況等に詳しい方々から情報を提供いただいた。あわせて一部ではあるが、前回以前の古い文献や標本を再確認し、過去の状況の把握にも努めた。こうして収集整理した情報をもとに、分類に関する最新の知見を反映して、検討対象種の選定を行った。

【選定・評価結果の概要】

検討対象種について、1種ずつ評価を行った結果、本書に掲載される絶滅または絶滅のおそれのある種として選定されたのは941種で、その数は前回（2010年）に比べて141種増加した。種数の増加は、主に現在も続いている各種の開発による自然環境のかく乱と破壊の進行に加え、里山の利用の衰退や変化、外来生物の定着、あるいは地球規模で引き起こされる極端な気候現象など、複合的要因による生育場所の消失や環境の劣化によるものであるが、山間部を中心に顕著となってきた野生鳥獣被害、すなわちニホンジカによる食害の影響も評価結果に大きく表れている。その代表が今回の新規掲載種では、ツバメオ

モト、ツマトリソウ、アカバナヒメイワカガミ、カニコウモリなどであり、いずれも山地帯から亜高山帯に分布する植物である。

今回新たに 32 種の絶滅が確認され、都における絶滅 (EX) は 100 種に及ぶこととなった。新たに絶滅が確認された種には、オオヤマサギソウやルリソウなどの山地性のものもみられるが、そのほとんどは池沼や水田に生育するデンジソウ、ヤナギスブタ、ミズアオイ、あるいは湿地に生育するコイヌノハナヒゲ、アゼオトギリ、ヌマゼリ(サワゼリ)などの植物である。これらの水湿生植物絶滅の主な原因は、直接的な生育環境の消滅や悪化によるものであり、除草剤等の使用のほか、水田面積の減少が大きく影響していると考えられる。

その一方で、前回のリストからランクが下がったものとして、キンラン、マツモ、コウモリカズラ、チダケサシ、オカタツナミソウなどがあげられる。これらは生育状況が改善された結果だけでなく、調査が進み、分布についての情報が増加した結果のランクの変更である。また、前回のリストから外れたものは 36 種あり、これらは主に複数の地域区分において普通種であるもの (例：イワヒメワラビ、ラショウモンカズラ)、過去の記録・標本の再確認を行った際に明確な情報が得られなかったもの (例：ヒメマイヅルソウ、ミミカキグサ)、最新の知見により雑種であることがわかったもの (例：ハイホラゴケ、ヤツシロヒトツバ) などである。

地域別にみると区部ではイヌイ、ドロイ、クロハリイ、シギンカラマツ、ハナムグラなど、絶滅種が 188 種ときわめて多く、北多摩でもコバノヒルムシロ、カモノハシ、アサザなど絶滅種が 112 種と多い。伊藤 (1873)、著者不明 (1888)、檜山 (1953・1965) などによれば、かつては丘陵地だけでなく、低地においても豊かな自然が存在したことが明らかであるが、区部や北多摩では、とくに 1950 年以降の開発が著しく、河川中～下流域にかけての湧水湿地を伴う原野や河畔林、沿岸河口部などに広がっていた塩生湿地などが広範囲に改変され、多様な植物の生育環境が失われてしまった。生物多様性の保全・回復を重要視する昨今にあって、これらの地域に記録されていた特徴的な植物相を再度吟味し、現在残されている水と緑の拠点整備などに反映させる努力を怠ってはならないだろう。それとともに、区部においてはオニバスやミズネコノオなどの水湿生植物、ウラギク、ハチジョウナ、ツルナなどの塩生湿地の植物が、また、北多摩においては、タチスゲ、ヒナワチガイソウ、ノジトラノオ、シソクサ、ヤマジノタツナミソウなど、各地域の特徴を示す植物相が危機的な状況の中にも現存しており、重点的な保全対策が望まれるところである。

南多摩は高地性の種を欠くものの、丘陵地を中心とした低平地から山地にいたる植生帯の広がりやを反映した、多様性の高い植物相が発達している。宅地等の開発が進み、立地の分断が急速に進んだが、都心からわずか 50km 程の距離にある高尾山をはじめとして、植物相は今なお比較的良好的な状態が保たれ、高い種多様性を維持している。とりわけ、その前線に位置し、常に開発の波にさらされてきた丘陵地では、支谷の入り組んだ谷戸地形に特徴づけられる里山環境が少なからず残存しており、今後も南多摩の豊かな植物相の源泉

として重点的に保全していく必要がある。絶滅危惧種（CR、EN、VU）が 449 種、準絶滅危惧や情報不足（NT、DD）が 91 種あり、約 1,400 万人の人口を抱える首都東京の一部であるこの地域の多様性と今後におけるその維持は世界的にも注目される。南多摩を特徴づける植物のなかで、生育状況の悪化や個体数減少が懸念される植物としては、ランヨウアオイ、カイコバイモ、ヒメフタバラン、タマノホシザクラ、トラノオジソ、ツルギキョウ、シロバナイナモリソウ、ミズオトギリ、ハチオウジアザミなどを挙げることができる。

西多摩は低平地も含むが、主要な植生帯は丘陵地と関東山地の一部をなす山地の森林植生である。南多摩同様に植物相の種多様性は高く、都心部に隣接する立地として驚異的である。絶滅危惧種（CR、EN、VU）が 558 種、準絶滅危惧や情報不足（NT、DD）が 148 種あり、東京都の生物多様性保全の上からは特に重要な地域である。亜高山帯の森林植生が東京都に存在するかどうかは議論の分かれるところであるが、広い範囲を占める亜高山針葉樹林を構成する樹種とされるシラビソ、ヒメコマツ(ゴヨウマツ)が少数個体見出され、低木・草本種のタカネバラ、ウラジロヒカゲツツジ、ヒメミヤマウズラ、カモメランなどは山頂部や尾根の高所に少数個体が見出されるに過ぎない。この森林は隣接の埼玉県側の高所に連続しており、むしろ東京都側の林分は断片的である。なお、西・南多摩の山地では緩やかな尾根や急峻な尾根など多様な地形がみられ、保護対象になる樹種も少なくない。

山地を中心に石灰岩が露出した立地が散見し、主に西多摩では石灰岩地に特有なミヤマモジズリ、ヨコグラノキ、ツゲなどが出現する。さらには、東京都周辺に分布が限られたヤマクラマゴケ、ブコウマメザクラ、チチブミネバリなどがみられる。これらのすべてが好石灰岩性植物か否かは断定できないが、広域分布種中で石灰岩地に生え、形態上も特性を示す変種コバノクロウメモドキ(クロウメモドキ、以下括弧内は種)、ミョウギカラマツ(アキカラマツ)、ショウドシマベンケイソウ(ミツバベンケイソウ)などが産する地域においては、希少性の高い個々の分類群の保全はもちろんのこと、石灰岩地のような特異な植物が生育する立地そのものの保全が求められる。特に石灰岩の採掘跡地や休鉱区などの改変された場所も、これらの植物にとって新たに創出された生育地となる可能性に注目すべきであろう。

西多摩や南多摩の山間部を中心に、前回リスト作成時も指摘したニホンジカ食害がさらに広範囲かつ顕著に進行していることが危惧される。特に目立つのはシダ植物をはじめとする林床植物や草原性植物などの被害であるが、ニホンジカは不嗜好性とされるもの以外ほとんどの植物を採食するため、植物への影響は広範囲かつ全般的に脅威となっている。

ニホンジカ食害の拡大には、2000 年代頃から始まった、冬季の重要な餌資源であるスズタケの一斉開花と一斉枯死も影響しているものと考えられるが、植生保全のための対策が急務となっている。

今回の改定における注目すべき点として、シダ植物の重要な新知見である、「独立配偶体の発見」があげられる。シダ植物には、孢子体（通常、シダ植物として見ているもの）と配偶体（小型でコケのようなもの）の 2 つの世代があり、これらが交互に世代交代してい

る。ところが、通常のハート型ではなくリボン状の配偶体の中には、無性芽による栄養繁殖を活発に行い、配偶体世代だけで生育し続ける独立配偶体の存在が知られている。近年、DNA 情報により配偶体だけでも容易に種の同定ができるようになった結果、都内では孢子体の記録がなかったミカワコケシノブ、オオコケシノブなどの独立配偶体が西多摩の複数の谷で発見された。ミカワコケシノブは、愛知県と岐阜県のみで生育が確認されている日本固有の絶滅危惧種である。一方で、レッドリストは孢子体のみを対象とするため、付近を再度探索したが、これら 2 種の孢子体は見出されなかった。しかし、配偶体が生育し続けていれば、同じ場所で孢子体も発生することが期待されることから、そのような種もレッドリストに含め、DD として評価した。

また、今回新たに見出されたイワヤナギシダ等は南方系の種であり、それらの都内における新産地がこれらの種の新たな北限となった。地球温暖化などの影響で、南方系の種がより北方に分布を拡大していることが垣間見えているのかもしれない。

区部やそれ以外の地域の平地から台地の崖線沿いに残る小規模な緑地では、かつての東京に広く分布していたとみられるヤナギイノコヅチ、アイナエ、クサスゲなどの植物が今も生存し続けており、こうした開発を逃れて残存している緑地の重要性が改めて確認された。

本来、長期間に及ぶ分布の動態を緻密に把握するためには、長い過去に遡る分布の裏付けとなる標本やその他の資料の蓄積が欠かせない。日本での分布の動態の調査が本格化したのは比較的最近であり、上記のような過去の分布を裏付ける標本や資料は乏しく、東京都もその例外ではない。そこで今回、過去の調査では手つかずだった、東京大学、東京都立大学等に蓄積されてきた分類学研究を目的に収集された標本の調査を一部の種・変種で試みた。一部とはいえ、これまで分布の動態が掌握されていなかった区部を中心に相当数の産地、採集年月日、採集者名等が記入された標本が採取蓄積されており、動態調査上第一級の資料であることが判明した。次回以降の動態調査では、更に率先して上記標本室、また、国立科学博物館等に収蔵される標本の調査がなされることを期待したい。加えて、いまだ十分ではない東京都産植物標本の収集保管活動を広域的に展開し、標本のデータベース化を進めることが求められる。

絶滅危惧種は、ランク（希少性）が高いものほど大切にされる傾向がある。しかし、最近の絶滅危惧種の遺伝的解析によれば、個体数が一桁または二桁レベルまで減少してしまった種は、遺伝的多様性が既に失われてしまっており、生存・繁殖上不利となる劣性の遺伝子の影響を受け、もはや自然状態での自立的な個体群再生が困難となった可能性が示唆されている。このような手遅れの状態にしないためにも、ランクの高さは保全の優先度の高さとは異なることを理解し、一定の個体群サイズを維持することの注意喚起が必要であろう。

今回の評価作業も主に既存の資料を用いて評価がなされたが、現地の情報については、主に植物愛好家や各種団体によって行われてきた自発的な小地域ごとの克明な植物相調査

の結果や知見を参考にさせていただいた。ここに改めて謝意を表したい。

[引用文献]

檜山庫三, 1953. 武蔵野植物記. 内田老鶴圃.

檜山庫三, 1965. 武蔵野の植物. 井上書店.

伊藤圭介, 1873. 日本産物志・武蔵部 (上・下巻). 文部省.

著者不明, 1888. 東京近郊植物採集地. 植物学雑誌, 2: 89-90, 119-120.

(大場 秀章)

植物（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
シダ植物門	PTERIDOPHYTES							
ヒカゲノカズラ科	Lycopodiaceae							
コスギラン	<i>Huperzia selago</i>	・	・	・	CR	CR		
ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i> var. <i>nipponicum</i>	EX	DD	CR	CR	CR		1
マンネンスギ	<i>Lycopodium obscurum</i>	EX	DD	CR	CR	CR		
スギラン	<i>Phlegmariurus cryptomerinus</i>	－	－	CR	CR	CR	VU	2
イフヒバ科	Selaginellaceae							
エゾノヒメクラマゴケ	<i>Selaginella helvetica</i>	・	・	・	EX	EX		
タチクラマゴケ	<i>Selaginella nipponica</i>	CR	DD	VU	VU	VU		
ヒモカズラ	<i>Selaginella shakotanensis</i>	・	・	・	CR	CR		
ヤマクラマゴケ	<i>Selaginella tamamontana</i>	・	・	・	VU	VU		
ミズニラ科	Isoetaceae							
ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>	DD	EN	EN	EN	EN	NT	
トクサ科	Equisetaceae							
イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i>	EN	－	CR	CR	CR		
ハナヤスリ科	Ophioglossaceae							
アカハナワラビ	<i>Botrychium nipponicum</i>	CR	EN	VU	VU	VU		
ナガホノナツノハナワラビ	<i>Botrychium strictum</i>	・	－	EN	VU	VU		
ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
コヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i>	CR	VU	VU	NT	VU		
ハマハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i>	EN	EN	EN	CR	EN		3
ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	EN	EN	EN	EN	EN		
マツバラン科	Psilotaceae							
マツバラン	<i>Psilotum nudum</i>	○	DD	EN	EN	EN	NT	
ゼンマイ科	Osmundaceae							
オニゼンマイ	<i>Osmunda claytoniana</i>	・	・	CR	CR	CR		
ヤシャゼンマイ	<i>Osmunda lancea</i>	DD	EX	CR	VU	VU		
ヤマドリゼンマイ	<i>Osmundastrum cinnamomeum</i> var. <i>fokiense</i>	－	－	CR	EN	EN		
コケシノブ科	Hymenophyllaceae							
アオホラゴケ	<i>Crepidomanes latealatum</i>	・	・	VU	VU	VU		
チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i> var. <i>schmidtianum</i>	・	・	CR	VU	VU		4
オオコケシノブ	<i>Hymenophyllum badium</i>	・	・	・	DD	DD		
ミカワコケシノブ	<i>Hymenophyllum mikawanum</i>	・	・	・	DD	DD	EN	
コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i>	・	・	DD	CR	CR		
コハイホラゴケ	<i>Vandenboschia</i> × <i>stenosiphon</i>	・	・	EN	EN	EN		5
ウラジロ科	Gleicheniaceae							
コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	CR	EX	EN	EN	EN		
ウラジロ	<i>Diplazium glaucum</i>	・	VU	NT	NT	NT		6

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
デンジソウ科	Marsileaceae							
デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
サンショウモ科	Salviniaceae							
オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	DD	EX	CR	EX	CR	EN	
サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	CR	CR	CR	CR	CR	VU	
キジノオシダ科	Plagiogyriaceae							
オオキジノオ	<i>Plagiogyria euphlebia</i>	・	・	EN	EN	EN		
キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i> var. <i>japonica</i>	・	・	EN	CR	CR		7
ホングウシダ科	Lindsaeaceae							
ホラシノブ	<i>Odontosoria chinensis</i>	EN	EN	EN	CR	EN		8
コバノイシカグマ科	Dennstaedtiaceae							
コバノイシカグマ ※ウスゲコ バノイシカグマを含む	<i>Dennstaedtia scabra</i>	・	EN	VU	NT	VU		
フモトカグマ	<i>Microlepia pseudostrigosa</i>	・	・	CR	・	CR		
フジシダ	<i>Monachosorum maximowiczii</i>	・	・	CR	EN	EN		
イノモトソウ科	Pteridaceae							
ヒメミズワラビ	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>	CR	CR	CR	・	CR		9
ヒメウラジロ	<i>Cheilanthes argentea</i>	DD	—	DD	VU	VU	VU	
ミヤマウラジロ	<i>Cheilanthes brandtii</i>	・	・	—	NT	NT		
イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	・	・	・	CR	CR	EN	
シシラン	<i>Haplopteris flexuosa</i>	・	・	—	EN	EN		10
ナカミシシラン	<i>Haplopteris fudzinoi</i>	・	・	—	CR	CR		11
マツサカシダ	<i>Pteris nipponica</i>	・	・	EN	EN	EN		
アマクサシダ	<i>Pteris semipinnata</i>	EX	・	EN	・	EN		12
オオバノアマクサシダ	<i>Pteris terminalis</i> var. <i>fauriei</i>	・	・	CR	EN	EN		
オオバノハチジョウシダ	<i>Pteris terminalis</i> var. <i>terminalis</i>	・	・	VU	EN	VU		13
ナヨシダ科	Cystopteridaceae							
ウスヒメワラビ	<i>Acystopteris japonica</i>	・	・	EN	VU	VU		
ヤマヒメワラビ	<i>Cystopteris sudetica</i> var. <i>sudetica</i>	・	・	・	EN	EN		14
ウサギシダ	<i>Gymnocarpium dryopteris</i>	・	・	・	CR	CR		
エビラシダ	<i>Gymnocarpium oyamense</i>	・	・	CR	CR	CR		
イワウサギシダ	<i>Gymnocarpium robertianum</i>	・	・	・	CR	CR		15
チャセンシダ科	Aspleniaceae							
ヒメイトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i>	・	・	・	EN	EN		
トキワトラノオ	<i>Asplenium pekinense</i>	・	・	VU	VU	VU		
オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowillfordii</i>	・	・	・	CR	CR	VU	
クモノスシダ	<i>Asplenium ruprechtii</i>	CR	・	EN	○	NT		
イチョウシダ	<i>Asplenium ruta-muraria</i>	—	—	—	CR	CR	NT	
コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>	DD	・	CR	CR	CR		
アオガネシダ	<i>Asplenium wilfordii</i>	・	・	・	CR	CR		
クルマシダ	<i>Asplenium wrightii</i>	・	・	CR	・	CR		
トキワシダ	<i>Asplenium yoshinagae</i>	・	・	・	VU	VU		
イワヤシダ科	Diplaziopsidaceae							
イワヤシダ	<i>Diplaziopsis cavaleriana</i>	・	・	EX	・	EX		16
ヒメシダ科	Thelypteridaceae							
タチヒメワラビ	<i>Phegopteris bukoensis</i>	・	・	・	EN	EN		17

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ミヤマワラビ	<i>Phegopteris connectilis</i>	・	・	EX	NT	NT		
コハシゴシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>	・	CR	VU	CR	VU		
イブキシダ	<i>Thelypteris esquirolii</i>	・	・	・	CR	CR		
イワハリガネワラビ	<i>Thelypteris musashiensis</i>	・	・	—	VU	VU		
メニッコウシダ	<i>Thelypteris nipponica</i> var. <i>borealis</i>	・	・	EX	EN	EN		
イワデンダ科	Woodsiaceae							
トガクシデンダ	<i>Woodsia glabella</i>	・	・	・	CR	CR		
コガネシダ	<i>Woodsia macrochlaena</i>	・	・	VU	VU	VU		
シシガシラ科	Blechnaceae							
オサシダ	<i>Blechnum amabile</i>	・	・	・	NT	NT		
シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>	DD	NT	NT	○	NT		
コモチシダ	<i>Woodwardia orientalis</i>	CR	EN	VU	EN	EN		
メシダ科	Athyriaceae							
テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	・	・	・	CR	CR	VU	
カラクサイヌワラビ	<i>Athyrium clivicola</i>	・	DD	VU	VU	VU		
イッポンワラビ	<i>Athyrium crenuloserrulatum</i>	・	・	・	CR	CR		18
タカオシケチシダ	<i>Athyrium decurrentialatum</i> f. <i>platyphyllum</i>	・	・	VU	EN	VU		19
サトメシダ	<i>Athyrium deltoifrons</i>	EX	EX	CR	DD	CR		
ミヤコイヌワラビ	<i>Athyrium imbricatum</i>	・	・	CR	CR	CR		20
ホソバイヌワラビ	<i>Athyrium iseanum</i> var. <i>iseanum</i>	・	CR	VU	NT	CR		21
イワイヌワラビ	<i>Athyrium nikkoense</i>	・	・	・	CR	CR		
タニヌワラビ	<i>Athyrium otophorum</i>	・	・	CR	DD	CR		
タカネサトメシダ	<i>Athyrium pinetorum</i>	・	・	・	EN	EN		
カラフトミヤマシダ	<i>Athyrium spinulosum</i>	・	・	・	CR	CR		
セイタカシケンダ	<i>Deparia dimorphophylla</i>	CR	NT	NT	○	NT		
ムクゲシケンダ	<i>Deparia kiusiana</i>	・	—	EN	CR	EN		
ヘラシダ	<i>Deparia lancea</i>	・	EX	CR	CR	CR		22
フモトシケンダ	<i>Deparia pseudoconilii</i> var. <i>pseudoconilii</i>	VU	—	NT	DD	NT		23
コヒロハシケンダ	<i>Deparia pseudoconilii</i> var. <i>subdeltoifrons</i>	DD	—	EN	—	EN		
ハクモウイノデ	<i>Deparia pycnosora</i> var. <i>albosquamata</i>	・	—	NT	○	NT		
ウスゲミヤマシケンダ	<i>Deparia pycnosora</i> var. <i>mucilagina</i>	・	・	CR	CR	CR		
ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i>	・	・	CR	CR	CR		
ヒカゲワラビ	<i>Diplazium chinense</i>	CR	・	CR	VU	EN		
シロヤマシダ	<i>Diplazium hachijoense</i>	・	・	CR	・	CR		
ミヤマノコギリシダ	<i>Diplazium mettenianum</i>	・	・	CR	・	CR		
オニヒカゲワラビ	<i>Diplazium nipponicum</i>	EX	・	VU	VU	VU		
ノコギリシダ	<i>Diplazium wichurae</i> var. <i>wichurae</i>	DD	・	・	EN	EN		
キンモウワラビ科	Hypodematiaceae							
キンモウワラビ	<i>Hypodematium crenatum</i> subsp. <i>fauriei</i>	・	・	・	VU	VU	VU	
オシダ科	Dryopteridaceae							
オオカナワラビ	<i>Arachniodes amabilis</i> var. <i>fimbriata</i>	・	・	EN	EN	EN		24
ホソバナライシダ	<i>Arachniodes borealis</i>	EN	・	NT	VU	VU		
オニカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>	・	DD	VU	EN	VU		25

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes exilis</i>	・	・	VU	・	VU		26
ナンゴクナライシダ	<i>Arachniodes fargesii</i>	・	VU	NT	○	NT		27
シノブカグマ	<i>Arachniodes mutica</i>	・	・	CR	NT	NT		
ミドリカナワラビ	<i>Arachniodes nipponica</i>	・	・	CR	CR	CR		
メヤブソテツ	<i>Cyrtomium caryotideum</i>	・	・	CR	VU	VU		
ミヤコヤブソテツ	<i>Cyrtomium yamamotoi</i>	・	・	CR	CR	CR		28
イワヘゴ	<i>Dryopteris atrata</i>	・	・	VU	EN	EN		
ハチジョウベニシダ	<i>Dryopteris caudipinna</i>	・	・	CR	・	CR		
サイゴクベニシダ	<i>Dryopteris championii</i>	・	VU	EN	EN	EN		
イヌイワヘゴ	<i>Dryopteris cycadina</i>	・	・	EN	CR	EN		
ナチクジャク	<i>Dryopteris decipiens</i>	・	—	CR	—	CR		
オオクジャクシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>	・	・	CR	CR	CR		
マルバベニシダ	<i>Dryopteris fuscipes</i>	・	・	EN	EN	EN		
サクライカグマ	<i>Dryopteris gymnophylla</i>	・	・	EN	EN	EN		
ギフベニシダ	<i>Dryopteris kinkiensis</i>	・	CR	EN	—	CR		
リョウトウイタチシダ	<i>Dryopteris kobayashii</i>	・	・	VU	VU	VU		
ワカナシダ	<i>Dryopteris kuratae</i>	・	EX	・	・	EX		29
エンシユウベニシダ	<i>Dryopteris medioxima</i>	—	—	CR	—	CR		
ミヤマベニシダ	<i>Dryopteris monticola</i>	・	・	・	CR	CR		
トウゴクシダ	<i>Dryopteris nipponensis</i>	CR	NT	NT	○	VU		
ミヤマクマワラビ	<i>Dryopteris polylepis</i>	・	—	VU	VU	VU		
ヒメイタチシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i>	DD	DD	EN	CR	EN		
ナガバノイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> var. <i>sparsa</i>	・	・	VU	NT	NT		30
イワオオイタチシダ	<i>Dryopteris subhikonensis</i>	・	・	CR	EN	VU		
タニヘゴ	<i>Dryopteris tokyoensis</i>	EX	CR	CR	・	CR		
ホソイノデ	<i>Polystichum braunii</i>	・	・	EX	CR	CR		
アスカイノデ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i>	VU	NT	VU	VU	VU		
チャボイノデ	<i>Polystichum igaense</i>	・	・	CR	EN	EN		
アイアスカイノデ	<i>Polystichum longifrons</i>	VU	VU	○	○	VU		
オオキヨズミシダ	<i>Polystichum mayebarae</i>	・	・	EN	CR	EN		31
トヨグチノデ	<i>Polystichum ohmurae</i>	・	・	・	CR	CR		
サカゲイノデ	<i>Polystichum retrosopaleaceum</i>	—	—	CR	EN	EN		
オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	・	・	CR	CR	CR	VU	
シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	・	・	・	CR	CR	CR	
ヒメカナワラビ(キヨズミシダ)	<i>Polystichum tsus-simense</i>	・	・	EN	EN	EN		32
シノブ科	Davalliaceae							
シノブ	<i>Davallia mariesii</i>	・	EN	VU	○	VU		
ウラボシ科	Polypodiaceae							
アオネカズラ	<i>Goniophlebium niponicum</i>	・	・	・	CR	CR		33
ミヨウギシダ	<i>Goniophlebium someyae</i>	・	・	・	CR	CR	EN	34
ホテイシダ	<i>Lepisorus annuifrons</i>	・	・	・	VU	VU		
サジラン	<i>Loxogramme duclouxii</i>	・	・	CR	EN	EN		
ヒメサジラン	<i>Loxogramme grammitoides</i>	・	・	DD	EN	EN		
イワヤナギシダ	<i>Loxogramme salicifolia</i>	・	・	・	CR	CR		
オオクボシダ	<i>Micropolypodium okuboii</i>	・	・	・	CR	CR		35
クリハラン	<i>Neolepisorus ensatus</i>	・	・	DD	CR	CR		36
カラクサシダ	<i>Pleurosoriopsis makinoi</i>	・	・	EN	VU	NT		
オシャグジデンド	<i>Polypodium fauriei</i>	・	・	CR	EN	VU		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
エゾデンド	<i>Polypodium sibiricum</i>	・	・	・	CR	CR		
イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i>	・	・	・	CR	CR		
ヒトツバ	<i>Pyrrosia lingua</i>	・	・	・	CR	CR		
ミヤマウラボシ	<i>Selliguea veitchii</i>	・	・	・	EN	EN		37
キレハオオクボシダ	<i>Tomophyllum sakaguchianum</i>	・	・	・	EX	EX	EN	38
種子植物門	SPERMATOPHYTA							
裸子植物亜門	GYMNOSPERMS							
マツ科	Pinaceae							
シラビソ(シラベ)	<i>Abies veitchii</i>	・	・	・	NT	NT		
イラモミ(マツハダ,シラネ マツハダ)	<i>Picea alcoquiana</i>	・	・	・	VU	VU		39
トウヒ	<i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i>	・	・	・	EN	EN		
ハリモミ(バラモミ)	<i>Picea torano</i>	・	・	CR	CR	CR		40
ヒメコマツ(ゴウマツ)	<i>Pinus parviflora</i>	・	・	・	CR	CR		
ヒノキ科	Cupressaceae							
ミヤマビャクシン	<i>Juniperus chinensis</i> var. <i>sargentii</i>	・	・	・	CR	CR		
ネズミサシ(ネズ,ムロ)	<i>Juniperus rigida</i>	—	—	CR	EN	EN		
クロベ(ネズコ)	<i>Thuja standishii</i>	・	・	・	EN	EN		
イチイ科	Taxaceae							
イチイ	<i>Taxus cuspidata</i>	・	・	・	CR	CR		
被子植物亜門	ANGIOSPERMS							
ジュンサイ科	Cabombaceae							
ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>	EX	・	EW	・	EW		
スイレン科	Nymphaeaceae							
オニバス	<i>Euryale ferox</i>	CR	EX	・	・	CR	VU	
コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
マツブサ科	Schisandraceae							
チョウセンゴミシ	<i>Schisandra chinensis</i>	・	・	・	EX	EX		
ドクダミ科	Saururaceae							
ハンゲショウ	<i>Saururus chinensis</i>	EN	—	・	DD	EN		
ウマノスズクサ科	Aristolochiaceae							
ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
オオバウマノスズクサ	<i>Aristolochia kaempferi</i>	EX	EX	NT	○	NT		
ランヨウアオイ	<i>Asarum blumei</i>	・	・	EN	・	EN		
ウスバサイシン	<i>Asarum sieboldii</i>	・	・	・	CR	CR		
タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	CR	EN	VU	CR	EN	VU	
クスノキ科	Lauraceae							
シロモジ	<i>Lindera triloba</i>	・	・	・	EX	EX		
カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>	・	・	VU	VU	VU		
単子葉類	MONOCOTS							
ショウブ科	Acoraceae							
ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	VU	NT	NT	NT	NT		
サトイモ科	Araceae							
マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
ユモトマムシグサ	<i>Arisaema nikoense</i> subsp. <i>nikoense</i>	・	・	・	VU	VU		
ミクニテンナンショウ	<i>Arisaema planilaminum</i>	・	・	・	EN	EN		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
ヒメザゼンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i>	・	CR	CR	EN	EN		
チシマゼキショウ科	Tofieldiaceae							
チシマゼキショウ(ハコネ ハナゼキショウ)	<i>Tofieldia coccinea</i> var. <i>coccinea</i>	・	・	・	CR	CR		41
オモダカ科	Alismataceae							
ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>	EN	VU	EN	VU	VU		
サジオモダカ	<i>Alisma plantago-aquatica</i> var. <i>orientale</i>	EX	CR	EW	DD	CR		
トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	DD	DD	CR	DD	CR	VU	
マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiifolia</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>	EX	CR	CR	CR	CR	NT	
ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i>	DD	CR	DD	CR	CR		
トチカガミ科	Hydrocharitaceae							
スプタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	EX	DD	EX	EX	EX	VU	
ヤナギスプタ	<i>Blyxa japonica</i>	EX	EX	EX	・	EX		
クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>	CR	CR	EX	CR	CR		
トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	EX	CR	・	・	CR	NT	
サガミトリゲモ(ヒロハトリゲ モ)	<i>Najas chinensis</i>	—	—	CR	—	CR		
イトトリゲモ	<i>Najas gracillima</i>	CR	—	EN	EN	EN	NT	42
ホッスモ	<i>Najas graminea</i>	EX	—	—	—	EX		
イバラモ	<i>Najas marina</i>	DD	EW	—	—	EW		
トリゲモ	<i>Najas minor</i>	DD	—	—	—	DD	VU	
ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	CR	CR	EN	CR	CR	VU	
コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i>	CR	EN	DD	DD	EN		
セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i>	EX	EN	EN	CR	EN		
ヒルムシロ科	Potamogetonaceae							
エビモ	<i>Potamogeton crispus</i>	CR	EN	EN	EN	EN		
コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>	CR	EN	EN	VU	EN		
フトヒルムシロ	<i>Potamogeton fryeri</i>	EX	—	—	—	EX		
センニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i>	EX	—	DD	—	DD		
オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i>	EX	EX	—	—	EX		
ホソバミズヒキモ	<i>Potamogeton octandrus</i>	—	DD	—	—	DD		
ヤナギモ	<i>Potamogeton oxyphyllus</i>	DD	VU	VU	—	VU		
ツツイトモ	<i>Potamogeton panormitanus</i>	EN	EN	—	—	EN	VU	
ヒロハノエビモ	<i>Potamogeton perfoliatus</i>	—	EW	—	—	EW		
イトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	CR	CR	CR	CR	CR	NT	
ササバモ	<i>Potamogeton wrightii</i>	VU	VU	VU	EN	VU		43
カワツルモ科	Ruppiceae							
カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
ヤマノイモ科	Dioscoreaceae							
ニガカシュウ	<i>Dioscorea bulbifera</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
ホンゴウソウ科	Triuridaceae							
ホンゴウソウ	<i>Sciaphila nana</i>	—	—	—	CR	CR	VU	
シュロソウ科	Melanthiaceae							
アズマシライトソウ	<i>Chionographis hisauchiana</i> subsp. <i>hisauchiana</i>	・	・	・	CR	CR	VU	44
ツクシショウジョウバカマ	<i>Helonias breviscapa</i> var. <i>breviscapa</i>	・	・	EX	・	EX		45

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
クルマバツクバネソウ	<i>Paris verticillata</i>	・	・	・	EN	EN		
ミヤマエンレイソウ	<i>Trillium tschonoskii</i>	・	・	EN	○	VU		
シュロソウ ※ホソバシュロソウ <i>Veratrum maackii</i> var. <i>maackioides</i> を含む	<i>Veratrum maackii</i>	・	CR	VU	VU	VU		46
イヌサフラン科(チゴユリ科)	Colchicaceae							
オオチゴユリ(アオチゴユリ)	<i>Disporum viridescens</i>	・	・	CR	CR	CR		
サルトリイバラ科	Smilacaceae							
マルバサンキライ	<i>Smilax stans</i>	・	・	・	VU	VU		47
ユリ科	Liliaceae							
アマナ	<i>Amana edulis</i>	VU	VU	VU	NT	VU		
ヒロハノアマナ	<i>Amana erythronioides</i>	・	EN	CR	CR	EN	VU	48
ツバメオモト	<i>Clintonia udensis</i>	・	・	・	CR	CR		
カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	VU	VU	VU	NT	VU		
カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	・	・	CR	・	CR	EN	
ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EX	・	・	・	EX	EN	
キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i>	・	・	EN	EN	EN		
コオニユリ ※ホソバコオニユリを含む	<i>Lilium leichtlinii</i> f. <i>pseudotigrinum</i>	・	CR	CR	CR	CR		49
クルマユリ	<i>Lilium medeoloides</i>	・	・	・	CR	CR		
ヤマジノホトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>	DD	NT	NT	○	NT		
ホトギス	<i>Tricyrtis hirta</i>	DD	VU	VU	NT	VU		
タマガワホトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i>	・	・	VU	VU	VU		
ラン科	Orchidaceae							
マメツタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	—	—	—	EN	EN	NT	
ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	・	・	EN	EN	EN	NT	
エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	CR	VU	NT	VU	NT	NT	
キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	・	—	—	CR	CR	VU	
ナツエビネ	<i>Calanthe reflexa</i>	・	—	—	CR	CR	VU	
ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	・	—	—	CR	CR	EN	
ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	EN	EN	VU	EN	EN		50
ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>subaphylla</i>	EX	EN	CR	CR	CR	VU	
キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	VU	NT	NT	NT	NT	VU	
ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	VU	NT	NT	NT	NT		
ヒメノヤガラ	<i>Chamaegastrodia sikokiana</i>	—	—	CR	—	CR	VU	51
コアツモリソウ	<i>Cypripedium debile</i>	・	・	CR	CR	CR	NT	
クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	EX	CR	CR	CR	CR	VU	
アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthos</i> var. <i>speciosum</i>	・	EX	CR	CR	CR	VU	
ツチアケビ	<i>Cyrtosia septentrionalis</i>	・	・	EN	EN	EN		52
アオチドリ	<i>Dactylophiza viridis</i>	・	・	・	VU	VU		53
イチヨウラン	<i>Dactylostalix ringens</i>	・	・	・	EN	EN		
セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i>	・	・	VU	EN	VU		
ハコネラン	<i>Ephippianthus sawadanus</i>	・	・	・	CR	CR	VU	
コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i>	・	・	・	CR	CR		
エゾスズラン(アオスズラン)	<i>Epipactis papillosa</i>	・	・	VU	VU	VU		
カキラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	DD	DD	CR	CR	CR		
カモメラン	<i>Galearis cyclochila</i>	・	・	・	CR	CR	NT	
マツラン(ベニカヤラン)	<i>Gastrochilus matsuran</i>	・	・	CR	CR	CR	VU	54

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
モミラン	<i>Gastrochilus toramanus</i>	・	・	・	CR	CR	VU	55
アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia confusa</i>	・	—	VU	—	VU		56
オニノヤガラ ※アオテン マ <i>Gastrodia elata</i> f. <i>viridis</i> を含む	<i>Gastrodia elata</i>	CR	EN	EN	VU	EN		
シロテンマ	<i>Gastrodia elata</i> var. <i>pallens</i>	—	—	CR	—	CR	CR	
ベニシュスラン	<i>Goodyera biflora</i>	・	—	EN	CR	EN		57
アケボノシュスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>maximowicziana</i>	・	・	EN	CR	EN		
ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i>	・	・	・	CR	CR		58
ヒメヤマウズラ	<i>Goodyera repens</i>	・	・	・	CR	CR		
ミヤマウズラ	<i>Goodyera schlechtendaliana</i>	—	CR	CR	NT	NT		
シュスラン	<i>Goodyera velutina</i>	・	EN	EN	—	EN		
テガタチドリ	<i>Gymnadenia conopsea</i>	・	・	・	CR	CR		
ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>	・	EX	EX	EX	EX	VU	
ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i>	・	EX	・	DD	EX	EN	59
ハクウンラン	<i>Kuhlhasseltia nakaiana</i>	・	CR	CR	CR	CR		60
ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i>	・	VU	VU	EN	VU		
トサノクロムヨウラン ※クロ ムヨウランを含む	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>patipetala</i>	・	VU	VU	EN	VU		61
エンシュウムヨウラン	<i>Lecanorchis suginoana</i>	・	EN	EN	EN	EN		
セイタカズムシソウ	<i>Liparis japonica</i>	・	—	DD	—	DD		
ジガバチソウ ※品種アオジ ガバチソウ <i>Liparis krameri</i> f. <i>viridis</i> を含む	<i>Liparis krameri</i>	EX	EN	EN	VU	VU		
クモキリソウ	<i>Liparis kumokiri</i>	—	EN	EN	NT	VU		
ズムシソウ	<i>Liparis makinoana</i>	・	・	CR	CR	VU		
コ克蘭	<i>Liparis nervosa</i>	VU	VU	NT	NT	NT		
ホザキイチヨウラン	<i>Malaxis monophyllos</i>	・	・	・	CR	CR		
アリドオシラン	<i>Myrmecis japonica</i>	・	・	・	CR	CR		
フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>	・	・	CR	・	CR	VU	
ヒメフタバラン(ムラサキフ タバラン)	<i>Neottia japonica</i>	・	・	CR	・	CR		62
アオフタバラン	<i>Neottia makinoana</i>	・	・	CR	EN	EN		63
サカネラン	<i>Neottia papilligera</i>	・	・	CR	CR	CR	VU	64
タカネフタバラン	<i>Neottia puberula</i>	・	・	・	CR	CR		65
ミヤマモジズリ	<i>Neottianthe cucullata</i>	・	・	・	EN	EN		66
ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	—	—	CR	—	CR	EN	
ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i>	DD	EN	EN	CR	EN		
コケイラン	<i>Oreorchis patens</i>	・	・	CR	CR	CR		
サギソウ	<i>Pecteilis radiata</i>	EX	EX	EX	EX	EX	NT	67
ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i>	・	・	・	EN	EN		
ミズチドリ	<i>Platanthera hologlottis</i>	・	EX	EX	EN	EN		
オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera hondoensis</i>	・	・	・	CR	CR	CR	68
イヌマムカゴ	<i>Platanthera iinumae</i>	・	・	CR	CR	CR	EN	69
ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i>	・	EX	CR	CR	CR		
ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	・	・	CR	CR	CR		70
ヒトツバキソチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> f. <i>monophylla</i>	・	・	・	VU	VU		71
オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i>	・	・	・	EX	EX		72

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
コバノトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>nipponica</i>	・	・	EX	・	EX		73
トンボソウ	<i>Platanthera ussuriensis</i>	・	DD	EN	VU	VU		74
トキシソウ	<i>Pogonia japonica</i>	・	・	EX	EX	EX	NT	
ヤマトキシソウ	<i>Pogonia minor</i>	・	DD	・	CR	CR		
ウチョウラン	<i>Ponerorchis graminifolia</i>	・	・	・	EN	EN	VU	75
クモラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	EX	EX	CR	CR	CR		
カヤラン	<i>Thrixspernum japonicum</i>	EX	VU	VU	NT	NT		76
ヒトツボクロ	<i>Tipularia japonica</i>	・	・	EN	VU	VU		
キバナノショウキラン	<i>Yoania amagiensis</i>	—	—	CR	CR	CR	EN	
カゲロウラン	<i>Zeuxine agyokuana</i>	・	・	EX	・	EX	NT	77
アヤメ科	Iridaceae							
ヒオウギ	<i>Iris domestica</i>	EX	EX	CR	EN	CR		78
ノハナショウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	CR	CR	EN	CR	CR		
ヒメシャガ	<i>Iris gracilipes</i>	・	・	・	CR	CR	NT	
カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>	EN	CR	CR	—	CR	NT	
アヤメ	<i>Iris sanguinea</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
ワスレグサ科	Asphodelaceae							
ゼンテイカ(ニッコウキスゲ)	<i>Hemerocallis middendorffii</i> var. <i>esculenta</i>	・	・	・	VU	VU		79
ムサシノキスゲ	<i>Hemerocallis dumortieri</i> var. <i>musashiensis</i>	・	VU	・	・	VU		80
ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	DD	NT	NT	NT	NT		
ヒガンバナ科	Amaryllidaceae							
ステゴビル	<i>Allium inutile</i>	・	・	・	EN	EN	VU	81
ヒメニラ	<i>Allium monanthum</i>	EX	VU	VU	VU	VU		
ヤマラッキョウ	<i>Allium thunbergii</i>	EX	CR	CR	CR	CR		
オオキツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>kiushiana</i>	・	・	EN	VU	VU		
キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>sanguinea</i>	VU	VU	NT	NT	VU		
クサスギカズラ科	Asparagaceae							
キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i>	—	CR	CR	DD	CR		
ユキザサ	<i>Maianthemum japonicum</i>	—	—	VU	NT	VU		
ヤマトユキザサ(ミドリユキザサ, オオバユキザサ)	<i>Maianthemum viridiflorum</i>	・	・	—	VU	VU		82
ワニグチソウ	<i>Polygonatum involucratum</i>	VU	EN	VU	VU	VU		
オオナルコユリ	<i>Polygonatum macranthum</i>	・	—	EX	EN	EN		
アマドコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>	VU	EN	NT	NT	VU		
ミズアオイ科	Pontederiaceae							
ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>	EX	EX	EX	・	EX	NT	
ガマ科	Typhaceae							
ミクリ ※別変種オオミクリ <i>Sparganium erectum</i> var. <i>macrocarpum</i> を含む	<i>Sparganium erectum</i>	VU	NT	VU	VU	VU	NT	
ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>	EX	DD	—	—	EX	NT	
ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	VU	VU	VU	—	VU	NT	
ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	CR	CR	DD	DD	CR	VU	
ホシクサ科	Eriocaulaceae							
ヒロハノイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon alpestre</i> var. <i>robustius</i>	EX	CR	EN	EN	EN		83

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
イトヌヒゲ(コイスノヒゲ)	<i>Eriocaulon decemflorum</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>	—	—	CR	CR	CR	VU	
ニッポンイヌヒゲ	<i>Eriocaulon taquetii</i>	EX	CR	CR	DD	CR		84
イグサ科	Juncaceae							
ドロイ	<i>Juncus gracillimus</i>	EX	・	・	・	EX		
ハナビゼキショウ	<i>Juncus alatus</i>	DD	CR	EN	DD	EN		
ヒロハノコウガイゼキショウ	<i>Juncus diastrophanthus</i>	EX	CR	CR	EN	CR		
イヌイ	<i>Juncus fauriei</i>	EX	・	・	・	EX		85
タチコウガイゼキショウ	<i>Juncus krameri</i>	CR	CR	CR	CR	CR		
イトイ	<i>Juncus maximowiczii</i>	・	・	・	CR	CR		
アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i>	DD	NT	VU	NT	NT		
ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i> var. <i>effusoides</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
ハリコウガイゼキショウ	<i>Juncus wallichianus</i>	—	DD	CR	—	CR		
ヤマズメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i>	VU	VU	VU	NT	VU		
ヌカボシソウ	<i>Luzula plumosa</i> subsp. <i>plumosa</i>	EX	—	EN	DD	EN		86
カヤツリグサ科	Cyperaceae							
ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>	NT	VU	EN	NT	VU		
イセウキヤガラ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i>	EN	・	・	・	EN		
ハタガヤ	<i>Bulbostylis barbata</i>	EX	EN	CR	—	EN		
イトハナビテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i>	—	NT	NT	NT	NT		
トダスゲ	<i>Carex aequialta</i>	VU	・	・	・	VU	CR	
ミノボロスゲ	<i>Carex albata</i>	EX	EN	EX	—	EN		
クロカワズスゲ	<i>Carex arenicola</i>	CR	—	EN	—	EN		
マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i>	EX	EN	VU	VU	VU		
アワボスゲ	<i>Carex brownii</i>	—	—	CR	EN	CR		
ハリガネスゲ	<i>Carex capillacea</i>	EX	EX	—	—	EX		
ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	—	EN	CR	—	CR	VU	
ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
タマツリスゲ	<i>Carex filipes</i> var. <i>filipes</i>	—	VU	VU	NT	VU		87
サナギスゲ	<i>Carex grallatoria</i> var. <i>heteroclita</i>	・	・	・	VU	VU		
ヤマアゼスゲ	<i>Carex heterolepis</i>	—	DD	EN	NT	VU		
ホソバヒカゲスゲ	<i>Carex humilis</i> var. <i>nana</i>	VU	VU	NT	NT	VU		
ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i>	VU	EN	・	EN	EN		
イセアオスゲ	<i>Carex karashidaniensis</i>	・	・	・	VU	VU		
テキリスゲ	<i>Carex kiotensis</i>	EX	DD	NT	○	NT		
クジュウツリスゲ	<i>Carex kujuzana</i>	—	CR	—	—	CR	NT	
アズマスゲ	<i>Carex lasiolepis</i>	・	・	・	EN	EN		
ヒエスゲ	<i>Carex longerostrata</i> var. <i>longerostrata</i>	・	・	・	VU	VU		88
チュウゼンジスゲ	<i>Carex longerostrata</i> var. <i>tenuistachya</i>	・	CR	DD	—	CR		
ヤガミスゲ	<i>Carex maackii</i>	NT	VU	EN	VU	VU		
タチスゲ	<i>Carex maculata</i>	—	EN	EX	EX	EN		
ホシナシゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i> var. <i>levisaccus</i>	・	—	CR	—	CR		
ヒメシラスゲ	<i>Carex mollicula</i>	・	・	EN	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ミコシガヤ	<i>Carex neurocarpa</i>	NT	NT	VU	NT	NT		
ヤチカワズスゲ	<i>Carex omiana</i> var. <i>omiana</i>	EX	EX	EX	EX	EX		89
ヒカゲハリスゲ	<i>Carex onoei</i>	・	・	・	VU	VU		
オタルスゲ(ヒメテキリスゲ)	<i>Carex otaruensis</i>	・	・	EX	EX	EX		
ヒメゴウソ	<i>Carex phacota</i> var. <i>gracilispica</i>	EX	CR	—	DD	CR		
ホンモンジスゲ	<i>Carex pisiformis</i>	VU	VU	NT	NT	VU		
タカネマスキサ	<i>Carex planata</i>	EX	DD	EN	EN	EN		
タヌキラン	<i>Carex podogyna</i>	・	CR	CR	CR	CR		
コウボウシバ	<i>Carex pumila</i>	NT	・	・	・	NT		
クサスゲ	<i>Carex rugata</i>	CR	EN	EN	EN	EN		
シオクグ	<i>Carex scabrifolia</i>	VU	・	・	・	VU		
オニナルコスゲ	<i>Carex vesicaria</i>	EX	EX	—	—	EX		
イヌクグ(クグ)	<i>Cyperus cyperoides</i>	NT	—	NT	—	NT		
カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	NT	NT	VU	VU	VU	VU	
アオガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i>	NT	NT	NT	—	NT		
シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i>	EN	DD	EN	—	EN		
ミズガヤツリ	<i>Cyperus serotinus</i>	NT	VU	VU	VU	VU		
ヒメガヤツリ(ミズハナビ)	<i>Cyperus tenuispica</i>	—	—	EX	—	EX		
セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i>	EN	EX	DD	EN	EN		
オオハリイ	<i>Eleocharis pellucida</i> f. <i>elata</i>	—	VU	VU	—	VU		
クロハリイ	<i>Eleocharis kamtschatica</i> f. <i>reducta</i>	EX	・	・	・	EX		
クログワイ	<i>Eleocharis kuroguwai</i>	CR	—	EN	DD	EN		
オオスマハリイ(ヌマハリイ)	<i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	EX	EX	・	EX	EX		
コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	EX	CR	CR	CR	CR	VU	
シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i>	EX	VU	VU	VU	VU		
サギスゲ	<i>Eriophorum gracile</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
コアゼテンツキ	<i>Fimbristylis aestivalis</i>	VU	—	VU	—	VU		
ノテンツキ(ヒラテンツキ)	<i>Fimbristylis complanata</i> f. <i>exaltata</i>	DD	DD	EX	CR	CR		90
クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyllodes</i>	CR	EN	VU	NT	EN		
アオテンツキ	<i>Fimbristylis dipsacea</i>	EX	EX	DD	・	EX		91
ナガボテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i>	CR	・	・	・	CR		
イソヤマテンツキ	<i>Fimbristylis sieboldii</i>	NT	・	・	・	NT		
アゼテンツキ	<i>Fimbristylis squarrosa</i>	VU	EN	—	DD	VU		
メアゼテンツキ	<i>Fimbristylis velata</i>	VU	EN	EN	EN	EN		
コイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fujiana</i>	・	EX	EX	・	EX		
ハタベカンガレイ	<i>Schoenoplectiella gemmifera</i>	EX	—	—	—	EX	VU	92
ヒメホタルイ	<i>Schoenoplectiella lineolata</i>	—	CR	—	DD	CR		93
タタラカンガレイ	<i>Schoenoplectiella mucronata</i> var. <i>tatarana</i>	CR	—	—	—	CR		94
カンガレイ	<i>Schoenoplectiella triangulata</i>	VU	VU	VU	DD	VU		
シズイ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
コマツカサススキ	<i>Scirpus fuirenooides</i>	EN	EN	EN	EN	EN		
マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	EN	EN	EN	EN	EN		
コシンジュガヤ	<i>Scleria parvula</i>	・	DD	EX	DD	EX		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
イネ科	Poaceae/Gramineae							
ヒメコスカグサ	<i>Agrostis valvata</i>	DD	EX	—	・	EX	NT	
セトガヤ	<i>Alopecurus japonicus</i>	DD	NT	VU	NT	NT		
タカネコウボウ	<i>Anthoxanthum horsfieldii</i> var. <i>japonicum</i>	・	・	・	VU	VU		95
コウボウ	<i>Anthoxanthum nitens</i> var. <i>sachalinense</i>	DD	VU	VU	VU	VU		96
コウヤザサ	<i>Brachyelytrum japonicum</i>	・	・	・	VU	VU		
ヒメアブラススキ	<i>Capillipedium parviflorum</i>	EX	EX	DD	—	DD		
フサガヤ	<i>Cinna latifolia</i>	・	・	・	DD	DD		
チョウセンガリヤス	<i>Cleistogenes hackelii</i>	VU	NT	VU	VU	VU		
ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i>	・	—	EX	—	EX	NT	
コメススキ	<i>Deschampsia flexuosa</i>	・	・	DD	DD	DD		
カリマタガヤ	<i>Dimeria ornithopoda</i> var. <i>tenera</i>	—	NT	NT	NT	NT		97
ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	—	VU	VU	DD	VU	VU	
ムツオレグサ(ミノゴメ)	<i>Glyceria acutiflora</i> subsp. <i>japonica</i>	DD	VU	VU	VU	VU		98
ウキガヤ	<i>Glyceria depauperata</i> var. <i>infirmata</i>	EX	EX	—	EX	EX		
アズマガヤ	<i>Hystrix duthiei</i> subsp. <i>longearistata</i>	・	—	NT	NT	NT		99
ハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i>	・	VU	EN	VU	EN		
カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>crassipes</i>	EX	EX	・	・	EX		100
ミノボロ	<i>Koeleria macrantha</i>	DD	VU	EN	VU	VU		101
アシカキ	<i>Leersia japonica</i>	EN	EN	CR	CR	EN		
エゾノサヤヌカグサ	<i>Leersia oryzoides</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
アゼガヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>	DD	VU	DD	—	VU		
ミチシバ(ハナビガヤ)	<i>Melica onoei</i>	DD	DD	DD	VU	VU		
ヌマガヤ	<i>Moliniopsis japonica</i>	CR	EX	CR	EX	CR		
キダチノズミガヤ	<i>Muhlenbergia ramosa</i>	DD	DD	EN	EN	EN		
アイアシ	<i>Phacelurus latifolius</i>	VU	・	・	・	VU		
セイタカヨシ(セイコノヨシ)	<i>Phragmites karka</i>	DD	・	・	・	DD		
ムカゴツヅリ	<i>Poa tuberifera</i>	・	・	DD	EN	EN		
ウキシバ	<i>Pseudoraphis sordida</i>	—	—	—	DD	DD		
ヌメリグサ	<i>Sacciolepis indica</i> var. <i>oryzeterum</i>	・	NT	NT	NT	NT		
アズマザサ	<i>Sasaella ramosa</i>	DD	NT	NT	○	NT		
ヒゲシバ	<i>Sporobolus japonicus</i>	CR	EN	VU	—	VU		
ヒロハノハネガヤ	<i>Stipa coreana</i> var. <i>japonica</i>	・	・	・	EN	EN		102
ハネガヤ	<i>Stipa pekinensis</i>	DD	DD	VU	VU	VU		
メガルカヤ	<i>Themeda barbata</i>	DD	DD	VU	VU	VU		
真正双子葉類	EUDICOTS							
マツモ科	Ceratophyllaceae							
マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	EN	EN	CR	DD	EN		
ケシ科	Papaveraceae							
キケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i>	CR	・	・	・	CR		
ナガミノツルキケマン	<i>Corydalis raddeana</i>	・	・	・	EN	EN	NT	103
ヤマブキノウ	<i>Hylomecon japonica</i>	CR	EW	VU	VU	CR		
オサバグサ	<i>Pteridophyllum racemosum</i>	・	・	DD	EN	EN		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ツツラフジ科	Menispermaceae							
コウモリカズラ	<i>Menispermum dauricum</i> f. <i>pilosum</i>	EX	CR	EN	EN	EN		104
メギ科	Berberidaceae							
ヒロハヘビノボラズ	<i>Berberis amurensis</i>	・	・	EX	EN	EN		
ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i>	・	・	EN	VU	VU		
イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i>	CR	EN	EN	VU	VU		
キンボウゲ科	Ranunculaceae							
ツクバトリカブト	<i>Aconitum japonicum</i> subsp. <i>maritimum</i>	DD	DD	VU	NT	VU		
アズマレイジンソウ	<i>Aconitum pterocaulis</i>	・	・	EN	EN	EN		
フジレイジンソウ	<i>Aconitum</i> × <i>fudjisanense</i>	・	・	CR	CR	CR		105
ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i>	・	・	・	CR	CR		
フクジュソウ ※ミチノクフク ジュソウ <i>Adonis multiflora</i> を 含む	<i>Adonis ramosa</i>	・	・	CR	EN	EN		
ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>	EN	NT	NT	○	NT		
イチリンソウ	<i>Anemone nikoensis</i>	VU	NT	NT	NT	NT		
キクザキイチゲ	<i>Anemone pseudoaltaica</i>	・	・	EN	CR	EN		
アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	CR	CR	VU	VU	VU		
レンゲショウマ	<i>Anemonopsis macrophylla</i>	・	・	CR	VU	EN		
ヤマオダマキ	<i>Aquilegia buergeriana</i> var. <i>buergeriana</i>	・	・	EX	EN	EN		106
サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i>	・	VU	○	○	VU		
ミヤマハンショウヅル	<i>Clematis alpina</i> subsp. <i>ochotensis</i> var. <i>fusijamana</i>	・	・	・	CR	CR		107
フジセンニンソウ	<i>Clematis chinensis</i> var. <i>fujisanensis</i>	・	—	—	CR	CR		108
シロバナカザグルマ	<i>Clematis alpina</i> f. <i>leucantha</i>	EX	CR	CR	CR	CR		
トリガタハンショウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>	・	・	・	CR	CR		
シロバナハンショウヅル	<i>Clematis williamsii</i>	—	—	VU	—	VU		
ウスギオウレン	<i>Coptis lutescens</i>	・	・	・	EN	EN		
バイカオウレン(ゴカヨウオウ ウレン)	<i>Coptis quinquefolia</i>	・	・	・	VU	VU		
トウゴクサバノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>	・	・	EN	VU	VU		
ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>	・	・	EX	・	EX	NT	
オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>	EX	EX	EX	EX	EX	VU	
バイカモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>submersus</i>	EX	EX	EX	CR	CR		
ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i>	EW	EX	・	・	EW	VU	
シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i>	EX	・	CR	CR	CR		
ミョウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	・	・	・	CR	CR	CR	
ノカラマツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
ツゲ科	Buxaceae							
ツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>	・	・	・	EN	EN		
ボタン科	Paeoniaceae							
ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i>	・	・	CR	EN	EN	NT	
ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>	・	・	EN	CR	EN	VU	
スグリ科	Grossulariaceae							
ヤシャビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i>	・	・	・	VU	VU	NT	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>	EX	EX	CR	CR	CR		
ザリコミ	<i>Ribes maximowiczianum</i>	・	・	・	CR	CR		
ユキノシタ科	Saxifragaceae							
チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>	VU	NT	○	○	NT		
ネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	VU	NT	NT	○	NT		
ヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum</i>	VU	VU	○	○	VU		
チシマネコノメ(チシマネコノメソウ)	<i>Chrysosplenium kamschaticum</i>	・	・	・	CR	CR		
オオコガネネコノメソウ(コガネネコノメソウ)	<i>Chrysosplenium pilosum</i> var. <i>fulvum</i>	・	・	・	VU	VU		
ヤワタソウ	<i>Peltoboykinia tellimoides</i>	・	・	・	CR	CR		
ジンジソウ	<i>Saxifraga cortusifolia</i>	・	・	・	VU	VU		
ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>alpina</i>	・	・	・	VU	VU		
クロクモソウ	<i>Saxifraga fusca</i> var. <i>kikubuki</i>	・	・	・	CR	CR		
イワユキノシタ	<i>Tanakaea radicans</i>	・	・	・	EX	EX		
ズダヤクシュ	<i>Tiarella polyphylla</i>	・	・	・	VU	VU		
ベンケイソウ科	Crassulaceae							
ショウドシマベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i> var. <i>lithophilos</i>	・	・	・	EN	EN		
アオベンケイ	<i>Hylotelephium viride</i>	・	・	・	CR	CR		
マツノハマネングサ	<i>Sedum hakonense</i>	・	・	・	CR	CR	VU	
アズマツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i>	CR	EN	EN	EN	EN	NT	
タコノアシ科	Penthoraceae							
タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	VU	NT	NT	NT	NT	NT	
アリノトウグサ科	Haloragaceae							
ホザキノフサモ	<i>Myriophyllum spicatum</i>	CR	DD	EN	DD	EN		
タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>	EX	EX	・	・	EX	NT	
フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	EX	EX	—	DD	DD		
マメ科	Fabaceae/Leguminosae							
クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>	EN	EN	EN	EN	EN		
ホドイモ	<i>Apios fortunei</i>	・	VU	VU	NT	VU		
モメンヅル	<i>Astragalus reflexistipulus</i>	EX	・	EX	CR	CR		
カワラケツメイ	<i>Chamaecrista nomame</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
ユクノキ	<i>Cladrastis sikokiana</i>	・	DD	EN	VU	VU		
タヌキマメ	<i>Crotalaria sessiliflora</i>	VU	DD	CR	CR	CR		
ノアズキ(ヒメクス)	<i>Dunbaria villosa</i>	DD	DD	EX	CR	CR		
イワオウギ(タテヤマオウギ)	<i>Hedysarum vicioides</i> subsp. <i>japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	・	・	・	CR	CR		109
イタチササゲ	<i>Lathyrus davidii</i>	—	EX	CR	CR	CR		
ハマエンドウ	<i>Lathyrus japonicus</i>	CR	・	・	・	CR		
レンリソウ	<i>Lathyrus quinquenervius</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>	EN	VU	NT	○	VU		
イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	EN	EN	CR	EN	EN	VU	
マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>	CR	DD	DD	・	CR		
クララ	<i>Sophora flavescens</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>	CR	EN	EN	EN	EN		
クサフジ	<i>Vicia cracca</i>	CR	EX	EX	EX	CR		
ヨツバハギ	<i>Vicia nipponica</i>	・	EX	EX	CR	CR		
オオバクサフジ	<i>Vicia pseudo-orobus</i>	・	CR	EN	VU	EN		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ヒメハギ科	Polygalaceae							
ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>	EN	EN	VU	NT	VU		
ヒナノキンチャク	<i>Polygala tatarinowii</i>	・	・	・	EN	EN	EN	
バラ科	Rosaceae							
チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	・	CR	CR	CR	CR	VU	
ザイフリボク	<i>Amelanchier asiatica</i>	・	・	EX	CR	CR		
オオダイコンソウ	<i>Geum aleppicum</i>	・	・	EN	VU	VU		
コキンバイ	<i>Geum ternatum</i>	・	・	・	CR	CR		110
ズミ	<i>Malus toringo</i>	・	VU	EN	EN	VU		
カナウツギ	<i>Neillia tanakae</i>	・	—	EN	EN	EN		111
カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
ギンロバイ(ハグロバイ)	<i>Potentilla fruticosa</i> f. <i>mandshurica</i>	・	・	・	EW	EW		112
ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	・	・	EN	VU	VU	VU	
ヤブザクラ	<i>Cerasus hisauchiana</i>	・	・	VU	EN	VU	EN	
マメザクラ	<i>Cerasus incisa</i>	—	—	NT	NT	NT		
ブコウマメザクラ	<i>Cerasus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	・	・	・	CR	CR	EN	
タカネザクラ	<i>Cerasus nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	・	・	・	VU	VU		
タマノホシザクラ	<i>Cerasus tamaclivorum</i>	・	・	CR	・	CR	CR	113
エドヒガン	<i>Cerasus itosakura</i>	・	・	EN	EN	EN		114
リンボク	<i>Laurocerasus spinulosa</i>	—	—	EN	EN	EN		
シウリザクラ	<i>Padus ssiori</i>	・	・	・	DD	DD		
タカネバラ	<i>Rosa nipponensis</i>	・	・	・	CR	CR		
エゾキイチゴ(エゾイチゴ)	<i>Rubus idaeus</i> subsp. <i>melanolasius</i>	・	・	・	EN	EN		115
エビガライチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>	CR	CR	VU	NT	VU		
ヒメゴヨウイチゴ	<i>Rubus pseudojaponicus</i>	・	・	・	CR	CR		
サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i> var. <i>oldhamii</i>	・	・	・	CR	CR	VU	116
コジキイチゴ	<i>Rubus sumatranus</i>	・	・	・	CR	CR		
アイズシモツケ	<i>Spiraea chamaedryfolia</i> var. <i>pilosa</i>	・	・	・	VU	VU		
イワシモツケ	<i>Spiraea nipponica</i> var. <i>nipponica</i>	・	・	・	VU	VU		117
グミ科	Elaeagnaceae							
ツクバグミ(ニッコウナツグミ)	<i>Elaeagnus montana</i> var. <i>ovata</i>	・	・	・	EN	EN		
クロウメモドキ科	Rhamnaceae							
ミヤマクマヤナギ	<i>Berchemia pauciflora</i>	・	・	・	CR	CR		
ヨコグラノキ	<i>Berchemiella berchemiifolia</i>	・	・	・	CR	CR		
クロカンバ	<i>Rhamnus costata</i>	・	・	・	CR	CR		
クロツバラ	<i>Rhamnus davurica</i> var. <i>nipponica</i>	EX	EX	EX	CR	CR		
クロウメモドキ ※別変種コバノクロウメモドキ <i>Rhamnus japonica</i> var. <i>microphylla</i> を含む	<i>Rhamnus japonica</i> var. <i>decipiens</i>	DD	DD	EN	EN	EN		
ニレ科	Ulmaceae							
ハルニレ	<i>Ulmus davidiana</i> var. <i>japonica</i>	・	DD	VU	NT	NT		
オヒョウ	<i>Ulmus laciniata</i>	・	・	—	NT	NT		
イラクサ科	Urticaceae							
トキホコリ	<i>Elatostema densiflorum</i>	EX	CR	EN	EN	EN	VU	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>	VU	VU	○	○	VU		
タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	・	・	・	CR	CR	VU	
ヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i>	・	・	・	CR	CR		
コケミズ	<i>Pilea peploides</i>	DD	—	EN	VU	VU		
ミズ	<i>Pilea pumila</i> var. <i>hamaoi</i>	EX	NT	NT	○	NT		118
コバノイラクサ	<i>Urtica laetevirens</i>	・	・	—	VU	VU		
ブナ科	Fagaceae							
ナラガシワ ※品種アオナラガシワ <i>Quercus aliena</i> f. <i>pellucida</i> を含む	<i>Quercus aliena</i>	・	・	EN	EN	EN		
カバノキ科	Betulaceae							
ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	VU	VU	VU	NT	VU		
ヤハズハンノキ	<i>Alnus matsumurae</i>	・	・	・	EN	EN		
チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	・	・	・	EN	EN	EN	
ネコシデ	<i>Betula corylifolia</i>	・	・	・	NT	NT		
ヤエガワカンバ(コオノオレ)	<i>Betula davurica</i>	・	・	CR	CR	CR	NT	
ジゾウカンバ	<i>Betula globispica</i>	・	・	・	EN	EN		
ミズメ(ヨグソミネバリ)	<i>Betula grossa</i>	—	—	VU	NT	NT		
ウダイカンバ	<i>Betula maximowicziana</i>	・	・	VU	NT	VU		
シラカンバ(シラカバ)	<i>Betula platyphylla</i> var. <i>japonica</i>	・	・	NT	NT	NT		
オノオレカンバ	<i>Betula schmidtii</i>	・	・	CR	NT	NT		
ハシバミ	<i>Corylus heterophylla</i> var. <i>thunbergii</i>	EX	・	・	・	EX		
ドクウツギ科	Coriariaceae							
ドクウツギ	<i>Coriaria japonica</i>	EX	EX	CR	CR	CR		
ウリ科	Cucurbitaceae							
ゴキツル	<i>Actinostemma tenerum</i>	VU	EN	CR	CR	EN		
ミヤマニガウリ	<i>Schizopepon bryoniifolius</i>	・	・	・	EN	EN		
ニシキギ科	Celastraceae							
イワウメツル	<i>Celastrus flagellaris</i>	EX	CR	EN	NT	NT		
オオツルウメモドキ(シタキツルウメモドキ)	<i>Celastrus stephanotifolius</i>	・	EN	VU	VU	VU		
サワダツ	<i>Euonymus melananthus</i>	・	・	—	EN	EN		
シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i> var. <i>foliosa</i>	・	・	・	CR	CR		119
ウメバチソウ	<i>Parnassia palustris</i> var. <i>palustris</i>	・	・	CR	EN	EN		120
カタバミ科	Oxalidaceae							
カントウミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i> var. <i>kantoensis</i>	EW	CR	NT	○	NT		
オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	・	・	CR	CR	CR	VU	
オトギリソウ科	Hypericaceae							
トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i> subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>	EX	EX	EN	EN	EN		121
アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	EX	EX	EX	・	EX	EN	
ミズオトギリ	<i>Triadenum japonicum</i>	CR	EX	CR	・	CR		
ミゾハコベ科	Elatinaceae							
ミゾハコベ	<i>Elatine triandra</i> var. <i>pedicellata</i>	EX	CR	CR	CR	CR		
スマレ科	Violaceae							
エゾノタチツボスマレ	<i>Viola acuminata</i>	・	・	EX	VU	VU		
キバナノコマノツメ	<i>Viola biflora</i>	・	・	・	EN	EN		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ヒゴスミレ	<i>Viola chaerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>	・	DD	VU	VU	VU		
エゾノアオイスミレ	<i>Viola collina</i>	・	・	CR	EN	EN		122
サクラスミレ	<i>Viola hirtipes</i>	・	・	CR	CR	CR		
イブキスミレ	<i>Viola mirabilis</i> var. <i>subglabra</i>	・	EX	CR	—	CR		
シロスミレ(シロバナスミレ)	<i>Viola patrinii</i>	・	・	・	EN	EN		
タチスミレ	<i>Viola raddeana</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
ナガハシスミレ	<i>Viola rostrata</i>	・	・	CR	・	CR		123
ミヤマスミレ	<i>Viola selkirkii</i>	・	・	・	VU	VU		
シコクスミレ	<i>Viola shikokiana</i>	・	・	・	NT	NT		
フモトスミレ	<i>Viola sieboldii</i>	DD	VU	EN	NT	VU		
ゲンジスミレ	<i>Viola variegata</i> var. <i>nipponica</i>	・	・	CR	CR	CR		
マキノスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>makinoi</i>	・	・	CR	VU	VU		
シハイスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>violacea</i>	・	・	NT	NT	NT		
ヒメスミレサイシン	<i>Viola yazawana</i>	・	・	・	CR	CR		
ヒカゲスミレ(エゾコスミレ) ※ 品種タカオスミレ <i>Viola</i> <i>yezoensis</i> f. <i>discolor</i> を含む	<i>Viola yezoensis</i>	DD	CR	NT	NT	NT		
ヤナギ科	Salicaceae							
コゴメヤナギ	<i>Salix dolichostyla</i> subsp. <i>serissifolia</i>	NT	NT	VU	VU	VU		124
ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpa</i>	NT	NT	VU	VU	NT		
オオキツネヤナギ	<i>Salix futura</i>	EX	CR	CR	EN	CR		
シバヤナギ	<i>Salix japonica</i>	CR	DD	VU	VU	VU		
シライヤナギ	<i>Salix shiraii</i>	・	・	・	CR	CR		125
トウダイグサ科	Euphorbiaceae							
ニシキソウ	<i>Chamaesyce humifusa</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
マルミノウルシ	<i>Euphorbia ebracteolata</i>	・	・	CR	CR	CR	NT	
センダイタイゲキ(ムサシ タイゲキ)	<i>Euphorbia sendaica</i>	EX	EX	—	CR	CR	NT	
アマ科	Linaceae							
マツバニンジン	<i>Linum stelleroides</i>	・	—	EX	—	EX	CR	
コミカンソウ科	Phyllanthaceae							
ヒトツバハギ	<i>Flueggea suffruticosa</i>	VU	VU	EN	EN	VU		
フウロソウ科	Geraniaceae							
タチフウロ	<i>Geranium krameri</i>	EX	EX	CR	EN	EN		
グンナイフウロ	<i>Geranium onoei</i> var. <i>onoei</i>	・	・	EX	EX	EX		126
アサマフウロ	<i>Geranium soboliferum</i> var. <i>hakusanense</i>	・	・	・	CR	CR	NT	127
コフウロ	<i>Geranium tripartitum</i>	・	・	・	EN	EN		
ミソハギ科	Lythraceae							
エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i>	EX	EX	—	DD	DD		
ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	CR	CR	CR	CR	CR	VU	
ヒメビシ	<i>Trapa incisa</i>	EX	—	—	—	—	VU	
ヒシ	<i>Trapa japonica</i>	NT	EX	CR	CR	CR		
オニビシ	<i>Trapa natans</i>	DD	—	—	—	DD		
アカバナ科	Onagraceae							
ヤナギラン	<i>Chamerion angustifolium</i>	・	・	EX	EN	EN		
ウシタキソウ	<i>Circaea cordata</i>	・	・	VU	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ウスゲチョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i> subsp. <i>greatrexii</i>	CR	—	EN	—	EN	NT	
ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>	EX	EX	CR	EX	CR		
ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
ムクロジ科	Sapindaceae							
ナンゴクミネカエデ	<i>Acer australe</i>	・	・	・	NT	NT		
ミカン科	Rutaceae							
キハダ	<i>Phellodendron amurense</i>	DD	DD	VU	VU	VU		
オオバキハダ(オオバノキハダ)	<i>Phellodendron amurense</i> var. <i>japonicum</i>	・	・	VU	VU	VU		
フユザンショウ	<i>Zanthoxylum armatum</i> var. <i>subtrifoliatum</i>	DD	—	VU	VU	VU		
アオイ科	Malvaceae							
シナノキ	<i>Tilia japonica</i>	・	CR	EN	NT	EN		
ジンチョウゲ科	Thymelaeaceae							
チョウセンナニワズ	<i>Daphne koreana</i>	・	—	—	EN	EN	VU	128
オニシバリ ※品種ムラサキオニシバリを含む	<i>Daphne pseudomezereum</i>	NT	—	NT	VU	NT		
コガンピ	<i>Diplomorpha ganpi</i>	EX	CR	CR	CR	CR		
アブラナ科	Brassicaceae/Cruciferae							
シコクハタザオ	<i>Arabis serrata</i> var. <i>sikokiana</i>	・	・	・	VU	VU		
タチタネツケバナ	<i>Cardamine fallax</i>	—	NT	NT	NT	NT		
コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i>	・	—	CR	CR	CR		
ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>	—	CR	—	—	CR		
エゾハタザオ	<i>Catolobus pendulus</i>	・	・	・	EX	EX		129
イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>	DD	NT	VU	NT	NT		
コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	DD	NT	VU	DD	NT	NT	
キバナハタザオ	<i>Sisymbrium luteum</i>	・	—	EX	DD	DD		
ハタザオ	<i>Turritis glabra</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
ツチトリモチ科	Balanophoraceae							
ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	・	・	・	EN	EN	VU	
オオバヤドリギ科	Loranthaceae							
マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i>	・	DD	VU	NT	NT		
タデ科	Polygonaceae							
クリンユキフデ	<i>Bistorta suffulta</i>	・	・	・	EN	EN		
ハルトラノオ	<i>Bistorta tenuicaulis</i> var. <i>tenuicaulis</i>	・	—	EX	—	EX		
ナガバノヤノネグサ	<i>Persicaria breviochreatea</i>	—	CR	VU	VU	VU		
ヒメタデ	<i>Persicaria erectominor</i>	CR	EX	・	・	CR	VU	
ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	CR	CR	EX	DD	CR	VU	
ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>	NT	EN	EN	EN	EN		
サデクサ	<i>Persicaria maaackiana</i>	EN	EX	EX	EX	EN		
サクラタデ	<i>Persicaria odorata</i> subsp. <i>conspicua</i>	EN	VU	VU	VU	VU		130
ヌカボタデ(コヌカボタデ)	<i>Persicaria taquetii</i>	EX	CR	EX	DD	CR	VU	
ホソバイスタデ	<i>Persicaria trigonocarpa</i>	EN	CR	・	・	EN	NT	
アキノミチヤナギ	<i>Polygonum polyneuron</i>	EN	・	・	・	EN		
コギシギシ	<i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>	VU	VU	—	—	VU	VU	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>	EX	—	—	—	EX	VU	
マダイオウ	<i>Rumex madaio</i>	・	—	CR	CR	CR		
モウセンゴケ科	Droseraceae							
ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	EX	・	・	・	EX	CR	
モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
ナデシコ科	Caryophyllaceae							
カワラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i>	・	・	CR	VU	VU		131
ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	—	CR	—	—	CR	VU	
ワダソウ	<i>Pseudostellaria heterophylla</i>	EX	CR	EN	—	EN		
ヒゲネワチガイソウ	<i>Pseudostellaria palibiniana</i>	・	—	—	EN	EN		
ナンバンハコベ	<i>Silene baccifera</i> var. <i>japonica</i>	—	VU	VU	NT	NT		132
フシグロ ※品種ケフシグロ <i>Silene firma</i> f. <i>pubescens</i> を 含む	<i>Silene firma</i>	EX	EN	CR	VU	VU		
フシグロセンノウ	<i>Silene miqueliana</i>	EX	CR	EN	EN	EN		
ヒユ科	Amaranthaceae							
ヤナギイノコヅチ	<i>Achyranthes longifolia</i>	EN	EN	EN	EN	EN		
ホソバハマアカザ	<i>Atriplex patens</i>	VU	・	・	・	VU		
ハマアカザ	<i>Atriplex subcordata</i>	DD	・	・	・	DD		
カワラアカザ	<i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>vachelii</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	—	—	—	CR	CR	CR	
ハマミズナ科	Aizoaceae							
ツルナ	<i>Tetragonia tetragonoides</i>	NT	・	・	・	NT		
アジサイ科	Hydrangeaceae							
ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	・	・	・	VU	VU	VU	
ミズキ科	Cornaceae							
ゴゼンタチバナ	<i>Cornus canadensis</i>	・	・	・	EN	EN		
サクラソウ科	Primulaceae							
ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	CR	EN	EX	EN	EN	VU	
ツマトリソウ	<i>Lysimachia europaea</i>	・	・	・	CR	CR		
ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i>	VU	VU	VU	EN	VU		
サワトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EX	EX	—	—	EX	EN	
ヤナギトラノオ	<i>Lysimachia thyrsiflora</i>	CR	—	—	—	CR		
クサレダマ	<i>Lysimachia vulgaris</i> var. <i>davurica</i>	EX	EN	CR	EN	EN		
コイワザクラ	<i>Primula reinii</i> var. <i>reinii</i>	・	・	・	CR	CR	VU	133
サクラソウ	<i>Primula sieboldii</i>	EX	EX	・	・	EX	NT	
イワウメ科	Diapensiaceae							
アカバナヒメイワカガミ	<i>Schizocodon ilicifolius</i> var. <i>australis</i>	・	—	DD	VU	VU		
コイワウチワ	<i>Shortia uniflora</i> var. <i>kantoensis</i>	・	—	VU	NT	NT		
マタタビ科	Actinidiaceae							
ウラジロマタタビ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>hypoleuca</i>	・	・	VU	VU	VU		
ツツジ科	Ericaceae							
ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>	EX	EN	NT	NT	NT		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ベニドウダン(チチブドウ ダン)	<i>Enkianthus cernuus</i> f. <i>rubens</i>	・	・	・	VU	VU		
ハナヒリノキ	<i>Eubotryoides grayana</i> var. <i>grayana</i>	・	・	・	EN	EN		134
シャクジョウソウ	<i>Monotropa hypopithys</i>	—	VU	VU	VU	VU		
ギンリョウソウモドキ(アキノ ギンリョウソウ)	<i>Monotropa uniflora</i>	—	VU	VU	VU	VU		
コバノイチヤクソウ	<i>Pyrola alpina</i>	・	・	・	EN	EN		
ベニバナイチヤクソウ	<i>Pyrola asarifolia</i> subsp. <i>incarnata</i>	・	・	・	CR	CR		
マルバナイチヤクソウ	<i>Pyrola nephrophylla</i>	・	DD	DD	VU	VU		
ツリガネツツジ(ウスギヨウ ラク)	<i>Rhododendron benhallii</i>	・	・	・	CR	CR		
ハクサンシャクナゲ	<i>Rhododendron brachycarpum</i>	・	・	・	CR	CR		
アズマシャクナゲ	<i>Rhododendron degronianum</i>	・	・	・	VU	VU		
ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglauca</i>	・	・	・	EN	EN	CR	
ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i>	・	・	・	EN	EN		135
レンゲツツジ	<i>Rhododendron molle</i> subsp. <i>japonicum</i>	・	CR	CR	EN	CR		136
アズマツリガネツツジ(ウラ ジロヨウラク)	<i>Rhododendron multiflorum</i> f. <i>brevicalyx</i>	・	・	・	CR	CR		137
コヨウラクツツジ	<i>Rhododendron pentandrum</i>	・	・	・	CR	CR		
アカヤシオ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>nikoense</i>	・	・	・	EN	EN		
シロヤシオ	<i>Rhododendron quinquefolium</i>	・	・	・	VU	VU		
スノキ	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>glabrum</i>	—	—	VU	NT	NT		
アカネ科	Rubiaceae							
オオアリドオン(ニセジュ ズネノキ)	<i>Damnacanthus indicus</i> subsp. <i>major</i>	・	・	CR	—	CR		
クルマムグラ	<i>Galium japonicum</i>	EX	—	EN	NT	NT		138
キクムグラ	<i>Galium kikumugura</i>	EN	—	EN	VU	EN		
キヌタソウ	<i>Galium kinuta</i>	EX	CR	EN	NT	EN		
ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	EX	CR	EN	—	EN	VU	
ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
ホソバナヨツバムグラ	<i>Galium trifidum</i> var. <i>brevipedunculatum</i>	EX	EX	EX	CR	CR		
カワラマツバ ※キバナカ ワラマツバを含む	<i>Galium verum</i>	EX	CR	CR	EN	EN		139
ツルアリドオン	<i>Mitchella undulata</i>	—	EN	VU	NT	NT		
フタバムグラ	<i>Oldenlandia brachypoda</i>	EX	CR	EN	VU	EN		140
イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i>	—	—	VU	DD	VU		
シロバナイナモリソウ	<i>Pseudopyxis heterophylla</i>	—	—	CR	—	CR		
オオアカネ	<i>Rubia hexaphylla</i>	・	—	—	CR	CR		
リンドウ科	Gentianaceae							
リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>	DD	VU	VU	NT	NT		
コケリンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
ハルリンドウ	<i>Gentiana thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	EX	・	・	・	EX		141
チチブリンドウ	<i>Gentianopsis contorta</i>	・	・	・	CR	CR	EN	
ハナイカリ	<i>Halenia corniculata</i>	・	・	・	VU	VU		
ホソバツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i>	・	・	・	EN	EN	VU	142
アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>	・	DD	CR	EN	EN		
センブリ	<i>Swertia japonica</i>	EX	EN	EN	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i>	EX	EX	CR	CR	CR	NT	
イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	EX	—	EX	・	EX	VU	
ツルリンドウ	<i>Tripterospermum japonicum</i>	EX	VU	NT	○	NT		
マチン科	Loganiaceae							
ヒメナエ	<i>Mitrasacme indica</i>	—	EX	EX	DD	EX	VU	
アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	CR	EN	EN	DD	EN		
キョウチクトウ科	Apocynaceae							
チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i>	・	EN	EN	VU	VU		
コカモメヅル	<i>Tylophora floribunda</i>	EX	CR	CR	CR	CR		
クサタチバナ	<i>Vincetoxicum acuminatum</i>	・	・	・	EN	EN	NT	143
フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i>	・	EX	CR	CR	CR	VU	144
ツルガシワ	<i>Vincetoxicum macrophyllum</i> var. <i>nikoense</i>	・	・	—	DD	DD		145
タチガシワ	<i>Vincetoxicum magnificum</i>	—	—	VU	NT	NT		
スズサイコ	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	EX	CR	EN	EN	EN	NT	146
ジョウシュウカモメヅル	<i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> var. <i>auriculatum</i>	EX	EN	EN	DD	EN		147
シロバナカモメヅル	<i>Vincetoxicum sublancoelatum</i> var. <i>macranthum</i>	EX	・	・	・	EX		
ムラサキ科	Boraginaceae							
サワリソウ	<i>Ancistrocarya japonica</i>	・	・	CR	CR	CR		
オオルソウ	<i>Cynoglossum furcatum</i> var. <i>villosulum</i>	・	DD	CR	CR	CR		148
ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EX	EX	DD	EW	DD	EN	
ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i>	・	DD	VU	VU	VU		
ヤマルソウ	<i>Nihon japonica</i>	・	VU	NT	○	NT		149
ルリソウ	<i>Nihon krameri</i>	EX	EX	EX	EX	EX		150
ヒルガオ科	Convolvulaceae							
マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	EX	—	—	—	EX	CR	
ナス科	Solanaceae							
ヤマホオズキ	<i>Physaliastrum chamaesarachoides</i>	・	・	CR	CR	CR	EN	151
イガホオズキ	<i>Physaliastrum echinatum</i>	CR	CR	VU	NT	VU		
アオホオズキ ※品種タカオホ オズキ <i>Physaliastrum</i> <i>japonicum</i> f. <i>kimurae</i> を含む	<i>Physaliastrum japonicum</i>	・	・	CR	CR	CR	VU	
ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i>	・	・	VU	VU	VU		152
タカオホロシ	<i>Solanum japonense</i> var. <i>takaoyamense</i>	・	・	EN	EN	EN		
オオバコ科	Plantaginaceae							
ミズハコベ	<i>Callitriche palustris</i>	CR	EN	EN	EN	EN		
サワトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>	DD	CR	CR	EN	EN		
アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i>	CR	EN	EN	EN	EN		
オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>	EX	EN	EX	EN	EN	VU	
シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>	DD	CR	EX	CR	CR		
キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>	CR	EN	EN	VU	EN		
トウオオバコ	<i>Plantago japonica</i>	NT	・	DD	・	NT		
ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EX	・	・	・	EX	EN	
イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> subsp. <i>lilacina</i>	EN	EN	CR	EN	EN	VU	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ヒメトラノオ ※別変種ヤマトラノオ <i>Veronica rotunda</i> var. <i>subintegra</i> を含む	<i>Veronica rotunda</i> var. <i>petiolata</i>	EX	EX	CR	CR	CR		153
カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	VU	VU	VU	VU	VU	NT	
クガイソウ	<i>Veronicastrum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>	・	・	・	CR	CR		154
ゴマノハグサ科	Scrophulariaceae							
フジウツギ	<i>Buddleja japonica</i>	DD	EX	VU	NT	NT		
ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i>	EX	DD	EX	EX	DD	VU	
オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i>	EX	EN	EN	DD	EN		
サツキヒナノウスツボ	<i>Scrophularia musashiensis</i>	・	・	EN	VU	VU		
アゼナ科	Linderniaceae							
スズメノトウガラシ ※エダウチスズメノトウガラシ(異分類群)を含む	<i>Bonnaya veronicifolia</i>	EX	EN	EN	—	EN		155
キツネノマゴ科	Acanthaceae							
ハグロソウ	<i>Peristrophe japonica</i> var. <i>subrotunda</i>	VU	VU	NT	○	NT		156
タヌキモ科	Lentibulariaceae							
イスタヌキモ	<i>Utricularia australis</i>	DD	DD	EN	EN	EN	NT	
オオタヌキモ(シャクジイタヌキモ)	<i>Utricularia macrorhiza</i>	EX	・	・	・	EX		157
ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	・	・	EX	・	EX	NT	
シソ科	Lamiaceae/Labiatae							
カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i>	EX	EX	CR	EN	EN		
カイジンドウ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>	・	EX	EX	・	EX	VU	
ヒイラギソウ	<i>Ajuga incisa</i>	・	・	・	CR	CR	EN	
オウギカズラ	<i>Ajuga japonica</i>	・	・	NT	VU	NT		
タチキランソウ	<i>Ajuga makinoi</i>	・	・	DD	CR	CR	NT	
ツルカコソウ ※品種ケブカルカコソウ <i>Ajuga shikotanensis</i> f. <i>hirsuta</i> を含む	<i>Ajuga shikotanensis</i>	EX	—	EX	CR	CR	VU	
ツクバキンモンソウ	<i>Ajuga yesoensis</i> var. <i>tsukubana</i>	・	EX	EN	EN	EN		
ヤマジオウ	<i>Ajugoides humilis</i>	・	・	・	EN	EN		158
コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>	CR	DD	EN	DD	DD		
タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i>	・	・	DD	CR	CR	NT	
アシタカジャコウソウ	<i>Chelonopsis yagiharana</i>	・	・	・	DD	DD		
フトボナギナタコウジュ	<i>Elsholtzia nipponica</i>	・	・	VU	VU	VU		
ヒキオコシ	<i>Isodon japonicus</i>	EX	EX	VU	VU	VU		
メハジキ	<i>Leonurus japonicus</i>	EN	VU	EN	VU	EN		
キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>	EX	EX	CR	CR	CR	VU	
シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>	VU	VU	DD	DD	VU		
ヒメシロネ	<i>Lycopus maaekianus</i>	VU	VU	EN	VU	VU		
ハッカ	<i>Mentha canadensis</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
ヒメハッカ	<i>Mentha japonica</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
シラゲヒメジソ(ヒカゲヒメジソ)	<i>Mosla hirta</i>	VU	VU	NT	NT	NT		
ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i>	EX	EX	EX	CR	CR	NT	
トラノオジソ	<i>Perilla hirtella</i>	・	・	CR	—	CR		159

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ミズネコノオ	<i>Pogostemon stellatus</i>	CR	・	・	・	CR	NT	160
ミズトラノオ	<i>Pogostemon yatabeanus</i>	EX	—	EX	—	EX	VU	161
ナツノタムラソウ	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>intermedia</i>	EX	DD	CR	EN	EN		
ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>	VU	VU	VU	EN	VU	NT	
ヤマジノタツナミソウ	<i>Scutellaria amabilis</i>	EX	CR	DD	—	CR		
オカダツナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>	CR	VU	NT	NT	NT		
ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>	EX	—	EX	—	EX		
トウゴクシソバタツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>abbreviata</i>	・	・	EN	VU	VU		
シソバタツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i>	CR	—	VU	VU	VU		
ミヤマナミキ	<i>Scutellaria shikokiana</i> var. <i>shikokiana</i>	・	・	VU	EN	EN		
カリガネソウ	<i>Tripora divaricata</i>	EW	EW	CR	CR	CR		162
ハエドクソウ科	Phrymaceae							
ミゾホオズキ	<i>Mimulus nepalensis</i>	—	VU	NT	○	NT		
ハマウツボ科	Orobanchaceae							
オオナンパンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i>	—	DD	VU	VU	VU		
タチコメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i>	・	・	CR	EN	EN		
ヤマウツボ	<i>Lathraea japonica</i>	・	・	EN	VU	VU		
クチナシグサ	<i>Monochasma shearerii</i>	EX	VU	VU	VU	VU		
ハマウツボ(オカウツボ)	<i>Orobanche coerulescens</i>	EX	DD	DD	DD	DD	VU	
ハンカイシオガマ	<i>Pedicularis gloriosa</i>	・	・	DD	EN	EN		
シオガマギク	<i>Pedicularis resupinata</i> subsp. <i>oppositifolia</i>	EX	EX	DD	CR	CR		
トモエシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> subsp. <i>teucrifolia</i> var. <i>caespitosa</i>	・	・	・	DD	DD		
キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	・	・	CR	CR	CR		
コシオガマ	<i>Phtheirospermum japonicum</i>	DD	VU	VU	VU	VU		
ヒキヨモギ	<i>Siphonostegia chinensis</i>	DD	DD	EN	EN	EN		
オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i>	・	EX	CR	DD	CR	VU	
キキョウ科	Campanulaceae							
フクシマシャジン	<i>Adenophora divaricata</i>	・	・	EN	EN	EN		
ミウギシャジン	<i>Adenophora nikoensis</i> var. <i>petrophila</i>	・	・	・	CR	CR		
ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i>	EX	CR	VU	NT	NT		
ツルギキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>	・	—	CR	—	CR	VU	163
バアソブ	<i>Codonopsis ussuriensis</i>	EX	EX	EN	CR	EN	VU	
サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	CR	EX	CR	DD	CR		
タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosae</i>	・	EX	EN	NT	VU		164
キキョウ	<i>Platycodon grandiflorus</i>	EX	DD	CR	CR	CR	VU	165
ミツガシワ科	Menyanthaceae							
ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>	CR	EX	・	・	CR		
ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	EX	EX	・	・	EX	NT	
アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	EN	EX	・	・	EN	NT	
キク科	Asteraceae/Compositae							
ノギリソウ ※ヤマノコギリソウを含む	<i>Achillea alpina</i> var. <i>longiligulata</i>	・	EX	—	EN	EN		166
ヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>margaritacea</i>	EX	DD	VU	NT	NT		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>yedoensis</i>	CR	EX	CR	CR	CR		
ヤハズハハコ	<i>Anaphalis sinica</i>	・	・	EX	NT	NT		
クリヤマハハコ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>viscosissima</i>	・	・	EX	NT	NT	VU	
カワラヨモギ	<i>Artemisia capillaris</i>	DD	EX	VU	VU	VU		
イヌヨモギ	<i>Artemisia keiskeana</i>	EX	EX	EN	NT	VU		
サガミギク	<i>Aster leiophyllus</i> var. <i>harae</i>	・	・	DD	VU	VU		167
タテヤマギク	<i>Aster dimorphophyllus</i>	・	・	DD	・	DD	NT	
ヒメシオン	<i>Aster fastigiatus</i>	EX	EN	EN	DD	EN		
カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	EX	EW	EX	EN	EN	VU	
サワシロギク	<i>Aster rugulosus</i>	EX	—	EX	—	EX		
ウラギク	<i>Aster tripolium</i>	EN	・	・	・	EN	NT	
ハコネギク(ミヤマコンギク)	<i>Aster viscidulus</i>	・	・	・	NT	NT		
オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	EX	VU	NT	NT	NT		
タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>	CR	EN	CR	EN	EN		
ノッポロガンクビソウ	<i>Carpesium divaricatum</i> var. <i>matsuei</i>	・	・	EN	VU	EN		
オオガンクビソウ	<i>Carpesium macrocephalum</i>	・	・	VU	EN	VU		
キクタニギク(アワコガネギク, アブラギク)	<i>Chrysanthemum lavandulifolium</i>	EN	EN	VU	NT	NT	NT	168
モリアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i>	EX	EX	DD	EN	EN		
タカアザミ	<i>Cirsium pendulum</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
フジアザミ	<i>Cirsium purpuratum</i>	・	・	VU	VU	VU		
キセルアザミ(マアザミ, サワアザミ)	<i>Cirsium sieboldii</i>	EX	EX	CR	DD	CR		
ハチオウジアザミ	<i>Cirsium tamastoloniferum</i>	・	・	EN	・	EN		
クサノオウバノギク	<i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i>	・	・	・	CR	CR	VU	
タカサブロウ(モトタカサブロウ)	<i>Eclipta thermalis</i>	*④	*④	*④	*④	*④		
アズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
イズハハコ	<i>Eschenbachia japonica</i>	・	・	—	EX	EX	VU	
フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>	CR	CR	・	CR	CR	NT	
ヤナギタンポポ	<i>Hieracium umbellatum</i>	EX	・	・	DD	DD		
オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	CR	CR	CR	EN	CR		
ホソバオグルマ	<i>Inula linariifolia</i>	DD	DD	CR	DD	CR	VU	169
カセンソウ	<i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i>	CR	CR	EN	EN	EN		
タカネニガナ	<i>Ixeridium alpicola</i>	・	・	・	EX	EX		
タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	EX	EX	EX	EX	EX	VU	
ノニガナ	<i>Ixeris polycephala</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i>	EX	VU	VU	NT	VU	NT	
ウスユキソウ	<i>Leontopodium japonicum</i>	・	・	・	VU	VU		
カイトカラコウ	<i>Ligularia kaialpina</i>	・	・	・	DD	DD		
オオモミジガサ	<i>Miricacalia makinoana</i>	・	・	DD	EN	EN		
オオニガナ	<i>Nabalus tanakae</i>	DD	CR	CR	CR	CR		170
カニコウモリ	<i>Parasenecio adenostyloides</i>	・	・	・	VU	VU		
オクヤマコウモリ	<i>Parasenecio maximowiczianus</i> var. <i>alatus</i>	・	・	・	CR	CR		171
ヤマタインギサ	<i>Parasenecio yatabei</i>	・	・	・	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
アカイシコウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> subsp. <i>japonica</i> var. <i>akaishiensis</i>	.	.	.	VU	VU		
アキノハハコグサ	<i>Pseudognaphalium hypoleucum</i>	EX	CR	CR	CR	CR	EN	172
コウシュウヒゴタイ	<i>Saussurea amabilis</i>	.	.	.	CR	CR		
ミヤコアザミ	<i>Saussurea maximowiczii</i>	EX	EX	CR	CR	CR		
ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i>	EX	.	EX	CR	CR	VU	
タカオヒゴタイ	<i>Saussurea sinuatoidea</i>	.	.	VU	NT	NT		
セイタカトウヒレン	<i>Saussurea tanakae</i>	.	EX	CR	CR	CR		
ヤハズヒゴタイ	<i>Saussurea triptera</i>	.	.	.	VU	VU		
キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i> var. <i>ussuriensis</i>	.	EX	EN	EN	EN		173
タムラソウ	<i>Serratula coronata</i> subsp. <i>insularis</i>	.	EX	CR	EN	EN		
ハチジョウナ	<i>Sonchus brachyotus</i>	VU	.	.	.	VU		
コウリンカ	<i>Tephrosia flammea</i> subsp. <i>glabrifolia</i>	.	EX	DD	EN	EN	VU	174
オカオグルマ	<i>Tephrosia integrifolia</i> subsp. <i>kirilowii</i>	EX	EX	CR	CR	CR		175
サワオグルマ	<i>Tephrosia pierotii</i>	EX	EX	.	.	EX		176
オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> subsp. <i>sibiricum</i>	EX	EX	EX	EX	EX	VU	177
ガマズミ科	Viburnaceae							
レンブクソウ	<i>Adoxa moschatellina</i>	.	CR	VU	EN	VU		
ゴマギ(ゴマキ)	<i>Viburnum sieboldii</i>	EX	EN	EN	EN	EN		
ミヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i> f. <i>procumbens</i>	.	.	.	EN	EN		
スイカズラ科	Caprifoliaceae							
オオツクバネウツギ(メツク バネウツギ)	<i>Abelia tetrasepala</i>	.	—	VU	NT	VU		
ナベナ	<i>Dipsacus japonicus</i>	EX	—	EN	EN	EN		
ニッコウヒョウタンボク	<i>Lonicera mochidzukiana</i> var. <i>mochidzukiana</i>	.	.	.	CR	CR		178
ハヤザキヒョウタンボク	<i>Lonicera praeflorens</i> var. <i>japonica</i>	.	.	.	CR	CR		
ダイセンヒョウタンボク	<i>Lonicera strophiphora</i> var. <i>glabra</i>	.	.	.	EN	EN		
オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	EX	DD	EN	EN	EN		
キンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>palmata</i>	.	.	.	EN	EN		
マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i> var. <i>japonica</i>	EX	DD	EN	CR	CR		179
キバナウツギ	<i>Weigela maximowiczii</i>	.	.	.	EN	EN		
カリヨセウツギ(ニシキビ ロードウツギ)	<i>Weigela</i> × <i>kariyosensis</i>	.	.	EN	EN	EN		180
ウコギ科	Araliaceae							
ミヤマウド	<i>Aralia glabra</i>	.	.	.	CR	CR		
ウラジロウコギ	<i>Eleutherococcus hypoleucus</i>	.	.	.	CR	CR		
セリ科	Apiaceae/Umbelliferae							
イブキボウフウ	<i>Libanotis ugoensis</i> var. <i>japonica</i>	EX	EX	EX	CR	CR		
イワニンジン(ノダケモド キ)	<i>Angelica hakonensis</i>	.	.	VU	NT	NT		
ハナビゼリ	<i>Angelica inaequalis</i>	.	.	CR	EN	EN		
ハマウド	<i>Angelica japonica</i>	VU	.	.	.	VU		
エキサイゼリ	<i>Apodicarpum ikenoi</i>	EX	EX	.	.	EX	NT	
ホタルサイコ	<i>Bupleurum longiradiatum</i> var. <i>elatus</i>	EX	EX	EN	EN	EN		181

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ミシマサイコ	<i>Bupleurum stenophyllum</i>	・	EX	EX	EX	EX	VU	182
ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
ハマゼリ	<i>Cnidium japonicum</i>	EX	・	・	・	EX		
シムランジシ	<i>Pterygopleurum neurophyllum</i>	EX	EX	・	・	EX	VU	
ムカゴニンジシ	<i>Sium ninsi</i>	EX	EX	CR	DD	CR		183
ヌマゼリ(サワゼリ)	<i>Sium suave</i> var. <i>nipponicum</i>	EX	EX	EX	EX	EX	VU	
ヒロハヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>ovatum</i>	EX	EX	・	・	EX		
ミヤマウイキョウ	<i>Tilingia tachiroei</i>	・	・	・	CR	CR		

和名、学名、配列は原則として「YList」、「日本産シダ植物標準図鑑」、「GreenList」に準拠した。

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名－学名インデックス」(YList), <http://ylist.info>

海老原淳著・日本シダの会企画・協力, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 学研プラス.

海老原淳著・日本シダの会企画・協力, 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 学研プラス.

米倉浩司, 2019. 維管束植物分類表. 北隆館.

Ito, M., Nagamasu, H., Fujii, S., Katsuyama, T., Yonekura, Ebihara, A., Yahara, T. 2016.

GreenList ver. 1.01, (<http://www.rdplants.org/gl/>)

Ebihara, A., Ito, M., Nagamasu, H., Fujii, S., Katsuyama, T., Yonekura, Yahara, T. 2016.

Fern GreenList ver. 1.0, (<http://www.rdplants.org/gl/>)

【備考】

番号 1～112、114～183 の種は、最近の研究結果に従って和名または学名、あるいは和名と学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Lycopodium clavatum* である。
- 2: 前回記載の学名は *Lycopodium cryptomerinum* である。
- 3: 前回記載の和名および学名はコハナヤスリ *Ophioglossum thernale* var. *nipponicum* である。
- 4: 前回記載の学名は *Crepidomanes schmidtianum* である。
- 5: 前回記載の和名および学名はヒメハイホラゴケ *Crepidomanes amabile* である。
- 6: 前回記載の学名は *Gleichenia japonica* である。
- 7: 前回記載の学名は *Plagiogyria japonica* である。
- 8: 前回記載の学名は *Sphenomeris chinensis* である。
- 9: 前回記載の和名および学名はミズワラビ *Ceratopteris thalictroides* である。
- 10: 前回記載の学名は *Vittaria flexuosa* である。
- 11: 前回記載の学名は *Vittaria fudzinoi* である。
- 12: 前回記載の学名は *Pteris dispar* である。
- 13: 前回記載の学名は *Pteris excelsa* である。
- 14: 前回記載の学名は *Cystopteris sudetica* である。
- 15: 前回記載の学名は *Gymnocarpium jessoense* である。
- 16: 前回記載の学名は *Diplazium cavalerianum* である。
- 17: 前回記載の学名は *Thelypteris bukoensis* である。
- 18: 前回記載の学名は *Cornopteris crenulatoserrulata* である。
- 19: 前回記載の学名は *Cornopteris decurrenti-alata* var. *pilosella* である。
- 20: 前回記載の学名は *Athyrium frangulum* である。
- 21: 前回記載の学名は *Athyrium iseanum* である。
- 22: 前回記載の学名は *Diplazium subsinuatum* である。
- 23: 前回記載の学名は *Deparia pseudoconilii* である。
- 24: 前回記載の和名はカナワラビである。
- 25: 前回記載の学名は *Arachniodes simplicior* var. *major* である。
- 26: 前回記載の学名は *Arachniodes aristata* である。

- 27: 前回記載の学名は *Arachniodes miqueliana* である。
- 28: 前回記載の学名は *Cyrtomium fortunei* var. *intermedium* である。
- 29: 前回記載の学名は *Dryopteris pycnopteroides* である。
- 30: 前回記載の学名は *Dryopteris sparsa* である。
- 31: 前回記載の学名は *Polystichum tsussimense* var. *mayebarae* である。
- 32: 前回記載の学名は *Polystichum tsussimense* var. *tsussimense* である。
- 33: 前回記載の学名は *Polypodium niponicum* である。
- 34: 前回記載の学名は *Polypodium someyae* である。
- 35: 前回記載の学名は *Xiphopteris okuboi* である。
- 36: 前回記載の学名は *Neocheiropteris ensata* である。
- 37: 前回記載の学名は *Crypsinus veitchii* である。
- 38: 前回記載の学名は *Ctenopteris sakaguchiana* である。
- 39: 前回記載の学名は *Picea bicolor* である。
- 40: 前回記載の学名は *Picea polita* である。
- 41: 前回記載の学名は *Tofieldia coccinea* である。
- 42: 前回記載の学名は *Najas japonica* である。
- 43: 前回記載の学名は *Potamogeton malaianus* である。
- 44: 前回記載の学名は *Chionographis japonica* var. *hisauchiana* である。
- 45: 前回記載の和名および学名はシロバナシヨウジョウバカマ *Heloniopsis orientalis* var. *flavida* である。
- 46: 前回記載の学名は *Veratrum maackii* var. *japonicum* である。
- 47: 前回記載の学名は *Smilax vaginata* var. *stans* である。
- 48: 前回記載の学名は *Amana latifolia* である。
- 49: 前回記載の学名は *Lilium leichtlinii* var. *tigrinum* である。
- 50: 前回記載の学名は *Cephalanthera erecta* var. *erecta* である。
- 51: 前回記載の学名は *Hetaeria sikokiana* である。
- 52: 前回記載の学名は *Galeola septentrionalis* である。
- 53: 前回記載の学名は *Coeloglossum viride* var. *bracteatum* である。
- 54: 前回記載の学名は *Saccolabium matsuran* である。
- 55: 前回記載の学名は *Saccolabium toramanum* である。
- 56: 前回記載の学名は *Gastrodia verrucosa* である。
- 57: 前回記載の学名は *Goodyera macrantha* である。
- 58: 前回記載の学名は *Goodyera pendula* var. *pendula* である。
- 59: 前回記載の学名は *Herminium lanceum* var. *longicrurum* である。
- 60: 前回記載の学名は *Vexillabium nakaianum* である。
- 61: 前回記載の和名および学名はクロムヨウラン *Lecanorchis nigricans* である。
- 62: 前回記載の学名は *Listera japonica* である。
- 63: 前回記載の学名は *Listera makinoana* である。
- 64: 前回記載の学名は *Neottia nidus-avis* var. *mandshurica* である。
- 65: 前回記載の学名は *Listera yatabei* である。
- 66: 前回記載の学名は *Gymnadenia cucullata* である。
- 67: 前回記載の学名は *Habenaria radiata* である。
- 68: 前回記載の学名は *Platanthera sachalinensis* var. *hondoensis* である。
- 69: 前回記載の学名は *Tulotis iinumae* である。
- 70: 前回記載の学名は *Platanthera mandarinorum* var. *brachycentron* である。
- 71: 前回記載の和名および学名はキソチドリ *Platanthera ophrydioides* var. *monophylla* である。
- 72: 前回記載の学名は *Platanthera sachalinensis* var. *sachalinensis* である。
- 73: 前回記載の学名は *Platanthera tipuloides* var. *nipponica* である。
- 74: 前回記載の学名は *Tulotis ussuriensis* である。
- 75: 前回記載の学名は *Orchis graminifolia* である。
- 76: 前回記載の学名は *Sarcochilus japonicus* である。

- 77: 前回記載の学名は *Hetaeria agyokuana* である。
- 78: 前回記載の学名は *Belamcanda chinensis* である。
- 79: 前回記載の学名は *Hemerocallis middendorffii* var. *esculenta* f. *esculenta* である。
- 80: 前回記載の学名は *Hemerocallis middendorffii* var. *esculenta* f. *musashiensis* である。
- 81: 前回記載の学名は *Caloscordum inutile* である。
- 82: 前回記載の学名は *Smilacina hondoensis* である。
- 83: 前回記載の和名および学名はヒロハヌヒゲ *Eriocaulon robustius* である。
- 84: 前回記載の学名は *Eriocaulon hondoense* である。
- 85: 前回記載の学名は *Juncus yokoscensis* である。
- 86: 前回記載の学名は *Luzula plumosa* var. *macrocarpa* である。
- 87: 前回記載の学名は *Carex filipes* である。
- 88: 前回記載の学名は *Carex longirostrata* である。
- 89: 前回記載の学名は *Carex omiana* である。
- 90: 前回記載の学名は *Fimbristylis complanata* である。
- 91: 前回記載の学名は *Fimbristylis verrucifera* である。
- 92: 前回記載の学名は *Schoenoplectus gemmifer* である。
- 93: 前回記載の学名は *Schoenoplectus lineolatus* である。
- 94: 前回記載の学名は *Schoenoplectus mucronatus* var. *tataranus* である。
- 95: 前回記載の学名は *Anthoxanthum japonicum* である。
- 96: 前回記載の学名は *Hierochloe odorata* var. *pubescens* である。
- 97: 前回記載の学名は *Dimeria ornithopoda* である。
- 98: 前回記載の学名は *Glyceria acutiflora* である。
- 99: 前回記載の学名は *Hystrix longiaristata* である。
- 100: 前回記載の学名は *Ischaemum aristatum* var. *glaucum* である。
- 101: 前回記載の学名は *Koeleria pyramidata* である。
- 102: 前回記載の学名は *Stipa coreana* var. *kengii* である。
- 103: 前回記載の和名はナガミノツルケマンである。
- 104: 前回記載の学名は *Menispermum dauricum* である。
- 105: 前回記載の学名は *Aconitum fudjisanense* である。
- 106: 前回記載の学名は *Aquilegia buergeriana* である。
- 107: 前回記載の学名は *Clematis ochotensis* var. *japonica* である。
- 108: 前回記載の学名は *Clematis fujisanensis* である。
- 109: 前回記載の学名は *Hedysarum vicioides* subsp. *japonicum* である。
- 110: 前回記載の学名は *Waldsteinia ternata* である。
- 111: 前回記載の学名は *Stephanandra tanakae* である。
- 112: 前回記載の学名は *Potentilla fruticosa* var. *leucantha* である。
- 113: ホシザクラの名は江戸時代から栽培されていたヤマザクラの栽培品種の名称に用いられてきた経緯がある。ここで取り上げるホシザクラはこの栽培品種とは別であり、名称の混乱を避けるために、川崎哲也画大場秀章編『サクラ図譜』(2010年、アボック社刊)で提唱された、タマノホシザクラを本リストでも採用することにした。
- 114: 前回記載の学名は *Cerasus spachiana* である。
- 115: 前回記載の学名は *Rubus idaeus* である。
- 116: 前回記載の学名は *Rubus pungens* である。
- 117: 前回記載の学名は *Spiraea nipponica* である。
- 118: 前回記載の学名は *Pilea hamaoi* である。
- 119: 前回記載の学名は *Parnassia foliosa* である。
- 120: 前回記載の学名は *Parnassia palustris* である。
- 121: 前回記載の学名は *Hypericum ascyron* である。
- 122: 前回記載の学名は *Viola teshioensis* である。
- 123: 前回記載の学名は *Viola rostrata* var. *japonica* である。

- 124: 前回記載の学名は *Salix serissaefolia* である。
125: 前回記載の学名は *Salix shiraii* var. *shiraii* である。
126: 前回記載の学名は *Geranium eriostemon* var. *reinii* である。
127: 前回記載の学名は *Geranium soboliferum* である。
128: 前回記載の学名は *Daphne pseudomezereum* var. *koreana* である。
129: 前回記載の学名は *Arabis pendula* である。
130: 前回記載の学名は *Persicaria macrantha* subsp. *conspicua* である。
131: 前回記載の学名は *Pseudostellaria heterantha* var. *heterantha* である。
132: 前回記載の学名は *Cucubalus baccifer* var. *japonicus* である。
133: 前回記載の学名は *Primula reinii* である。
134: 前回記載の学名は *Leucothoe grayana* である。
135: 前回記載の学名は *Rhododendron keiskei* var. *keiskei* である。
136: 前回記載の学名は *Rhododendron japonicum* である。
137: 前回記載の学名は *Menziesia multiflora* f. *brevicalyx* である。
138: 前回記載の学名は *Galium trifloriforme* var. *nipponicum* である。
139: 前回記載の学名は *Galium verum* subsp. *asiaticum* である。
140: 前回記載の学名は *Hedyotis diffusa* である。
141: 前回記載の学名は *Gentiana thunbergii* である。
142: 前回記載の和名はホソバナツルリンドウである。
143: 前回記載の学名は *Cynanchum ascyrifolium* である。
144: 前回記載の学名は *Cynanchum atratum* である。
145: 前回記載の学名は *Cynanchum grandifolium* である。
146: 前回記載の学名は *Cynanchum paniculatum* である。
147: 前回記載の学名は *Cynanchum sublanceolatum* var. *macranthum* f. *auriculatum* である。
148: 前回記載の学名は *Cynoglossum zeylanicum* である。
149: 前回記載の学名は *Omphalodes japonica* である。
150: 前回記載の学名は *Omphalodes krameri* である。
151: 前回記載の学名は *Physalis chamaesarachoides* である。
152: 前回記載の学名は *Solanum japonense* var. *japonense* である。
153: 前回記載の学名は *Pseudolysimachion rotundum* var. *petiolatum* である。
154: 前回記載の学名は *Veronicastrum japonicum* である。
155: 前回記載の学名は *Lindernia antipoda* である。
156: 前回記載の学名は *Peristrophe japonica* である。
157: 前回記載の和名および学名はシヤクジイタヌキモ *Utricularia siakujiiensis* である。
158: 前回記載の学名は *Lamium humile* である。
159: 前回記載の学名は *Perilla frutescens* var. *hirtella* である。
160: 前回記載の学名は *Eusteralis stellata* である。
161: 前回記載の学名は *Eusteralis yatabeana* である。
162: 前回記載の学名は *Caryopteris divaricata* である。
163: 前回記載の学名は *Campanumoea javanica* var. *japonica* である。
164: 前回記載の学名は *Peracarpa carnosae* var. *circaeoides* である。
165: 前回記載の学名は *Platycodon grandiflorum* である。
166: 前回記載の学名は *Achillea alpina* である。
167: 前回記載の学名は *Aster ageratoides* subsp. *leiophyllus* var. *harae* である。
168: 前回記載の学名は *Chrysanthemum indicum* var. *boreale* である。
169: 前回記載の学名は *Inula britannica* subsp. *linariifolia* である。
170: 前回記載の学名は *Prenanthes tanakae* である。
171: 前回記載の学名は *Parasenecio maximowicziana* var. *alata* である。
172: 前回記載の学名は *Gnaphalium hypoleucum* である。
173: 前回記載の学名は *Saussurea ussuriensis* である。

- 174: 前回記載の学名は *Senecio flammeus* subsp. *glabrifolius* である。
 175: 前回記載の学名は *Senecio integrifolius* subsp. *fauriei* である。
 176: 前回記載の学名は *Senecio pierotii* である。
 177: 前回記載の学名は *Xanthium strumarium* である。
 178: 前回記載の学名は *Lonicera mochidzukiana* である。
 179: 前回記載の学名は *Scabiosa japonica* である。
 180: 前回記載の学名は *Weigela floribunda* var. *versicolor* である。
 181: 前回記載の学名は *Bupleurum longiradiatum* var. *breviradiatum* である。
 182: 前回記載の学名は *Bupleurum falcatum* である。
 183: 前回記載の学名は *Sium sisarum* である。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
タカサブロウ (モトタカサブロウ)	区部	広義タカサブロウには、外来種のアメリカタカサブロウと狭義タカサブロウ(モトタカサブロウ)が含まれており、モトタカサブロウはきわめて希少となっている。外見的にはきわめて酷似しており、種子の形状を見なければ同定することは困難であり、今後、両種の動向に注意を喚起したい。
	北多摩	
	南多摩	
	西多摩	
	本土部	

2. 藻類

【選定・評価方法の概要】

藻類専門部会は2019年度から発足し、現地調査も2019年10月から開始した。そのため比較できる既存のリストがなく、絶滅や絶滅のおそれのある種の選定に必要となる過去の記録も独自には持ち合わせていなかった。そこで、事務局が行った文献調査によって1936年から2018年までの論文・書籍・報告書と首都大学東京（現東京都立大学）牧野標本館の藻類標本データベースから拾い上げられた、東京都で採集記録がある淡水産大型藻類26分類群（25種7亜種を含む）のリストを基にして種の選定を進めた。

また、東京湾における生物環境変遷の重要性についての議論を受けて、発足当時には予定していなかった海藻種も検討に加えることとした。ただし、海岸付近で確認できる種に限定し、継続的な観察が難しい沖合の海底は調査・評価対象としないことにした。

評価は、環境省版レッドリストカテゴリーと判定基準（2013）の定性的要件を用いた（環境省編 2015）。ただし、本専門部会が現地調査を行ったのは2019年10月から2020年2月までであるため、大部分の分類群では生育を確認できておらず、ランク付けを行う根拠に乏しかった。そこで今回は、2019年度中に本専門部会や他機関によって実施された現地調査で生育の有無や状況を確認できたものをランク付けの対象とし、調査ができなかったものはDD（情報不足）として扱って、今後行われる調査の結果を待って判定を行うことにした。また、同じ理由から藻類では現時点で4地域の区分による評価を行うことが著しく困難と判断し、今回は仮に本土部全体としてランク付けを行った。

藻類の学名は、アイルランド国立大学ライアン研究所が運営し、藻類の学名データベースとして世界規模で利用されているAlgaeBase (<https://www.algaebase.org>, 2020年1月8日現在) に準拠した。

【選定・評価結果の概要】

藻類は綱や門（さらには界）のレベルで異質な系統グループを含んでおり、本リストにおいても4門（紅藻植物門、緑藻植物門、車軸藻植物門、黄藻植物門）、6綱（真正紅藻綱、オオイシソウ綱、アオサ藻綱、トレボウクシア藻綱、車軸藻綱、褐藻綱）にわたる。それらは生育環境によって、淡水域に生育する淡水藻と海水域（汽水域を含む）に生育する海藻とに区別される。淡水藻種として当初の25分類群のなかに挙げられていたニホンカワモズク *Batrachospermum japonicum* は、近年の遺伝子解析研究によってカワモズク *Batrachospermum gelatinosum* の異名とされるようになりつつある（AlgaeBase, 2020年1月8日現在）ので、これを除いた結果、対象種が1種減ることとなった。海藻種は、鈴木ほか（2017）の報告を参考にして7種をリストに加えた。これらの結果、藻類では31分類群が検討対象種として選定された。

過去の文献の生育記録から拾い上げられた検討対象種のうち、現地調査によりランクを

判定するに足る情報が得られなかった 21 分類群を DD とし、判定可能であった 10 分類群についてはそれぞれ以下のように判定した。その結果、都内における絶滅 (EX) は 4 分類群、絶滅危惧 (CR+EN、VU) が 4 分類群、準絶滅危惧 (NT) が 2 分類群となった。

1. 大型淡水藻類

1) 紅藻植物門

真正紅藻綱 6 種とオオイシソウ綱 1 種を含む。うち 4 種がカワモズク類で、現地調査で生育を確認できたのはカワモズクだけであるが、その生育地周辺は人工化が進行中で群落の維持が危ぶまれるので VU とした。そのほかに、2019 年 12 月に等々力溪谷で確認したタンスイベニマダラを NT とした。2013 年に都内で初めて発見され (林・田中, 2015)、2020 年 1 月に根川緑道で確認できたオキチモズクは、人為的国内移入の可能性を完全に排除できないため、今回は DD として扱い、今後の調査を待って判定する。

2) 緑藻植物門

トレボウクシア藻綱の 1 種、カワノリが含まれる。今回の現地調査では確認できず、DD とした。

3) 車軸藻植物門

車軸藻綱シャジクモ目の 15 分類群 (10 種 5 変種) を含む。このうち 13 分類群については、記録された場所の生育環境及び各分類群の残存状況ともに現状不明であるため DD とした。今回の現地調査等で、新たに現状を把握できた 2 分類群については、生育環境と残存状況を考慮し、シャジクモを VU、イノカシラフラスコモを CR+EN として選定した。

4) 黄藻植物門 (不等毛植物門)

褐藻綱はほとんどが海産種であるが、今回リストしたイズミイシノカワを含む数種が淡水産として知られている。いずれも淡水紅藻と同様に清冽な水の流れを必須とする稀産種である。イズミイシノカワは都内では 2007 年にあきる野市で生育が確認されているが、今回の現地調査では確認できず、DD とした。

2. 海藻類

1) 紅藻植物門

真正紅藻綱に属するアサクサノリは、1990 年代に絶滅したと考えられていたが、2004 年に多摩川河口域で再発見された。今回、2020 年 2 月に実施した羽田側の干潟の調査でわずかながらも生育が確認できたので CR+EN とした。同じく真正紅藻綱のホソアヤギヌは、2019 年 10 月に隅田川の隅田公園付近の岸で群落が確認でき、NT とした。今回確認したアサクサノリとホソアヤギヌの生育地は、河口から 2km 程度上流に位置しており、両種ともに汽水藻と思われる。

2) 緑藻植物門

アオサ藻綱の 1 種ヒトエグサはかつて東京湾で「ベッコウアオ」として食用された有用

海藻であるが、今日東京湾奥部から報告がない。アサクサノリのような探索調査が行われていないのでランク評価は保留し、DDとした。

3) 黄藻植物門 (不等毛植物門)

褐藻綱の4種、モズク、サメズグサ、ケウルシグサ、ツルモについては、古い時代に東京都の海岸で採集された標本(打ち上げ品を含む)が国立科学博物館(TNS)や北海道大学(SAP)に保管されているにもかかわらず、いずれも過去50年以上東京都沿岸から採集された標本や報告がないので東京都絶滅種と判定し、EXとした。

2019年秋から現地調査を開始したばかりであり、環境要因を論じることは難しいが、一般に淡水紅藻は、湖沼や河川の水質汚染、外来生物の食害、工事による生育場所の消失などによって局所的な絶滅に至ることは容易に予想できる。とりわけ、今回の現地調査では、人工化が著しくすすんだ住宅地や高速道路のインターチェンジの工事現場のなかに取り残された小川や池に、淡水紅藻のカワモズクがかろうじて生きのびているのが印象的であった。古代から続く清冽な泉の存在が淡水紅藻の生育を維持させていることがうかがえた。

車軸藻については半年に満たないこの短期間に現地調査を行うことは困難なため、多くをDDとしたが、いくつかの種では過去の記録と生育地の現状を比較することができた。かつては消滅したと思われたイノカシラフラスコモが、東京都(建設局西部公園緑地事務所)が行った井の頭公園のかいぼり事業により復活したことは特筆に値するが、現地の生育状況が今後も維持されるかはわからない。かつて3種の車軸藻が記録されていた石神井公園の三宝寺池では、車軸藻を含め沈水植物が全く見られない状況となっていた。車軸藻は、全国的に減少していることが知られ、環境省レッドリストでも日本に生育する分類群の約7割が掲載されているが、全国で最も都市化の影響を受けている東京都でも、短期間の調査ながら同様の減少傾向がうかがえた。

海藻も、むしろ今後の継続的な調査が必要とされる生物である。東京都沿岸は、かつてはアサクサノリやヒトエグサなどに代表される食用海藻種が生育し収穫されていた海域であるが、今日では報告が稀となって久しい。将来の絶滅危惧種リスト作成とそのランク評価のためにも、東京都海岸線について定期的な海藻相調査が必要と考えられる。

[引用文献]

林直也・田中次郎, 2015. 絶滅危惧種の淡水藻類オキチモズク(チスジノリ科, 紅藻)を東京都で初確認. 植物研究雑誌, 90(2): 134-136.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—9 植物II (蘚苔類・藻類・地衣類・菌類). ぎょうせい. 東京. 580 pp.

鈴木雅大・北山太樹・菊地則雄・小亀一弘・宮田昌彦, 2017. 関東周辺で絶滅あるいは消息不明と考えられる海藻. 日本藻類学会第41回大会(高知2017年3月)プログラム. 藻類, 65(1): 73.

(北山 太樹・加藤 将)

藻類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク	環境省 ランク 2020	備考
		本土部		
大型淡水藻類				
紅藻植物門	RHODOPHYTA			
真正紅藻綱	Florideophyceae			
チャイロカワモズク	<i>Sheathia arcuata</i>	DD	NT	
イシカワモズク	<i>Torularia atra</i>	DD	CR+EN	1
カワモズク	<i>Batrachospermum gelatinosum</i>	VU	VU	2
アオカワモズク	<i>Virescentia helminthosa</i>	DD	NT	
タンスイベニマダラ	<i>Hildenbrandia rivularis</i>	NT	NT	
オキチモズク	<i>Nemalionopsis tortuosa</i>	DD	CR+EN	3
オオイシノウ綱	Compsopogonophyceae			
オオイシノウ	<i>Compsopogon caeruleus</i>	DD	VU	
緑藻植物門	CHLOROPHYTA			
トレボウクシア藻綱	Trebouxiophyceae			
カワノリ	<i>Prasiola japonica</i>	DD	VU	
車軸藻植物門	CHAROPHYTA			
車軸藻綱	Charophyceae			
シャジクモ	<i>Chara braunii</i>	VU	VU	
カタシャジクモ	<i>Chara globularis</i> var. <i>globularis</i>	DD	CR+EN	
ハダシシャジクモ	<i>Chara zeylanica</i>	DD	CR+EN	
チャボフラスコモ	<i>Nitella acuminata</i> var. <i>capitulifera</i>	DD	CR+EN	
ヒメフラスコモ	<i>Nitella flexilis</i> var. <i>flexilis</i>	DD	CR+EN	
フタマタフラスコモ	<i>Nitella furcata</i> var. <i>furcata</i>	DD	CR+EN	
ニッポンフラスコモ	<i>Nitella japonica</i>	DD	CR+EN	
イノカシラフラスコモ	<i>Nitella mirabiris</i> var. <i>inokasiraensis</i>	CR+EN	CR+EN	
ミヅフラスコモ	<i>Nitella oligospira</i>	DD	CR+EN	
ナガフラスコモ	<i>Nitella orientalis</i>	DD	CR+EN	
タチフラスコモ	<i>Nitella paucicostata</i>	DD		
ナガホノフラスコモ	<i>Nitella spiciformis</i>	DD	CR+EN	
ナガホノコフラスコモ	<i>Nitella spiciformis</i> var. <i>oligogyra</i>	DD		
レンリフラスコモ	<i>Nitella sublucens</i>	DD		
ニッポンイトフラスコモ	<i>Nitella tenuissima</i> var. <i>japonica</i>	DD		
黄藻植物門(不等毛植物門)	OCHROPHYTA(HETEROKONTOPHYTA)			
褐藻綱	Phaeophyceae			
イズミイシノカワ	<i>Heribaudiella fluviatilis</i>	DD	CR+EN	
海産藻類				
紅藻植物門	RHODOPHYTA			
真正紅藻綱	Florideophyceae			
アサクサノリ	<i>Pyropia tenera</i>	CR+EN	CR+EN	
ホソアヤギヌ	<i>Caloglossa ogasawaraensis</i>	NT	NT	

和名	学名	東京都ランク	環境省 ランク 2020	備考
		本土部		
緑藻植物門	CHLOROPHYTA			
アオサ藻綱	Ulvophyceae			
ヒトエグサ	<i>Monostroma nitidum</i>	DD		
黄藻植物門(不等毛植物門)	OCHROPHYTA(HETEROKONTOPHYTA)			
褐藻綱	Phaeophyceae			
モズク	<i>Nemacystus decipiens</i>	EX		
サメズグサ	<i>Stictyosiphon soriferus</i>	EX		4
ケウルシグサ	<i>Desmarestia viridis</i>	EX		
ツルモ	<i>Chorda asiatica</i>	EX		

和名、学名、配列は原則として「大西一博, 2018. Algae Collection データベース. 首都大学東京牧野標本館」、「AlgaeBase (<http://www.algaebase.org>, 2020年1月8日現在)」に準拠した。

【備考】

- 1:2012年に皇居道灌濠で生育を確認している(北山, 2014)ものの、それ以外の場所では80年以上報告がない。
- 2:ニホンカワモズク *Batrachospermum japonicum* を本種の異名として含めた。
- 3:根川緑道で生育を確認できたものの、人為的な国内移入の可能性を否定しきれないのでDDとした。
- 4:国内では品川鮫洲で初めて採取されたので「サメズグサ」の名がつけられた。

3. 哺乳類

【選定・評価方法の概要】

検討対象種は、東京都において明治時代以降に生息記録がある在来の陸生哺乳類 46 種のうち、地域によって絶滅したか絶滅のおそれのある可能性があるもので、今回の検討対象種は、前回（2010 年版）の 40 種に 3 種を加え、合計 43 種とした。新たに加わった 3 種は、前回以降に生息が確認されたシナノホオヒゲコウモリ、今回の現地調査で確認されたクビワコウモリとカグヤコウモリである。検討対象から除外したのは、いずれの絶滅危惧カテゴリーにも該当しないと考えられたアブラコウモリ、タヌキ、ニホンジカの 3 種である。

絶滅のおそれの評価は、基本的に定量的要件を用いた。ただし、IUCN（2003）による「地域レベルでレッドリスト基準を適用する場合のガイドライン」（Guidelines for Application of IUCN Red List Criteria at Regional Levels, Version3.0）を参考にして、ある地域の生息状況が絶滅危惧カテゴリーの数値基準に当てはまる場合でも、その地域で増加している、隣接地域に普通に生息するなどの種については、ランクを 1 ないし 2 段階下げて評価した。また、本土部全体としての評価は基本的に、4 地域のなかで絶滅のおそれが最も低いランクで代表させることとした。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、いずれかの地域において絶滅またはそのおそれがある種（絶滅（EX）、絶滅危惧 I A 類（CR）、絶滅危惧 I B 類（EN）、絶滅危惧 II 類（VU）、情報不足（DD）のいずれかに該当する種）として 34 種、準絶滅危惧（NT）を含めると 40 種が選定された。このほかに留意種としてのみ選定されたものが 2 種（アズマモグラ、アカネズミ）、いずれのカテゴリーにも該当しなかった種がスミスネズミ 1 種であった。なお、近年（概ね 2001 年以降）の生息情報がある在来種（以下、現生種とする）の数は、地域別にみると西多摩（43）、南多摩（31）、北多摩（15）、区部（9）の順に多い（カッコ内は種数）。

区部では現生の 9 種に対して絶滅が 18 種ときわめて多く、かつては低地においても豊かな自然が存在したことが示されている。過去の生息情報は岸田（1934）による昭和初期の調査記録に基づいている。北多摩については情報が乏しく、現生の 15 種に対して、生息の可能性はあるが「データ無し」となった種が 15 種と多い。南多摩は高地性の種を欠くものの多くの種が生息するが、準絶滅危惧（NT）、情報不足（DD）まで含めると現生の 31 種中 17 種（54.8%）が何らかのカテゴリーに該当している。西多摩は関東山地にみられるほぼすべての哺乳類が確認されている一方で、絶滅危惧種（EN、VU）が 12 種（現生 43 種の 27.9%）、準絶滅危惧（NT）が 11 種（同 25.6%）、合計で 23 種（同 53.5%）あり、東京都の生物多様性の保全を図る上で重要な地域であることが示されている。なお、高地性のミズラモグラ、ヤチネズミなどは、高標高地の小面積でしか確認されていないが、隣接県に広く分布することを考慮して、直ちに絶滅のおそれが高いとは評価せず、準絶滅危惧（NT）と評価した。なお、北多摩のニホンリスとヒナコウモリはこの地域での生息確認

記録はないが、狭山丘陵の埼玉県側に記録があり、東京都側にも生息する可能性が高いことから、データ無し（－）ではなく DD と評価した。

留意種としては区部のアズマモグラとアカネズミ、西多摩のハタネズミが選定された。区部の 2 種はこの地域にみられる数少ない野生哺乳類であり、現在のところ絶滅のおそれが高いとは言えないが、開発の進行とともに気づかないうちに広範囲から消失する可能性があり、比較的良好な環境が保たれていることを指標する種としても注目される。杉並区（2013）による調査では、同区内におけるアズマモグラの分布域縮小が指摘されている。西多摩のハタネズミは、この地域に大規模な河川敷など本種の選好する特殊な環境が少なく、今後の動向に注意が必要であることから、留意種に選定した。

前回(2010年版)の評価結果と比較すると、ランクが上がったのは南多摩のニホンザル、ニホンリス、西多摩のヤマコウモリ、ニホンウサギコウモリ、テングコウモリなどで、ニホンリスやヤマコウモリのように丘陵地での開発進行や巨木の伐採などが原因で明確な生息状況の悪化がみられたもののほか、コウモリ類など、情報が増加したことから前回より厳密な評価が可能となったものもある。ランクが下がったのは、南多摩と西多摩のツキノワグマで、これは分布域拡大がみられていることと隣接県に広く生息することによる。個体数増加も推測されるが、今後の検証が必要である。

このほか、区部のカヤネズミ、南多摩のコキクガシラコウモリ、ヤマコウモリ、モモジロコウモリなど、前は絶滅（EX）、情報不足（DD）、データ無し（－）と評価された種の中で、新しく情報が得られたことから実態を示すカテゴリーに変更されたものがある。分布域の拡大がみられる北多摩のイノシシも同様である。

前回以降、特にコウモリ類について新しい情報が蓄積され、前回より正確な評価を行うことができたと考えられる。しかし、ニホンジカなど一部の種を除いて、都内における哺乳類の生息現況に関する情報は全般にきわめて乏しく、それは今回の現地調査によってコウモリ類 2 種が都内で新たに確認されたことにも示されている。今後、より正確な評価に向けて、生息状況に関する基礎的、網羅的な調査を行うことが必要である。

絶滅のおそれを高めている要因としては、開発や森林伐採、天然林の人工林化、人工林の管理不足などに伴う生息環境の消失、劣化、断片化、単純化がまず挙げられる。特に南多摩の丘陵地には、東西方向に帯状に走る複数の緑地が残され、野生哺乳類の生息地や東西を繋ぐ回廊としての機能を果たしているが、開発による分断の影響を大きく受けており、保全上の配慮が必要である。また、西多摩、南多摩におけるニホンジカの個体数増加、分布拡大に伴う林床植生の改変や消失なども要因として指摘されている。そのほか、狭山丘陵ではキタリス、町田市、瑞穂町、あきるの市ではクリハラリスの、いずれも特定外来生物に指定されている外来種が確認されており、ニホンリスへの影響が懸念されている。しかし、これらの要因がもたらす影響の詳細については不明なことが多く、調査を行い、必要な対策を検討することも重要な課題である。

[引用文献]

岸田久吉, 1934. 大東京の哺乳動物に就て. *Lanzania*, 6(52): 17-30.

杉並区, 2015. 杉並区自然環境調査報告書 (第 6 次).

(石井 信夫)

哺乳類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
霊長目	PRIMATES							
オナガザル科	Cercopithecidae							
ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	・	・	VU	NT	NT		
齧歯目	RODENTIA							
リス科	Sciuridae							
ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	EX	DD	VU	○	○		
ムササビ (ホオジロムササビ)	<i>Petaurista leucogenys</i>	EX	DD	NT	○	○		
ニホンモモンガ	<i>Pteromys momonga</i>	EX	－	VU	○	○		
ヤマネ科	Gliridae							
ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i>	・	－	NT	○	○		
キヌゲネズミ科	Cricetidae							
ヤチネズミ	<i>Eothenomys andersoni</i>	・	・	・	NT	NT		
ハダネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	NT	NT	○	*②⑤	○		
ネズミ科	Muridae							
ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	EX	－	○	○	○		
アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	*②	○	○	○	○		
カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	DD	EN	VU	VU	VU		
兎形目	LAGOMORPHA							
ウサギ科	Leporidae							
ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	DD	VU	○	○	○		
トガリネズミ形目	SORICOMORPHA							
トガリネズミ科	Soricidae							
ニホンジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	EX	－	DD	DD	DD		
カワネズミ	<i>Chimarrogale platycephalus</i>	EX	－	VU	NT	NT		1
シントウトガリネズミ	<i>Sorex shinto</i>	・	－	DD	NT	NT		
モグラ科	Talpidae							
ミズラモグラ	<i>Euroscaptor mizura</i>	・	・	－	NT	NT	NT	
アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	*②	○	○	○	○		
ヒメヒミズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>	・	・	－	NT	NT		
ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	EX	NT	○	○	○		
翼手目	CHIROPTERA							
キクガシラコウモリ科	Rhinolophidae							
コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>	EX	－	VU	NT	NT		
キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	EX	－	VU	VU	VU		
ヒナコウモリ科	Vespertilionidae							
クビワコウモリ	<i>Eptesicus japonensis</i>	・	・	－	EN	EN	VU	
ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	EX	－	VU	VU	VU	VU	
モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus endoi</i>	・	－	－	VU	VU	VU	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
チチブコウモリ	<i>Barbastella darjelingensis</i>	EX	—	—	—	DD	LP	
ニホンウサギコウモリ	<i>Plecotus sacrimontis</i>	EX	・	—	EN	EN		2
ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>	DD	DD	NT	NT	NT		
カグヤコウモリ	<i>Myotis frater</i>	・	・	—	EN	EN		
シナノホオヒゲコウモリ	<i>Myotis hosonoi</i>	・	・	—	EN	EN		
モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>	EX	—	VU	NT	NT		
ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>	DD	—	—	VU	VU		
テングコウモリ	<i>Murina hilgendorfi</i>	EX	—	VU	VU	VU		
ニホンコテングコウモリ	<i>Murina silvatica</i>	・	—	VU	NT	NT		3
食肉目	CARNIVORA							
イヌ科	Canidae							
オオカミ	<i>Canis lupus</i>	・	・	・	EX	EX	EX	
アカギツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	DD	EN	○	○	○		4
クマ科	Ursidae							
ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	・	・	VU	NT	NT		
イタチ科	Mustelidae							
ニホンカワウソ	<i>Lutra nippon</i>	EX	EX	EX	EX	EX	EX	5
ニホンテン	<i>Martes melampus</i>	EX	DD	○	○	○		6
アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	EX	NT	○	○	○		7
オコジョ	<i>Mustela erminea</i>	・	・	・	VU	VU	NT	
ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	NT	NT	○	○	○		8
偶蹄目	ARTIODACTYLA							
イノシシ科	Suidae							
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	EX	○	○	○	○		
ウシ科	Bovidae							
ニホンカモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	・	・	・	VU	VU		9

和名、学名、配列は「日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会, 2018. 世界哺乳類標準和名目録. 哺乳類科学, 第 58 巻別冊. 日本哺乳類学会」に準拠した。

【備考】

番号 1～9 の種は、最近の研究結果に従って和名または学名、あるいは和名と学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Chimarrogale platycephala* である。
- 2: 前回記載の和名および学名はウサギコウモリ *Plecotus auritus* である。
- 3: 前回記載の和名および学名はコテングコウモリ *Murina ussuriensis* である。
- 4: 前回記載の和名はキツネである。
- 5: 前回記載の和名および学名はカワウソ *Lutra lutra* である。
- 6: 前回記載の和名はテンである。
- 7: 前回記載の学名は *Meles meles* である。
- 8: 前回記載の和名はイタチである。
- 9: 前回記載の和名はカモシカである。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
ハタネズミ	西多摩	西多摩には本種の好適環境が少なく、まとまった分布域も認められず、全国的にも減少傾向にあるため
アカネズミ	区部	区部では、荒川の河川敷などにみられるが、かつて生息情報のあった孤立緑地における最近の確認がなく、地域的絶滅が進行している可能性があるため
アズマモグラ	区部	本種は区部の都市公園や住宅地にも広く分布しているが、分布範囲の縮小が観察されている地域もあり、個体群の孤立化・分断化により減少する可能性があるため

4. 鳥類

【選定・評価方法の概要】

鳥類は、東京都の本土部で記録のある種の中から、生息数や生息地域に限られる 173 種（亜種を含む）を検討対象種とし、これらの生息状況を精査してランクを判定した。鳥類は移動能力が大きいため、本来の生息地から大きく離れて移動し、偶発的に記録される迷行記録や、安定した生息とはならない不定期記録も多く存在する。このような種は「非分布」として扱った。また、日本が主要な越冬地でないため、国内全体の生息数が少ない場合もあり、これは対象外とした。

判定にあたっては定量的要件を原則としたが、生息状況についての把握が十分ではない種が多く、定性的要件による評価も並行して行った。鳥類は季節移動が大きく、生息数が時期により大きく異なるが、個体群保全に重要な世代交代にかかわる繁殖期の生息状況を重視した。本土部全体の評価は、各種の主要な生息地となる地域区分の評価を中心として、都としての保全の観点を加えて行った。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は合計で 160 種と 2 亜種の 162 種となった。前回のリスト（2010 年版）と数は同じだが、新規掲載が 10 種、削除種（前回 2010 年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種）が 10 種と変動があった。新しく掲載種となったホシハジロ、ゴイサギ、オナガ、イワツバメ、セッカ、ホオジロ、カシラダカは近年まで極めて普通に生息していたものばかりである。ホシハジロとカシラダカは全国的にも減少している。ハジロカイツブリは資料の精査の上、生息数が少数と判断した。ウミネコとリュウキュウサンショウクイは、近年、都内で繁殖期に少数個体が生息するようになった。

削除種となった種の中で、シラコバトは『日本鳥類目録 改訂第 7 版』の記載に基づき、東京で記録があったものは外来生物とした。その他はデータの精査の結果、主要な生息地でないといった理由により「非分布」として対象外とされた種である。生息状況が好転し、ランク外となったものは、多摩地域におけるダイサギだけである。

また、絶滅した鳥類の判定には困難が伴った。日本国内全般において、明治期に狩猟のため大型鳥類が大きく減少し、都内においてもトキやコウノトリ、ツル類やハクガンなどの生息が消失したと思われる。しかし、これらの記録の精査は困難であるため、日本野鳥の会（1975）による『東京の鳥 - 東京都産鳥類目録 -』の記載を元に、1930 年代以降に定常的な生息がなくなった種を絶滅とした。繁殖していた種については、50 年以上の繁殖記録の消失によって絶滅とした。

絶滅危惧（CR、EN、VU）と判定された種を目別に見ると、チドリ目が 37 種と最も多いほか、カイツブリ目やサギ目、ツル目（クイナ科）といった干潟や湿地を生息環境とす

る鳥類が含まれる。また、キジ目やスズメ目でも、オオヨシキリやオオジュリンなど湿性草地（ヨシ原）、ヒバリやモズ、ホオジロ、セッカなど草地性の鳥が多く含まれ、湿地や草地環境の減少や悪化が、絶滅のおそれを増大させていることを示唆している。チドリ目は北極圏から赤道・南半球まで渡る鳥も多く、地球規模での環境変化の影響を受けて生息数が減少しているとされる。

タカ目、ハヤブサ目、フクロウ目の食物連鎖の上位に位置し、猛禽類と称される捕食性鳥類は合わせて 21 種となった。生態系全体の劣化に注意する必要がある。樹洞を主な営巣場所とするフクロウ類では、樹洞を持つ大樹が少なくなっていることも減少要因として考えられる。都内の樹木は植樹などから年数が経って生長し、猛禽類など大型鳥類の営巣可能木も増加しているが、台風による倒木およびその対策や森林施業としての伐採もあるため、営巣木の保全には留意する必要がある。

スズメ目の中では、国外から渡ってくる夏鳥 20 種が含まれる。都内の生息環境の変化だけでなく、越冬地や中継地の環境変化などの影響を受けている可能性がある。

カモ類は、休息地となる公園などの水域環境には大きな変化は無いが、都内全体として 1990 年代以降の減少が著しい。東京都では人による給餌を行わないように呼びかけていることから、公園の池ではこの効果による減少があると思われる。また、温暖化により国内の越冬分布が変化していることも提起されているが、湿地の減少や湾岸の底生生物の変化などで食物条件が悪化している可能性もある。

地域別にみると、区部が掲載種 123 種ともっとも多い。開発が進み、鳥類の生息環境条件の悪化が大きく進行しているといえる。特に湾岸部の干潟や湿地に生息する鳥類がリストに多く挙げられた。1960 年代に埋め立てが進行し、1970 年代から 1990 年代前半には埋立地が自然湿地の代替機能をもっていたが、その後土地利用が進み、現在、野鳥の生息環境となる干潟・湿地は、東京港野鳥公園や葛西海浜公園、多摩川河口域などごく一部に限られる。内陸部も畑や未利用地が減り、宅地化や都市化が進んで緑地が減少し、ヒバリやセッカ、モズなど林縁や草地に生息する種が減少している。北多摩は掲載種 82 種であった。武蔵野台地上に畑地や樹林が多かったが、1980 年代以降急速に宅地化や都市化が進行し、樹林や農地などの緑地の減少が現在も大きく進行している。南多摩は掲載種 105 種で区部に次いで多い。丘陵地を主体とした谷戸地形が多く、多摩ニュータウンに代表される 1960 年代からの大規模な宅地開発などで、地形も大きく変わった場所もある。現在でも丘陵地が多く比較的良好な鳥類の生息環境が残っている。西多摩は掲載種 99 種となった。ほぼ全域が山地帯で、スギ、ヒノキの植林地が多いが、標高 1,000m 以上ではブナ帯の落葉広葉樹林も多く、都内でも自然環境がもっとも残っている。リストには山林性の種が多い。外来生物のガビチョウやソウシチョウが増加する一方、ニホンジカの増加による林床や林縁植生の減少が生じており、コルリやコマドリ、ウグイスなど低木層を生活空間としている鳥類の生息状況の悪化を引き起こしているおそれがある。

北多摩と南多摩の境を流れる多摩川の中流部と区部の下流部、更に区部に位置する江戸

川と荒川の下流部では、河川敷や中州がヒバリやセッカ、オオヨシキリ、イカルチドリなどシギ・チドリ類の貴重な生息地となっている。これらの河川環境は、河川の整備や利用により、湿地や草地環境が失われるなど生息環境の減少および悪化が生じてきた。河川においては、湿地環境の保全や堰の管理で自然環境の保全措置も行われるようになり、鳥類の生息環境の向上も期待されるが、近年は、5月から7月の繁殖期の降雨の激甚化が生じており、河川での増水による営巣育雛への影響にも注意が必要である。

現時点では絶滅のおそれはないが、特定の生息地への集中が強いスズガモ、カンムリカイツブリとニホンジカによる植生変化の影響が大きいウグイスについては、環境条件の変化により生息状況が急変する可能性があるため、注意喚起のため留意種とした。ウミネコは、都内での繁殖数は少ないが、新たに繁殖を開始し、営巣状況の変動が大きいため留意種とした。

鳥類への脅威としての違法捕獲は、取り締まりの強化が進んでいるが無くなってはいない。猛禽等希少種への違法捕獲による個体数への影響はかつてより少なくなっていると考えられるが、依然として注意は必要である。鳥類に対しては、観察者による営巣行動等のかく乱の影響が大きい。特に営巣時期・営巣場所での写真撮影は、深刻な影響を及ぼす。絶滅危惧種ほか写真撮影の圧力が大きい種の営巣情報の取り扱いには注意が必要である。

[引用文献]

- 環境省自然環境局，2020. 第50回ガンカモ類の生息調査報告書.
- 日本鳥学会（目録編集委員会），2012. 日本鳥類目録 改訂第7版.
- 日本野鳥の会奥多摩支部，2014. 多摩の鳥 鳥類目録 2000-2012.
- 日本野鳥の会東京，2016. 東京の野鳥たち～月例探鳥会7か所・20年間の記録～.
- 日本野鳥の会東京，2018. 東京の野鳥たち・2～月例探鳥会3か所・20年間の記録 および 明治神宮・高尾山・新浜の長期記録～.
- 東京都環境保全局，1998. 東京都鳥類繁殖状況調査報告書.
- 東京都産鳥類目録作成委員会，2009. 東京都産鳥類目録 2000 自治体編 Ver.1.

※この他、全国鳥類繁殖分布調査および東京都繁殖分布調査の未公開データの提供を受けた。

(金井 裕)

鳥類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [ー]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
キジ目	GALLIFORMES							
キジ科	Phasianidae							
ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	CR	CR	CR	CR	CR	VU	
ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	・	DD	EN	VU	VU		
キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	EN	NT	NT	NT	NT		
カモ目	ANSERIFORMES							
カモ科	Anatidae							
ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
マガン	<i>Anser albifrons</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	EN	VU	VU	VU	VU	DD	
ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	EN	CR	EN	CR	EN		
シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	DD	・	・	・	DD		
トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	DD	DD	・	・	DD	VU	
ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	VU	VU	VU	・	VU		
スズガモ	<i>Aythya marila</i>	*②	・	・	・	*②		
ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>	DD	・	・	・	DD		
クロガモ	<i>Melanitta americana</i>	DD	・	・	・	DD		
ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	VU	VU	VU	EN	EN		
ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	EN	CR	EN	VU	EN		
ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	DD	・	・	・	DD		
カイツブリ目	PODICIPEDIFORMES							
カイツブリ科	Podicipedidae							
カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	NT	VU	NT	NT	NT		
アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>	NT	・	・	・	NT		
カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	*②	*②	NT	・	*②		
ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>	NT	*②	・	・	NT		
ハト目	COLUMBIFORMES							
ハト科	Columbidae							
アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	・	NT	NT	○	NT		
ペリカン目	PELECANIFORMES							
サギ科	Ardeidae							
サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	CR	・	・	・	CR	EN	
ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	CR	CR	EN	EN	CR	NT	
ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	・	CR	EN	EN	EN	VU	
ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	VU	VU	VU	NT	VU		
ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	CR	CR	VU	VU	VU		
ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	NT	○	○	○	○		
チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	NT	NT	NT	NT	NT	NT	
コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	VU	NT	NT	NT	VU		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
トキ科	Threskiornithidae							
クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	CR	・	・	・	CR	EN	
ツル目	GRUIFORMES							
クイナ科	Rallidae							
クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	DD	DD	NT	NT	NT		
ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	CR	CR	CR	CR	CR	NT	
バン	<i>Gallinula chloropus</i>	EN	EN	VU	VU	EN		
オオバン	<i>Fulica atra</i>	CR	○	○	○	CR		
カッコウ目	CUCULIFORMES							
カッコウ科	Cuculidae							
ジュウイチ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	・	・	・	NT	NT		
ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	・	○	NT	NT	NT		
ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	・	・	NT	NT	NT		
カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
ヨタカ目	CAPRIMULGIFORMES							
ヨタカ科	Caprimulgidae							
ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	EX	CR	CR	VU	EN	NT	
アマツバメ目	APODIFORMES							
アマツバメ科	Apodidae							
アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	・	・	・	DD	DD		
ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>	VU	NT	NT	DD	NT		
チドリ目	CHARADRIIFORMES							
チドリ科	Charadriidae							
ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	・	・	・	DD	DD	DD	
ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	VU	VU	VU	・	VU		
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	VU	・	・	・	VU		
イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	EN	VU	VU	NT	VU		
コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	CR	NT	VU	NT	VU		
シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	CR	CR	CR	・	CR	VU	
メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	VU	・	・	・	VU		
ミヤコドリ科	Haematopodidae							
ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	VU	・	・	・	VU		
セイタカシギ科	Recurvirostridae							
セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	EN	・	・	・	EN	VU	
シギ科	Scolopacidae							
ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>	DD	DD	EN	DD	EN		
オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	DD	・	・	・	DD	NT	
チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>	DD	・	DD	・	DD		
タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>	EN	・	・	・	EN		
オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	EN	・	・	・	EN	VU	
チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	VU	・	・	・	VU		
ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>	CR	・	・	・	CR		
ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	CR	・	・	・	CR	VU	
ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	CR	・	DD	・	CR	VU	
アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	CR	・	・	・	CR	VU	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>	CR	・	・	・	CR		
アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	NT	NT	NT	・	NT		
クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	CR	VU	VU	VU	VU	VU	
キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>	VU	・	・	・	VU		
イノシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	VU	・	VU	・	VU		
オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	CR	・	・	・	CR		
コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>	CR	・	・	・	CR		
ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>	EN	・	・	・	EN		
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	VU	・	VU	・	VU		
オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>	CR	VU	VU	・	VU		
サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>	CR	・	・	・	CR		
ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	VU	EN	EN	EN	VU	NT	
ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>	CR	・	・	・	CR	CR	
キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>	CR	・	・	・	CR		
エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>	CR	・	・	・	CR		
アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>	DD	・	NT	・	DD		
ハイイロヒレアシシギ	<i>Phalaropus fulicarius</i>	DD	・	・	・	DD		
タマシギ科	Rostratulidae							
タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	CR	・	EN	CR	CR	VU	
カモメ科	Laridae							
ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	*①	・	・	・	*①		
コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	EN	CR	EN	CR	EN	VU	
タカ目	ACCIPITRIFORMES							
ミサゴ科	Pandionidae							
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	EN	VU	EN	DD	EN	NT	
タカ科	Accipitridae							
ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	・	CR	EN	CR	CR	NT	
トビ	<i>Milvus migrans</i>	NT	○	NT	○	NT		
チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	EN	・	・	・	EN	EN	
ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	CR	・	・	・	CR		
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	EN	VU	NT	NT	VU		
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	EN	VU	VU	VU	VU	NT	
オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	EN	VU	VU	VU	VU	NT	
サンバ	<i>Butastur indicus</i>	・	CR	CR	CR	CR	VU	
ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	CR	VU	VU	NT	VU		
クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	・	・	CR	EN	EN	EN	
フクロウ目	STRIGIFORMES							
フクロウ科	Strigidae							
オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	DD	DD	CR	EN	EN		
コノハズク	<i>Otus sunia</i>	・	・	CR	EN	EN		
フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	CR	VU	EN	VU	EN		
アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	CR	EN	CR	VU	CR		
トラフズク	<i>Asio otus</i>	CR	EN	EN	VU	EN		
コミミズク	<i>Asio flammeus</i>	CR	EN	EN	VU	EN		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ブッポウソウ目	CORACIIFORMES							
カワセミ科	Alcedinidae							
アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	・	・	CR	CR	CR		
カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	VU	NT	NT	NT	NT		
ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	・	・	EN	EN	EN		
ブッポウソウ科	Coraciidae							
ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	・	・	CR	CR	CR	EN	
キツツキ目	PICIFORMES							
キツツキ科	Picidae							
オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	・	・	NT	NT	NT		
アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	・	○	NT	○	NT		
アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	EN	○	○	○	NT		
ハヤブサ目	FALCONIFORMES							
ハヤブサ科	Falconidae							
チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	EN	VU	VU	NT	VU		
コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	DD	・	・	・	DD		
チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	DD	・	・	・	DD		
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	EN	VU	VU	CR	CR	VU	
スズメ目	PASSERIFORMES							
ヤイロチョウ科	Pittidae							
ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	・	・	・	CR	CR	EN	
サンショウクイ科	Campephagidae							
サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus divaricatus</i>	EX	CR	CR	CR	CR	VU	1
リュウキュウサンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus tegimae</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
カササギヒタキ科	Monarchidae							
サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	EX	VU	VU	VU	VU		
モズ科	Laniidae							
チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>	EX	CR	CR	CR	CR	CR	
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	CR	VU	NT	NT	NT		
アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	CR	CR	CR	CR	CR	EN	
カラス科	Corvidae							
オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>	・	・	・	VU	VU		
キクイタダキ科	Regulidae							
キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○	○	NT	VU	VU		
シジュウカラ科	Paridae							
ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	VU	○	○	○	○		
ヒバリ科	Alaudidae							
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	VU	VU	VU	VU	VU		
ツバメ科	Hirundinidae							
コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	VU	・	NT	・	NT		
イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	DD	NT	NT	○	NT		
ウグイス科	Cettiidae							
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	*①	*①		
ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	・	VU	VU	NT	NT		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ムシクイ科	Phylloscopidae							
メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	・	・	・	VU	VU		
エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	・	・	・	VU	VU		
センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	EX	CR	VU	VU	VU		
センニュウ科	Locustellidae							
オオセッカ	<i>Locustella pryeri</i>	CR	・	・	・	CR	EN	
ヨシキリ科	Acrocephalidae							
オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	・	・	DD	DD	DD		
セッカ科	Cisticolidae							
セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	CR	VU	VU	VU	VU		
ゴジュウカラ科	Sittidae							
ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	・	・	VU	NT	NT		
キバシリ科	Certhiidae							
キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	・	・	NT	NT	NT		
ミソサザイ科	Troglodytidae							
ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	NT	NT	○	NT		
カワガラス科	Cinclidae							
カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	・	・	VU	NT	NT		
ヒタキ科	Muscicapidae							
マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>	・	・	NT	VU	VU		
トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	VU	VU	VU	NT	VU		
クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	・	NT	NT	NT	NT		
コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	・	・	・	VU	VU		
コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	・	・	・	EN	EN		
イノヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	NT	NT	NT	DD	NT		
サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	・	・	・	NT	NT		
コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	EX	VU	VU	VU	VU		
オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	・	NT	NT	NT	NT		
イワヒバリ科	Prunellidae							
カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	・	・	NT	NT	NT		
セキレイ科	Motacillidae							
セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	VU	NT	NT	○	NT		
アトリ科	Fringillidae							
ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>	・	・	DD	DD	DD		
ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	VU	NT	NT	NT	NT		
オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>	・	・	DD	DD	DD		
イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>	・	・	・	DD	DD		
ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	NT	NT	NT	VU	VU		
イカル	<i>Eophona personata</i>	NT	NT	○	○	NT		
ホオジロ科	Emberizidae							
ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	EN	NT	NT	NT	NT		
カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	VU	VU	NT	NT	VU		
クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	NT	NT	NT	EN	EN		
コジュリン	<i>Emberiza yessoensis</i>	DD	・	・	・	DD	VU	
オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	NT	NT	NT	NT	NT		

和名、学名、配列は「日本鳥学会目録編集委員会編，2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会」に準拠した。

【備考】

1:最近の研究結果に従って学名を変更した。前回記載の学名は *Pericrocotus divaricatus* である。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
スズガモ	区部	特定の生息地への集中が強く、環境条件の変化により生息状況が急変する可能性があるため
	本土部	
カンムリカイツブリ	区部	特定の生息地への集中が強く、環境条件の変化により生息状況が急変する可能性があるため
	北多摩	
	本土部	
ハジロカイツブリ	北多摩	特定の生息地への集中が強く、環境条件の変化により生息状況が急変する可能性があるため
ウミネコ	区部	数が少なく都市部での繁殖であり、増減の傾向が不明であるため
	本土部	
ウグイス	西多摩	山地から平地まで広く分布するが、山地ではニホンジカの食害・ササ枯れにより林床植生がなくなっており、影響がある可能性があるため
	本土部	

5. 爬虫類

【選定・評価方法の概要】

東京都産（本土部）の爬虫類は外来種を除き 13 種であり、その内訳はカメ類 2 種、トカゲ類 3 種、ヘビ類 8 種である。前回の東京都レッドリストでは外来種である可能性を示しつつもクサガメを評価対象としていたが、2010 年からの 10 年間でクサガメが外来種であることを支持する研究結果が複数発表されていることを考慮し、今回はリストから除いた。その結果、今回の掲載種は前回の 14 種から 1 種減少している。

絶滅のおそれのある評価は、基本的に定性的要件を用いた。東京都産の爬虫類に関しては、分布、生息状況に関する客観的データが極めて少なかったため、水田・森林面積の推移、およびリスト作成のための検討委員による野外観察情報を参考に評価作業を行った。

【選定・評価結果の概要】

評価作業の結果、全 13 種がレッドリストの掲載種に選定された。

ニホンイシガメ、ニホンスッポンについては、それぞれペット用、食用としての流通が以前より多く、そのことを考慮すると、自然分布ではなく放逐された個体が多くを占める可能性が高い。しかし、分布状況の調査、および遺伝的調査が十分に実施されているとは言えず、在来個体の存在が完全に否定できる証拠はない。また、前回の東京都レッドリスト改定時と比較して生息環境が増加したとも言えないため、前回の評価を保持することにした。なお、本評価に影響を与えるものではないが、この 2 種のカメが生息できる環境が東京都内に存在することは、高く評価されるべきものであろう。

ニホンヤモリは、シナントローブ*の代表ともいえる生物で、現時点で絶滅のおそれはないが、個体数の推移に留意が必要である。古い木造の住宅が減り、現在の気密性の高い住宅に置き換わっている状況は本種の生息できる環境の減少につながっている可能性が高い。また、餌となる昆虫類の生息状況も個体数に大きく影響を与える要因となることから、注意を払う必要がある。ニホンカナヘビは日当たりの良い草地等を好んで生息するが、区部では見かけることが減っていることから、急激に個体数が減少している可能性が高く、区部のランクを前回の VU から CR+EN に上げた。原因としては、都市化により雑草が放置されている場所が減少したこと、餌となる昆虫類が減少したことの両方が考えられる。

小型で地中性のタカチホヘビは人目につきにくく、生息数を把握することが難しい。しかし、極めて乾燥に弱く、宅地化が進んだ区部、北多摩では生息していないか、局所的にしか生息していないと考えられるため、データは少ないものの CR と評価した。同様に夜行性で人目につきにくいシロマダラもデータが少ないが、北多摩には生息環境が少ないと思われるので、前回の DD から CR+EN に評価を変更した。ヤマカガシはカエル類を主な餌としていることから、カエル類の個体数に強く影響を受けると考えられる。北多摩、南多摩ではカエル類が好んで生息する水田が減少しており、その結果、本種の個体数が 10 年

前より大きく減少したことが推測され、野外での目撃例も減っているようである。したがって、北多摩、南多摩の評価を変更し、前回の VU から北多摩では CR、南多摩では EN にランクを上げた。前回の総説にもヤマカガシが著しく減少していることに触れられているが、この 10 年でさらに大きく個体数が減少した可能性が高く、今後の推移にきわめて注意を要するもののひとつである。また、ヤマカガシほどではないもののシマヘビもカエル類を餌とするヘビ類であり、水田等の水辺周辺を好む。南多摩の水田が減少していることから、評価を NT から VU に変更した。

毎年同じ場所で繁殖が観察される両生類とは異なり、少ない回数の野外調査で爬虫類の生息状況を把握することは難しい。特に隠蔽性の高いジムグリ、シロマダラ、タカチホヘビでは、気づかずに個体数が急激に減少することも起こりうるため、樹林地面積の減少等に注意を払う必要がある。一方、比較的目につきやすいニホンカナヘビ、ヤマカガシの目撃例が減少していることには、注視をしておく必要がある。特にニホンカナヘビの減少の原因が何であるかは明らかではなく、今後の慎重な調査が求められるであろう。

*シナントロープ *Synanthrope* 寄生や家畜化ではなく野生の生活を堅持しつつも人間の生活活動によって得られる利益を最大限に利用して種の維持繁栄をはかる野生動物。ニホンヤモリのほかにドバト、スズメ、ハシブトガラス、ドブネズミなどが該当する。

[引用文献]

疋田努・鈴木大, 2010. 江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入. 爬虫両棲類学会報, 2010(1): 41-46.

(坂田 修一)

爬虫類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
カメ目	TESTUDINES							
イシガメ科	Geoemydidae							
ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	CR	CR	CR	CR	CR	NT	
スッポン科	Trionychidae							
ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	CR+EN	CR+EN	CR+EN	CR+EN	CR+EN	DD	1
有鱗目	SQUAMATA							
ヤモリ科	Gekkonidae							
ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	VU	*①⑤	*①⑤	*①⑤	NT		
トカゲ科	Scincidae							
ヒガシニホントカゲ	<i>Plestiodon finitimus</i>	CR+EN	VU	VU	NT	VU		2
カナヘビ科	Lacertidae							
ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	CR+EN	VU	NT	NT	VU		
タカチホヘビ科	Xenodermidae							
タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>	CR	CR	VU	NT	VU		3
ナミヘビ科	Colubridae							
シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>	CR+EN	CR+EN	VU	NT	VU		4
ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	CR	CR	VU	NT	VU		
アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	CR	VU	VU	NT	VU		
ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>	VU	VU	NT	NT	VU		5
ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	CR	CR	EN	VU	VU		6
クサリヘビ科	Viperidae							
ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	CR	CR	CR	EN	EN		

和名、学名、配列は「日本爬虫両棲類学会，2020．日本産爬虫両生類標準和名リスト(2020年11月16日版)．日本爬虫両棲類学会」に準拠した。

【備考】

番号1、4～6の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Pelodiscus sinensis japonicus* である。
- 2: 東日本に生息するニホントカゲの個体群は、2012年に独立種ヒガシニホントカゲとして記載されたので、本改定では和名および学名を変更した。前回記載の和名および学名はニホントカゲ *Plestiodon japonicus* である。
- 3: 最近の研究結果に従って所属をタカチホヘビ科に変更した。
- 4: 前回記載の学名は *Dinodon orientale* である。
- 5: 前回記載の学名は *Amphiesma vibakari vibakari* である。
- 6: 前回記載の学名は *Rhabdophis tigrinus tigrinus* である。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
ニホンヤモリ	北多摩	家屋等の人工的な環境を好んで住むことから、建築物の材質、構造の変化の影響を受けることが考えられる。自然環境の変化だけでなく、古い木造建築等の減少に継続的に注目していく必要があるため
	南多摩	
	西多摩	

6. 両生類

【選定・評価方法の概要】

東京都には2目6科10属15種の在来両生類の生息が確認されている。今回の改定では、15種すべてを検討対象種とした。なお、東京都に生息するヒダサンショウウオの集団は、2018年に独立種ヒガシヒダサンショウウオとして記載されたので今回の改定では種名を変更した。文献調査および実地調査に基づいて、検討対象種の生息状況を把握するように努めた。その際、分布域の特定や個体群密度の推定が可能な種については、定量的要件を用い、それが難しい種では定性的要件で評価を行った。

【選定・評価結果の概要】

サンショウウオ目では前回(2010年版)同様、東京都に生息する4種すべてが本レッドリストの掲載種となった。カエル目についても東京都に生息している在来カエル類11種すべてが掲載種となった。

今回の改定で、前回より生息状況が改善した種もしくは地域はなかった。水田の減少、谷戸田の耕作放棄や乾燥化、アライグマやウシガエルなどの外来種による捕食、トウキョウサンショウウオで顕著な販売目的の採集、アズマヒキガエルで確認された他亜種との交雑など、様々な要因によって東京都の両生類の生息状況は悪化しており、前回よりランクを上げなければならなかった種は5種9地域となった。

本改定において定量的要件で評価できたのはトウキョウサンショウウオのみであった。本種については最近20年間のモニタリングデータから30年間(3世代時間)の個体群衰退を推定した。その結果、30年間(3世代時間)で繁殖地の50%弱が消失し、さらに残った繁殖地でも個体群サイズの縮小が進み、東京都全体で総産卵メスの個体数は65%程減少したと推定された。同じように止水で繁殖するアカハライモリでも個体群サイズの縮小の状況はトウキョウサンショウウオと変わらないと推定される。一方、西多摩の山地溪流で繁殖するハコネサンショウウオでは一部の地域を除き大きな変化はないように見えるが、ヒガシヒダサンショウウオについてはインターネットを経由した販売目的の採集や写真撮影のための観察会による環境かく乱が個体群の存続を危うくさせる要因となりつつある。なお、絶滅危惧IA類と判定されたのはトウキョウサンショウウオ(北多摩)とアカハライモリ(区部)の2種2地域であった。

カエル目では、溪流性のカジカガエルやタゴガエルなどのランクは前回と同じとなった。一方、水田の減少傾向が続いていることを受けて、地域によっては水田に依存するトウキョウダルマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエルのランクが上がった。また、前回、区部のみ準絶滅危惧とされたアズマヒキガエルは、ニホンヒキガエルとの交雑や繁殖地の減少を受けて、すべての地域でランクが上がることになった。

以下、地域区分ごとの評価について概観する。区部は水田や自然湿地が極端に少なく、

両生類の生息地は河川敷や水辺公園などに限定されるが、その何れもが小規模で孤立している。また、前回改定の際に指摘されたウシガエルの分布拡大は継続しており、さらに国内外来種であるヌマガエルの侵入定着が新たに確認され、在来種に悪影響を及ぼしている。前回と評価が変わったのは、ニホンヒキガエルとの交雑が明らかとなったアズマヒキガエルだけである。しかし、それ以外の種の生息状況が厳しいことには変わりなく、特にツチガエルとサンショウウオ目で唯一区部に生息するアカハライモリについては、信頼できる生息情報がなく、すでに絶滅した可能性も否定できない。

北多摩は区部に次いで生息環境が悪化している。狭山丘陵にはトウキョウサンショウウオが現在も生息するが、最近数年間で特に激しく衰退し、30年間に96%減少したと推定され、東京都内でも本種の絶滅が最も危惧される地域である。カエル類では、ニホンヒキガエルとの交雑が確認されたアズマヒキガエルの評価が前回のランク外から絶滅危惧Ⅱ類に変更された。また、トウキョウダルマガエルは、既知の生息地が僅かとなったために絶滅危惧ⅠA類となった。

南多摩には良好な丘陵地が残されているが、水田の減少、休耕田の増加は続いている。サンショウウオ目の評価には変化がないが、八王子市西部のヒガシヒダサンショウウオの生息環境は現在良好な環境とは決して言えず、生息分布の縮小が続いている。特に高尾山周辺では最近30年間程生息情報がほとんどない。アズマヒキガエル以外のカエル類の評価は前回と同じとなった。アズマヒキガエルについては繁殖個体数の減少が著しい上、ニホンヒキガエルとの交雑も懸念されることから絶滅危惧Ⅱ類になった。

西多摩は今回の改定でランクが変更された種が多くなった。ハコネサンショウウオやナガレタゴガエルなどの山地性の両生類は前回と同じランクに留まった。ただし、ヒガシヒダサンショウウオは前回の準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類となった。一方、トウキョウサンショウウオのランクに変更はないものの、基準産地であるあきる野市・日の出町の丘陵部でも他地域と同様に谷戸田の乾燥化が進み、アライグマによる捕食、人による採集などで、30年間で本種の個体群が1/3に衰退したと推定された。カエル目ではニホンアカガエルが絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧ⅠB類へ、ヤマアカガエルが準絶滅危惧から絶滅危惧Ⅱ類へ、それぞれ引き上げられた。前回ランク外であったアズマヒキガエルは、繁殖地の消失が相次いでいるという報告を受けて、準絶滅危惧とした。

各地域区分の評価を総合的に検討し、東京都全体としての評価を行った結果、サンショウウオ目では、絶滅危惧ⅠB類2種、絶滅危惧Ⅱ類1種、準絶滅危惧1種、カエル目では、絶滅危惧ⅠB類2種、絶滅危惧Ⅱ類2種、準絶滅危惧7種となった。すなわち、東京都に生息する両生類はすべて準絶滅危惧以上と評価された。

(福山 欣司・草野 保)

両生類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
有尾目	CAUDATA							
サンショウウオ科	Hynobiidae							
トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	・	CR	EN	EN	EN	VU	
ヒガシヒダサンショウウオ	<i>Hynobius fossigenus</i>	・	・	EN	VU	VU	VU	1
ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>	・	・	・	NT	NT		
イモリ科	Salamandridae							
アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	CR	EN	EN	EN	EN	NT	
無尾目	ANURA							
ヒキガエル科	Bufonidae							
アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	VU	VU	VU	NT	NT		
アマガエル科	Hylidae							
ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>	EN	VU	VU	NT	NT		2
アカガエル科	Ranidae							
タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	・	・	VU	NT	NT		
ナガレタゴガエル	<i>Rana sakuraii</i>	・	・	VU	NT	NT		
ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	EN	EN	EN	EN	EN		
ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	・	EN	EN	VU	VU		
ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	CR	CR	CR	VU	VU		3
トウキョウダルマガエル	<i>Pelophylax porosus porosus</i>	CR	CR	EN	EN	EN	NT	4
アオガエル科	Rhacophoridae							
シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>	CR	VU	VU	NT	NT		5
モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>	・	NT	NT	NT	NT		6
カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	・	VU	VU	NT	NT		

和名、学名、配列は「日本爬虫両棲類学会，2020. 日本産爬虫両生類標準和名リスト(2020年11月16日版). 日本爬虫両棲類学会」に準拠した。

【備考】

番号2～6の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

- 1: 東京都に生息するヒダサンショウウオの集団は、2018年に独立種ヒガシヒダサンショウウオとして記載されたので本改定では和名および学名を変更した。前回記載の和名および学名はヒダサンショウウオ *Hynobius kimurae* である。
- 2: 前回記載の学名は *Hyla japonica* である。
- 3: 前回記載の学名は *Rana rugosa* である。
- 4: 前回記載の学名は *Rana porosa porosa* である。
- 5: 前回記載の学名は *Rhacophorus schlegelii* である。
- 6: 前回記載の学名は *Rhacophorus arboreus* である。

7. 淡水魚類

【選定・評価方法の概要】

東京都の淡水魚類の生息水域は、江戸川を含む利根川水系と、隅田川や神田川などを含む荒川水系、多摩川水系、鶴見川水系源流部、目黒川を始めとする小規模河川群とそれらに付随する湧水地や溜池からなる。なお、ここでいう淡水魚類は純淡水魚のほか、通し回遊魚*1や汽水魚*2を含んでいる。

多摩川水系は、Aa型*3の源流部から感潮域*4まで多様な河川環境を持つ都内唯一の水系である。利根川水系と荒川水系は河川形態 Bc型*3の下流域と感潮域からなり、両岸には切り立ったコンクリート護岸が施されている。河口部には局所的に干潟や人工干潟が形成されており、狭いながらも汽水魚の生息水域となっている。

淡水魚類の検討対象種は、前回（2010年版）の掲載種の38種に16種を加えた54種とし、絶滅のおそれの評価は、基本的に定性的要件を用いた。なお、前回以降、日本産淡水魚類の分類学的研究が進み、その研究成果を受けて、カマツカ類、ドジョウ類、ヨシノボリ類、ジュズカケハゼ類については新たな分類体系で示した。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、13科52種が本レッドリストの掲載種に選定された。淡水魚類については、新たな分類体系に基づく調査が浸透しておらず、絶滅危惧に該当する可能性がありながら科学的知見に基づく生息情報が不足しているため、今回はDD（情報不足）としたものも多い。なお、前回（2010年版）においてカマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus* として掲載した種は、2019年に公表された分類学的研究によってカマツカ *Pseudogobio esocinus*、ナガレカマツカ *Pseudogobio agathonectris*、及びスナゴカマツカ *Pseudogobio polystictus* の3種に細分された。この研究成果に基づき、東京都内に自然分布している種としてスナゴカマツカを評価対象とした。なお、カマツカの自然分布は西日本であるが、多摩川水系では放流された本種とスナゴカマツカが交雑を起しており、国内外来種に位置付けられることから対象外とした。また、ナマズについては、関東の個体群は導入由来とされていることから国内外来種と評価し、今回は対象外とした。

多摩川流域では、奥多摩湖より上流の渓流域にはヤマメ、ニッコウイワナ、カジカ大卵型、アブラハヤ、ウグイなどの生息域がまだ広く存在するが、2019年の台風19号による洪水の影響（低水護岸の崩壊、土砂の堆積など）で河床が荒廃し、自然繁殖が困難に陥っている水域が多い。現在見られるヤマメやニッコウイワナの多くは種苗放流によって維持されている個体群であり、天然個体群はごく限られた水域に残存するのみである。

奥多摩湖下流から日原川合流までの多摩川は、河川流量が非常に少なく、魚類相も貧弱である。日原川の合流点から羽村堰までは清冽な水が確保されており、ヤマメやウグイ、カジカ大卵型などが生息しているが、瀬は河床のアーマー化*5が進み、淵は砂で埋まり河

川環境の多様性が乏しく、魚類の生息数も限られている。

羽村堰から下流は、水道水等の取水により河川流量が極端に少なくなる。更に下流の多摩大橋付近からは下水処理水が放流されて河川流量は増加するが、水温や水質が大きく変化するために魚類相や底生動物相は大きく変化する。以前は農繁期限定で羽村堰から毎秒2トンの灌漑用水が下流へ放水されていたが、20年ほど前から環境維持用水として年間を通じて毎秒2トンが流されるようになり、冬季の生息環境は改善されている。

調布取水堰より下流の感潮域は、下水道の整備や環境維持用水の確保などにより水質は高度経済成長期と比較して大幅に改善している。また、調布取水堰が平成18年よりアユの遡上期に合わせて堰が開放されるようになったことにより、堰の上流に堆積していた土砂が河口域に供給されて河口の干潟が復活した。これらの環境変化を反映し、河口域における汽水魚の出現種数や生息数は近年増加傾向にある。

このように、多摩川水系の淡水魚類の生息状況は、全体としてみた場合には近年好転傾向にある。特に増加が目立つのは中流域ではウグイ、ニゴイ、河口域ではボラ類、マルタ、池沼ではモツゴなどであり、いずれも水質汚濁に比較的強い種である。

多摩川以外の河川でも、下水道等の整備によって昭和60年前後を境に水質の改善が進み、荒川、江戸川、多摩川の下流域や多くの小規模河川では、平成15年頃よりアユやウキゴリ類などの回遊魚の遡上が顕著に回復し、野川や善福寺川などではアブラハヤやギバチなど比較的きれいな水を好む淡水魚の姿も見られるようになった。

都内の淡水魚類の生息状況は過去10年の間に比較的改善されてきており、長年にわたり進められた下水道等の整備や、自然環境に配慮した河川整備、一部の河川で実施されている高度処理水を利用した流量の確保などが、一定の効果を表したものと評価される。

しかし、昭和30年頃まで回遊魚の最優占種であったヨシノボリ類やチチブ類、重要な漁業対象種であったニホンウナギには回復の兆しは見られない。これらの底生回遊魚の復活を妨げる最大の要因は、各河川の河口域の底層水や底泥の有機汚染が現在もまだ解決されておらず、特に初夏以降の高水温期に酸欠状態となることにあると推定される。川を流下する様々な有機汚染物質が河口域の水底に集中的に堆積する現状を打開する新しい取り組みが望まれる。

多摩川や荒川などの大規模河川には、ダムや堰などの河川横断工作物が多数設置されている。これらの工作物には人工魚道が設置されていないか、設置されていても機能的に充分とは言い難いため、アユやハゼ類を中心とする多くの回遊魚は生息できる水域が実質的に中下流域のごく一部に限定されている。

多摩川水系では、外来種の侵入が影響を及ぼし、国内外来種としてはカワムツ、ムギツク、スゴモロコ、オヤニラミ、カワヨシノボリなどが目立っている。また、国外外来種では、特定外来生物に指定されているカダヤシやオオクチバスなどに加えて、近年では更にコクチバスなども増加傾向にあり、在来種への食害等が懸念されている。かつての状況に比べれば、近年では市民等の環境意識の高まりも影響しているのか、記録される外来種の

種数については減少傾向にあるが、未だ在来種数よりも多いのが現状である。

また、在来個体群の遺伝的多様性の保全を配慮しない放流事業の影響も課題として挙げられる。例えば、ギンブナは3倍体のクローン生殖（雌性発生）が基本であるが、まれに有性生殖を行うことがあり、放流由来の個体が在来個体群の遺伝的かく乱を起こしている可能性がある。また、オイカワや前述のスナゴカマツカのように、関東地方に在来の遺伝子型が確認されている種についても放流等により交雑が進み、在来系統の個体がほとんど見られなくなっている事例もある。

近年頻発している集中豪雨や台風は、想定外の洪水により河川環境を劇的に変化させ、良好な生息環境を短時間で失わせている。2019年の台風は大雨をもたらし、西多摩や南多摩に残る水田地帯と里山の細流や湧水地が土砂で埋まり、多摩川本流の湧水地は河床の変動で消滅した。都市化された小河川の淡水魚類は海まで流失し、淡水魚類が確認できなくなった河川があった。多摩川では奥多摩湖に流入したシルトを含んだ濁水や、復旧工事に伴う泥水が河川水を長期にわたり濁らせるため、生息できる魚族の減少が懸念される。

近年の夏季における猛暑は水温の上昇を招き、低水温を好む魚は中下流においては数を減らしている。暖冬は産卵時期や遡上時期の変化を生じさせ、今後において魚類相の変化が起こる可能性が有り、定期的に細かく観察し記録していく必要がある。

大規模河川の両岸には広大な高水敷が見られるが、多くはグラウンド等に利用されており、その結果として河川の岸辺の環境多様性（氾濫原湿地における一時的水域・湾処・流路等）は大きく損なわれ、親水機能もまた失われている。淡水魚類の多様性を今以上に回復するためには、産卵や仔稚魚の成育環境である細流や池沼、ヨシ帯などの多様な水辺環境を復元することが必要となる。

*1 川と海を往来する回遊を行う魚

*2 河川の河口部周辺など、淡水と海水が混合する汽水域を主な生息場とする魚

*3 可児藤吉による河川区分で、Aa型とは1蛇行区間に瀬と淵が複数あり、瀬と淵の落差が大きい場合をいう。Bc型とは1蛇行区間に瀬と淵が一つずつあり、瀬と淵の落差が小さくて瀬から淵へ波立たずに流れ込む場合をいう。

*4 河川の下流部で海洋の潮汐変動に応じて水位変動が起こる区間

*5 上流からの細粒の砂礫の供給が減少することで河床表面から細粒の砂礫が失われ、河床が大粒径の石だけに覆われるようになり、極端な場合には河床に岩盤や粘土層などが露出する現象

[引用文献]

- 細谷和海編・監修, 2019. 山溪ハンディ図鑑 15 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社.
- Kitanishi, S., A. Hayakawa, K. Takamura, J. Nakajima, Y. Kawaguchi, N. Onikura & T. Mukai (2016) Phylogeography of *Opsariichthys platypus* in Japan based on mitochondrial DNA sequences. Ichthyological Research, 63: 506–518. DOI: 10.1007/s10228-016-0522-y
- Mishina, T. (2018) Origin, diversity, and evolutionary implications of unisexual vertebrates: comparative study on gynogenetic and hybridogenetic fishes. Doctoral Thesis, Kyoto University. DOI: 10.14989/doctor.k20956
- 中坊徹次編, 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会.
- 中坊徹次編・監修, 2018. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館～精緻な写真と詳しい解説～. 小学館.
- Tominaga, K. & S. Kawase (2019) Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes: Cyprinidae: Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus* (Temminck and Schlegel 1846). Ichthyological Research, 66: 488–508. DOI: 10.1007/s10228-019-00693-x

(丸山 隆・山崎 充哲・宮崎 佑介)

淡水産魚類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

標準和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ヤツメウナギ目	PETROMYZONTIFORMES							
ヤツメウナギ科	Petromyzontidae							
スナヤツメ種群	<i>Lethenteron reissneri</i> complex	CR	CR	CR	CR	CR	VU	1,2
ウナギ目	ANGUILLIFORMES							
ウナギ科	Anguillidae							
ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	EN	EN	EN	EN	EN	EN	3
コイ目	CYPRINIFORMES							
コイ科	Cyprinidae							
キンブナ	<i>Carassius buergeri</i> subsp.2	EN	EN	EN	EN	EN	VU	4
ギンブナ	<i>Carassius</i> sp.	DD	DD	DD	DD	DD		
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	EX	EX	—	—	EX	CR	
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	EX	EX	DD	DD	EX	NT	
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	EX	EX	EX	—	EX	EN	
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>	EX	—	—	EX	EX	EN	5
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	EX	EX	EX	—	EX	CR	
オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>	VU	VU	VU	CR	VU		
マルタ	<i>Tribolodon brandtii</i>	NT	NT	NT	・	NT		
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila pumila</i>	EX	—	—	—	EX	CR	
スナゴカマツカ	<i>Pseudogobio polystictus</i>	DD	DD	DD	DD	DD		6
ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	NT	NT	○	○	NT		
ドジョウ科	Cobitidae							
ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	DD	DD	DD	DD	DD	NT	7
キタドジョウ	<i>Misgurnus</i> sp.(Clade A)	DD	DD	DD	DD	DD	DD	7
ヒガシシマドジョウ	<i>Cobitis</i> sp. BIWAE type C	VU	VU	NT	NT	VU		8
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	EN	EN	EN	EN	EN	EN	
ナマズ目	SILURIFORMES							
ギギ科	Bagridae							
ギバチ	<i>Tachysurus tokiensis</i>	CR	VU	VU	VU	VU	VU	9
サケ目	SALMONIFORMES							
シラウオ科	Salangidae							
イシカワシラウオ	<i>Salangichthys ishikawae</i>	CR	・	・	・	CR		
サケ科	Salmonidae							
ニッコウイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis pluvius</i>	・	・	・	CR	CR	DD	
サクラマス(降海型), ヤマメ(陸封型)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>	CR	CR	CR	EN	CR	NT	
トゲウオ目	GASTEROSTEIFORMES							
トゲウオ科	Gasterosteidae							
ムサシトミヨ	<i>Pungitius</i> sp.4	EX	EX	・	・	EX	CR	10

標準和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ボラ目	MUGILIFORMES							
ボラ科	Mugilidae							
メナダ	<i>Chelon haematocheilus</i>	VU	VU	・	・	VU		
ダツ目	BELONIFORMES							
メダカ科	Adrianichthyidae							
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	CR	CR	CR	CR	CR	VU	11
サヨリ科	Hemiramphidae							
クルマサヨリ	<i>Hyporhamphus intermedius</i>	CR	・	・	・	CR	NT	
スズキ目	PERCIFORMES							
カジカ科	Cottidae							
カジカ大卵型	<i>Cottus pollux</i>	—	—	EN	EN	EN	NT	12
ハゼ科	Gobiidae							
ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	DD	・	・	・	DD		
シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>	DD	・	・	・	DD	VU	
トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>	CR	・	・	・	CR	NT	
アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	NT	・	・	・	NT		
ボウズハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i>	DD	DD	DD	—	DD		
アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	NT	・	・	・	NT		
マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	VU	・	・	・	VU	VU	
ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	NT	NT	NT	—	NT		
トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp.OR	DD	DD	DD	DD	DD		
クロヨシノボリ	<i>Rhinogobius brunneus</i>	DD	DD	DD	DD	DD		13
オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	DD	DD	DD	DD	DD		13
クロダハゼ	<i>Rhinogobius kurodai</i>	DD	DD	DD	DD	DD		13
ルリヨシノボリ	<i>Rhinogobius mizunoi</i>	DD	DD	DD	DD	DD		13
シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	DD	・	・	・	DD		
モヨウハゼ	<i>Acentrogobius pflaumii</i>	DD	・	・	・	DD		14
ツマガロスジハゼ	<i>Acentrogobius</i> sp.2	DD	・	・	・	DD		
スジハゼ	<i>Acentrogobius virgatulus</i>	DD	・	・	・	DD		
ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	NT	・	・	・	NT		
ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	NT	NT	NT	NT	NT		
ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	NT	・	・	・	NT		15
ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius castaneus</i>	DD	DD	DD	DD	DD	NT	16
ムサシノジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius</i> sp.1	DD	DD	DD	DD	DD	EN	17
エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognaθος</i>	VU	・	・	・	VU	VU	

標準和名、学名、配列は「中坊徹次編, 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会」に準拠し、2013年以降に分類の変更があった種群については「細谷和海編・監修, 2019. 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社」に準拠した。

【備考】

番号 2～5、9～12、14、15 の種は、最近の研究結果に従って標準和名または学名、あるいは標準和名と学名を変更した。

- 1: 南方種と北方種の識別は DNA 解析が必要であり、都内の両者を分けた分布状況や実態の知見は十分ではない。
- 2: 前回記載の標準和名および学名はスナヤツメ *Lethenteron reissneri* である。
- 3: 前回記載の標準和名はウナギである。
- 4: 前回記載の学名は *Carassius auratus* subsp.2 である。
- 5: 前回記載の学名は *Acheilognathus tabira* subsp.1 である。
- 6: カマツカ類については分類学的研究が進み、東日本のものはスナゴカマツカとして区別された。東京都内はスナゴカマツカの自然分布域であることから、本改定では標準和名および学名を変更した。前回記載の標準和名および学名はカマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus* である。
- 7: ドジョウ類については分類学的研究が進み、従来ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* とされていた種は、ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus*、キタドジョウ *Misgurnus* sp. (Clade A)、ヒョウモンドジョウ *Misgurnus* sp. OK、シノビドジョウ *Misgurnus* sp. IR の 4 種に細分された。本改定では、東京都に生息するこれらのうちの前 2 種を取り扱った。
- 8: シマドジョウ類についても分類学的研究が進み、従来のシマドジョウ東日本グループとされていた種はヒガシシマドジョウと分類されたため、本改定では標準和名および学名を変更した。前回記載の標準和名および学名はシマドジョウ *Cobitis biwae* である。
- 9: 前回記載の学名は *Pseudobagrus tokiensis* である。
- 10: 前回記載の学名は *Pungitius* sp. である。
- 11: 前回記載の標準和名はメダカである。
- 12: 前回記載の標準和名はカジカである。
- 13: これまでヨシノボリ類については分類学的研究が進み、細分類した際に確認記録される可能性があるため、本改定でリストに追加した。
- 14: 前回記載の標準和名はスジハゼである。
- 15: 前回記載の学名は *Gymnogobius castaneus* である。
- 16: ジュズカケハゼ類については分類学的研究が進み、都内では広域分布種と関東固有種の 2 種が記録されている。本種は広域分布種であり、本改定では新しい知見に基づき学名を変更した。前回記載の学名は *Gymnogobius laevis* である。
- 17: 上記の備考 16 における関東固有種である。

8. 昆虫類

【選定・評価方法の概要】

東京都本土部は雲取山から東京湾岸に至る約 2,000mにも及ぶ標高差と気候帯、それに即した多様な植生帯、武蔵野台地に特徴付けられる地形と多摩川、荒川、江戸川に代表される水系から構成される変化に富んだ自然環境を有している。また、人々の生業から形成された二次的自然環境、すなわち里山が広く存在していたことも特徴的な要素である。その結果として、総面積は 47 都道府県中 45 位と狭小であるにも関わらず、全国的に見ても生物多様性の高い地域となっている。昆虫類においても、寒地性種から暖地性種まで幅広く分布しており、石灰岩地や湧水地など特殊な環境要素に固有な種も多く知られている。

『東京都本土部昆虫目録』(<http://tkm.na.coocan.jp/index.html>, 2020 年 2 月 6 日閲覧)によれば、閲覧時点で確実に記録認定されている種として、32 目 10,515 種が示されている。新規記録種も年々増加していることから、実際にはさらに多くの種が分布していることは確実である。しかし、東京都本土部は日本国内において自然環境への負の人為的影響の最も大きな地域でもあることから、すでに絶滅したと判断される種も散見され、現時点においても衰亡著しい種が数多く存在する。一方、高度な都市化が進んだ地域にも多種多様な昆虫類が今なお生息している。その一例として、都心最大の緑地である皇居では、国立科学博物館による 1998 年度から 2013 年度にかけての一連の調査により、絶滅危惧種を含む 3,000 種以上にも及ぶ昆虫類が記録され、調査時に得られた個体を基に新種記載された種も複数存在する。世界有数の大都市でありながらも充実した昆虫相が残されていることは特筆に値する。これは昆虫相のポテンシャルが本来高い地域であることに加え、歴史性を持った大規模緑地が比較的近接した距離で複数存在することが大きく寄与しているものと考えられる。

昆虫類は極めて多様かつ種数も多いことから、改定にあたっては専門部会委員に加え、複数名の各分類群の専門家の協力のもと行ったが、その作業は困難を極めた。

種の評価を行うためには、基礎情報として過去から現在に至る対象種の分布や生息状況、その変化の把握が必要不可欠である。これらの把握はおもに文献調査による既知情報の収集と整理検討によって行われるため、対象とする種や地域における情報がどれだけ集積されているかが重要となる。特に、地域の昆虫相をまとめた「昆虫誌」がある場合にはそれを参照することで基本的な情報を得ることができる。隣接する埼玉県、神奈川県、千葉県では、1990 年代以降、相次いで県単位の昆虫誌が発行されており、すでに改定されている県もあるが、東京都ではいまだ全体を網羅した昆虫誌が発行されていないため、それぞれの種について個別の文献資料に当たらなければならず、基礎的な情報収集すらままならない場合も多く見られた。

併せて重要となるのは、文献調査では不足あるいは得られない対象種の現状を現地調査によって明らかにすることである。昆虫類は種数（＝評価対象種）が極めて多いだけでな

く、発生時期や調査に適した時期が限られる種も多い。さらには、個体群の年次変動も大きく調査時の天候などにも大きく左右されることから、的確な条件時に調査できるよう、可能な限り調査期間を長くとることが必要である。そのため、複数年（概ね3年程度）の調査期間を設けることが一般的であるが、本改定においては2019年度の1シーズンしか実施できなかった。そのため、本来であれば現状を把握すべき種や地域が未調査となり、天候などの兼ね合いで十分な調査結果が得られなかった場合も多く、より客観的な評価を行う上での大きな支障となった。

評価地域区分については、前回改定では区部と多摩地域、それらを併せた本土部、の5区分で評価を行ったが、本改定においては、区分評価を行うための情報が十分得られない種が多いことから、区部と多摩部、それらを併せた本土部、の3区分で評価を行った。しかしながら、多摩部に健全な個体群が存在することから本土部としては絶滅危惧に該当しないような種であっても、区部では絶滅危惧種となっている例も多く、その逆の例も見られるなど、地域区分による評価が必ずしも有効とはいえない場面が多かった。また、極めて多くの種を対象とする昆虫類では作業時間の面からも地域区分の評価には大きな困難を伴った。よって昆虫類については本土部としての評価を基本とし、地域区分評価は補足的な評価として考えている。

評価に当たっては、以下に示す評価基準を定めた。昆虫類においては定量評価を行える分類群は極めて限られ、定性評価によるものが多いことから、評価者による考え方の違いが評価に影響しやすく、全体を通じてより客観的な評価とするためにも、独自に詳細な基準を設ける必要性があった。なお、評価基準については、分類群によって必ずしも当てはまりのよくない事項もあることから、その場合においてはより適した基準を用いて評価を行い、そのことを各分類群の【選定・評価方法の概要】や【選定・評価結果の概要】に示した。

- 評価対象種の考え方として、レッドリストにおいては「種の現状として絶滅が危惧される状況に置かれているかどうか」が一義的な根拠となることから、単に記録が少ないだけの希少種と判断されるものや、環境指標的な種（絶滅危惧に該当しないもの）などは評価対象外とした。希少種なのか絶滅危惧種なのか判断に迷う場合は、生息環境要素の脆弱性や生態的特性、現存分布範囲の規模、全国や近県の状況、などによって判断した。
- 偶産種（過去の定着種も含む。）については、度々記録され生息環境や条件が都内に存在する（＝個体群の生息基盤が存在する）と判断される種、生活環の一部のみ都内で過ごす種については、そのことが種の生活環を完結するために必要不可欠であると判断される場合にはそれぞれ評価対象とした。在来個体群と外来個体群が存在する種について

は、在来個体群のみを評価対象とした。種のステータスが分類学上定まっていな種（未記載種や実態が判らない種）については基本的に評価対象外とした。ただし、種の実態が明らかで、評価に値する情報が得られるものについては考慮した。

○ ランク評価について、EX と CR は、1990 年以降の確実な記録がないあるいは直近の確実な記録から 30 年以上経過している種=EX、近年の記録はないが生息環境や条件は十分残されているか：なし=EX、あり=CR とするか考慮、とし、基本的に CR と EN は分けて評価した。EN から NT については、基本的にチェックシートの判定項目に従い評価した。ただし、判定結果が現状に即さないと判断された場合は、その理由についてコメントの上、ランク修正を行った。DD は「十分な情報が得られれば絶滅危惧に該当すると判断される種」についてのみ用いた。

○ 記録や情報に乏しく、チェックシートの判定項目による判断が困難な場合は、次の 5 つの基準により評価した。

1) 1990 年以降の記録がある、又は直近の記録から 30 年未満、記録時から生息地（=記録地）の環境に大きな変化はないと判断され、現存生息地が 1~2 か所程度と考えられる種=CR、2) 同上で生息地が 3~5 か所程度現存すると考えられる種=EN、3) 同上で生息地が 10 か所程度現存すると考えられる種=VU、4) 同上で生息地がそれ以上現存すると考えられる種=NT、5) 同上で現存生息地数が不明な種、又は大きな変化があったと考えられる種=DD。

○ 評価カテゴリー区分としてのデータ無し（-）は、昆虫類は潜在的に生息する（していた）可能性について客観的に判断できない場合が多いため、基本的に用いなかった。ただし、記録は存在するものの場所や年月日など詳細な情報が不明であり、絶滅危惧に該当すると判断される種についてはデータ無し（-）とした。また、昆虫類の評価はランク評価を基本としたため、留意種については基本的に用いなかった。

本改定作業は 2018~2019 年度にかけての極めて短期間で行ったため、十分な検討ができたとは言えない部分も多く、評価自体を行うことができなかつた分類群もあるが、限られた時間の中において最大限の情報収集を行い、より客観的な評価となるよう努めた。次回改定においては、より充実した改定作業を行えるようになることを期待したい。

（須田 真一）

※【選定・評価結果の概要】については各目に記載のものを参照のこと。

(1) トンボ目

【選定・評価方法の概要】

東京都本土部のトンボ目は古くから記録されており、既に 1932 年には目録が作成されている（奥村，1932）。2019 年末までに東京都本土部から記録されたトンボ目は 97 種、そのうち在来種かつ定着種と判断されるものは 90 種である。これは全国的にも上位に位置する種数であり、面積的に狭小な地域でありながら、種多様性の極めて高い地域であることがうかがえる。しかし、他の分類群同様、高度成長期以降の大規模開発や社会環境の変化に伴い、多くの種で衰亡が見られ、現存種数や生息状況から見た場合、今や全国的に最も貧弱な地域のひとつとなってしまうている。また、東京で得られた個体を基に記載されたものとして、オオモノサシトンボ（葛飾区水元）、グンバイトンボ（三鷹市井の頭）があるが、どちらも東京からの確実な記録が途絶えて久しい。

客観的な評価を行うためには、過去から現在に至る各種の分布、生息状況、その変化の把握が不可欠であることから、既存資料の調査ならびに現地調査によって評価対象種の情報収集を行った。

最近の文献資料としては、皇居（友国ほか，2000；斉藤ほか，2006；須田ほか，2014）、八王子市（須田，2016）など、地域レベルのまとまった報告は見られるものの、基礎資料として利用可能な本土部全域を対象としたものは全くない状況である。しかし、トンボ目は関心の高い分類群であることから、個々の報告や情報は比較的多く、それらを集積することによって、分布や記録の変遷などの情報について、区市町村レベルにおいて一定程度把握することが可能であった。さらに、現状確認が必要な種や地域において、延べ 30 日程度の現地調査を実施して現状把握を行った。ただし、調査を実施した 2019 年度は天候不順の影響が大きく、十分な成果が得られないことも多かった。併せて博物館等の収蔵標本調査も実施した。

評価にあたっては、必要となる情報が一定量集積できたことから、前回改定に引き続き定量要件による判定を試みた。基本となるのは既知生息地数に対する現存生息地数であり、これによって算出される減少率に、生息条件や個体群の維持に重要と考えられる産地の分断程度、環境・生息状況、過去 10 年間の減少度、今後 10 年間の状況予測、種の移動能力の 5 つの補正項の数値を加えた補正減少率を元にランクを決定した。過去の記録は確実なものであれば戦前のものも含めて採用し、現存記録としては 2000 年以降のものを用いた。生息地数の定義については区市町村単位とした。なお、明らかな偶産と考えられるものや、2000 年以降の記録が存在していても、現在に至るまでに絶滅したと判断された場合には現存生息地数として採用していない。

【選定・評価結果の概要】

前回選定された 59 種に、今回新たに検討対象とした 1 種を加えた 60 種について評価を

行った。結果として 50 種が何れかのランクに評価された。基本的に定量的判定による数値によってランク付けしたが、区市町村レベルでは減少が見られないが、個々の生息地レベルでの減少が著しい種や、十分な情報が集積できなかった一部の種については、定性要件を用いて最終的なランクを決定したものもある。なお、本改定においては、本土部としての評価を主たるものとして扱ったため、例えばダビドサナエやヒメサナエ等、区部では絶滅し、今後個体群として復活する可能性はほぼないと考えられるが、多摩部には健全な個体群が存在し、本土部として絶滅のおそれはない、と判断される種についてはランク外として扱った。

なお、近年になって、明らかに人為的な放虫に由来すると判断されるものや、その可能性強く疑われる記録や個体群が存在している。これらについては、確実性の高いものは評価から除外した。このような行為は厳に慎むべきであるが、チョウ類やバッタ類などでも同様の事例が見られる。今後、レッドリストの作成にあたっては、この点にも十分留意する必要がある。

[引用文献]

- 奥村定一, 1932. 東京産蜻蛉目目録. 昆虫, 5(5): 209-215.
齊藤洋一・大和田守・加藤俊一・井上繁一, 2006. 皇居のトンボ類モニタリング調査(2001-2005). 国立科学博物館専報, (43): 383-406.
須田真一・清拓哉, 2014. 皇居のトンボ類. 国立科学博物館専報, (50): 105-128.
須田真一, 2016. トンボ目. 新八王子市史自然調査報告書八王子市動植物目録: 263-270.
友国雅章・齊藤洋一, 2000. 皇居のトンボ. 国立科学博物館専報, (36): 7-18.

(須田 真一)

トンボ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [ー]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
トンボ目	ODONATA					
アオイトンボ科	Lestidae					
コバネアオイトンボ	<i>Lestes japonicus</i>	EX	・	EX	EN	
アオイトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	VU	VU	VU		
ホソミオツネトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	VU	EN	EN		
オツネトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>	CR	CR	CR		
カワトンボ科	Calopterygidae					
ハグロトンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>	VU	○	○		1
アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i>	EX	VU	EN	NT	
ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	EX	EN	EN		
モノサシトンボ科	Platycnemididae					
モノサシトンボ	<i>Pseudocopera annulata</i>	NT	VU	NT		2
オオモノサシトンボ	<i>Pseudocopera tokyoensis</i>	CR	・	CR	EN	3
グンバイトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	EX	EX	EX	NT	
イトトンボ科	Coenagrionidae					
キイトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i>	VU	EN	EN		
ベニイトンボ	<i>Ceriagrion nipponicum</i>	VU	・	VU	NT	
ヒヌマイイトンボ	<i>Mortonagrion Hirosei</i>	CR	・	CR	EN	
モートンイトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	EX	CR	CR	NT	
セスジイトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	CR	CR	CR		4
オオセスジイトンボ	<i>Paracercion plagiosum</i>	EX	・	EX	EN	5
オオイトンボ	<i>Paracercion sieboldii</i>	CR	CR	CR		6
ヤンマ科	Aeshnidae					
ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea</i>	・	VU	VU		
マダラヤンマ	<i>Aeshna mixta soneharai</i>	EX	EX	EX	NT	
カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>	CR	EN	EN		
ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	CR	CR	CR	NT	
アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	EN	EX	EN	NT	
コシボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	EX	VU	EN		
サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i>	CR	VU	EN		7
サナエトンボ科	Gomphidae					
ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	EX	VU	VU		
キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i>	EX	CR	CR	NT	
ホンサナエ	<i>Shaogomphus postocularis postocularis</i>	EN	VU	VU		8
ナゴヤサナエ	<i>Stylurus nagoyanus</i>	DD	DD	DD	VU	
メガネサナエ	<i>Stylurus oculatus</i>	EX	・	EX	VU	
コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i>	CR	EN	CR		
アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	EX	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
ムカシヤンマ科	Petaluridae					
ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i>	・	EN	EN		
エゾトンボ科	Corduliidae					
トラフトンボ	<i>Epithea marginata</i>	CR	EX	CR		
ハネヒロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>	EX	DD	DD	VU	
エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>	EX	CR	CR		
ヤマトンボ科	Macromiidae					
コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	VU	NT	NT		9
キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	・	EX	EX	NT	
トンボ科	Libellulidae					
ベッコウトンボ	<i>Libellula angelina</i>	EX	EX	EX	CR	
ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	VU	VU	VU		
ハラヒロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>	VU	NT	NT		
シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	VU	NT	NT		
ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>	—	—	EX		10
キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>	CR	EX	CR		
マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	EN	NT	NT		
マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i>	VU	EN	VU		
ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	CR	VU	EN		
ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	EN	NT	VU		
リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>	NT	NT	NT		11
オオキトンボ	<i>Sympetrum uniforme</i>	EX	EX	EX	EN	
チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	NT	VU	NT		

和名、学名、配列は「日本昆虫目録編集委員会編, 2017. 日本昆虫目録 第2巻 Catalogue of the Insects of Japan Volume 2 Palaeoptera 旧翅類. 日本昆虫学会」に準拠した。

【備考】

番号 1~9、11 の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Calopteryx atrata* である。
- 2: 前回記載の学名は *Copera annulata* である。
- 3: 前回記載の学名は *Copera tokyoensis* である。
- 4: 前回記載の学名は *Cercion hieroglyphicum* である。
- 5: 前回記載の学名は *Cercion plagiosum* である。
- 6: 前回記載の学名は *Cercion sieboldii* である。
- 7: 前回記載の学名は *Oligoaeschna pryeri* である。
- 8: 前回記載の学名は *Gomphus postocularis* である。
- 9: 前回記載の学名は *Macromia amphigena* である。
- 10: 東京都における記録は「東京府産」とされる標本写真 1 例だけであり、具体的な記録が不明である。そのため、地域区分ごとの評価ができず、本土部全体での判定のみとせざるを得なかった。
- 11: 前回記載の学名は *Sympetrum risi* である。

(2)カマキリ目・バッタ目

【選定・評価方法の概要】

カマキリ目とバッタ目は、共に直翅系昆虫に属する分類群であることにより、ここでまとめて扱う。

東京都本土部のカマキリ目・バッタ目は古くから記録されている。例えば東京府(1938)には武蔵野地域の目録が掲載されており、平山(1933・1937)の図版にも多くの東京産の標本が図示されている。また、東京大学総合研究博物館には、加藤正世博士が収集した戦前から戦後間もない時代の東京産の標本が多く収蔵されている。これらの中には全国的にも生息地が限られているアカハネバッタやヤマトマダラバッタのような種も含まれており、往時の種構成や生息環境をうかがい知ることができる。しかし、他の分類群同様、高度成長期以降の大規模開発や生活様式の変化に伴い、クツワムシやクルマバッタなど、過去には各地で記録されていた普通種が消えていく一方、アオマツムシやヒメクダマキモドキのように、分布域、個体数共に増加し、勢力を増している外来種や暖地性の種もみられる。標本などの根拠が示されている近年の記録としては、皇居(山崎, 2000)や東京港野鳥公園(寺山ほか, 2015)、葛西臨海公園(渡辺ほか, 2018)、森林総合研究所多摩森林科学園(松本ほか, 2019)といった特定の場所、もしくは八王子市(八王子市, 2016)のように限られた地域についてのまとまった報告は見られるが、広域を対象としたものは、前回の改定時と同様、バッタ目では和田(1995・2001)による報文のみであり、カマキリ目では見出せなかった。このように評価に資する基礎的なデータが不足しているのが現状である。そのため、今回の評価はすべて定性的要件によって行い、入手できた文献資料のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考として、一部、現地調査も実施した。

絶滅危惧 I 類のランクについては、絶滅危惧 I A 類 (CR) と絶滅危惧 I B 類 (EN) を区分した。過去の記録はさかのぼれるものについては戦前のものも含め採用した。

検討対象種として評価を行った種はカマキリ目で 3 種、バッタ目は 2010 年版に掲載されている種を中心とした 41 種である。評価にあたっては、多くの方から未発表記録や生息状況などについて多数提供していただいた。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、カマキリ目 2 種、バッタ目 23 種が本レッドリストの掲載種に選定された。評価にあたっては、過去から現在にいたる減少度合いを基本とし、生息環境の脆弱性、分布範囲などの情報も加味してランクを決定した。絶滅危惧に該当するかどうかで判定したため、希少性が高くとも生息環境・状況が安定的であると判断された種や増加傾向にある種、移入が疑われる種についてはランク外とした。

今回、絶滅危惧種の CR、EN、VU となった種についてみると、生息地が河川敷に限られている種や河川に依存している種が多い。特にランクが高いのはエゾエンマコオロギや

カワラバッタのように自然に成立した礫河原に生息する種である。礫河原は出水によるかく乱の影響を受けるが、生息適地が少ないため、生息地の消失を十分に補償できない状況にあると思われる。同様のことが河川のヨシ原に生息するイズササキリのような種についても言える。本種が確認されたことのあるいくつかの場所において現地調査により探索したが、確認に至らなかったことから、生息地の劣化が進んでいると推察される。

一方、草地性の種は、高度成長期以前に比べると生息地は明らかに減っているが、大河川の河川敷草地を中心に一部で安定して生息していることから、一部を除き、ランクの高い種は少なかった。また、樹林性の種は生息環境・状況が比較的安定な傾向にあり、ランクの高い種は少なかった。

なお、スズムシやヒガシキリギリスなどでは、飼育個体の逸出や意図的・非意図的な移入の可能性があるため、これらについても評価の対象から外した。それ以外にも、前回選定された種のうち、植栽樹木の移動による非意図的な移入の可能性が考えられるヒロバネカンタンのような種も評価の対象から外した。

[引用文献]

- 八王子市, 2016. 新八王子市史自然調査報告書, 八王子市動植物目録. 562 pp.
- 平山修次郎, 1933. 原色千種昆虫図譜. 186pp.+104PL.
- 平山修二郎, 1937. 続原色千種昆虫図譜. 194pp.+88PL.
- 松本和馬・佐藤理絵・井上大成・大谷英児, 2019. 森林総合研究所多摩森林科学園の直翅類. 森林総合研究所研究報告, 18(2): 219-230.
- 寺山守・岸本年郎・高桑正敏・酒井香・岸本圭子, 2015. 東京港野鳥公園の昆虫 (甲虫目、ハチ目、チョウ目以外). 神奈川虫報, (186): 47-56.
- 東京府, 1938. 武蔵野昆虫誌. 194+28pp.
- 和田一郎, 1995. 東京の直翅目. ぱったりぎす, (103): 46-65.
- 和田一郎, 2001. 東京 23 区内の直翅類. 寄せ蛾記, (103): 40-49.
- 渡辺康生・笹井剛博, 2018. 都立葛西臨海公園の生息昆虫たち. うすばしろ, (53): 1-47.
- 山崎柄根, 2000. 皇居で見られた直翅系昆虫. 国立科学博物館専報, (36): 19-27.

(伊藤 元)

カマキリ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [ー]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
カマキリ目	MANTODEA					
カマキリ科	Mantidae					
ヒナカマキリ	<i>Amantis nawai</i>	NT	○	NT		
ウスバカマキリ	<i>Mantis religiosa</i>	DD	CR	CR	DD	

和名、学名、配列は「町田龍一郎 監修・日本直翅類学会編, 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研プラス」に準拠した。

バッタ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [ー]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
バッタ目	ORTHOPTERA					
コオロギ科	Gryllidae					
クロツヤコオロギ	<i>Phonarellus ritsemai</i>	DD	CR	CR		
エゾエンマコオロギ	<i>Teleogryllus yezoemma</i>	—	CR	CR		1
オオオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus magnatus</i>	—	CR	CR		
コガタコオロギ	<i>Velarifictorus ornatus</i>	DD	DD	DD		
マツムシ科	Eneopteridae					
マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus marmoratus</i>	CR	CR	CR		2
カヤコオロギ	<i>Euscyrthus japonicus</i>	CR	VU	VU		
ヒバリモドキ科	Trigonidiidae					
エゾスズ	<i>Pteronemobius yezoensis</i>	DD	DD	DD		
ハマスズ	<i>Dianemobius csikii</i>	—	—	EX		3
カワラスズ	<i>Dianemobius furumagiensis</i>	DD	NT	NT		
キリギリス科	Tettigoniidae					
カヤキリ	<i>Pseudorhynchus japonicus</i>	EX	CR	CR		
オオクサキリ	<i>Ruspolia interrupta</i>	EX	EX	EX		
イズササキリ	<i>Conocephalus halophilus</i>	VU	・	VU	DD	
カスミササキリ	<i>Orchelimum kasumigauraense</i>	DD	・	DD		
ハタケノウマオイ	<i>Hexacentrus japonicus</i>	DD	DD	DD		
クツワムシ科	Mecopodidae					
クツワムシ	<i>Mecopoda niponensis</i>	CR	EN	EN		
バッタ科	Acrididae					
セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>	EX	EN	EN		
ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>	CR	NT	NT		
イナゴモドキ	<i>Mecostethus parapleurus</i>	EX	CR	CR		
ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>	DD	DD	DD		
ヤマトマダラバッタ	<i>Epacromius japonicus</i>	EX	・	EX		
クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>	VU	NT	NT		
アカハネバッタ	<i>Celes akitanus</i>	EX	EX	EX	CR	
カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>	CR	EN	EN		

和名、学名、配列は「町田龍一郎 監修・日本直翅類学会編, 2016. 日本産直翅類標準図鑑.学研プレス」に準拠した。

【備考】

番号 1、2 の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Teleogryllus infernalis* である。
- 2: 前回記載の学名は *Xenogryllus marmoratus* である。
- 3: 記録は録音データのみで具体的な場所が不明である。そのため地域区分ごとの評価ができず、本土部全体での判定のみとせざるを得なかった。

(3)カメムシ目

【選定・評価方法の概要】

東京都本土部のカメムシ目のまとまった記録として、古いものでは東京府（1938）による武蔵野地域の目録がある。しかし、多くが学名・和名のみの記述にとどまっており、具体的な記録地などが不明な種が多いのは残念である。平山（1933・1937）の図版にも多くの東京産の標本が図示されている。これらには、現在では東京都から絶滅したタガメやコバンムシなどが掲載されており、記述からは区部周辺にもこれらの種が生息していたことがうかがえる。

東京都本土部からは現時点で 1,175 種（東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト、<http://tkm.na.coocan.jp/page027.html>, 2020 年 2 月 14 日閲覧）のカメムシ目が記録されている。極めて種数の多い多様な分類群であることに加え、後述のように基礎的な資料が極めて不足している現状から、今回の選定にあたっては、評価に資する情報がある程度集積できたセミ科と水生カメムシ類について検討を行った。

客観的な評価を行うためには、過去から現在に至る各種の分布、生息状況、その変化の把握が不可欠である。しかし、東京都においては、皇居（友国ほか、2000）、八王子市（岡島、2016）など、地域レベルのまとまった報告は見られるものの、基礎資料として利用可能な本土部全域を対象としたものは全くない状況である。そのため、個々の報告や情報の集積により把握を試みたが、定量要件による評価を行うには極めて不十分であったことから、評価はすべて定性要件によって行った。評価にあたっては文献資料のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考とした。現地調査ならびに標本資料調査も一部実施したが、時間的制約などから十分な調査は出来なかった。過去の記録は確実なものであれば戦前のものも含めて採用した。

【選定・評価結果の概要】

前回選定された 19 種に、今回新たに検討対象とした 1 種を加えた 20 種について評価を行った。結果として 16 種が何れかのランクに評価された。DD と評価されたものは、本土部における記録の状況から絶滅危惧に該当すると考えられるものの、現時点において評価に資する情報が極めて不足している種である。

セミ科については、ブナやミズナラなどから構成される冷温帯落葉広葉樹林に生息するアカエゾゼミや、モミ・ツガ林に生息するチッチゼミのように、分布や生息条件等が限られる種であっても、生息環境が概ね維持されている場合には、現時点において絶滅のおそれはない、と判断しランク外とした。ただし、将来にわたって生息状況が安定している保証はないため継続したモニタリングを実施することが望まれる。

水生カメムシ類には、近年の確実な記録は皇居のみ、という種がいくつか見られる。しかし、これらの種が確認されたのは概ね 1990 年代後半であり、その後の調査では対象種

群となっておらず、本改定においても皇居内の現地調査は実施できなかったことからそのほとんどが現状不明となっている。今回は最後の記録からまだ 30 年未満であることや、生息地そのものは残されている、という判断に基づき評価を行ったが、保全上の観点からも、なるべく早い機会に現地調査を実施して現状を把握する必要がある。

他の水生昆虫同様、水生カメムシ類も生息環境の破壊・改変や侵略的外来種の影響に脆弱な種が多く、将来的にはより減少する可能性が極めて高い。さらに、生息環境である水辺環境は、東京都において最も減少し、改変の著しい環境要素のひとつである。その傾向は現在でも引きつづき見られることから、公園緑地内の池沼や丘陵地の谷戸、水田や河川などに残された水辺環境の総合的な調査を実施し、現状の把握とそれに基づくより客観的なレッドリストの作成を通じて、実効的な保全策を策定・実施することが強く望まれる。

今回評価対象外となったセミ科以外の陸生カメムシ類にも、寄主植物（カナビキソウ）が生育する環境の減少にともない生息地がかなり減少しているシロヘリツチカメムシ（環境省レッドリスト 2020 では NT にランク）など絶滅危惧に該当すると考えられる種もある。これらの評価を行うことが今後最も重要な課題となり、前回改定からの懸案にもなっている。そのためには評価検討作業に十分な時間をかけて更なる文献資料を収集することに加え、現地調査を密に実施し、種の情報を系統的に集積することが必要である。

[引用文献]

- 平山修次郎, 1933. 原色千種昆虫図譜. 186pp.+104pls.
平山修次郎, 1937. 続原色千種昆虫図譜. 194pp.+88pls.
岡島賢太郎, 2016. カメムシ目. 新八王子市史自然調査報告書八王子市動植物目録: 281-291.
東京府, 1938. 武蔵野昆虫誌. 194+28pp.
友国雅章・林正美・碓井徹, 2000. 皇居の半翅目（腹吻群同翅類を除く）. 国立科学博物館専報, (36): 35-55.

(須田 真一)

カメムシ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
カメムシ目	HEMIPTERA					
セミ科	Cicadidae					
ヒメハルゼミ	<i>Euterpnosia chibensis chibensis</i>	・	EN	EN		1
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	EX	EN	EN		
タイコウチ科	Nepidae					
タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>	CR	CR	CR		
ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	EN	VU	VU		
ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>	CR	EX	CR		
コオイムシ科	Belostomatidae					
コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	EN	CR	EN	NT	
オオコオイムシ	<i>Appasus major</i>	－	CR	CR		
タガメ	<i>Kirkaldyia deyrolli</i>	EX	EX	EX	VU	2
ミズムシ科	Corixidae					
ホッケミズムシ	<i>Hesperocorixa distanti hokkensis</i>	CR	－	CR	NT	
ミヤケミズムシ	<i>Xenocorixa vittipennis</i>	CR	－	CR	NT	
コバンムシ科	Naucoridae					
コバンムシ	<i>Ilyocoris cimicoides exclamationis</i>	EX	EX	EX	EN	3
イトアメンボ科	Hydrometridae					
イトアメンボ	<i>Hydrometra albolineata</i>	EX	EX	EX	VU	
アメンボ科	Gerridae					
オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	EN	NT	NT		
ババアメンボ	<i>Gerris babai</i>	DD	－	DD	NT	4
ハネナシアメンボ	<i>Gerris nepalensis</i>	CR	－	CR		5
エサキアメンボ	<i>Limnoporus esakii</i>	DD	DD	DD	NT	

和名、学名、配列は「日本昆虫目録編集委員会編, 2016. 日本昆虫目録 第4巻 Catalogue of the Insects of Japan Volume 4 Paraneoptera 準新翅類. 日本昆虫学会」に準拠した。

【備考】

番号 1～5 の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Euterpnosia chibensis* である。
- 2: 前回記載の学名は *Lethocerus deyrolli* である。
- 3: 前回記載の学名は *Ilyocoris exclamationis* である。
- 4: 前回記載の学名は *Gerris argentatus babai* である。
- 5: 前回記載の学名は *Gerris amenbo* である。

(4)ヘビトンボ目・アミメカゲロウ目

【選定・評価方法の概要】

ヘビトンボ目とアミメカゲロウ目は、共に脈翅系昆虫に属する分類群であることや、解説に共通する部分が多いこと、などの理由により、ここでまとめて扱う。

東京都本土部からは、上記2目にラクダムシ目を加えた広義のアミメカゲロウ目として、現時点で63種（東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト、<http://tkm.na.coocan.jp/page023.html>, 2020年2月14日閲覧）が記録されている。今回はこれらのうち、評価に資する情報がある程度集積できたセンブリ科、ヘビトンボ科、ツノトンボ科、ウスバカゲロウ科について検討を行った。ラクダムシ目（確実に記録されているのはラクダムシ1種のみ）についても検討を行ったが、評価に資する基礎的な情報がほとんどないために対象外とした。

客観的な評価を行うためには、過去から現在に至る各種の分布、生息状況、その変化の把握が不可欠である。しかし、東京都における近年のものとしては、皇居（塚口，2000）、八王子市（松原，2016a・b・c）の報告などが見られる程度で、地域レベルにおいてもまとまったものは少なく、基礎資料として利用可能な本土部全域を対象としたものは全くない状況である。そのため、個々の報告や情報の集積により把握を試みたが、定量要件による評価を行うには極めて不十分であったことから、評価はすべて定性要件によって行った。評価にあたっては文献資料のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考とした。現地調査ならびに標本資料調査も一部実施したが、時間的制約などから十分な調査は出来なかった。過去の記録は確実なものであれば戦前のものも含めて採用した。

【選定・評価結果の概要】

ヘビトンボ目については、前回選定された5種について評価を行った結果、全種が何れかのランクに評価された。DDと評価されたものは、本土部における記録の状況から絶滅危惧に該当すると考えられるものの、現時点において評価に資する情報が極めて不足している種である。なお、前回（2010年）記載のクロセンブリ *Sialis melania tohokuensis* は、その後、分類の再検討が行われ、東京都の個体群はトウホククロセンブリ *Sialis tohokuensis* として独立種となったため、今回はトウホククロセンブリとして記載した。

アミメカゲロウ目においては、前回改定時に確実なものとしては平山（1933）に図示された多摩部の記録しか見出すことができなかったキバネツノトンボについて、標本資料調査によって図示された標本の現存が確認され、新たに区部の記録も見出された。具体的な記録が不明となっていたオオウスバカゲロウは文献調査により明らかとなったため、今回評価を行った。これらの種は採草地や河川敷などの草地や砂礫地に生息する種であり、共に戦後の記録は見いだせない。このことは、かく乱環境に依存している種の衰退が、チョウ類や甲虫類などよく知られているものだけでなく様々な分類群で起きており、必要とす

る環境要素自体が種の生息を担保できる以下のレベルにまで減少していることを示していると考えられる。

センブリ科とヘビトンボ科は幼虫が水生であり、生息環境の破壊改変等に脆弱であることから、将来的にはより減少する可能性が極めて高い。しかし、その現存分布や生息状況はよく把握されていないことから、保全上の観点からも、現地調査を通じてなるべく早い機会に明らかにしておく必要がある。

今回評価できなかった種の中にも、評価に資する情報が集まれば絶滅危惧に該当すると考えられるものもある。これらの評価を行うことが今後最も重要な課題となり、前回改定からの懸案にもなっている。そのためには評価検討作業に十分な時間をかけて更なる文献資料を収集することに加え、現地調査を密に実施し、種の情報を系統的に集積することが必要である。

[引用文献]

- 平山修次郎，1933. 原色千種昆虫図譜. 186pp.+104pls.
松原豊，2016a. ヘビトンボ目. 新八王子市史自然調査報告書八王子市動植物目録: 292.
松原豊，2016b. ラクダムシ目. 新八王子市史自然調査報告書八王子市動植物目録: 293.
松原豊，2016c. アミメカゲロウ目. 新八王子市史自然調査報告書八王子市動植物目録: 294-295.
塚口茂彦，2000. 皇居の脈翅類. 国立科学博物館専報, (36): 109-113.

(須田 真一)

ヘビトンボ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
ヘビトンボ目	MEGALOPTERA					
ヘビトンボ科	Corydalidae					
タイククロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes continentalis</i>	DD	DD	DD		1
ヤマトクロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes japonicus</i>	CR	NT	NT		
センブリ科	Sialidae					
ネグロセンブリ	<i>Sialis japonica</i>	VU	VU	VU		
トウホククロセンブリ	<i>Sialis tohokuensis</i>	－	VU	VU		2
ヤマトセンブリ	<i>Sialis yamatoensis</i>	－	CR	CR	DD	

和名、学名、配列は「日本昆虫目録編集委員会編, 2016. 日本昆虫目録 第5巻 Catalogue of the Insects of Japan 脈翅目群、長翅目、隠翅目、毛翅目、撚翅目. 日本昆虫学会」に準拠した。

【備考】

- 1: 最近の研究結果に従って和名を変更した。前回記載の和名はクロスジヘビトンボである。
- 2: 東京都に生息するクロセンブリの個体群は、トウホククロセンブリとして独立種となったので、本改定では和名および学名を変更した。前回記載の和名および学名はクロセンブリ *Sialis melania tohokuensis* である。

アミメカゲロウ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [ー]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
アミメカゲロウ目	NEUROPTERA					
ウスバカゲロウ科	Myrmeleontidae					
オオウスバカゲロウ	<i>Synclisis japonica</i>	EX	EX	EX		
ツノトンボ科	Ascalaphidae					
キバネツノトンボ	<i>Libelloides ramburi</i>	EX	EX	EX		1

和名、学名、配列は「日本昆虫目録編集委員会編, 2016. 日本昆虫目録 第5巻 Catalogue of the Insects of Japan 脈翅目群、長翅目、隠翅目、毛翅目、撚翅目. 日本昆虫学会」に準拠した。

【備考】

1: 最近の研究結果に従って学名を変更した。前回記載の学名は *Ascalaphus ramburi* である。

(5) コウチュウ目

【選定・評価方法の概要】

東京都下の昆虫相調査は、その立地から国内でも最初に昆虫の研究が着手された地域であることから、黎明期の日本の昆虫研究を先導した先達による多くの記録がある。しかし、戦後以降に「東京都」を対象とする継続した地方同好会が存在せず、地域の昆虫調査の記録を気軽に行える場がほとんどなかったことや東京都を対象とした昆虫誌の編纂も行われなかったことから、その全貌は近年まで明らかではなかった。

こうした状況の中、近年、松原豊氏らを中心に、東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト：東京昆虫目録（以下「TKM」とする。）が活動を始め、これまで難しかった「自分の採集した種が東京都下で記録があるかどうか」を手軽に参照できるようになった。当プロジェクトのおかげで、これまで眠っていた未記録種が日の目を見ることになった。2016年の更新版では甲虫類は3,560種が記録され、日々更新されているように、調査・研究とも活況を呈している (<http://tkm.na.coocan.jp/>, 2020年3月25日閲覧)。

【選定・評価結果の概要】

今回の東京都レッドリストの改定にあたっては、見直しに参加いただいた専門家の皆さんと、過去の選定の状況を調査し、根拠となる文献・標本をできる限り精査して全面的な見直しを試みた。実際に見直しに着手して痛感したのが、上記のように地方同好会が存在しなかったために、基礎となる分布情報が揃っている種がほとんど存在しない、ということであった。

さて、東京都レッドリストでは、他道府県ではほとんど例のない、地域を細分した評価を実施している（多摩地域：北多摩、南多摩、西多摩；区部）。こうした評価は、過去からの詳細データが存在する植物などの分類群や、種数が少ない両生・爬虫類などの分類群では選定が可能なのかもしれないが、甲虫類だけをとっても3,500種を超える膨大な対象を擁し、文献情報、基礎情報とも判断ができるような情報が存在しない分類群では科学的な判定を下すことはほぼ不可能である。

このため甲虫類では、まず東京都全体としての評価を優先して行うこととした。見直しの中では、過去の記録が不確実なもの、明らかな誤りなども散見された。また、区部で絶滅かそれに近い存在であっても、環境の残る多摩部ではごく普通の種も多い。例としてノギリクワガタなどがあげられる。これらは現在でも東京都全体としてはごく普通に見られ、近い将来東京都下から絶滅することを想定する研究者は存在しない。しかし、区部では生息環境となる森林の消失から減少しているのは明らかで、前回評価では区部 NT ランクが付されている。このように東京都下から絶滅の心配がない種は多く、これらについては、リストから除外するように努めた。一方、水辺環境の劣化から、環境省レッドリストでも、他府県のリストでも多くが掲載されている水生甲虫は、前回の掲載種が限定されていたので、TKM をもとに記録を見直したところ 36 種と大幅に増加した。このように、今

回の選定作業にあたっては、レッドリストを「東京都」として今後の環境行政で利用していただくことを念頭に、限られた予算や人的資源を適切に配分し、保全対策の優先順位を考え、危機的状況の種を救う活動のために効率的に絶滅危惧情報を利用していただけよう配慮した。

結果として、甲虫類では前回のリストからは大幅な変更が生じた。前回リストでは 195 種がリストアップされたが、今回リストでは 175 種となった。検討対象種数：274 種 新規掲載種数：69 種 削除種数：89 種となった。評価としては、本土部 EX：42 種 CR：47 種 EN：17 種 VU：25 種 NT：37 種 DD：7 種となった。

今回の改定作業において精力的に過去の記録の精査を行ったので、次回改定では我々が今回苦労したような状況はほぼ解消できたものと思われる。一方、絶滅危惧状態を判断する基礎情報の絶対的な不足は深刻で、次回改定時には、せめてランクが高い種については、現地調査をきちんと実施できるだけの時間的、予算的な余裕を持った改定作業を目指したい。とくに、水生昆虫では都内では稀有な水環境が残された皇居やその周辺だけに生息する種が多くある。科学的評価を行うためには、前回調査から年月が経過している皇居内の現状についても把握することが重要であろう。

東京都は、戦前から大規模な緑地が公園として残されてきたことは、大きなメリットである。また、特に多摩川のように一時は死の川と評されるほど汚染が激しかった河川で、水質改善の努力が実り、現在では多くの生物が戻ってきていることは環境行政として高く評価されることであろう。30 年ほど前の洗剤で泡立つ川を見ていた筆者も現在の多摩川を見ると感慨深いものがある。東京都のような大都市を抱える地域に残された貴重な自然を後世に伝える努力を引き続き実践していただきたい。

(苅部 治紀)

コウチュウ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
コウチュウ目	COLEOPTERA					
カワラゴミムシ科	Omophronidae					
カワラゴミムシ	<i>Omophron aequalis</i>	EX	CR	CR		
ハンミョウ科	Cicindelidae					
ナミハンミョウ	<i>Cicindela chinensis japonica</i>	EX	NT	NT		
ホソハンミョウ	<i>Cicindela gracilis</i>	EX	CR	CR	VU	
カワラハンミョウ	<i>Cicindela laetescrpta</i>	EX	EX	EX	EN	
オサムシ科	Carabidae					
アカガネオサムシ	<i>Carabus granulatus telluris</i>	EX	・	EX	VU	
セアカオサムシ	<i>Hemicarabus tuberculatus</i>	EX	CR	CR	NT	
キベリマルクビゴミムシ	<i>Nebria livida angulata</i>	EX	EX	EX	EN	
フタモンマルクビゴミムシ	<i>Nebria pulcherrima</i>	・	EX	EX	EN	
コハンミョウモドキ	<i>Elaphrus punctatus</i>	EX	CR	CR	EN	
ツヤヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina castanea</i>	CR	EN	EN		
ナガチビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius cheloscelis</i>	CR	DD	CR		
ホソチビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius steno</i>	CR	VU	VU		
オオヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites sulcatus</i>	－	－	EX	NT	1
オサムシモドキ	<i>Craspedonotus tibialis</i>	EN	VU	VU		
キバネキバナガミズギワゴミムシ	<i>Armatocillenus aestuarii</i>	EX	・	EX	VU	
キバナガミズギワゴミムシ	<i>Armatocillenus yokohamae</i>	VU	・	VU		
マダラケシミズギワゴミムシ	<i>Bembidion articulatum</i>	EX	EX	EX		
アオヘリミズギワゴミムシ	<i>Bembidion leucolum</i>	CR	CR	CR		
ムナビロツヤミズギワゴミムシ	<i>Bembidion pogonoides</i>	EX	・	EX		
ハマバミズギワゴミムシ	<i>Bembidion semiluitum semiluitum</i>	NT	・	NT		
ムツモンコムズギワゴミムシ	<i>Paratychys plagiatus shimosae</i>	CR	・	CR		
ハマバゴミムシ	<i>Pogonus japonicus</i>	CR	・	CR	NT	
ヒラタマルゴミムシ	<i>Cosmodiscus platynotus</i>	VU	NT	NT		
オオナガゴミムシ	<i>Pterostichus fortis</i>	VU	DD	VU		
アシミゾヒメヒラタゴミムシ	<i>Platynus thoreyi nipponicus</i>	CR	EN	EN		2
キアシツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus callitheres callitheres</i>	CR	VU	EN		3
ブリットンツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus orbicollis</i>	CR	CR	CR		
キアシマルガタゴミムシ	<i>Amara ampliata</i>	VU	NT	NT		
トゲアシゴモクムシ	<i>Harpalus calceatus</i>	NT	NT	NT		
ヒロゴモクムシ	<i>Harpalus corporosus</i>	VU	NT	NT		
チョウセンゴモクムシ	<i>Harpalus crates</i>	CR	VU	VU	VU	
チャバネクビアカツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus kantoonus</i>	－	－	CR		1
ホソチビゴモクムシ	<i>Acupalpus sobosanus</i>	CR	・	CR		
ムネミゾチビゴモクムシ	<i>Anthracus horni</i>	CR	・	CR		

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
スナハラゴミムシ	<i>Diplocheila elongata</i>	EX	EX	EX	VU	
オオヨツボシゴミムシ	<i>Dischissus mirandus</i>	EX	VU	VU		
ヨツボシゴミムシ	<i>Panagaeus japonicus</i>	VU	NT	NT		
イグチケブカゴミムシ	<i>Peronomerus auripilis</i>	CR	VU	EN	NT	
クビナガヨツボシゴミムシ	<i>Tinoderus singularis</i>	CR	VU	VU	DD	
アカガネアオゴミムシ	<i>Chlaenius abstersus</i>	VU	NT	NT		
ヒトツメアオゴミムシ	<i>Chlaenius deliciolus</i>	EX	CR	CR	NT	
コアトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius hamifer</i>	NT	NT	NT		
オオサカアオゴミムシ	<i>Chlaenius pericallus</i>	CR	・	CR	DD	
アオヘリアオゴミムシ	<i>Chlaenius praefectus</i>	EX	・	EX	CR	
クビナガキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius prostenus</i>	EX	・	EX	DD	
ムナビロアオゴミムシ	<i>Chlaenius sericimicans</i>	EN	DD	VU		
ツヤキベリアオゴミムシ	<i>Chlaenius spoliatus motschulskyi</i>	—	—	EX	VU	1
ヤマトツクリゴミムシ	<i>Lachnocrepis japonica</i>	VU	DD	VU		
ニセツクリゴミムシ	<i>Oodes helopioides tokyoensis</i>	VU	NT	NT		
オオツクリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i>	CR	・	CR	NT	
オオヒラタツクリゴミムシ	<i>Oodes virens</i>	・	EX	EX	CR	
フタモンクビナガゴミムシ	<i>Archicolluris bimaculata nipponica</i>	VU	NT	NT		
ナカグロキバネクビナガゴミムシ	<i>Odacantha puziloi</i>	EN	・	CR		
カタアカアトキリゴミムシ	<i>Cymindis collaris</i>	・	EX	EX		
アリスアトキリゴミムシ	<i>Lachnoderma asperum</i>	EN	・	EN	DD	
コモリアオホソゴミムシ	<i>Dendrocellus geniculatus</i>	EX	EX	EX		4
キイロホソゴミムシ	<i>Drypta fulveola</i>	CR	・	CR	EN	
ホソクビゴミムシ科	Brachinidae					
ミイデラゴミムシ	<i>Pheropsophus jessoensis</i>	VU	NT	NT		5
コガシラミズムシ科	Halipidae					
クビボソコガシラミズムシ	<i>Halipus japonicus</i>	—	—	EN	DD	1
カミヤコガシラミズムシ	<i>Halipus kamiyai</i>	—	—	EX	EN	1
ヒメコガシラミズムシ	<i>Halipus ovalis</i>	—	—	EX		1
マダラコガシラミズムシ	<i>Halipus sharpi</i>	—	—	CR	VU	1
コガシラミズムシ	<i>Peltodytes intermedius</i>	—	—	CR		1
コツブゲンゴロウ科	Noteridae					
コツブゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>	—	—	CR		1
ゲンゴロウ科	Dytiscidae					
マルチビゲンゴロウ	<i>Leiodytes frontalis</i>	—	—	CR	NT	1
シマケシゲンゴロウ	<i>Coelambus chinensis</i>	—	—	CR		1
コマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus acuminatus</i>	—	—	CR	NT	1
マルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus subtilis</i>	—	—	EX	NT	1
ケシゲンゴロウ	<i>Hyphydrus japonicus</i>	—	—	EX	NT	1
ヒメシマチビゲンゴロウ	<i>Nebrioporus nipponicus</i>	—	—	DD		1
チャイロシマチビゲンゴロウ	<i>Nebrioporus anchoralis</i>	—	—	DD		1
キボシツブゲンゴロウ	<i>Japanolaccophilus nipponensis</i>	—	—	EN	NT	1
ツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus difficilis</i>	—	—	EX		1
コウバツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus kobensis</i>	—	—	CR	NT	1
ルイスツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus lewisius</i>	—	—	EX	VU	1
シャープツブゲンゴロウ	<i>Laccophilus sharpi</i>	—	—	EX	NT	1
トダセスジゲンゴロウ	<i>Copelatus nakamurai</i>	—	—	EX	VU	1

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
セスジゲンゴロウ	<i>Copelatus japonicus</i>	—	—	DD		1
キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>	—	—	CR	NT	1
キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>	—	—	NT	NT	1
エゾヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus yessoensis</i>	—	—	EX		1
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	—	—	EX	NT	1
ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i>	EX	EX	EX	VU	
マルコガタノゲンゴロウ	<i>Cybister lewisianus</i>	—	—	EX	CR	1
コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus orientalis</i>	—	—	EX	VU	1
シャープゲンゴロウモドキ	<i>Dytiscus sharpi</i>	—	—	EX	CR	1
マルガタゲンゴロウ	<i>Graphoderus adamsii</i>	—	—	EX	VU	1
シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringi</i>	—	—	CR	NT	1
オオイチモンジシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus pacificus conspersus</i>	—	CR	CR	EN	
ウスイロシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus rhantoides</i>	—	—	CR		1
スジゲンゴロウ	<i>Hydaticus satoi</i>	—	—	EX	EX	1
ミズスマシ科	Gyrinidae					
オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	—	—	CR	NT	1
ツマキレオナガミズスマシ	<i>Orectochilus agilis</i>	—	—	EN	VU	1
コオナガミズスマシ	<i>Orectochilus punctipennis</i>	—	—	EN	VU	1
コミズスマシ	<i>Gyrinus curtus</i>	—	—	EX	EN	1
ヒメミズスマシ	<i>Gyrinus gestroi</i>	—	—	EX	EN	1
ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i>	—	—	CR	VU	1
ホソガムシ科	Hydrochidae					
ヤマトホソガムシ	<i>Hydrochus japonicus</i>	—	—	EX	NT	1,6
ガムシ科	Hydrophilidae					
セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i>	—	—	CR		1
ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i>	—	—	CR		1
マルヒラタガムシ	<i>Enochrus subsignatus</i>	—	—	CR	NT	1
ルイスヒラタガムシ	<i>Enochrus lewisi</i>	—	—	CR		1
コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>	—	—	VU	DD	1
エゾコガムシ	<i>Hydrochara libera</i>	—	—	EX	NT	1
ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i>	—	—	EX	NT	1
ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>	—	—	VU		1
タマガムシ	<i>Amphiops mater</i>	—	—	CR		1
マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i>	—	—	CR		1
ヤマトゴマフガムシ	<i>Berosus japonicus</i>	—	—	DD		1
ニッポントゲバゴマフガムシ	<i>Berosus nipponicus</i>	—	—	DD		1
ゴマフガムシ	<i>Berosus punctipennis</i>	—	—	CR		1
エンマムシ科	Histeridae					
ドウガネエンマムシ	<i>Saprinus planiusculus</i>	EX	CR	CR		
ルリエンマムシ	<i>Saprinus splendens</i>	NT	CR	VU		
シデムシ科	Silphidae					
ヤマトモンシデムシ	<i>Nicrophorus japonicus</i>	EX	CR	CR	NT	
オニヒラタシデムシ	<i>Thanatophilus rugosus</i>	EX	CR	CR		
ヒメヒラタシデムシ	<i>Thanatophilus sinuatus</i>	VU	NT	NT		
ハネカクシ科	Staphylinidae					
オオツノハネカクシ	<i>Bledius salsus</i>	EX	EX	EX	DD	
チャムネハラホソハネカクシ	<i>Atanygnathus terminalis</i>	・	NT	NT		

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
ツヤケシアカバウミベハネカクシ	<i>Phucobius simulator</i>	VU	・	VU		7
クシヒゲアリゾカムシ	<i>Ctenistes oculatus</i>	・	DD	DD	VU	
クワガタムシ科	Lucanidae					
オオクワガタ	<i>Dorcus hopei</i>	EX	CR	CR	VU	
ヒラタクワガタ	<i>Serroglyphus platymelus pilifer</i>	VU	NT	NT		
コガネムシ科	Scarabaeidae					
ヤマトケシマゴソコガネ	<i>Psammodytes japonicus</i>	CR	・	CR		
ヒゲブトハナムグリ	<i>Amphicoma pectinata</i>	VU	○	NT		8
ヒゲコガネ	<i>Polyphylla laticollis</i>	VU	NT	NT		
ハンノヒメコガネ	<i>Anomala multistriata</i>	EN	VU	VU		9
オオチャイロハナムグリ	<i>Osmoderma opicum</i>	・	NT	NT	NT	
ハナムグリ	<i>Cetonia pilifera</i>	EX	VU	VU		10
アカマダラハナムグリ	<i>Poecilophilides rusticola</i>	EX	VU	VU	DD	11
シラホシハナムグリ(在来個体群)	<i>Protaetia brevitarsis brevitarsis</i>	EX	EX	EX		12,13
ヒメドロムシ科	Elmidae					
アヤスジミゾドロムシ	<i>Graphelmis shirahatai</i>	EX	—	EX	EN	
ナガドロムシ科	Heteroceridae					
タマガワナガドロムシ	<i>Heterocerus japonicus</i>	VU	NT	NT		
タマムシ科	Buprestidae					
クロタマムシ	<i>Buprestis haemorrhoidalis japonensis</i>	EN	NT	NT		
ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica japonica</i>	VU	NT	NT		
ヤマトタマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>	VU	NT	NT		14
コメツキムシ科	Elateridae					
ウバタマコメツキ	<i>Cryptalaus berus</i>	CR	VU	VU		
ホタル科	Lampyridae					
ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>	EN	NT	NT		
ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>	CR	VU	VU		
スジグロボタル	<i>Pristolytus sagulatus</i>	CR	NT	NT		
ジョウカイボン科	Cantharidae					
キイロジョウカイ	<i>Themus niisatoi</i>	—	NT	NT		
ヒゲボソケシキスイ科	Brachypteridae					
シベリアヒゲナガケシキスイ	<i>Platamartus jakowlewi</i>	DD	—	DD		
コメツキモドキ科	Languriidae					
オビヒメコメツキモドキ	<i>Anadastus pulchelloides</i>	EX	—	EX	VU	
テントウムシ科	Coccinellidae					
アイヌテントウ	<i>Coccinella ainu</i>	EX	NT	NT		
カミキリムシ科	Cerambycidae					
ケブカヒラタカミキリ	<i>Nothorhina punctata</i>	NT	NT	NT		
フタスジカタビロハナカミキリ	<i>Brachyta bifasciata japonica</i>	・	CR	CR		
ベニバハナカミキリ	<i>Paranaspia anaspoides</i>	NT	NT	NT		
オニホソコバネカミキリ	<i>Necydalis gigantea gigantea</i>	・	NT	NT		15
アオスジカミキリ	<i>Xystrocera globosa</i>	EX	VU	VU		
キイロミヤマカミキリ	<i>Margites fulvidus</i>	・	VU	VU		
ヨツボシカミキリ	<i>Stenygrinum quadrinotatum</i>	EX	CR	CR	EN	
アカアシオオアカミキリ	<i>Chloridolum japonicum</i>	EN	NT	NT		
ヨツボシチビヒラタカミキリ	<i>Phymatodes quadrimaculatus</i>	EX	VU	VU		16

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
トウキョウトラカミキリ	<i>Chlorophorus yedoensis</i>	・	EN	EN		17
トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i>	NT	NT	NT		
ヒメビロウドカミキリ	<i>Acalolepta degener</i>	EX	CR	CR	NT	
チャイロヒゲビロウドカミキリ	<i>Acalolepta kusamai</i>	EN	NT	NT		
イタヤカミキリ	<i>Mecynippus pubicornis</i>	EX	VU	VU		
シロスジカミキリ	<i>Batocera lineolata</i>	EN	NT	NT		
ネジロカミキリ	<i>Pogonocherus seminivens</i>	EX	NT	NT		
ヒゲナガモモフトカミキリ	<i>Acanthocinus orientalis</i>	EX	NT	NT		
ナカバヤシモモフトカミキリ	<i>Leiopus guttatus</i>	EX	VU	VU		
ハンノキカミキリ	<i>Cagosima sanguinolenta</i>	EX	EN	EN		
アオクスイカミキリ	<i>Phytoecia coeruleomicans</i>	EX	EX	EX	CR	
アサカミキリ	<i>Thyestilla gebleri</i>	EX	CR	CR	VU	
ハムシ科	Chrysomelidae					
キアシネクイハムシ	<i>Donacia bicoloricornis</i>	EN	—	EN		
フトネクイハムシ	<i>Donacia clavareai</i>	EN	—	EN		
ツヤネクイハムシ	<i>Donacia nitidior</i>	—	EN	EN		
ホソネクイハムシ	<i>Donacia vulgaris</i>	EX	EN	EN		
スゲハムシ	<i>Plateumaris sericea</i>	CR	VU	VU		
ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>	VU	NT	NT		
オオルリハムシ	<i>Chrysolina virgata</i>	EX	—	EX	NT	
ドロノキハムシ	<i>Chrysomela populi</i>	EX	CR	CR		
ヤナギハムシ	<i>Chrysomela vigintipunctata</i>	EN	EN	EN		
ジュンサイハムシ	<i>Galerucella nipponensis</i>	EN	—	EN		
ゾウムシ科	Curculionidae					
オオアオゾウムシ	<i>Chlorophanus grandis</i>	EX	VU	VU		

和名、学名、配列は原則として「東京都本土部昆虫目録(東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト) <http://tkm.na.coocan.jp>, 2020年3月25日閲覧」、「九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター(編), 1989. 日本産昆虫総目録 I」に準拠した。

【備考】

番号 2～4、7～11、13～17 の種は、最近の研究結果に従って和名または学名、あるいは和名と学名を変更した。

- 1: 東京都における記録がごくわずかであるため、地域区分ごとの評価ができず、本土部全体での判定のみとせざるを得なかった。
- 2: 前回記載の学名は *Agonum thoreyi nipponicum* である。
- 3: 前回記載の学名は *Synuchus callitheres* である。
- 4: 前回記載の和名および学名はオオアオホソゴミシ *Desera geniculata* である。
- 5: 最近の研究結果に従い所属をホソクビゴミシ科に変更した。
- 6: 最近の研究結果に従い所属をホソガムシ科に変更した。
- 7: 前回記載の和名はウミベアカバハネカクシである。
- 8: 前回記載の学名は *Anthypna pectinata* である。
- 9: 前回記載の学名は *Anomala puncticollis* である。
- 10: 前回記載の学名は *Eucetonia pilifera* である。
- 11: 前回記載の和名はアカマダラコガネである。
- 12: 在来個体であることの検証は現状ではできないが、移入個体群は対象外とする。
- 13: 前回記載の学名は *Protaetia brevitarsis* である。
- 14: 前回記載の和名および学名はタマムシ *Chrysochroa fulgidissima* である。
- 15: 前回記載の学名は *Necydalis gigantea* である。
- 16: 前回記載の和名はヨツボシヒラタカミキリである。
- 17: 前回記載の学名は *Rhaphuma yedoensis* である。

(6)ハチ目

【選定・評価方法の概要】

アリ科を除くハチ目では、2010年版の掲載種15種を再評価するとともに、前回検討対象種で掲載種とならなかった2種と、あらたに4種を加えた11科21種を検討対象種として選定した。セイドウマルセイボウ、ウスリーマルハナバチは最近の記録がないこと、キゴシジガバチは従来普通種であったが近年各地で減少していることから今回検討対象種とした。ハチ目（アリ科を除く。）では東京都全体のまとまった調査報告はないため、初歩的段階として隣接県での分布及び生息状況等を参考に、定性的要件により評価を行った。文献及び標本調査では、なるべく最近の記録を取り上げるようにしたが、種類や地域区分によっては1920年代の文献記録や標本以外見いだせなかった場合がある。なお、ハチ目は上位分類も含めて、研究途上にある。ギングチバチ科を含めたミツバチ上科内の科等の扱いは今後変更される可能性がある。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、20種が本レッドリストの掲載種に選定された。ハチ目（アリ科を除く）は、文献・標本等が限定されていることもあり、本土部全体におけるランクの内訳は、絶滅（EX）が4種、準絶滅危惧（NT）が7種、情報不足（DD）が9種となった。

区部では1930年代まではフルカワフトハキリバチの記録があった。1950年代まではムツボシクモバチ、キスジクモバチ、ヤマトアシナガバチの記録があった。河川周辺や湾岸部では近年でもキオビクモバチ、キボシトックリバチ、アカオビケラトリバチの生息が確認されている。多摩部では区部で記録が見い出されなかったバラヒラタハバチ、クチナガハバチ、ヒダクチナガハバチ、セイドウマルセイボウ、ヤスマツヒメハナバチ、ウスルリモンハナバチ、ウスリーマルハナバチの記録があった。ただし、これらの種類が区部に生息していた可能性もある。多摩部では1950年代までムツボシクモバチ、ヤマトアシナガバチ、フジジガバチの記録があった。クロマルハナバチは、野生個体でないハウス内花粉媒介用に放飼され逸出したと考えられる個体が区部、多摩部ともに野外で確認されているため今回ランク外とした。

南多摩及び西多摩には調査不十分であるが、山地性の種類が生息しており、ニホンジカ等による植生の消失は、幼虫が草食性のハバチ類や花の蜜と花粉を利用しているハナバチ類の生息に大きな影響を及ぼしていると考えられる。比較できる基礎資料が少ないため明らかでないが、多摩部の丘陵部における環境の改変により、多くの種類が激減または絶滅していると推定される。

なお、近年著しく増加または分布拡大している種としてチャイロスズメバチ、キンモウアナバチ、アメリカジガバチ（外来種）、トモンハナバチが挙げられ、今後の動向には十分注意する必要がある。原因は種毎に異なると推定されるが気候変動の影響も一因と考えられる。アメリカジガバチはキゴシジガバチの生息に影響を与えている可能性がある。

（高橋 秀男）

ハチ目（本土部） ※アリ科を除く

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥は P.11 参照) [○]ランク外 [ー]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
ハチ目	HYMENOPTERA					
ヒラタハバチ科	Pamphiliidae					
バラヒラタハバチ	<i>Pamphilius hilaris</i>	ー	DD	DD		
ハバチ科	Tenthredinidae					
ヒダクチナガハバチ	<i>Nipponorhynchus bimaculatus</i>	ー	NT	NT	DD	
クチナガハバチ	<i>Nipponorhynchus mirabilis</i>	ー	NT	NT	DD	
コマユバチ科	Braconidae					
ウマノオバチ	<i>Euurobracon yokahamae</i>	NT	NT	NT	NT	
セイボウ科	Chrysididae					
ムサシゲセイボウ	<i>Elampus musashinus</i>	NT	NT	NT	NT	
セイドウマルセイボウ	<i>Hedychrum simile aereum</i>	ー	DD	DD		
クモバチ科	Pompilidae					
ムツボシクモバチ	<i>Anoplius viaticus</i>	EX	EX	EX	NT	
キオビクモバチ	<i>Batozonellus annulatus</i>	NT	DD	NT		
キスジクモバチ	<i>Batozonellus lacerticida</i>	EX	DD	DD		
スズメバチ科	Vespidae					
キボシトックリバチ	<i>Eumenes fraterculus</i>	NT	DD	NT		
ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>	DD	DD	DD	DD	
アナバチ科	Sphecidae					
フジジガバチ	<i>Ammophila clavus japonica</i>	EX	EX	EX	NT	1
キゴシジガバチ	<i>Sceliphron madraspatanum</i>	DD	DD	DD		
ギングチバチ科	Crabronidae					
ヤマトスナハキバチ	<i>Bembecinus hungaricus japonicus</i>	DD	DD	DD	DD	
キアシハナダカバチモドキ	<i>Stizus perrisi</i>	DD	○	DD	VU	2,3
アカオビケラトリバチ	<i>Larra amplipennis</i>	NT	DD	NT	NT	4
ヒメハナバチ科	Andrenidae					
ヤスマツヒメハナバチ	<i>Andrena yasumatsui</i>	ー	DD	DD	DD	
ハキリバチ科	Megachilidae					
フルカワフトハキリバチ	<i>Megachile lagopoda furukawai</i>	EX	EX	EX	DD	
ミツバチ科	Apidae					
ウスルリモンハナバチ	<i>Thyreus centrimacula</i>	ー	EX	EX		
ウスリーマルハナバチ	<i>Bombus ussurensis</i>	ー	DD	DD	DD	

和名、学名、配列は「九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター(編), 1989. 日本産昆虫総目録Ⅱ」、「日本昆虫目録編集委員会編, 2019. 日本昆虫目録 第9巻 第1部 Catalogue of the Insects of Japan 膜翅目(第1部 広腰亜目). 日本昆虫学会」、「多田内修・村尾竜起編, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 文一総合出版」に準拠した。

【備考】

番号 1、3、4 の種は、最近の研究結果に従って和名または学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Ammophila atripes japonica* である。
- 2: 多摩部の最近の記録は移入と判断した。
- 3: 前回記載の学名は *Stizus pulcherrimus* である。
- 4: 前回記載の和名はアカオビケラトリである。

(7)ハエ目

【選定・評価方法の概要】

ハエ目は、昆虫類の中ではコウチュウ目、ハチ目、チョウ目に次いで種数が多いグループであり、日本から約 7,600 種、世界では約 12 万種が知られている。なおかつ、周極地域から熱帯地域まで、海浜から油田や氷河の下の流水中まで、ありとあらゆる環境に適応して生息している。このため、生活史は極めて多様であり、特定の環境にはそれに対応したハエ目相が見られ、環境指標性は比較的高い。

東京都から記録されたハエ目については古い記録はほとんど見られないが、平成になってからは、里山昆虫研究会 (1995)、武田ほか (2000)、伊東 (2003)、大和田ほか (2005)、松本ほか (2007) などのすぐれた報告が公表されており、その後も竹内ほか (2012・2013)、伊東 (2013・2016) などのハエ目についてのまとまった報告が公表され、現時点で 1,479 種 (東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト、<http://homepage3.nifty.com/TKM/>, 2020 年 1 月 1 日閲覧) のハエ目が記録されている。この種数は全国の都道府県の記録を見ても上位に位置しており、なおかつ前回の改定時には記録が少なかった南多摩や西多摩の記録が増加し、まだまだ不十分ではあるものの、東京都のハエ目相を俯瞰できる状況にある程度近づいていると考えられる。

今回のリストは、このような東京都のハエ目の現状をふまえて、現時点で記録されている種の中から、特定の環境との結びつきが強く比較的特徴的であり、将来減少する可能性が高いと考えられる 34 種を検討対象種とした。なお、前回の留意種のうち主要な選定理由が「良好な環境の指標」であったミカドガガンボ、ハマダラハルカ、オオイシアブ、チャイロオオイシアブ、クロベッコウハナアブ、ミドリバエについては、今回の改定で見直された留意種の選定理由には当てはまらなかったため対象外となった。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は 22 種となった。ガガンボ科からは大木の洞で幼虫が育つため良好な樹林環境が必要なジェーンアシワガガンボと良好な雑木林の指標となるウスキシマヘリガガンボを、カ科からは良好な樹林環境に生息し幼虫は他種のボウフラを捕食するトワダオオカを、クサアブ科からは生息地が限定されるネグロクサアブを、ミズアブ科からは湿地環境に見られ近年の記録が少ないコガタミズアブとミズアブを、ムシヒキアブ科からは河川中流域の砂礫河原や溪流河川の岩場に生息するモモボソヒラズムシヒキを、ハナアブ科からは良好な湿地環境に生息するカルマイツヤタマヒラタアブ、良好な樹林環境に生息するヒサマツハチモドキハナアブとハチモドキハナアブ、ケブカハチモドキハナアブ、マツムラハラブトハナアブ、良好な自然林に生息するオオナガハナアブとヨコジマナガハナアブ、良好な里山環境に生息するカクモンハラブトハナアブとフタオビアリノスアブ、生息地が限定されるコブアリノスアブを、キモグリバエ科からは良好な

ヨシ原に見られるヨシノユカシキモグリバエを、クロバエ科からは良好な林間草地に生息するショウジョウクロバエを、ニクバエ科からは海浜砂丘に生息するハマベニクバエを、区部においては生息環境が限られているため準絶滅危惧 (NT) に、多摩部においては準絶滅危惧 (NT) か情報不足 (DD) に選定した。また、過去に記録があるものの最近の記録が全くない種として、良好な林間草地に生息するムシヒキアブ科のエダヒゲムシヒキ (1950 年に三鷹市で採れて以降記録無し) と良好な湿地環境に生息するクロバエ科のカエルキンバエ (1968 年以前に東京都から記録があるがそれ以降記録無し) を絶滅 (EX) に選定した。

[引用文献]

- 伊東憲正, 2003. 狭山丘陵の双翅目(2). はなあぶ, 15(1).
- 伊東憲正, 2013. 明治神宮の双翅目. 鎮座百年記念 第二次明治神宮境内総合調査報告書: 353-360.
- 伊東憲正, 2016. 八王子市史動植物目録, ハエ目.
- 松本和馬・三井偉由・鳥居隆史, 2007. 森林総合研究所多摩森林科学園の双翅目昆虫相. 森林総合研究所研究報告, 6(1): 77-88.
- 大和田守・武田正倫ほか, 2005. 赤坂御用地と常盤松御用邸の動物相. 国立科学博物館専報, 39.
- 里山昆虫研究会, 1995. 多摩川中流域の丘陵部における里山昆虫の研究.
- 武田正倫・大和田守・友国雅章・篠原明彦・野村周平・松浦啓一ほか, 2000. 皇居の生物相 III. 昆虫, 国立科学博物館専報, 36.
- 竹内正人・笹井剛博, 2012. 東京都奥多摩町日原の双翅目ー第1報ー. はなあぶ, 33.
- 竹内正人・笹井剛博, 2013. 東京都奥多摩町日原周辺の双翅類ー第2報ー. はなあぶ, 35.

(伊東 憲正)

ハエ目（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
ハエ目	DIPTERA					
オビヒメガガンボ科	Pediciidae					
ウスキシマヘリガガンボ	<i>Nipponomyia kuwanai</i>	—	DD	DD		
ガガンボ科	Tipulidae					
ジェーンアシワガガンボ	<i>Tipulodina joana</i>	NT	DD	DD		
カ科	Culicidae					
トワダオオカ	<i>Toxorhynchites towadensis towadensis</i>	—	DD	DD		1
クサアブ科	Coenomyiidae					
ネグロクサアブ	<i>Coenomyia basalis</i>	—	DD	DD	DD	
ミズアブ科	Stratiomyidae					
コガタミズアブ	<i>Odontomyia garatas</i>	—	NT	NT		
ミズアブ	<i>Stratiomys japonica</i>	NT	NT	NT		
ムシヒキアブ科	Asilidae					
エダヒゲムシヒキ (ヒゲナガムシヒキ)	<i>Myelaphus dispar</i>	—	EX	EX		
モモボソヒラズムシヒキ	<i>Stichopogon gracilifemur</i>	—	DD	DD		
ハナアブ科	Syrphidae					
カルマイツヤタマヒラタアブ (カルマイタマヒラタアブ)	<i>Orthonevra karumaiensis</i>	NT	—	NT		
ヒサマツハチモドキハナアブ	<i>Ceriana japonica</i>	NT	DD	DD		
ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>	NT	DD	DD		
ケブカハチモドキハナアブ	<i>Primocerioides petri</i>	—	DD	DD		
カクモンハラブトハナアブ	<i>Mallota abdominalis</i>	—	DD	DD		
マツムラハラブトハナアブ	<i>Mallota rubripes</i>	—	DD	DD		
オオナガハナアブ	<i>Spilomyia gigantea</i>	—	DD	DD		
ヨコジマナガハナアブ	<i>Temnostoma vespiforme</i>	—	DD	DD		
フタオビアリノスアブ (フタオビアリスアブ)	<i>Metadon bifasciatus</i>	—	DD	DD		
コブアリノスアブ(コブアリスアブ)	<i>Microdon shirakii</i>	NT	DD	DD		
キモグリバエ科	Chloropidae					
ヨシノユカシキモグリバエ	<i>Eurina sabroskyi</i>	NT	—	NT		
クロバエ科	Calliphoridae					
カエルキンバエ (カエルヤドリキンバエ)	<i>Lucilia chini</i>	—	—	EX	DD	
ショウジョウクロバエ	<i>Dexopollenia flava</i>	—	DD	DD		
ニクバエ科	Sarcophagidae					
ハマベニクバエ (ハマベハイイロニクバエ)	<i>Leucomyia alba</i>	NT	—	NT		2

和名、学名、配列は「日本昆虫目録編集委員会編,2014.日本昆虫目録 第8巻 第1部 Catalogue of the Insects of Japan 双翅目(第1部 長角亜目—短角亜目無額囊節).日本昆虫学会」、「日本昆虫目録編集委員会編,2014.日本昆虫目録 第8巻 第2部 Catalogue of the Insects of Japan 双翅目(第2部 短角亜目額囊節).日本昆虫学会」に準拠したが、ハナアブ科 *Mallota* 属については「Takuto HIROOKA Munetoshi MARUYAMA & F.Christian THOMPSON, 2015. Revision of the Flower Fly Genus *Mallota* Meigen,1822 (Diptera: Syrphidae) from Japan.Japanese Journal of Systematic Entomology, 21(2): 241-258.」に準拠した。

【備考】

番号 1、2 の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

1: 前回記載の学名は *Toxorhynchites towadensis* である。

2: 前回記載の学名は *Sarcophaga alba* である。

(8)チョウ目チョウ類

【調査・評価方法の概要】

東京都のチョウ類は、疑問種を除くと 2019 年までに 142 種が記録されており、このうち本土部では 132 種が確認されている。その本土部における科ごとの種数の内訳は、アゲハチョウ科 13 種、シロチョウ科 11 種、シジミチョウ科 37 種、タテハチョウ科 53 種、セセリチョウ科 18 種となっている。この中で前回の 2010 年版レッドリストにて選定された本土部全体（区部、北多摩、南多摩、西多摩、本土部）のチョウ類の種数は、アゲハチョウ科 4 種、シロチョウ科 2 種、シジミチョウ科 20 種、タテハチョウ科（テングチョウ亜科、ジャノメチョウ亜科を含む）17 種、セセリチョウ科 7 種の合計 50 種であった。また、この前回の評価は定性的基準によってのみ行われ、本土部のみの結果は絶滅（EX）12 種、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）2 種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）3 種、準絶滅危惧（NT）1 種、情報不足（DD）6 種と判定されている。

今回の改定作業では、過去の文献による情報収集と本レッドリスト担当者・協力者による最新の野外調査データから初めて全選定種を定量的基準に基づいて評価した。また、過去 30 年以上記録がない種を絶滅（EX）と判定した。定量的基準については、2000 年代以降の区市町村からの記録を現存生息区市町村数とし、明治期～現在の既知生息区市町村数とこの現存生息区市町村数との割合を減少率とみなして、更に産地の分断程度および環境・生息状況、過去 10 年間の減少度、今後 10 年間の状況予測、種の移動能力の 5 項目を加味することで算出する補正減少率の値を用いて判断した。ただし、一部の種（ウラゴマダラシジミ、オオムラサキ）では定量的基準に当てはめると想定以上にランクが高くなる状況が見られたが、これは絶滅している数の多い区部があまりに狭くかつ細かく分割されている一方で、現存する多摩西部などの市町村では生息面積が広く個体数も多いため、実際にはそこまで高ランクにないところからくるギャップが評価として表れている。したがって、これらの種ではより現状の評価に適合する定性的基準のみで評価した。また、最近になってウラギンヒョウモンが複数種に分割され、このうちサトウラギンヒョウモンとヤマウラギンヒョウモンの 2 種が東京都にも生息すると考えられるが、過去の記録の同定が判別できないため、本書ではこれらを区分せず、従来通りウラギンヒョウモンを 1 種として扱った。

【選定・評価結果の概要】

今回の評価の結果、前回（2010 年）のレッドリストで対象外となっていた種が新たに 26 種追加された一方で、前回の掲載種であるウスバアゲハ（ウスバシロチョウ）、ミズイロオナガシジミ、コムラサキの 3 種は近年の分布拡大により掲載種から外れた。改定で取り上げたレッドリスト掲載種は、アゲハチョウ科 3 種、シロチョウ科 4 種、シジミチョウ科 23 種、タテハチョウ科（テングチョウ亜科、ジャノメチョウ亜科を含む）27 種、セセリチョウ

ウ科 16 種の合計 73 種に及んだ。前回と比較すると、アゲハチョウ科では 1 種減少したが、シロチョウ科では 2 種、シジミチョウ科では 3 種、タテハチョウ科では 10 種、セセリチョウ科では 9 種が差し引きで増えたことになる。

本土部に着目すると、絶滅 (EX) の判定は 13 種で、明治期の標本が発見されたチャマダラセセリと近年全国的に減少が著しいウラギンスジヒョウモンの 2 種が新たに加わったが、いずれも草原性の絶滅危惧チョウ類である。他の絶滅種では、同様に草原・湿地帯を生息地とするヒメシロチョウ、ヒメシジミ、アサマシジミ、オオウラギンヒョウモン、ホシチャバネセセリ、コキマダラセセリ、アカセセリ、河川敷に依存するミヤマシジミやシルビアシジミ、さらには人の手で管理された里山環境を好むギフチョウやクロシジミが挙げられる。いずれも開発・改修や管理放棄、農業形態の変化などの影響を受けやすい環境に生息していたチョウ類で、高度経済成長期の煽りを受けて衰退、絶滅に至ったと考えられる。絶滅危惧 IA 類 (CR) の判定はスジグロチャバネセセリ、ツマグロキチョウ、アサマイチモンジの 3 種で、やはり河川改修や里山放棄による影響を受けやすいチョウ類である。絶滅危惧 IB 類 (EN) は 8 種で、草原性のヘリグロチャバネセセリ、ヤマキチョウ、スジボソヤマキチョウ、ギンボシヒョウモンの他、山地の雑木林を好むムモンアカシジミや森林・渓谷性のキバネセセリ、カラスシジミ、ツマジロウラジャノメが加わる。また、同じく森林・渓谷性のジョウザンミドリシジミとフタスジチョウの 2 種が情報不足 (DD) として判定されたが、前者は生息地の樹冠が高くなって調査困難に陥ったこと、後者は 1979 年の幼虫による奥多摩町での 1 例のみであることによる。残りの絶滅危惧 II 類 (VU) では 14 種、準絶滅危惧 (NT) では 18 種が選定された。これらの結果から前回と比較すると、絶滅 (EX) では 1 種、絶滅危惧 I 類 (CR+EN) では 9 種、絶滅危惧 II 類 (VU) では 11 種、準絶滅危惧 (NT) では 17 種が増加したことになる。

全体の傾向として、東京都本土部では宅地開発や管理放棄等により区部や隣接した多摩東部を中心に絶滅または絶滅寸前となっている平地・低山性の種が多く見られるが、最近ではニホンジカの激増による食害 (過剰採食) の影響で急速に減少した山地性チョウ類が現れ始めたことが注目される。これはチョウ類だけでなく他の植食性昆虫にも共通する新たな脅威が生じたと言える。また、ホシミスジ近畿低地亜種や中国原産アカボシゴマダラのような外来チョウ類の侵入、拡大による在来種・在来亜種への影響も今後の深刻な問題として懸念されるだろう。

(矢後 勝也)

チョウ目チョウ類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
チョウ目	LEPIDOPTERA					
セセリチョウ科	Hesperiidae					
キバナセセリ	<i>Burara aquilina</i>	・	EN	EN		
アオバセセリ	<i>Choaspes benjaminii</i>	CR	○	○		
ダイヨウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	VU	○	○		
ミヤマセセリ	<i>Erynnis montana</i>	EX	NT	NT		1
チャマダラセセリ	<i>Pyrgus maculatus</i>	－	－	EX	EN	2
ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>	VU	NT	NT	NT	
ホソバセセリ	<i>Isoetes lamprospilus</i>	EX	NT	NT		
ホシチャバナセセリ	<i>Aeromachus inachus</i>	・	EX	EX	EN	
コチャバナセセリ	<i>Praethoessa varia</i>	CR	○	○		
スジグロチャバナセセリ	<i>Thymelicus leoninus</i>	・	CR	CR	NT	
ヘリグロチャバナセセリ	<i>Thymelicus sylvaticus</i>	・	EN	EN		
ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i>	CR	○	○		
コキマダラセセリ	<i>Ochlodes venatus</i>	・	EX	EX		
アカセセリ	<i>Hesperia florinda</i>	・	EX	EX	EN	
オオチャバナセセリ	<i>Zinaida pellucida</i>	CR	NT	NT		
ミヤマチャバナセセリ	<i>Pelopidas jansonis</i>	VU	○	○		
アゲハチョウ科	Papilionidae					
ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	・	EX	EX	VU	
ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maaekii</i>	EN	NT	NT		
オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>	EN	○	○		
シロチョウ科	Pieridae					
ヒメシロチョウ	<i>Leptidea amurensis</i>	EX	EX	EX	EN	
ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta</i>	CR	CR	CR	EN	
スジボソヤマキチョウ	<i>Gonepteryx aspasia</i>	・	EN	EN		
ヤマキチョウ	<i>Gonepteryx maxima</i>	・	EN	EN	EN	
シジミチョウ科	Lycaenidae					
ゴイシジミ	<i>Taraka hamada</i>	EN	VU	VU		
ウラゴマダラシジミ	<i>Artopoetes pryeri</i>	EX	NT	NT		
ムモンアカシジミ	<i>Shirozua jonasi</i>	・	EN	EN		
オナガシジミ	<i>Araragi enthea</i>	・	VU	VU		
ウスイロオナガシジミ	<i>Antigius butleri</i>	・	VU	VU		
ウラムシジミ	<i>Wagimo signatus</i>	・	NT	NT		
アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>	VU	○	○		
ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata</i>	VU	○	○		
ウラクロシジミ	<i>Iratsume orsedice</i>	・	NT	NT		
ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>	EN	VU	VU		
アイノミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus brillantinus</i>	・	NT	NT		
エゾミドリシジミ	<i>Favonius jezoensis</i>	・	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>	CR	○	NT		
ジョウザンミドリシジミ	<i>Favonius taxila</i>	・	DD	DD		
ハヤシミドリシジミ	<i>Favonius ultramarinus</i>	・	VU	VU		
トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>	NT	○	○		
コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>	EX	NT	NT		
カラスシジミ	<i>Fixsenia w-album</i>	・	EN	EN		
クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>	EX	EX	EX	EN	
シルビアシジミ	<i>Zizina emelina</i>	EX	EX	EX	EN	3
ヒメシジミ	<i>Plebejus argus</i>	・	EX	EX	NT	
ミヤマシジミ	<i>Plebejus argyrognomon</i>	EX	EX	EX	EN	4
アサマシジミ	<i>Plebejus subsolanus</i>	・	EX	EX	EN	5
タテハチョウ科	Nymphalidae					
ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice</i>	EX	EX	EX	VU	
オオウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome ruslana</i>	CR	○	NT		
メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana</i>	CR	NT	NT		
クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene</i>	EX	NT	NT		
ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe</i>	CR	NT	VU		
オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>	EX	EX	EX	CR	
ギンボンヒョウモン	<i>Speyeria aglaja</i>	・	EN	EN		
イチモンジチョウ	<i>Limenitis camilla</i>	CR	○	○		6
アサマイチモンジ	<i>Limenitis glorifica</i>	EX	CR	CR		7
オオミスジ	<i>Neptis alwina</i>	EX	NT	VU		
ミスジチョウ	<i>Neptis philyra</i>	CR	NT	NT		
ホシミスジ	<i>Neptis pryri</i>	・	VU	VU		
フタスジチョウ	<i>Neptis rivularis</i>	・	DD	DD		
スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus</i>	EX	○	○		
キベリタテハ	<i>Nymphalis antiopa</i>	・	VU	VU		
エルタテハ	<i>Nymphalis vaualbum</i>	・	VU	VU		
ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>	EN	NT	NT		
オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	EX	NT	NT	NT	
ヒメウラナミジャノメ	<i>Ypthima argus</i>	VU	○	○		
ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>	CR	NT	NT		
ツマジロウラジャノメ	<i>Lasiommata deidamia</i>	・	EN	EN		
ウラジャノメ	<i>Lopinga achine</i>	・	VU	VU		
クロヒカゲ	<i>Lethe diana</i>	CR	○	○		
ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>	NT	○	○		
ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>	・	VU	VU		
ヤマキマダラヒカゲ	<i>Neope nipponica</i>	・	VU	VU		
コジャノメ	<i>Mycalesis francisca</i>	CR	○	○		

和名、学名、配列は「日本昆虫目録編集委員会編，2013. 日本昆虫目録 第7巻 第1号 Catalogue of the Insects of Japan 鱗翅目(セセリチョウ上科ーアゲハチョウ上科). 日本昆虫学会」に準拠した。

【備考】

番号 1、3～7 の種は、最近の研究結果に従って学名を変更した。

- 1: 前回記載の学名は *Erynnis montanus* である。
- 2: 1883 年 4 月と 1894 年 7 月に採集された明治期の標本 2 頭が知られる。ラベルには Tokyo のみで詳細な採集地は不明である。そのため地域区分ごとの評価ができず、本土部全体での判定のみとせざるを得なかった。
- 3: 前回記載の学名は *Zizina otis* である。
- 4: 前回記載の学名は *Lycaeides argyrognomon* である。
- 5: 前回記載の学名は *Lycaeides subsolanus* である。
- 6: 前回記載の学名は *Ladoga camilla* である。
- 7: 前回記載の学名は *Ladoga glorifica* である。

(9)チョウ目ガ類

【選定・評価方法の概要】

昆虫の中でもガ類は多種多様で多くの種類が知られ非常に繁栄している昆虫である。『日本産蛾類標準図鑑 I～IV』（2011–2013）によると、約 6,000 種が知られているが、毎年新しい種が発見されており将来は 7,000 種を越える種類が我国から記録されると思われる。多くのガ類の分布は、食性の影響を受けるため環境指標となりえるものが多く、環境アセスメントの評価に際し非常に役立っている。

東京都のガ類には、数年前までは散発的な記録が多く、まとまった目録がなかったが、最近、皇居（大和田ほか，2000・2006）、赤坂御所（大和田ほか，2005）や八王子市（岸田，2016）の目録が発表され、今年西海（2019）により東京都蛾類目録が出版された。また、東京大学総合研究博物館に所蔵される加藤正世博士の標本（戦前に石神井公園で採集されたもの）を調べることなどにより、東京都のガ相は大幅に解明することができた。

東京都の 1998 年版レッドリストでガ類は対象外であったし、2010 年版では大型で目立つ種類の 7 種がリストアップされたただけだった。

今回は、14 科 56 種をリストアップした。掲載種は大幅に増加したが、これは、上記の文献に加えて筆者の調査などでガ相の解明が進んだからである。しかし、まだ調査不足、情報不足などから不明で、評価できなかった種類が多数あり、次回の改定ではさらに掲載種数は増える可能性がある。

今回選定したガは大蛾類（いわゆるマクロ）だけであり、小蛾類（いわゆるミクロ）は不明な点が多いので扱わなかった。

絶滅のおそれの評価は、基本的には定性的要件を用いた。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は 14 科 56 種となった。今回、本土部全体で絶滅（EX）と判断したのは、前回と同じカバシタムクゲエダシャク、タケウチエダシャク、マエアカヒトリの 3 種である。ヒトリガは戦前の渋谷で採れた記録があるがその後は採れていないので区部は絶滅（EX）とした。また、ベニシタバも練馬区などで古い記録があるだけなので区部は絶滅（EX）とした。絶滅危惧 I A 類（CR）としたのはモクメシャチホコ、スゲドクガ、ヒトリガ、ミカボコブガ、ベニシタバ、ヒメシロシタバ、ヒメアシブトクチバ、アシナガモモフトスカシバの 8 種で、絶滅危惧 I B 類（EN）としたのはシロホソバ、ヤネホソバ、サラサリンガ、タカオキリガ、ナマリキリガの 5 種である。ヤネホソバ、シロホソバは、茅葺拭き屋根に生える地衣類を食すが、茅葺拭き屋根のある家屋がほとんどなくなったことから姿を消した。ミカボコブガ、ヒメシロシタバは、高尾山山頂にわずかに残っているカシワの木に依存しており、風前の灯火の種である。タカオキリガは高尾山がタイプロカリティーのガで、再三の調査にもかかわらず 1970 年代以降得られていない。

アシナガモモブトスカシバやスゲドクガは湿地性のガ類で、湿地環境の激減で、最近の記録はほとんどない。また区部で絶滅危惧ⅠA類（CR）としたオナガミズアオは、石神井、多摩丘陵、高尾山などで記録があったが最近得られたということをつかない。今回絶滅危惧ⅠA類（CR）又はⅠB類（EN）とした種の中には、既に絶滅してしまった種もいる可能性がある。

その他、絶滅危惧Ⅱ類（VU）や準絶滅危惧（NT）として選定したほとんどの種が、平地から低山地の雑木林や、河川敷、湿地に生息する種で、今後、伐採や造成などによりランクの昇格が必要になるかもしれない。

選定はしなかったが、区部で以前は普通種だったミノウスバ、ユウマダラエダシャクは、家屋の垣根に使用されているマサキに依存していたが、マサキの垣根の家がほとんどなくなった為に激減していることを付け加えておく。

[引用文献]

- 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則編，2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ.
岸田泰則編，2011. 日本産蛾類標準図鑑Ⅰ.
岸田泰則編，2011. 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ.
岸田泰則，2016. チョウ目ガ蛾，八王子市動植物目録. 八王子市史編さん室，八王子市.
那須義次・広渡俊哉・岸田泰則編，2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅳ.
大和田守・有田豊・岸田泰則・池田真澄・神保宇嗣，2000. 皇居の蛾類. 国立科学博物館専報，(36): 115-168.
大和田守・有田豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・平野長男，2006. 皇居の蛾類モニタリング調査（2000-2005）. 国立科学博物館専報，(43): 37-136.
大和田守・有田豊・神保宇嗣・岸田泰則・中島秀雄・池田真澄・新津修平・慶野志保子，2005. 赤坂御用地の鱗翅類. 国立科学博物館専報，(39): 55-120.
西海正彦，2019. 東京都蛾類目録.

(岸田 泰則)

チョウ目ガ類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
チョウ目	LEPIDOPTERA					
シャクガ科	Geometridae					
カバシタムクゲエダシャク	<i>Sebastosema bubonaria</i>	・	EX	EX	CR	1
タケウチエダシャク	<i>Biston takeuchii</i>	・	EX	EX		
カレハガ科	Lasiocampidae					
カレハガ	<i>Gastropacha orientalis</i>	VU	NT	NT		
ヤママユガ科	Saturniidae					
シンジュサン	<i>Samia cynthia</i>	CR	VU	VU		
クスサン	<i>Saturnia japonica</i>	EN	NT	NT		
ウスタビガ	<i>Rhodinia fugax</i>	EN	NT	NT		
オオミズアオ	<i>Actias aliena</i>	VU	○	○		
オナガミズアオ	<i>Actias gnoma</i>	CR	VU	VU	NT	
イボタガ科	Brahmaeidae					
イボタガ	<i>Brahmaea japonica</i>	CR	VU	VU		
スズメガ科	Sphingidae					
クロスズメ	<i>Sphinx caliginea</i>	EN	VU	VU		
オビグロスズメ	<i>Sphinx crassistriga</i>	・	VU	VU		
シャチホコガ科	Notodontidae					
モクメシャチホコ	<i>Cerura felina</i>	・	CR	CR		
ゴマダラシャチホコ	<i>Palaeostauropus obliteratus</i>	・	VU	VU		
ギンボシシャチホコ	<i>Rosama cinnamomea</i>	・	VU	VU		
ドクガ科	Lymantriidae					
スゲドクガ	<i>Laelia coenosa</i>	・	CR	CR	NT	
スゲオオドクガ	<i>Laelia gigantea</i>	・	VU	VU		
ヒトリガ科	Arctiidae					
シロホソバ	<i>Eilema degenerella</i>	・	EN	EN	NT	
ヤネホソバ	<i>Eilema fuscodorsalis</i>	CR	EN	EN	NT	
ヒトリガ	<i>Arctia caja</i>	EX	CR	CR		
マエアカヒトリ	<i>Aloa lactinea</i>	EX	EX	EX	NT	
キハダカノコ	<i>Amata germana</i>	EN	VU	VU		
コブガ科	Nolidae					
ミカボコブガ	<i>Meganola mikabo</i>	・	CR	CR	NT	
サラサリンガ	<i>Camptoloma interioratum</i>	EX	EN	EN		
ヤガ科	Noctuidae					
キシタアツバ	<i>Hypena claripennis</i>	CR	VU	VU	NT	
カギモンハナオヘアツバ	<i>Cidaripura signata</i>	・	VU	VU	NT	
オオキヒロアツバ	<i>Pseudalelimma miwai</i>	・	VU	VU		
ベニシタバ	<i>Catocala electa</i>	EX	CR	CR		
シロシタバ	<i>Catocala nivea</i>	VU	NT	NT		
ワモンキシタバ	<i>Catocala xarippe</i>	・	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク			環境省 ランク 2020	備考
		区部	多摩部	本土部		
ナマリキシタバ	<i>Catocala columbina</i>	・	VU	VU		
ヒメシロシタバ	<i>Catocala nagioides</i>	・	CR	CR	NT	
コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>	VU	NT	NT	NT	
ヒメアシプトクチバ	<i>Parallelia dulcis</i>	CR	CR	CR		
ウスズミケンモン	<i>Acronicta carbonaria</i>	—	VU	VU	NT	
ギンモンセダカモクメ	<i>Cucullia jankowskii</i>	・	VU	VU	NT	
ヤヒコカラスヨトウ	<i>Amphipyra subrigua</i>	・	VU	VU		
ゴボウトガリヨトウ	<i>Gortyna fortis</i>	・	NT	NT		
キシジウスキヨトウ	<i>Capsula sparganii</i>	VU	VU	VU	VU	
エチゴハガタヨトウ	<i>Asidemia inexpecta</i>	・	VU	VU		
ギンモンアカヨトウ	<i>Plusilla rosalia</i>	・	VU	VU	VU	
ウスミモンキリガ	<i>Eupsilia contracta</i>	・	VU	VU	NT	
ミヤマオビキリガ	<i>Conistra griseocens</i>	・	NT	NT		
イチゴキリガ	<i>Orbona fragariae</i>	NT	NT	NT		
ミスジキリガ	<i>Jodia sericea</i>	・	VU	VU	NT	
タカオキリガ	<i>Pseudopanolis takao</i>	・	EN	EN		
ナマリキリガ	<i>Orthosia satoi</i>	・	EN	EN		
アトジロキリガ	<i>Dioszeghyana mirabilis</i>	・	VU	VU		
ミノガ科	Psychidae					
オオミノガ	<i>Eumeta variegata</i>	NT	NT	NT		
マダラガ科	Zygaenidae					
ヤホシホソマダラ	<i>Balataea octomaculata</i>	・	VU	VU	NT	
スカシバガ科	Sesiidae					
コシアカスカシバ	<i>Scasiba scribai</i>	NT	NT	NT		
シタキモモブトスカシバ	<i>Melittia inouei</i>	NT	・	NT		
オオモモブトスカシバ	<i>Melittia sangaica</i>	NT	NT	NT		
アシナガモモブトスカシバ	<i>Macroscylesia longipes</i>	CR	・	CR	VU	
ヒメアトスカシバ	<i>Nokona pernix</i>	NT	NT	NT		
フクズミコスカシバ	<i>Synanthedon fukuzumii</i>	VU	VU	VU		
ボクトウガ科	Cossidae					
ハイイロボクトウ	<i>Pharagmataecia castaneae</i>	VU	NT	NT	NT	

和名、学名、配列は「岸田泰則編, 2011. 日本産蛾類標準図鑑Ⅰ. 学研教育出版」、「岸田泰則編, 2011. 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ. 学研教育出版」、「広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則編, 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 学研教育出版」に準拠した。

【備考】

- 1:最近の研究結果に従って学名を変更した。前回記載の学名は *Sebastosema bubonarium* である。

9. 甲殻類

【選定・評価方法の概要】

甲殻類は、磯や干潟、砂浜から暗黒、低温、高圧の深海まで海中のあらゆる環境に生息し、また、河川から湖沼、陸上へと進出している動物群である。顕微鏡サイズのみジンコの間から節足動物中最大のタカアシガニまで、大小も形態も生態も著しく変化に富んでいる。中でも、十脚甲殻類としてまとめられるエビ類、ヤドカリ類、カニ類は比較的大型で、身近な動物としてよく知られており、水産資源として重要な種も含まれているほか、魚類や鳥類の餌として重要である。

今回、評価対象としたのは十脚甲殻類のみである。みジンコ類など微小なプランクトンや湿地性のワラジムシ類なども水質や環境を知るためには重要な指標となること、また、生息環境が埋め立てや宅地化により失われつつあることは事実であるが、分布記録が少ないこと、小型で肉眼による観察や同定（種名の決定）が困難であることなどの理由で評価対象から除外した。

十脚甲殻類の生態分布に関しては一般に海水性、汽水性、純淡水性、半陸生性、両側回遊性に分けられるが、必ずしも厳密に区別できるものではない。今回は海水性の種以外を評価対象としたが、汽水域で記録されたことが事実であっても、種によっては、その生態、河口域の状況、潮汐の影響などを考慮して本来の生息地を判断し、評価対象外とした。

2011年から現在まで、東京都（区部、多摩地域）から記録された汽水産、淡水産の十脚甲殻類は、エビ類 16 種、ヤドカリ類 6 種、カニ類 24 種である。このうち、クルマエビ類やエビジャコ類、ワタリガニ類などの幼若個体が多摩川や荒川など大型河川の汽水域で相当数採集されるが、海水の干満に応じて遊泳移動するためであり、本来の生息地は数～十数メートルの海底であるので評価対象外とした。さらに、前回「良好な環境の指標」という理由で留意種としたケフサイソガニは、生息個体数も比較的多く、今回の改定で見直された留意種の選定理由には当てはまらなかったため対象外とした。結局、評価対象としてエビ類 9 種、ヤドカリ類 1 種、カニ類 12 種を選出した。

近年は、環境問題に関する意識の高まりとともに、公共団体が支援する生物相調査が各地で行われるようになり、結果は「報告書」として蓄積されている。「報告書」からは種ごとの個体数や生息地の経年的増減などを知ることはできないが、種の存否は環境を知るための重要な情報である。十分に公表、活用される機会が少ないが、今回は、「報告書」の情報を基礎として定性的評価を行った。

【選定・評価結果の概要】

掲載種 22 種について、すべての種において、過去と現在の個体数の増減を明確に示すことはできないが、ウモレベンケイガニなど東京湾が分布の北限域である種やハサミシヤコエビやニホンスナモグリなど穴居するために採集調査が不十分である種などにおいては、過去も現在も記録が著しく少ない。総合的検討の結果、現在では全てほとんどの種におい

て問題のない個体数が維持されていると判断されたが、一部の汽水性エビ類や軟泥底にすむヤマトオサガニ、清流にすむサワガニなどの個体数は減少傾向にあり、また、ヨシ原に固有のアシハラガニなどの個体数も生息地の盛衰と連動している。移動性の少ない十脚甲殻類の増減は水質と底質に大きく影響を受ける。東京都においては、十脚甲殻類の生息に適した沿岸環境が少ないこともあり、下記の理由により、注目すべき種を「留意種」に指定した。

海と陸が隔てられた短い海岸線、大都会を流れている河川、宅地化が進む北多摩と南多摩、自然が残る西多摩と、東京都は明らかに異なる環境を有している。汽水域から淡水域まで遡上するクロベンケイガニ、多摩地域の溪流に生息するサワガニ、大型河川の中流域に生息するテナガエビなどの例を見るまでもなく、十脚甲殻類の特定の種が東京都全域に分布することはなく、希少種や特定の環境を必要とする種は減少し比較的環境変化に強い種が生息しているのが現状であると判断される。結果として、現在生息している種の増減こそが、水域環境の直接的指標になると考えられる。

好ましい状態で保全されている葛西海浜公園の東なぎさにおいて、生息が予測されるエビ類、ヤドカリ類、カニ類を確認することができた。東京都の沿岸域においてはヨシ原の軟泥地は限られている。一時はほとんど見られなかったコメツキガニなどもいわゆる人工干潟に戻ってきている。この公園が今後どのような経過をたどるか予測できないが、環境をありのままに守ることができれば、十脚甲殻類の種数と個体数は維持されると考えられる。

生息地を奪われるという難局に直面しているのが、多摩地域におけるサワガニとスジエビである。多摩丘陵各地の小規模な湧水地に生息しているサワガニは丘陵地さえ削る宅地化により、生息地を奪われて激減しているが、スジエビは各地公園内の池で守られているのが現状である。

近年は、相模湾や房総半島において南方系のサンゴ類や無脊椎動物の定着が見られるようになり、温暖化の影響が考えられる。カニ類においても同様な例があるが、東京湾においては、東京湾が分布の北限という種以外に、新たに記録された南方系の種は見られない。むしろ、2004年に東京湾で採集されたチュウゴクモクズガニの増殖によって、生態的に競合するモクズガニの減少が危惧される。かつては南多摩で普通に見られたとのことであるが、一時の河川の汚染により減少し、現在は新たに外来種の脅威にさらされている。

浮遊幼生が他海域から補給される海産甲殻類に比べて、淡水域や汽水域に生息する甲殻類は水質や底質の状況に応じて個体数は増減し、あるいは宅地造成などによって生息地が失われて絶滅する。留意種だけではなく、その他のエビ類やカニ類の存在も水生生物と環境の多様性維持のために必要である。

[引用文献]

- 平成 29 年度 葛西海浜公園自然環境調査委託報告書. 株式会社建設技術研究所
- 平成 30 年度 葛西海浜公園ほか 1 公園自然環境調査委託報告書. 新日本環境調査株式会社
- 平成 30 年度 都立公園池水質改善事業完了報告書. 公益財団法人東京都公園協会

(武田 正倫)

甲殻類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
エビ目(十脚目)	DECAPODA							
テナガエビ科	Palaemonidae							
シラタエビ	<i>Palaemon orientis</i>	DD	・	・	・	DD		
スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	*①②③	*①②③	*①②③	*①②③	*①②③		
ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>	DD	・	・	・	DD		
テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	*①②	*①②	—	—	*①②		
ヌマエビ科	Atyidae							
ヌカエビ	<i>Paratya improvisa</i>	*①②③	*①②③	*①②③	*①②③	*①②③		
エビジャコ科	Crangonidae							
ウリタエビジャコ	<i>Crangon uritai</i>	DD	・	・	・	DD		
ハサミシャコエビ科	Laomediidae							
ハサミシャコエビ	<i>Laomedia astacina</i>	DD	・	・	・	DD		
スナモグリ科	Callianassidae							
ニホンスナモグリ	<i>Nihonotripea japonica</i>	DD	・	・	・	DD		
アナジャコ科	Upogebiidae							
アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	DD	・	・	・	DD		
ホンヤドカリ科	Paguridae							
ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>	DD	・	・	・	DD		
サワガニ科	Potamidae							
サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	*①②	*①②	*①②	*①②	*①②		
オサガニ科	Macrophthalmidae							
ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	*①	・	・	・	*①		
オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>	DD	・	・	・	DD		
コメツキガニ科	Dotillidae							
チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	*①	・	・	・	*①		
コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	*①	・	・	・	*①		
モクズガニ科	Varunidae							
モクズガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>	*①②④	*①②④	*①②④	—	*①②④		
ベンケイガニ科	Sesarmidae							
アカテガニ	<i>Chromantes haematocheir</i>	*①②	・	・	・	*①②		
ウモレベンケイガニ	<i>Clistocoeloma sinense</i>	DD	・	・	・	DD		
クロベンケイガニ	<i>Chromantes dehaani</i>	*①②	・	・	・	*①②		
ベンケイガニ	<i>Sesarmops intermedia</i>	*①②	・	・	・	*①②		1
カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>	DD	・	・	・	DD		
アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	*①②	・	・	・	*①②		

和名、学名、配列は「三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑. 保育社」、「Ng, P.K.L., D. Guinot & P.J.F. Davie, 2008. Systema Brachyrorum: Part I. An Annotated Checklist of Extant Brachyuran Crabs of the World. Raffles Bull. Zool., Suppl. (17), 286 pp.」、「酒井恒, 1976. 日本産蟹類. 講談社」に準拠した。

【備考】

1:最近の研究結果に従って学名を変更した。前回記載の学名は *Sesarmops intermedius* である。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
スジエビ	区部	淡水の止水域を代表する種で、東京都においては、自然の生息環境が狭められているため
	北多摩	
	南多摩	
	西多摩	
	本土部	
テナガエビ	区部	流れの緩やかな河川の深みに生息する淡水エビを代表する種で、食用あるいは釣りの対象とされる。河川の地勢や汚染を反映する種であるため
	北多摩	
	本土部	
ヌカエビ	区部	淡水の止水域を代表する種で、東京都においては、自然の生息環境が狭められているため
	北多摩	
	南多摩	
	西多摩	
	本土部	
サワガニ	区部	清流にすむカニで、東京都で見られるのはほとんどが紫黒色である。山地では森林の伐採と木材の放置、低地では丘陵地における宅地化で生息適地が奪われているため
	北多摩	
	南多摩	
	西多摩	
	本土部	
ヤマトオサガニ	区部	淡水の影響が強い軟泥地に穴居するカニで、個体数の増減は生息環境の影響を受けやすいため。また本種は鳥類の重要な餌でもある
	本土部	
チゴガニ	区部	砂泥干潟に穴居する小型のカニで、干潮時の活動時間が長く、陸上進出がかなり進んでいる。干潟の状態により個体数の増減が著しいため
	本土部	
コメツキガニ	区部	河口近くの砂泥干潟に穴居する小型のカニで、生息適地には群生する。干潟の状態により個体数の増減が著しいため
	本土部	
モクズガニ	区部	東京湾には特定外来種であるチュウゴクモクズガニが定着している可能性があり、生態的に競合するため
	北多摩	
	南多摩	
	本土部	

和名	地域区分	留意種とした理由
アカテガニ	区部	河口域から陸上へと進出しているカニであり、カニ類の陸上への進出の生理的特性などを知るためにもその増減には留意する必要があるため
	本土部	
クロベンケイガニ	区部	主として河口のヨシ原に穴居するカニで、生息場所となるヨシ原の干潟が限定的であるため
	本土部	
ベンケイガニ	区部	河口域から陸上へと進出しているカニである。生態的にはアカテガニに近いが、東京湾では個体数が多くないため
	本土部	
アシハラガニ	区部	ヨシ原に浅い巣穴を掘って生活するカニで、他の小型カニ類などを捕食する。生息場所となるヨシ原の干潟が限定的であるため
	本土部	

10. クモ類

【選定・評価方法の概要】

クモ綱は2010年版で初めて取り上げられ、今回が2度目の選定、評価となる。同類は、クツコムシ目、ヒヨケムシ目、ウデムシ目、ダニ目、ザトウムシ目、カニムシ目、サソリ目、サソリモドキ目、コヨリムシ目、ヤイトムシ目およびクモ目の11の現生のグループに分類され(順不同)、クツコムシ、ヒヨケムシ、ウデムシを除く8目を日本に産する。東京都本土部においては、コヨリムシ、ヤイトムシ、サソリ、サソリモドキの各目は生息していない。ダニ類の推定される種数は多いが、未記載種も多く、トキウモウダニのような特殊な事例を除き種の保全の対象として扱われることはほとんどない。また、ザトウムシ目およびカニムシ目に関しては東京都本土部における種の保存の観点での情報が非常に少ないため将来の課題とし、今回は前回(2010年版)と同じくクモ目のみを評価の対象とした。

クモは世界に128科、約48,000種が知られ(World Spider Catalog, 2020)、日本から約1,700種が記録されている(小野, 2009; 小野・緒方, 2018)。生態学的な特性も多様で、自然環境および里山や都市の緑地などの人為環境下の生態系において昆虫類の捕食者として、また鳥類や爬虫類、両生類、小型の哺乳類等の食餌動物として重要な役割を果たしている。クモ類が多様で個体数も多い環境は、その餌となっている昆虫類が豊富であり、昆虫が多様な環境は植物相が豊かであることを表している。さらに、小型の脊椎動物にとっても餌が豊富な場所となり、クモの多様性が良い環境の指標になり得ることが示唆される。

評価にあたっては、平成21年(2009年)以降今日までに報告されている文献をできる限り探索し記録を検証した。特に、初芝ほか(2016)による八王子市(南多摩)における自然調査報告、区部の大型緑地である皇居(小野, 2014)、明治神宮の森(小野, 2013)および国立科学博物館附属自然教育園(小野ほか, 2019)の調査結果、また多くの環境アセスメントの報告書の内容を検討し、本レッドリストの評価対象とした。

以上の情報を整理し、東京都が制定している評価基準や判定手順に準拠して検討を進めたが、クモ類に関しては定量的な調査は困難なことから、評価に際しては主に定性的な条件を考慮した。特に生態学的な特性(推測される個体数、食餌の多様性、環境依存度、移動能力など)、環境条件(生息場所の面積、環境の多様性、植生との関係、温度・湿度などの物理的な条件)、捕食圧(天敵との関係)及び競争圧(侵入種との競合)に注意を払った。

【選定・評価結果の概要】

評価対象種には、筆者による現地調査のほか、研究者の意見を広く聴取して約40種が挙げられ、検討の結果、2010年版に掲載された19科33種に、ヤエンオニグモ、チュウガタコガネグモおよびムサシハイタカグモの3種を加えた20科36種が選定された。

新規選定の種を除くと、今回の評価結果は、2010年版と比較して特筆すべきランクの変

動は少ない。特に西多摩では、ニッパラマシラグモやトウキョウホラヒメグモのように洞窟や地下の間隙のような暗湿な環境に依存している種や、カネコトタテグモのように分散を歩行に頼る移動能力の低い種のほか、純粹に森林、草原、溪流などの良好な環境を必要とする種の存在を脅かすほどの環境の改変は為されていないと考えられる。

しかし、その他の地域では、わずか10年の間であるが、全体的に種数の減少が見られ、またアシダカグモのような外来種の増加や、因果関係は解明されていないがコアアシダカグモの減少など、都市化の進行がクモ相に影響を及ぼしていることが推測された。農耕地の宅地化、古い家屋の建て替えや空き地の効率利用による屋敷林や藪の消失、大規模緑地における樹木の極相化、景観を重視した下草の刈り取りや芝生の植栽、公園の地面のアスファルトやゴムチップ舗装、蚊などの害虫駆除のための薬剤散布などが、その要因として挙げられる。

東京都からはおよそ600種のクモが記録されているが、その8割近くに及ぶ465種が南多摩の八王子市に生息することが判明している。一方、区部の緑地では皇居や国立科学博物館附属自然教育園のような大規模緑地でも200種前後しか見られず、区部全体としては、55年前の東京オリンピック前後の高度経済成長期にすでに多くの種が絶滅していた可能性が示唆される。もともと区部に生息していた種のおよそ3割にあたる100種程度がこれにあたると思われるが、全国あるいは本土部全体の視点での保護上重要な種には該当しないと考える。そうした種をすべてレッドリストに取り上げることは難しいが、今回、区部で取り上げられている種については今後も特段の配慮を持って観察していきたい。

区部や北多摩では、タテヤマテナガグモやクマダハナグモなどの比較的過酷な環境条件にも耐えうる広域分布種やアシダカグモやマダラフクログモなどの外来種の増加がみられ、今後はそうした新たな侵入者と保護上重要な種との競合についても見守る必要がある。

[引用文献]

- 初芝伸吾・谷川明男・新井浩司・甲野 涼, 2016. クモ類. 新八王子市史自然調査報告書, 八王子市動植物目録: 529-557.
- 小野展嗣 (編著), 2009. 日本産クモ類. xvi + 739 pp.
- 小野展嗣, 2013. 明治神宮の森と庭園のクモ類. 鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書: 384-414.
- 小野展嗣, 2014. 皇居のクモ類. 国立科学博物館専報, 50: 71-104.
- 小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類生態図鑑, 自然史と多様性. xiii + 715 pp.
- 小野展嗣・奥村賢一・水山栄子・安藤昭久, 2019. 自然教育園のクモ類. 自然教育園報告, 51: 123-142.

(小野 展嗣)

クモ類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
クモ目	ARANEAE							
ジグモ科	Atypidae							
ワスレナグモ	<i>Calommata signata</i>	NT	NT	NT	DD	NT	NT	1
カネコタテグモ科	Antrodiaetidae							
カネコタテグモ	<i>Antrodiaetus roretzii</i>	VU	NT	VU	DD	NT	NT	2
トタテグモ科	Halonoproctidae							
キノボリトタテグモ	<i>Conothele fragaria</i>	VU	NT	NT	DD	NT	NT	
キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>	VU	NT	NT	NT	NT	NT	
エンマグモ科	Segestriidae							
コマツエンマグモ	<i>Segestria nipponica</i>	—	—	DD	DD	DD		
ヤギヌマグモ科	Telemidae							
ヤマトヤギヌマグモ	<i>Telega nipponica</i>	DD	—	—	DD	DD		3
ユウレイグモ科	Pholcidae							
アケボノユウレイグモ	<i>Belisana akebona</i>	—	—	NT	NT	NT		4
マシラグモ科	Leptonetidae							
ヤマトマシラグモ	<i>Falcileptoneta japonica</i>	VU	DD	NT	DD	NT		5
ニッバラマシラグモ	<i>Masirana nippara</i>	—	—	—	VU	VU		
コガネグモ科	Araneidae							
キジロオヒキグモ	<i>Arachnura logio</i>	NT	DD	NT	DD	NT		6
ヤエンオニグモ	<i>Araneus macacus</i>	NT	DD	NT	DD	NT		
コケオニグモ	<i>Araneus seminiger</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
ニシキオニグモ	<i>Araneus variegatus</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
コガネグモ	<i>Argiope amoena</i>	VU	VU	NT	NT	NT		7
チュウガタコガネグモ	<i>Argiope boesenbergi</i>	—	DD	DD	DD	DD		
トゲグモ	<i>Gasteracantha kuhlii</i>	DD	DD	DD	DD	DD		8
ゴマジロオニグモ	<i>Mangora herbeoides</i>	—	DD	NT	DD	DD		9
マメイタイセキグモ	<i>Ordgarius hobsoni</i>	—	—	DD	DD	DD		
ムツトゲイセキグモ	<i>Ordgarius sexspinosus</i>	DD	DD	NT	NT	NT		10
ツシマトリノフンダマン	<i>Paraplectana tsushimensis</i>	—	—	DD	DD	DD		
アシナガグモ科	Tetragnathidae							
サンロウドヨウグモ	<i>Meta japonica</i>	—	—	—	NT	NT		
ホラヒメグモ科	Nesticidae							
トウキョウホラヒメグモ	<i>Nesticus shinkaii</i>	—	—	—	VU	VU		
サラグモ科	Linyphiidae							
カナコキグモ	<i>Tapinopa guttata</i>	—	—	—	DD	DD		
ニシキサラグモ	<i>Taranucnus nishikii</i>	—	—	—	NT	NT		
ハウシグモ科	Zodariidae							
ドウシグモ	<i>Doosia japonica</i>	VU	VU	NT	NT	NT	DD	11
ナミハグモ科	Cybaeidae							
ムサシミタナグモ	<i>Cryphoea shinkaii</i>	—	—	—	VU	VU		12

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
アシダカグモ科	Sparassidae							
コアシダカグモ	<i>Sinopoda forcipata</i>	VU	VU	NT	DD	NT		13
サシアシグモ科	Trechaleidae							
シノビグモ	<i>Shinobius orientalis</i>	—	—	DD	DD	DD		14
コモリグモ科	Lycosidae							
スズキコモリグモ	<i>Lycosa suzukii</i>	EX	DD	DD	DD	DD		15
カニグモ科	Thomisidae							
アシナガカニグモ	<i>Heriaeus mellottei</i>	DD	DD	NT	NT	NT		16
カウトツケオグモ	<i>Phrynarachne katoi</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
ヨコフカニグモ	<i>Xysticus transversomaculatus</i>	NT	DD	NT	DD	NT		17
オビボソカニグモ	<i>Xysticus trizonatus</i>	VU	DD	NT	DD	NT		18
イゾツグモ科	Anyphaenidae							
ナガイゾツグモ	<i>Anyphaena ayshides</i>	—	—	DD	DD	DD		19
ワシグモ科	Gnaphosidae							
ムサシハイトカグモ	<i>Haplodrassus hatsushibai</i>	—	—	DD	DD	DD		
アワセグモ科	Selenopidae							
アワセグモ	<i>Selenops bursarius</i>	VU	DD	DD	DD	DD		20

和名、学名、配列は「小野展嗣・緒方清人，2018. 日本産クモ類生態図鑑（東海大学出版部刊）」の『クモ目の分類表』及び『日本産クモ類目録 2018』に準拠した。

【備考】

- 1:ワスレナグモ科をジグモ科の1亜科として扱った。
- 2:西多摩においては個体数、生息条件に顕著な影響が見られなかったが、将来影響があると判定される可能性が高いので DD とした。
- 3:最近区部で記録されたが、情報不足 (DD) と判定した。
- 4:最近南多摩で生息が確認されたが、生息条件に顕著な影響が見られるので NT とした。属名を最新のものに修正した。前回記載の学名は *Spermophora akebona* である。
- 5:南多摩では生息条件に顕著な影響が見られるので NT とした。それにより本土部全体の評価も NT に上げた。
- 6:南多摩では個体数、生息条件に顕著な影響が認められたため NT とした。
- 7:北多摩ではほとんどの生息地で生息条件の悪化が見られるので VU とした。
- 8:区部および北多摩で記録され、今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いので DD とした。
- 9:北多摩で記録され、今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いので DD とした。
- 10:区部および北多摩で記録され、今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いので DD とした。
- 11:北多摩では森林の減少により生息条件に顕著な影響が見られたので VU とした。
- 12:所属をナミハグモ科に変更した。
- 13:北多摩ではほとんどの生息地で生息条件の悪化が見られるので VU とした。
- 14:南多摩で記録され、今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いため DD とした。
- 15:南多摩では絶滅したと考えられていたが、最近再び記録され、今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いため DD とした。
- 16:種小名を修正した。前回記載の学名は *Heriaeus mellottei* である。
- 17:南多摩では生息条件に顕著な影響が見られるので NT とした。それにより本土部全体の評価も NT に上げた。
- 18:区部では、草原の減少により多くの生息地で生息条件の悪化が見られるので VU とした。また、南多摩では生息条件に顕著な影響が見られるので NT とした。それにより本土部全体の評価を NT に上げた。
- 19:南多摩で記録され、今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いので DD とした。
- 20:区部、北多摩および西多摩で記録され、生息条件の悪化(森林の減少)が見られる区部は VU、その他の地域は今後絶滅のおそれがあると判定される可能性が高いので DD とした。南多摩では最近の記録を参考に従来の判定 (VU) を見直し DD に修正した。

11. 貝類

【選定・評価方法の概要】

貝類では、前回の 2010 年に対象とした範囲を踏襲して、陸域・淡水域を含む陸水域に生息する種とした。陸水域の一部として、いわゆる干潟に生息する種も対象とし、ハマグリ等も含めたが、干潟にも分布する海域主体に生息する種は基本的には対象外とした。また、種小名の確定していない種（sp. で表記したもの；未記載種や現時点で種レベルの種名の確定が困難なもの）も対象とした。対象種は、これまでに東京都から分布記録が報告されている種か、本レッドリストのための調査を含め東京都産の標本が存在するもののみとした。

対象とした年代は前回同様に明治期以降としたため、それより以前の外来種と考えられる種（例えばマシジミ）も評価対象とした。また、最近の遺伝子解析によって在来種が多くの群に分かれることが判明しても従来から知られていた種との異同が明確にされていない場合、これまでレッドリストに掲載されてきた種は自然環境を指標する残すべきものと考え、今回も対象とした。

貝類では、分布記録は比較的多く、多摩川流域としておよそ東京都を網羅する地域の陸域・淡水域・海域のおよそ 20 世紀までの記録をまとめ（黒住，2003）、前回の評価の基礎とした。それ以降の調査結果として、主に陸域・淡水域での南多摩の八王子市（黒住，2016）、区部の明治神宮（黒住，2013）での量的評価や皇居での 10 年間の確認の有無のリスト（上島ほか，2014）、多くの環境アセスメントデータにより新規の評価を行った。干潟からヨシ原に生息する種に関しても多摩川左岸の近年の調査（柚原ほか，2015）と共に、河川水辺の国勢調査を含めた多数の環境アセスメントのデータを利用した。

従来から陸産貝類の好適な生息地として知られている西多摩の日原鍾乳洞等の地域では、大規模な森林伐採等の人為的な変化は少ないと想定されていたが、近年の入手できる情報がほとんどなかったので現地調査を行った。日原地域以外にも、放棄水田で重要な種が確認されている連光寺・若葉台里山保全地域や人工干潟である葛西海浜公園東なぎさ等で現況調査を行い、評価の基礎資料とした。

貝類では、高度経済成長期以降のものを除き経時的な密度変化を示すデータはほとんど存在しないので、評価は定性的要件に基づいた。そのため、基本的に絶滅危惧 I A 類（CR）と絶滅危惧 I B 類（EN）の評価を区別しなかった。

対象としたものは、およそ陸産 100 種、淡水産 30 種、汽水・干潟産 20 種程度で、このうち、93 種を検討対象種とした。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、検討対象種 93 種のうち、87 種を掲載種として選定した。区部にのみ生息環境が存在する汽水・干潟産種では、干潟の消失等で多くの種が絶滅と判断されたが、江

東区の葛西海浜公園東なぎさや多摩川河口左岸にはヨシ原とその前面に小面積の砂泥干潟が存在しており、このような場所に生息する種も比較的多く掲載した。

多摩川のヨシ原等は近年多発している洪水によって激変した状況を認め、現在は密度が高い種でも高いランクを与えた種もあった。このような状況下で、東なぎさは造成されたものではあるが、人の立ち入りが強く規制され、また洪水等の影響を受けにくく、そして干潟からヨシ原（潮上帯）まで環境が連続して存在しており、小巻貝のカワザンショウガイ類や二枚貝のサビシラトリ等の東京湾における干潟からヨシ原に生息する種の避難場所（あるいは供給源）となっていると考えられ、今後も同様な管理が期待される。また、干潟等の環境アセスメントでは、小面積を採泥器で調査することが主流であるが、多様な環境を調査できる目視（見つけ採り法）を重視するような調査依頼も望まれる。ただ、この採泥器調査によって、前回リストに掲載していたカワグチツボとウミゴマツボは、潮下帯に時に高密度で生息していることがわかり、今回の評価で選定外とした。

淡水産の種も、区部を中心に水田・湿地の埋め立てや水質汚染等による生息場所の消失・変質によって多くの種が高いランクとなった。淡水産二枚貝類では、皇居のカラスガイやタナゴの産卵母貝となる種（マツカサガイ等）では、人為的な移入の可能性も否定できない場合もあり、今後の検討を待つこととした。近年、溜め池等を干し上げて、外来生物の駆除や池の環境改善のために、“かいぼり”を行うことが多くなってきている。今回もこれまで東京都から記録のなかったイシガイが北多摩からかいぼりによって確認された。近県から記録があるものの、東京都の記録・標本を確認できなかったフネドブガイは選定外となった。逆に、ヌマガイは少数ながら、各所で継続的に確認されており、やはり選定しなかった。このように、かいぼりの折に得られた情報と標本がうまく集約されることが望ましい。

陸産貝類では、人為的変革が少なく高い多様性を保っていると考えてきた多摩地域の高尾山や日原等の鍾乳洞周辺での調査で、確認はできたものの個体数の激減している種が多数存在していることが明らかとなり、キセルガイ類を中心に絶滅が危惧された。一方、丘陵地や低地部に残存している皇居等の良好な自然環境を有する地点での変化は大きくないようであった。

南多摩の連光寺・若葉台里山保全地域の湿地から、日本各地においても生息地の少ないナタネキバサナギガイと同属のキバサナギガイ類が報告され、東京都により里山自然地域として柵で囲われて無許可の立入りを禁止するように保全されており、今後の対応策の一例として評価されよう。ただ、現地調査により、湿地の乾燥化が急速に進行して2種が激減していることが確認された。今後の管理方策の検討が望まれる。なお、後種のキバサナギガイ類は、これまでにヤマトキバサナギガイ（エコたまグリーン NEWS）、あるいはキバサナギガイ（東京都環境局）として報告され、2つの名は現在もインターネットで検索できるが、最近の研究では、この保全地域の種はオキノエラブキバサナギガイ類似種とされており（Nekola et al., 2018）、全て同じ種を指していることに注意されたい。他にもキ

バサナギガイとして、多摩川の河川敷から死殻が報告されていたもの（黒住，2003）も、オキノエラブキバサナギガイ類似種として評価した。

[引用文献]

エコたまグリーン NEWS 第 147 号

https://www.ecomeetingtama.jp/kannkyoukaigi/wp/wp-content/uploads/2014/12/ecotamackeannews_No147.pdf : 2020.2.29 閲覧

亀田勇一，2018. 陸・淡水産腹足類日本固有種目録（2018年3月版）

http://www.kahaku.go.jp/research/activities/project/hotspot_japan/endemic_list
: 2019.5.1 閲覧

環境省 <https://www.env.go.jp/files/jp/110615.pdf> : 2019.7.25 閲覧

東京都環境局

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/natural_environment/tokyo/area/50_renkouji.html
: 2020.2.29 閲覧

黒住耐二，2003. 多摩川水系の貝類から見た自然環境の現状把握と保全に関する研究，(財)とうきゅう環境浄化財団.研究助成・学術研究, 31(226): 1-242.

黒住耐二，2013. 明治神宮で確認された非海産貝類. 鎮座百周年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書: 416-431.

黒住耐二，2016. 貝類. 新八王子市史自然調査報告書, 八王子市動植物目録: 247-254.

Nekola, J.C., S. Chiba, B.F. Coles, C.A Drost, T. von Proschwitz and M. Horsak, 2018. A phylogenetic overview of Genus *Vertigo* O. F. Muller, 1773 (Gastropoda: Pulmonata: Pupillidae: Vertigininae). *Malacologia*, 62(1): 21-161.

日本ベントス学会 (編), 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑, 海岸ベントスのレッドデータブック. xvii + 285 pp.

奥谷喬司 (編著), 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版], 1375 pp.

上島励・元珍力昇・長谷川和範・齋藤寛, 2014. 皇居の陸産貝類相. 国立科学博物館専報, (35): 197-210.

柚原 剛・田中正敦・阿部絢香・海上智央・多留聖典, 2015. 多摩川河口の塩性湿地に生息する表在性ベントス相. 神奈川自然誌資料, (36): 25-30.

(黒住 耐二)

貝類（本土部）

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類
 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足
 [*]留意種(選定理由①～⑥はP.11参照) [○]ランク外 [－]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
カサガイ目	PATELLOGASTRPODA							
ユキノカサ科	Acmaeidae							
ツボミ	<i>Patelloida conulus</i>	EX	・	・	・	EX	NT	1
アマオブネ目	NERITIOMOEPHA							
ヤマキサゴ科	Helicinidae							
ヤマキサゴ	<i>Waldemaria japonica</i>	・	・	VU	NT	NT		
原始紐舌目	ARCHITAENIOGLOSSA							
ヤマタニシ科	Cyclophoridae							
サドヤマトガイ	<i>Japonia sadoensis</i>	CR+EN	－	VU	－	VU	NT	
ゴマガイ科	Diplommatinaceae							
イブキゴマガイ	<i>Diplommatina collarifera</i>	・	・	－	VU	VU		
ゴマガイ	<i>Diplommatina cassa</i>	・	・	NT	NT	NT		
タニシ科	Viviparidae							
マルタニシ	<i>Cipangopaludina laeta</i>	CR+EN	－	DD	DD	CR+EN	VU	2
オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>	CR+EN	－	－	－	CR+EN	NT	
吸腔目	SORBEOCONCHA							
カワザンショウガイ科	Assimineidae							
カワザンショウガイ	<i>Assiminea japonica</i>	NT	・	・	・	NT		
ヒラドカワザンショウ	<i>Assiminea hiradoensis</i>	NT	・	・	・	NT		
クリイロカワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>	NT	・	・	・	NT	NT	
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	<i>Angustassiminea</i> cf. <i>arasitologica</i>	NT	・	・	・	NT	NT	3
ヨシダカワザンショウ	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>	VU	・	・	・	VU	NT	
ミズゴマツボ科	Stenothyridae							
ミズゴマツボ	<i>Stenothyra japonica</i>	DD	・	・	・	DD	VU	
イツマデガイ科	Pomatiopsidae							
カタヤマガイ	<i>Oncomelania fupensis nosophora</i>	EX	・	・	・	EX	CR+EN	
エゾマメタニシ科	Bithyniidae							
マメタニシ	<i>Parafossarulus striatula japonicus</i>	CR+EN	－	－	－	CR+EN	CR	4
ヘナタリ科	Potamididae							
クロヘナタリ	<i>Cerithideopsis largilhierti</i>	EX	・	・	・	EX	CR+EN	5
フトヘナタリ	<i>Cerithidea moerchii</i>	EX	・	・	・	EX	NT	6
ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>	EX	・	・	・	EX	NT	7
カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	EX	・	・	・	EX	VU	8
ウミナナ科	Batillariidae							
ウミナナ	<i>Batillaria multiformis</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
イボウミナナ	<i>Batillaria zonalis</i>	EX	・	・	・	EX	VU	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
有肺目	PULMONATA							
オカミガイ科	Carychiidae							
ケシガイ	<i>Carychium pessimum</i>	—	—	—	VU	VU	NT	
スジケシガイ	<i>Carychium noduliferum</i>	—	—	DD	NT	NT		
モノアラガイ科	Lymnaeidae							
モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	CR+EN	—	—	DD	CR+EN	NT	
ヒラマキガイ科	Planorbidae							
カワネジガイ	<i>Camptoceras hirasei</i>	EX	—	—	—	EX	CR	
ヒダリマキモノアラガイ	<i>Culmenella prashadi</i>	EX	—	—	—	EX	CR+EN	
ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis spirillus</i>	DD	DD	DD	DD	DD	DD	
ハブタエヒラマキ	<i>Gyraulus illibatus</i>	CR+EN	—	—	DD	CR+EN	DD	
トウキョウヒラマキ	<i>Gyraulus tokyoensis</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	DD	
ミズコハクガイ	<i>Gyraulus soritai</i>	—	—	CR+EN	—	CR+EN	VU	
ヒラマキモドキ	<i>Polypylis hemisphaerula</i>	EX	CR+EN	CR+EN	—	CR+EN	NT	9
オカモノアラガイ科	Succineidae							
コウフオカモノアラガイ	<i>Neosuccinea kofui</i>	—	DD	DD	—	DD	VU	
ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>	NT	NT	NT	NT	NT	NT	
スナガイ科	Chondorinidae							
スナガイ	<i>Gastrocopta armigerella</i>	DD	—	DD	—	DD	NT	10
チョウセンスナガイ	<i>Gastrocopta coreana</i>	—	NT	—	NT	NT		
キバサナギガイ科	Vertiginidae							
クチマガリスナガイ	<i>Bensonella ploicidens</i>	•	•	—	NT	NT	VU	
オキノエラブキバサナギガイ類似種	<i>Vertigo cf. okinoerabuensis</i>	—	DD	CR+EN	—	CR+EN	CR+EN	11
ナタネキバサナギガイ	<i>Vertigo ovata</i>	—	CR+EN	CR+EN	CR+EN	CR+EN	VU	12
ナタネモドキ科	Pyramidulidae							
ナタネモドキ	<i>Pyramidula conica</i>	•	•	—	VU	VU	NT	
キセルガイ科	Clausiliidae							
オオギセル	<i>Megalophaedusa martensi</i>	•	•	VU	VU	VU	NT	
オクガタギセル	<i>Megalophaedusa dorcas</i>	•	•	VU	VU	VU	NT	13
オトノサマギセル	<i>Megalophaedusa rex</i>	•	•	—	CR+EN	CR+EN	NT	14
ツメギセル	<i>Megalophaedusa rhopalia</i>	•	•	VU	—	VU	NT	15
ヤグラギセル	<i>Megalophaedusa yagurai</i>	•	•	•	VU	VU	VU	16
ヒロクチコギセル	<i>Reinia variegata</i>	DD	•	•	•	DD	CR+EN	
オオコウラナメクジ科	Arionidae							
オオコウラナメクジ	<i>Nipponarion carinatus</i>	•	•	DD	—	DD	NT	
ベッコウマイマイ科	Helicarionidae							
ヒラベッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>	•	—	—	DD	DD	DD	
カントウベッコウ	<i>Bekkochlamys septentrionalis</i>	•	•	CR+EN	CR+EN	CR+EN	DD	
スカシベッコウ	<i>Bekkochlamys serena</i>	•	•	—	CR+EN	CR+EN	NT	
レンズガイ	<i>Otesiopsis japonica</i>	•	—	CR+EN	—	CR+EN	VU	
シタラ科	Euconulidae							
ハコネヒメベッコウ	<i>Japanochlamys hakonensis</i>	•	•	NT	NT	NT	DD	
ハクサンベッコウ	<i>Nipponochlamys hakusana</i>	•	—	—	DD	DD	DD	
キヌツヤベッコウ	<i>Nipponochlamys semisericata</i>	•	—	DD	DD	DD	DD	
ヒゼンキビ	<i>Parakaliella hizenensis</i>	—	—	DD	DD	DD	NT	
ヒメハリマキビ	<i>Parakaliella pagoduloides</i>	VU	NT	NT	NT	NT	NT	
カサネシタラガイ	<i>Sitalina insignis</i>	•	•	—	CR+EN	CR+EN	NT	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク 2020	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ウメムラシタラガイ	<i>Sitalina japonica</i>	VU	NT	NT	VU	NT	NT	
オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i>	NT	NT	NT	NT	NT	DD	
タカキビ	<i>Trochochlamys praealta</i>	—	—	—	NT	NT	NT	
ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	NT	—	NT	—	NT	NT	
マサトヨキビ	<i>Trochochlamys</i> sp. 1	・	・	CR+EN	—	CR+EN		
ニッバラキビ	<i>Trochochlamys</i> sp. 2	・	・	—	CR+EN	CR+EN		
ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科)	Camaenidae							
ピロードマイマイ (ピロウドマイマイ, トウカイピ ロードマイマイ, トウカイピロウド マイマイ)	<i>Nipponochloritis oscitans</i>	DD	—	DD	—	DD	DD	
キシピロードマイマイ	<i>Nipponochloritis pumila</i>	—	—	NT	NT	NT	NT	17
コベソマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i>	DD	—	*①	NT	*①		
ヤセアナナシマイマイ	<i>Satsuma fausta</i>	・	・	—	VU	VU	VU	
カドコオオバソマイマイ	<i>Aegista proba goniosoma</i>	VU	VU	NT	VU	VU	NT	
コケラマイマイ	<i>Aegista mikuriyensis</i>	DD	VU	VU	VU	VU	NT	
トウキョウコオオバソマイマイ	<i>Aegista tokyoensis</i>	NT	—	・	・	NT	NT	
オオケマイマイ	<i>Aegista vatheleti</i>	CR+EN	—	*①	*①	*①		
コオオバソマイマイ類の一種	<i>Aegista</i> sp.1	・	・	・	CR+EN	CR+EN		18
コオオバソマイマイ類の一種	<i>Aegista</i> sp.2	NT	—	—	—	NT		19
ハコネマイマイ	<i>Euhadra callizona</i>	・	・	VU	—	VU		
タカヤマヒダリマキマイマイ (ミヤマヒダリマキマイマイ)	<i>Euhadra scaevola scaevola</i>	・	・	CR+EN	VU	VU	VU	
カタマメマイマイ	<i>Lepidopisum verrucosum</i>	EX	NT	NT	NT	NT	VU	
イシガイ目	UNIONOIDA							
イシガイ科	Unionidae							
タガイ	<i>Beringiana japonica</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN		20
カラスガイ	<i>Cristaria clessini</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	EN	21
イシガイ	<i>Nodularia nipponensis</i>	DD	CR+EN	—	—	CR+EN		22
ヨコハマシジラガイ	<i>Inversiunio jokohamensis</i>	—	CR+EN	—	—	CR+EN	NT	
マツカサガイ	<i>Pronodularia</i> cf. <i>japanensis</i> 3	CR+EN	CR+EN	—	—	CR+EN	NT	23
マルスダレガイ目	VENEROIDA							
ニッコウガイ科	Tellinidae							
サビシラトリ	<i>Limecola contabulata</i>	NT	・	・	・	NT	NT	
フナガタガイ科	Trapeziidae							
ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>	DD	・	・	・	DD	NT	
ハナグモリ科	Glauconomidae							
ハナグモリ	<i>Glauconome angulata</i>	DD	・	・	・	DD	VU	24
マメシジミ科	Pisidiidae							
マメシジミ類の一種	<i>Pisidium</i> sp.	DD	—	DD	—	DD		
シジミ科	Cyreneidae							
ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	DD	・	・	・	DD	NT	
マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	VU	
マルスダレガイ科	Veneridae							
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	DD	・	・	・	DD	VU	

和名、学名、配列は「奥谷喬司編, 2017. 日本近海産貝類図鑑 第二版. 東海大学出版部」、「日本ベントス学会(編). 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑, 海岸ベントスのレッドデータブック. xvii + 285 pp. 東海大学出版会, 秦野市」、「亀田勇一, 2018. 陸・淡水産腹足類日本固有種目録(2018年3月版)」、「近藤高貴. 2010. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物, (3): v+1-69.」に準拠した。

【備考】

番号 1～21、23、24 の種は、最近の研究結果に従って和名または学名、あるいは和名と学名を変更した。

- 1: 前回記載の和名はツボミガイである。
- 2: 前回記載の学名は *Cipangopaludina chinensis* である。
- 3: 前回記載の和名および学名はムシヤドリカワザンショウ *Angustassiminea parasitologica* である。
- 4: 前回記載の学名は *Parafossarulus manchouricus japonicus* である。
- 5: 前回記載の学名は *Cerithidea largillierti* である。
- 6: 前回記載の学名は *Cerithidea rhizophorarum* である。
- 7: 前回記載の学名は *Cerithideopsilla cingulata* である。
- 8: 前回記載の学名は *Cerithideopsilla djadjariensis* である。
- 9: 前回記載の和名はヒラマキガイモドキである。
- 10: 前回記載の学名は *Gastrocopta armigerella armigerella* である。
- 11: 前回記載の和名および学名はキバサナギガイ *Vertigo hirasei* である。
- 12: 前回記載の学名は *Vertigo eogea eogea* である。
- 13: 前回記載の学名は *Mundiphaedusa dorcas* である。
- 14: 前回記載の学名は *Mundiphaedusa rex* である。
- 15: 前回記載の学名は *Mundiphaedusa rhopalialia* である。
- 16: 前回記載の学名は *Mundiphaedusa yagurai* である。
- 17: 前回記載の和名および学名はカントウビロードマイマイ *Nipponochloritis pumila kantoensis* である。
- 18: 前回記載の和名および学名はオモイガケナマイマイ *Aegista inexpectata* である。
- 19: 前回記載の学名は *Aegista* sp. である。
- 20: 前回記載の学名は *Anodonta japonica* である。
- 21: 前回記載の学名は *Cristaria plicata* である。和名をメンカラスガイとする見解もある。
- 22: 和名をタテボシガイとする見解もある。
- 23: 前回記載の学名は *Pronodularia japonensis* である。和名をマツカサガイ北東本州固有種とする見解もある。
- 24: 前回記載の和名および学名はハナグモリガイ *Glauconome chinensis* である。

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
コベソマイマイ	南多摩	未だ当面は絶滅のおそれはないが、生息地およびその地点での個体数が多くないため
	本土部	
オオケマイマイ	南多摩	都内全域を対象とした場合、まだ絶滅のおそれがある程の個体数減少ではないと考えられるが、明らかに個体数が減少しているため
	西多摩	
	本土部	

V 評価作業を終えて

前回改定から 10 年という短い期間の自然環境の変化について多くを語ることは困難ではあるが、以下に、評価作業を通して感じた現在の東京都本土部の自然の状況を概括的に述べる。

山間部におけるニホンジカの採食による下層植生の消失は広範囲かつ顕著に進行しており、その影響は植物のみならず、山地性チョウ類をはじめとする昆虫類、小型哺乳類、鳥類などさまざまな生物相にも及んでいるものと見なされる。この現象をもたらしているニホンジカの高密度化と分布拡大は、西多摩・南多摩におけるツキノワグマの分布拡大にも示されるように、狩猟や林業など人間による自然に対する働きかけの低下や集落人口の減少などが大きな要因となっており、長きにわたり維持されてきた地域の生態系バランスは大きく変化する可能性がある。

農業や薪炭材の採集など人々の生業や生活によってきめ細かく手入れされ、多くの生物を育ててきた多様な環境を有する里山も、産業構造の変化と市街地の拡大整備に伴い既にその多くが改変されてきたが、その傾向は今なお継続しており、谷戸の消失や乾燥化、水田や水路、畑や草地などの減少が進行している。河川や海岸沿いもその大部分が整備され、自然のままの瀬や淵、砂礫地や湿性草地、自然海岸や広大な干潟などを有していた多様な水辺の姿は大きく変化している。

かつて存在した自然に対する適度な人間の働きかけの停止、市街化の進行による緑の減少や分断化、稠密化した市街地の整備に伴う環境の単純化などの結果として、野生生物種の生育、生息環境は厳しさを増しており、多くの種において絶滅危惧のランクは高まった。植物や昆虫類、陸産貝類などの評価結果からは、東京の温暖化や乾燥化を示唆する傾向もうかがえる。

他方、東京の自然環境の回復の兆しやポテンシャルを感じさせる事例も確認されている。河川では、長年にわたる下水道整備の進展に比例して河川水質が著しく向上しており、環境維持用水の確保等のさまざまな取り組みも奏功し、中流域から河口域の淡水魚類や、水辺の昆虫類等が回復していることが報告されている。ラムサール条約湿地となった葛西海浜公園の東なぎさは、人工的な造成地でありながら、干潟からヨシ原までの多様な環境が連続して存在しており、甲殻類や貝類、それらを捕食する鳥類などの貴重で安定的な生息場所となっている。

改定作業前には、かいぼり事業による井の頭池のイノカシラフラスコモの復活という、明るイトピックが届けられた。今回の改定作業の中で行われた現地確認調査においても、多摩地域では都内初確認となるガ類やコウモリ類が発見されている。上述したツキノワグマの分布拡大は自然の回復傾向と考えることもできる。区部では長期間その存在が確認されていなかったカヤネズミが河川敷で再発見され、保全されている湧水地では大規模な淡水藻類の群落が残存していることが確認された。

東京は 1,000 万人以上の人口を抱える世界有数の大都市でありながら、都心部に皇居や明治神宮などの緑を有するとともに、市街地にも公園緑地という形で大規模な緑を確保してきた。多摩川をはじめとする大小多くの河川、多摩丘陵や狭山丘陵といった丘陵地の緑を經由して、関東山地や関東平野、東京湾とのつながりも確保されている。

それぞれの生物には、それぞれ生存にふさわしい環境が必要である。今後、東京の生物多様性を回復させていくためには、緑の保全や拡大のみならず、こうした東京の地形の成り立ちやつながり、緑と水のストックを活かしながら、かつての環境の多様性や連続性を、時間をかけて回復していくことが求められよう。

今回の改定作業も、前回同様 2 年間という極めて短期間で行われたが、限られた時間と不足する情報の中で十分な評価作業が行えたとは言い難い。次回改定に向けては、評価精度を高めるために必要な、情報収集に関する調査体制の充実や適切なスケジュール確保が望ましい。

また、作業中、東京の生物の事情に精通した研究者や地域の愛好家が急速に少なくなりつつあり、東京の自然環境に関する暦年の変化の記憶や専門的な知見、かつての東京の自然の姿の記録である東京都産の生物標本などが消失、散逸の危機にあると、多くの委員から重ねて指摘があった。今後、何らかの手立てを講じなければ、遠からずレッドリストに係る情報収集や評価が困難となってくることが予想され、環境アセスメントをはじめとする東京の自然環境行政に重大な影響をもたらすことが危惧される。

野生化した外来種による捕食、販売目的の採集、マニアの写真撮影等による環境かく乱、他地域産個体の安易な導入による在来個体群との交雑や置き換わりなど、人の行為が在来の種や個体群の存続を危うくさせているケースも増加している。生活者一人一人に対する理解促進と配慮行動に関する働きかけも必要である。

長期的な視点に立ち、東京の自然や生物に関心を持つ人材を育成し、東京の生物多様性保全を底辺から支えるとともに、多くの都民が身近に自然に親しむ環境づくりに取り組み、都民意識を向上させていくことが、東京が真に自然と共生する都市となるための重要な鍵となる。

(検討委員一同)

和名索引 (植物・藻類)

ア

アイアシ 52
アイアスカイノデ 44
アイズシモツケ 55
アイナエ 61
アオガネシダ 42
アオガヤツリ 51
アオカワモズク 74
アオコウガイゼキショウ 50
アオジガバチソウ 48
アオスズラン 47
アオチゴユリ 47
アオチドリ 47
アオテンツキ 51
アオテンマ 48
アオナラガシワ 56
アオネカズラ 44
アオフタバラン 48
アオベンケイ 54
アオホオズキ 61
アオホラゴケ 41
アカイシコウゾリナ 65
アカバナヒメイワカガミ 59
アカハナワラビ 41
アカヤシオ 60
アキザキヤツシロラン 48
アギナシ 46
アキノギンリョウソウ 60
アキノハハコグサ 65
アキノミチヤナギ 58
アケボノシュスラン 48
アケボノソウ 60
アサクサノリ 74
アサザ 63
アサマフウロ 57
アシカキ 52
アシタカジャコウソウ 62
アスカイノデ 44
アズマイチゲ 53
アズマガヤ 52
アズマギク 64
アズマザサ 52
アズマシャクナゲ 60
アズマシライトソウ 46

アズマスゲ 50
アズマツメクサ 54
アズマツリガネツツジ 60
アズマレイジンソウ 53
アゼオトギリ 56
アゼガヤ 52
アゼテンツキ 51
アツモリソウ 47
アブノメ 61
アブラギク 64
アマクサシダ 42
アマドコロ 49
アマナ 47
アヤメ 49
アリドオシラン 48
アワコガネギク 64
アワボスゲ 50

イ

イイヌمامカゴ 48
イガホオズキ 61
イカリソウ 53
イシカワモズク 74
イズハハコ 64
イズミイシノカワ 74
イセアオスゲ 50
イセウキヤガラ 50
イツヤマテンツキ 51
イタチササゲ 54
イチイ 45
イチョウシダ 42
イチヨウラン 47
イチリンソウ 53
イッポンワラビ 43
イトイ 50
イトイヌノヒゲ 50
イトトリゲモ 46
イトハナビテンツキ 50
イトモ 46
イナモリソウ 60
イヌイ 50
イヌイワヘゴ 44
イヌクグ 51
イヌスギナ 41
イヌセンブリ 61
イヌタヌキモ 62

イヌナズナ 58
イヌノフグリ 61
イヌハギ 54
イヌヨモギ 64
イノカシラフラスコモ 74
イバラモ 46
イブキシダ 43
イブキスミレ 57
イブキボウフウ 65
イラモミ 45
イワイヌワラビ 43
イワウサギシダ 42
イワウメヅル 56
イワウラジロ 42
イワオウギ 54
イワオオイトチシダ 44
イワオモダカ 45
イワシモツケ 55
イワニンジン 65
イワハリガネワラビ 43
イワヘゴ 44
イワヤシダ 42
イワヤナギシダ 44
イワユキノシタ 54

ウ

ウキガヤ 52
ウキシバ 52
ウキヤガラ 50
ウサギシダ 42
ウシタキソウ 57
ウスギオウレン 53
ウスギヨウラク 60
ウスゲコバノイシカグマ 42
ウスゲチョウジタデ 58
ウスゲミヤマシケンシダ 43
ウスバサイシン 45
ウスヒメワラビ 42
ウスユキソウ 64
ウダイカンバ 56
ウチョウラン 49
ウマスゲ 50
ウマノスズクサ 45
ウメウツギ 59
ウメガサソウ 59
ウメバチソウ 56

ウラギク 64
ウラジロ 41
ウラジロウコギ 65
ウラジロヒカゲツツジ 60
ウラジロマタタビ 59
ウラジロヨウラク 60
ウリカワ 46

エ

エキサイゼリ 65
エゾイチゴ 55
エゾキイチゴ 55
エゾコスミレ 57
エゾスズラン 47
エゾデンダ 45
エゾノアオイスミレ 57
エゾノサヤヌカグサ 52
エゾノタチツボスミレ 56
エゾノヒメクラマゴケ 41
エゾハタザオ 58
エゾミソハギ 57
エダウチスズメノトウガラシ 62
エドヒガン 55
エビガライチゴ 55
エビネ 47
エビモ 46
エビラシダ 42
エンシュウベニシダ 44
エンシュウムヨウラン 48

オ

オウギカズラ 62
オオアカウキクサ 42
オオアカネ 60
オオアブノメ 61
オオアリドオシ 60
オオイシソウ 74
オオカナワラビ 43
オオガクビソウ 64
オオキジノオ 42
オオキツネノカミソリ 49
オオキツネヤナギ 57
オオキヨズミシダ 44
オオクジャクシダ 44
オオクボシダ 44
オオコガネネコノメソウ 54

オオコケシノブ 41
オオダイコンソウ 55
オオタヌキモ 62
オオチゴユリ 47
オオツクバネウツギ 65
オオツルウメモドキ 56
オオナルコユリ 49
オオナンバンギセル 63
オオニガナ 64
オオヌマハリイ 51
オオバウマノスズクサ 45
オオバキハダ 58
オオバクサフジ 54
オオバナオオヤマサギソウ 48
オオバナアマクサシダ 42
オオバナキハダ 58
オオバナハチジョウシダ 42
オオバユキザサ 49
オオハリイ 51
オオヒキヨモギ 63
オオヒナノウスツボ 62
オオミクリ 49
オオモミジガサ 64
オオヤマカタバミ 56
オオヤマサギソウ 48
オオルリソウ 61
オカウツボ 63
オカオグルマ 65
オカタツナミソウ 63
オキチモズク 74
オキナグサ 53
オクタマシダ 42
オクヤマコウモリ 64
オグルマ 64
オケラ 64
オサシダ 43
オサバグサ 52
オシャグジデンド 44
オタルスゲ 51
オナモミ 65
オニイノデ 44
オニカナワラビ 43
オニシバリ 58
オニゼンマイ 41
オニナルコスゲ 51
オニノヤガラ 48

オニバス 45
オニヒカゲワラビ 43
オニビシ 57
オノオレカンバ 56
オヒョウ 55
オヒルムシロ 46
オミナエシ 65

カ

カイコバイモ 47
カイジンドウ 62
カイタカラコウ 64
ガガブタ 63
カキツバタ 49
カキラン 47
カゲロウラン 49
カゴノキ 45
カセンソウ 64
カタクリ 47
カタシャジクモ 74
カテンソウ 56
カナウツギ 55
カニコウモリ 64
カモノハシ 52
カモメラン 47
カヤラン 49
カラクサイヌワラビ 43
カラクサシダ 44
カラフトミヤマシダ 43
カリガネソウ 63
カリマタガヤ 52
カリヨセウツギ 65
カワヂシャ 62
カワツルモ 46
カワノリ 74
カワミドリ 62
カワモズク 74
カワラアカザ 59
カワラケツメイ 54
カワラサイコ 55
カワラナデシコ 59
カワラニガナ 64
カワラノギク 64
カワラハハコ 64
カワラマツバ 60
カワラヨモギ 64

カンエンガヤツリ 51
カンガレイ 51
カントウミヤマカタバミ 56

キ

キキョウ 63
キクアザミ 65
キクザキイチゲ 53
キクタニギク 64
キクムグラ 60
キクモ 61
キケマン 52
キジカクシ 49
キジノオシダ 42
キセルアザミ 64
キセワタ 62
キダチノネズミガヤ 52
キツネノカミソリ 49
キヌタソウ 60
キハギ 54
キハダ 58
キバナウツギ 65
キバナカワラマツバ 60
キバナノアマナ 47
キバナノコマノツメ 56
キバナノショウキラン 49
キバナハタザオ 58
ギフベニシダ 44
キヨスミウツボ 63
キヨズミシダ 44
キレハオオクボシダ 45
キンセイラン 47
キンモウワラビ 43
キンラン 47
ギンラン 47
ギンリョウソウモドキ 60
キンレイカ 65
ギンロバイ 55

ク

クガイソウ 62
クグ 51
クサスゲ 51
クサタチバナ 61
クサネム 54
クサノオウバノギク 64

クサフジ 54
クサレダマ 59
クジュウツリスゲ 50
クチナシグサ 63
クマガイソウ 47
クモキリソウ 48
クモノスシダ 42
クモラン 49
クララ 54
クリハラン 44
クリヤマハハコ 64
クリンユキフデ 58
クルマシダ 42
クルマバツクバネソウ 47
クルマムグラ 60
クルマユリ 47
クロウメモドキ 55
クロカワズスゲ 50
クロカンバ 55
クロクモソウ 54
クログワイ 51
クロツバラ 55
クロテンツキ 51
クロハリイ 51
クロベ 45
クロホシクサ 50
クロムヨウラン 48
クロモ 46
グンナイフウロ 57

ケ

ケウルシグサ 75
ケブカツルカコソウ 62
ケフシグロ 59
ゲンジスミレ 57

コ

コアゼテンツキ 51
コアツモリソウ 47
コイケマ 61
コイチヨウラン 47
コイヌガラシ 58
コイヌノハナヒゲ 51
コイヌノヒゲ 50
コイワウチワ 59
コイワザクラ 59

コウガイモ 46
コウシュウヒゴタイ 65
コウボウ 52
コウボウシバ 51
コウホネ 45
コウモリカズラ 53
コウヤザサ 52
コウリンカ 65
コオニユリ 47
コオノオレ 56
コガネシダ 43
コガネネコノメソウ 54
コカモメヅル 61
ゴカヨウオウレン 53
コガンピ 58
コギシギシ 58
ゴキヅル 56
コキンバイ 55
コ克蘭 48
コケイラン 48
コケシノブ 41
コケミズ 56
コケリンドウ 60
コゴメヤナギ 57
コシオガマ 63
コジキイチゴ 55
コシダ 41
コシンジュガヤ 51
コスギラン 41
ゴゼンタチバナ 59
コタニワタリ 42
コツブヌマハリイ 51
コヌカボタデ 58
コハイホラゴケ 41
コハシゴシダ 43
コバノイシカグマ 42
コバノイチヤクソウ 60
コバノイラクサ 56
コバノクロウメモドキ 55
コバノトンボソウ 49
コバノヒルムシロ 46
コヒロハシケンダ 43
コヒロハハナヤスリ 41
コフウロ 57
ゴマキ 65
ゴマギ 65

コマツカサススキ 51
ゴマノハグサ 62
コムラサキ 62
コメススキ 52
コモチシダ 43
ゴヨウマツ 45
コヨウラクツツジ 60
コンロンソウ 58

サ

サイゴクベニシダ 44
ザイフリボク 55
サカゲイノデ 44
サカネラン 48
サガミギク 64
サガミトリゲモ 46
サギスゲ 51
サギソウ 48
サクライカグマ 44
サクラスミレ 57
サクラソウ 59
サクラタデ 58
ササバギンラン 47
ササバモ 46
サジオモダカ 46
サジラン 44
サツキヒナノウスツボ 62
サデクサ 58
サトメシダ 43
サナギイチゴ 55
サナギスゲ 50
サメズグサ 75
サラシナショウマ 53
ザリコミ 54
サワアザミ 64
サワオグルマ 65
サワギキョウ 63
サワシロギク 64
サワゼリ 66
サワダツ 56
サワトウガラシ 61
サワトラノオ 59
サワルリソウ 61
サンショウモ 42

シ

シウリザクラ 55
シオガマギク 63
シオクグ 51
シカクイ 51
ジガバチソウ 48
シギンカラマツ 53
シコクスミレ 57
シコクハタザオ 58
シシガシラ 43
シシラン 42
シズイ 51
ジゾウカンバ 56
シソクサ 61
シソバタツナミ 63
シタキツルウメモドキ 56
シナノキ 58
シノブ 44
シノブカグマ 44
シハイスミレ 57
シバヤナギ 57
シムライノデ 44
シムラニンジン 66
シヤクジイタヌキモ 62
シヤクジョウソウ 60
シヤジクモ 74
ジャヤナギ 57
シュスラン 48
シュロソウ 47
ジュンサイ 45
ジョウシュウカモメヅル 61
ショウドシマベンケイソウ 54
ショウブ 45
ジョウロウスゲ 50
シライヤナギ 57
シラカバ 56
シラカンバ 56
シラゲヒメジソ 62
シラネマツハダ 45
シラヒゲソウ 56
シラビソ 45
シラベ 45
シロガヤツリ 51
シロスミレ 57
シロテンマ 48
シロネ 62

シロバナイナモリソウ 60
シロバナカザグルマ 53
シロバナカモメヅル 61
シロバナサクラタデ 58
シロバナスミレ 57
シロバナハンショウヅル 53
シロモジ 45
シロヤシオ 60
シロヤマシダ 43
ジンジソウ 54
ジンバイソウ 48

ス

スギラン 41
スズサイコ 61
スズムシソウ 48
スズメノトウガラシ 62
ズダヤクシュ 54
ステゴビル 49
スノキ 60
スブタ 46
ズミ 55

セ

セイコノヨシ 52
セイタカシケシダ 43
セイタカスズムシソウ 48
セイタカトウヒレン 65
セイタカハリイ 51
セイタカヨシ 52
セキショウモ 46
セッコク 47
セトガヤ 52
センダイタイゲキ 57
ゼンテイカ 49
センニンモ 46
センブリ 60

ソ

ソバナ 63

タ

ダイセンヒョウタンボク 65
ダイモンジソウ 54
タウコギ 64
タカアザミ 64

タカオシケチシダ 43
タカオスマレ 57
タカオヒゴタイ 65
タカオホオズキ 61
タカオホロシ 61
タカサゴソウ 64
タカサブロウ 64
タカネコウボウ 52
タカネザクラ 55
タカネサトメシダ 43
タカネニガナ 64
タカネバラ 55
タカネフタバラン 48
タカネマスクサ 51
タコノアシ 54
タタラカンガレイ 51
タチガシワ 61
タチキランソウ 62
タチクラマゴケ 41
タチゲヒカゲミズ 56
タチコウガイゼキショウ 50
タチコメグサ 63
タチスゲ 50
タチスマレ 57
タチタネツケバナ 58
タチヒメワラビ 42
タチフウロ 57
タチフラスコモ 74
タチモ 54
タテヤマオウギ 54
タテヤマギク 64
タニイヌワラビ 43
タニギキョウ 63
タニジャコウソウ 62
タニヘゴ 44
タヌキマメ 54
タヌキラン 51
タマガワホトトギス 47
タマツリスゲ 50
タマノカンアオイ 45
タマノホシザクラ 55
タムラソウ 65
タンキリマメ 54
タンスイベニマダラ 74

チ

チシマゼキショウ 46
チシマネコノメ 54
チシマネコノメソウ 54
チダケサシ 54
チチブドウダン 60
チチブホラゴケ 41
チチブミネバリ 56
チチ布林ドウ 60
チャイロカワモズク 74
チャボイノデ 44
チャボフラスコモ 74
チュウゼンジスゲ 50
チョウジソウ 61
チョウセンガリヤス 52
チョウセンキンミズヒキ 55
チョウセンゴミシ 45
チョウセンナニワズ 58

ツ

ツクシショウジョウバカマ 46
ツクバキンモンソウ 62
ツクバグミ 55
ツクバトリカブト 53
ツゲ 53
ツチアケビ 47
ツツイトモ 46
ツバメオモト 47
ツマトリソウ 59
ツリガネツツジ 60
ツリシュスラン 48
ツルアリドオシ 60
ツルカコソウ 62
ツルガシワ 61
ツルギキョウ 63
ツルナ 59
ツルフジバカマ 54
ツルモ 75
ツルリンドウ 61
ツレサギソウ 48

テ

テガタチドリ 48
テキリスゲ 50
テバコワラビ 43
デンジソウ 42

ト

トウオオバコ 61
トウゴクサバノオ 53
トウゴクシソバタツナミ 63
トウゴクシダ 44
トウゴクヘラオモダカ 46
トウヒ 45
トガクシデンダ 43
トキソウ 49
トキホコリ 55
トキワシダ 42
トキワトラノオ 42
ドクウツギ 56
ドクゼリ 66
トサノクロムヨウラン 48
トダスゲ 50
トチカガミ 46
トモエシオガマ 63
トモエソウ 56
トヨグチイノデ 44
トラノオジソ 62
トリガタハンショウヅル 53
トリゲモ 46
ドロイ 50
トンボソウ 49

ナ

ナガエミクリ 49
ナガハシスミレ 57
ナガバノイタチシダ 44
ナガバノウナギツカミ 58
ナガバノヤノネグサ 58
ナガフラスコモ 74
ナガボテンツキ 51
ナガホノコフラスコモ 74
ナガホノナツノハナワラビ 41
ナガホノフラスコモ 74
ナカミシシラン 42
ナガミノツルキケマン 52
ナチクジャク 44
ナツエビネ 47
ナツノタムラソウ 63
ナツノハナワラビ 41
ナベナ 65
ナラガシワ 56
ナンゴクナライシダ 44

ナンゴクミネカエデ 58
ナンバンハコベ 59

ニ

ニガカシュウ 46
ニシキソウ 57
ニシキビロードウツギ 65
ニセジュズネノキ 60
ニッコウキスゲ 49
ニッコウナツグミ 55
ニッコウヒョウタンボク 65
ニッポンイトフラスコモ 74
ニッポンイヌノヒゲ 50
ニッポンフラスコモ 74
ニリンソウ 53

ヌ

ヌカボシソウ 50
ヌカボタデ 58
ヌマアゼスゲ 50
ヌマガヤ 52
ヌマゼリ 66
ヌマトラノオ 59
ヌマハリイ 51
ヌメリグサ 52

ネ

ネコシデ 56
ネコノメソウ 54
ネズ 45
ネズコ 45
ネズミサシ 45

ノ

ノアズキ 54
ノウルシ 57
ノカラマツ 53
ノカンゾウ 49
ノコギリシダ 43
ノコギリソウ 63
ノジトラノオ 59
ノダイオウ 59
ノダケモドキ 65
ノッポロガンクビソウ 64
ノテンツキ 51
ノニガナ 64

ノハナシヨウブ 49

ハ

バアソブ 63
バйкаオウレン 53
バйкаモ 53
ハイチゴザサ 52
ハクウンラン 48
ハクサンシヤクナゲ 60
ハクモウイノデ 43
ハグロソウ 62
ハグロバイ 55
ハコネギク 64
ハコネハナゼキシヨウ 46
ハコネラン 47
ハシバミ 56
ハタガヤ 50
ハタザオ 58
ハダシシヤジクモ 74
ハタベカンガレイ 51
ハチオウジアザミ 64
ハチジョウナ 65
ハチジョウベニシダ 44
ハッカ 62
ハナイカリ 60
ハナビガヤ 52
ハナビゼキシヨウ 50
ハナビゼリ 65
ハナヒリノキ 60
ハナムグラ 60
ハネガヤ 52
ハマアカザ 59
ハマウツボ 63
ハマウド 65
ハマエンドウ 54
ハマゼリ 66
ハマハナヤスリ 41
ハヤザキヒョウタンボク 65
バラモミ 45
ハリガネスゲ 50
ハリコウガイゼキシヨウ 50
ハリモミ 45
ハルトラノオ 58
ハルニレ 55
ハルリンドウ 60
ハンカイシオガマ 63

ハンゲシヨウ 45

ハンノキ 56

ヒ

ヒイラギソウ 62
ヒエスゲ 50
ヒオウギ 49
ヒカゲスミレ 57
ヒカゲツツジ 60
ヒカゲノカズラ 41
ヒカゲハリスゲ 51
ヒカゲヒメジソ 62
ヒカゲミズ 56
ヒカゲワラビ 43
ヒキオコシ 62
ヒキノカサ 53
ヒキヨモギ 63
ヒゲシバ 52
ヒゲネワチガイソウ 59
ヒゴスミレ 57
ヒシ 57
ヒシモドキ 61
ヒツジグサ 45
ヒトエグサ 75
ヒトツバ 45
ヒトツバキシソチドリ 48
ヒトツバハギ 57
ヒトツボクロ 49
ヒナザサ 52
ヒナノキンチャク 55
ヒナワチガイソウ 59
ヒメアブラススキ 52
ヒメアマナ 47
ヒメイタチシダ 44
ヒメイワトラノオ 42
ヒメウラジロ 42
ヒメカナワラビ 44
ヒメガヤツリ 51
ヒメクズ 54
ヒメゴウソ 51
ヒメコヌカグサ 52
ヒメコマツ 45
ヒメゴヨウイチゴ 55
ヒメサジラン 44
ヒメザゼンソウ 46
ヒメシオン 64

ヒメシヤガ 49
ヒメシラスゲ 50
ヒメシロネ 62
ヒメスマレサイシン 57
ヒメタデ 58
ヒメタヌキモ 62
ヒメテキリスゲ 51
ヒメトラノオ 62
ヒメナエ 61
ヒメナミキ 63
ヒメニラ 49
ヒメノヤガラ 47
ヒメハギ 55
ヒメハッカ 62
ヒメヒゴタイ 65
ヒメビシ 57
ヒメフタバラン 48
ヒメフラスコモ 74
ヒメホタルイ 51
ヒメミクリ 49
ヒメミズワラビ 42
ヒメミヤマウズラ 48
ヒモカズラ 41
ヒラテンツキ 51
ヒルムシロ 46
ヒロハトリゲモ 46
ヒロハヌマゼリ 66
ヒロハノアマナ 47
ヒロハノイヌノヒゲ 49
ヒロハノエビモ 46
ヒロハノカワラサイコ 55
ヒロハノコウガイゼキショウ 50
ヒロハノハネガヤ 52
ヒロハハナヤスリ 41
ヒロハヘビノボラズ 53
ヒンジモ 46

フ

フウラン 48
フクシマシヤジン 63
フクジュソウ 53
ブコウマメザクラ 55
フサガヤ 52
フサモ 54
フジアザミ 64
フジウツギ 62

フシグロ 59
フシグロセンノウ 59
フジシダ 42
フジセンニンソウ 53
フジバカマ 64
フジレイジンソウ 53
フタバムグラ 60
フタマタフラスコモ 74
フトヒルムシロ 46
フトボナギナタコウジュ 62
フナバラソウ 61
フモトカグマ 42
フモトシケシダ 43
フモトスマレ 57
フユザンショウ 58

へ

ベニカヤラン 47
ベニシュスラン 48
ベニドウダン 60
ベニバナイチヤクソウ 60
ベニバナヤマシヤクヤク 53
ヘラオモダカ 46
ヘラシダ 43

ホ

ホザキイチヨウラン 48
ホザキノフサモ 54
ホシクサ 50
ホシナシゴウソ 50
ホソアヤギヌ 74
ホソイ 50
ホソイノデ 44
ホソバイヌタデ 58
ホソバイヌワラビ 43
ホソバオグルマ 64
ホソバカナワラビ 44
ホソバコオニユリ 47
ホソバシュロソウ 47
ホソバツルリンドウ 60
ホソバナライシダ 43
ホソバノヨツバムグラ 60
ホソバハマアカザ 59
ホソバヒカゲスゲ 50
ホソバミズヒキモ 46
ホタルカズラ 61

ホタルサイコ 65
ホッスモ 46
ホテイシダ 44
ホテイラン 47
ホドイモ 54
ホトトギス 47
ホラシノブ 42
ホンゴウソウ 46
ホンモンジスゲ 51

マ

マアザミ 64
マイヅルテンナンショウ 45
マキエハギ 54
マキノスミレ 57
マダイオウ 59
マツカサススキ 51
マツグミ 58
マツサカシダ 42
マツノハマネングサ 54
マツバスゲ 50
マツハダ 45
マツバニンジン 57
マツバラシ 41
マツムシソウ 65
マツモ 52
マツラン 47
マメザクラ 55
マメダオシ 61
マメヅタラン 47
マルバオモダカ 46
マルバサンキライ 47
マルバノイチャクソウ 60
マルバベニシダ 44
マルミノウルシ 57
マンネンスギ 41

ミ

ミカワコケシノブ 41
ミクニテンナンショウ 45
ミクリ 49
ミコシガヤ 51
ミシマサイコ 66
ミズ 56
ミズアオイ 49
ミズオオバコ 46

ミズオトギリ 56
ミズガヤツリ 51
ミズキンバイ 58
ミズタカモジ 52
ミズタガラシ 58
ミズチドリ 48
ミズトラノオ 63
ミズトンボ 48
ミズニラ 41
ミズネコノオ 63
ミズハコベ 61
ミズハナビ 51
ミズマツバ 57
ミスミソウ 53
ミズメ 56
ミズユキノシタ 58
ミヅコウジュ 63
ミヅハコベ 56
ミヅフラスコモ 74
ミヅホオズキ 63
ミチシバ 52
ミチノクフクジュソウ 53
ミツガシワ 63
ミドリアカザ 59
ミドリカナワラビ 44
ミドリユキザサ 49
ミドリワラビ 43
ミノゴメ 52
ミノボロ 52
ミノボロスゲ 50
ミヤコアザミ 65
ミヤコイヌワラビ 43
ミヤコヤブソテツ 44
ミヤマウイキョウ 66
ミヤマウズラ 48
ミヤマウド 65
ミヤマウラジロ 42
ミヤマウラボシ 45
ミヤマエンレイソウ 47
ミヤマクマヤナギ 55
ミヤマクマワラビ 44
ミヤマコンギク 64
ミヤマシグレ 65
ミヤマスミレ 57
ミヤマツチトリモチ 58
ミヤマナミキ 63

ミヤマニガウリ 56
ミヤマノコギリシダ 43
ミヤマハンショウヅル 53
ミヤマビャクシン 45
ミヤマベニシダ 44
ミヤマモジズリ 48
ミヤマワラビ 43
ミョウギカラマツ 53
ミョウギシダ 44
ミョウギシャジン 63

ム

ムカゴサイシン 48
ムカゴソウ 48
ムカゴツヅリ 52
ムカゴニンジン 66
ムギラン 47
ムクゲシケシダ 43
ムサシタイゲキ 57
ムサシノキスゲ 49
ムジナモ 59
ムツオレグサ 52
ムヨウラン 48
ムラサキ 61
ムラサキオニシバリ 58
ムラサキセンブリ 61
ムラサキフタバラン 48
ムラサキミミカキグサ 62
ムロ 45

メ

メアゼテンツキ 51
メガルカヤ 52
メツクバネウツギ 65
メニッコウシダ 43
メハジキ 62
メヤブソテツ 44

モ

モウセンゴケ 59
モズク 75
モトタカサブロウ 64
モミラン 48
モメンヅル 54
モリアザミ 64

ヤ

ヤエガワカンバ 56
ヤガミスゲ 50
ヤシャゼンマイ 41
ヤシャビシヤク 53
ヤチカワズスゲ 51
ヤナギイノコヅチ 59
ヤナギスブタ 46
ヤナギタンポポ 64
ヤナギトラノオ 59
ヤナギヌカボ 58
ヤナギモ 46
ヤナギラン 57
ヤハズハハコ 64
ヤハズハンノキ 56
ヤハズヒゴタイ 65
ヤブザクラ 55
ヤブサンザシ 54
ヤブムグラ 60
ヤマアゼスゲ 50
ヤマウツボ 63
ヤマオダマキ 53
ヤマクラマゴケ 41
ヤマサギソウ 48
ヤマジオウ 62
ヤマジソ 62
ヤマジノタツナミソウ 63
ヤマジノホトトギス 47
ヤマシャクヤク 53
ヤマスズメノヒエ 50
ヤマタイミンガサ 64
ヤマトキソウ 49
ヤマトミクリ 49
ヤマトユキザサ 49
ヤマトラノオ 62
ヤマドリゼンマイ 41
ヤマネコノメソウ 54
ヤマノコギリソウ 63
ヤマハハコ 63
ヤマヒメワラビ 42
ヤマブキソウ 52
ヤマホオズキ 61
ヤマホロシ 61
ヤマラッキョウ 49
ヤマルリソウ 61
ヤワタソウ 54

ユ

ユウシュンラン 47
ユキザサ 49
ユクノキ 54
ユモトマムシグサ 45

ヨ

ヨウラクラン 48
ヨグソミネバリ 56
ヨコグラノキ 55
ヨツバハギ 54

ラ

ランヨウアオイ 45

リ

リョウトウイタチシダ 44
リンドウ 60
リンボク 55

ル

ルイヨウショウマ 53
ルイヨウボタン 53
ルリソウ 61

レ

レンゲショウマ 53
レンゲツツジ 60
レンプクソウ 65
レンリソウ 54
レンリフラスコモ 74

ワ

ワカナシダ 44
ワダソウ 59
ワチガイソウ 59
ワニグチソウ 49

和名索引 (動物)

ア

アイヌテントウ 127
アイノミドリシジミ 139
アオアシシギ 86
アオイトトンボ 109
アオキクスイカミキリ 128
アオゲラ 87
アオサナエ 109
アオシギ 85
アオスジカミキリ 127
アオダイショウ 92
アオバズク 86
アオバセセリ 139
アオハダトンボ 109
アオバト 84
アオヘリアオゴミムシ 125
アオヘリミズギワゴミムシ 124
アオヤンマ 109
アカアシオオアオカミキリ 127
アカアシシギ 85
アカエリカイツブリ 84
アカエリヒレアシシギ 86
アカオビケラトリバチ 131
アカガネアオゴミムシ 125
アカガネオサムシ 124
アカギツネ 79
アカゲラ 87
アカシジミ 139
アカショウビン 87
アカセセリ 139
アカテガニ 148
アカネズミ 78
アカハネバッタ 114
アカハライモリ 96
アカヒレタビラ 101
アカマダラハナムグリ 127
アカモズ 87
アケボノユウレイグモ 153
アサカミキリ 128
アサマイチモンジ 140
アサマシジミ 140
アシシロハゼ 102
アシナガカニグモ 154
アシナガモモブトスカシバ 145

アシハラガニ 148
アシミヅヒメヒラタゴミムシ 124
アズマヒキガエル 96
アズマモグラ 78
アトジロキリガ 145
アナグマ 79
アナジャコ 148
アブラハヤ 101
アベハゼ 102
アマツバメ 85
アヤスジミゾドロムシ 127
アリスアトキリゴミムシ 125
アワセグモ 154

イ

イカル 88
イカルチドリ 85
イグチケブカゴミムシ 125
イシガイ 160
イシカワシラウオ 101
イスカ 88
イズササキリ 114
イソシギ 86
イソヒヨドリ 88
イタヤカミキリ 128
イチゴキリガ 145
イチモンジチョウ 140
イトアメンボ 117
イナゴモドキ 114
イノシシ 79
イブキゴマガイ 158
イボウミニナ 158
イボタガ 144
イワツバメ 87

ウ

ウキゴリ 102
ウグイス 87
ウスイロオナガシジミ 139
ウスイロシマゲンゴロウ 126
ウスキシマヘリガガンボ 135
ウスズミケンモン 145
ウスタビガ 144
ウスバカマキリ 113
ウスミモンキリガ 145
ウズラ 84

ウスリーマルハナバチ 131
ウスルリモンハナバチ 131
ウソ 88
ウネナシトマヤガイ 160
ウバタマコメツキ 127
ウバタマムシ 127
ウマノオバチ 131
ウミアイサ 84
ウミニナ 158
ウミネコ 86
ウメムラシタラガイ 160
ウモレベンケイガニ 148
ウラギンスジヒョウモン 140
ウラギンヒョウモン 140
ウラクロシジミ 139
ウラゴマダラシジミ 139
ウラジャノメ 140
ウラナミアカシジミ 139
ウラミスジシジミ 139
ウリタエビジャコ 148

エ

エサキアメンボ 117
エゾエンマコオロギ 114
エゾコガムシ 126
エゾスズ 114
エゾトンボ 110
エゾヒメゲンゴロウ 126
エゾミドリシジミ 139
エゾムシクイ 88
エダヒゲムシヒキ 135
エチゴハガタヨトウ 145
エドハゼ 102
エリマキシギ 86
エルタテハ 140

オ

オイカワ 101
オオアオゾウムシ 128
オオアカゲラ 87
オオアメンボ 117
オオイチモンジシマゲンゴロウ 126
オオイトトンボ 109
オオウエキビ 160
オオウスバカゲロウ 121
オオウラギンスジヒョウモン 140

オオウラギンヒョウモン 140
オオオカメコオロギ 114
オオカミ 79
オオキイロアツバ 144
オオギセル 159
オオキトンボ 110
オオクサキリ 114
オオクワガタ 127
オオケマイマイ 160
オオコウラナメクジ 159
オオコオイムシ 117
オオコノハズク 86
オオサカアオゴミムシ 125
オオジシギ 85
オオジュリン 88
オオセスジイトトンボ 109
オオセッカ 88
オオソリハシシギ 85
オオタカ 86
オオタニシ 158
オオチャイロハナムグリ 127
オオチャバネセセリ 139
オオツノハネカクシ 126
オオトックリゴミムシ 125
オオトノサマギセル 159
オオナガゴミムシ 124
オオナガハナアブ 135
オオバン 85
オオヒョウタンゴミムシ 124
オオヒラタトックリゴミムシ 125
オオマシコ 88
オオミズアオ 144
オオミスジ 140
オオミズスマシ 126
オオミドリシジミ 140
オオミノガ 145
オオムラサキ 140
オオモノサシトンボ 109
オオモモブトスカシバ 145
オオヨシキリ 88
オオヨシノボリ 102
オオヨツボシゴミムシ 125
オオルリ 88
オオルリハムシ 128
オキノエラブキバサナギガイ類似種 159
オクガタギセル 159

オグロシギ 85
オコジョ 79
オサガニ 148
オサムシモドキ 124
オシドリ 84
オジロトウネン 86
オツネントンボ 109
オナガ 87
オナガアゲハ 139
オナガシジミ 139
オナガミズアオ 144
オニヒラタシデムシ 126
オニホソコバネカミキリ 127
オバシギ 86
オビグロスズメ 144
オビヒメコメツキモドキ 127
オビボソカニグモ 154

カ

カイツブリ 84
カエルキンバエ 135
カエルヤドリキンバエ 135
カギモンハナオイアツバ 144
カクベンケイガニ 148
カクモンハラブトハナアブ 135
カグヤコウモリ 79
カサネシタラガイ 159
カジカ 102
カジカガエル 96
カジカ大卵型 102
カシラダカ 88
カスミササキリ 114
カタアカアトキリゴミムシ 125
カタマメマイマイ 160
カタヤマガイ 158
カッコウ 85
カトウツケオグモ 154
カドコオオベソマイマイ 160
カトリヤンマ 109
カナコキグモ 153
カネコトタテグモ 153
カバンタムクゲエダシャク 144
カミヤコガシラミズムシ 125
ガムシ 126
カヤキリ 114
カヤクグリ 88

カヤコオロギ 114
カヤネズミ 78
カラスガイ 160
カラスシジミ 140
カルマイタマヒラタアブ 135
カルマイツヤタマヒラタアブ 135
カレハガ 144
カワアイ 158
カワガラス 88
カワザンショウガイ 158
カワセミ 87
カワネジガイ 159
カワネズミ 78
カワラゴミムシ 124
カワラスズ 114
カワラバツタ 114
カワラハンミョウ 124
カントウベッコウ 159
カンムリカイツブリ 84

キ

キアシシギ 86
キアシツヤヒラタゴミムシ 124
キアシネクイハムシ 128
キアシハナダカバチモドキ 131
キアシマルガタゴミムシ 124
キイトトンボ 109
キイロサナエ 109
キイロジョウカイ 127
キイロホソゴミムシ 125
キイロミヤマカミキリ 127
キイロヤマトンボ 110
キオビクモバチ 131
ククイタダキ 87
ククガシラコウモリ 78
キゴシジガバチ 131
キジ 84
キシタアツバ 144
キシノウエトタテグモ 153
キジロオヒキグモ 153
キスジウスキョトウ 145
キスジクモバチ 131
キタドジョウ 101
キトンボ 110
キヌツヤベッコウ 159
キヌビロードマイマイ 160

キノボリトタテグモ 153
キバシリ 88
キハダカノコ 144
ギバチ 101
キバナガミズギワゴミムシ 124
キバネキバナガミズギワゴミムシ 124
キバネセセリ 139
キバネツノトンボ 121
ギフチョウ 139
キベリクロヒメゲンゴロウ 126
キベリタテハ 140
キベリマメゲンゴロウ 126
キベリマルクビゴミムシ 124
キボシツブゲンゴロウ 125
キボシトックリバチ 131
キョウジョシギ 86
キリアイ 86
ギンイチモンジセセリ 139
キンブナ 101
ギンブナ 101
ギンボシシヤチホコ 144
ギンボシヒョウモン 140
ギンモンアカヨトウ 145
ギンモンセダカモクメ 145

ク

クイナ 85
クサシギ 86
クシヒゲアリヅカムシ 127
クスサン 144
クチナガハバチ 131
クチマガリスナガイ 159
クツワムシ 114
クビナガキベリアオゴミムシ 125
クビナガヨツボシゴミムシ 125
クビボソコガシラミズムシ 125
クビワコウモリ 78
クマタカ 86
クモガタヒョウモン 140
クリイロカワザンショウ 158
クルマバッタ 114
クルメサヨリ 102
クロガモ 84
クロゲンゴロウ 126
クロジ 88
クロシジミ 140

クロスズメ 144
クロダハゼ 102
クロタマムシ 127
クロツグミ 88
クロツヤコオロギ 114
クロツラヘラサギ 85
クロヒカゲ 140
クロヘナタリ 158
クロベンケイガニ 148
クロヨシノボリ 102
グンバイトンボ 109

ケ

ケシガイ 159
ケシゲンゴロウ 125
ケブカハチモドキハナアブ 135
ケブカヒラタカミキリ 127
ケリ 85
ゲンゴロウ 126
ゲンジボタル 127

コ

コアオアシシギ 86
コアジサシ 86
コアシダカグモ 154
コアトワアオゴミムシ 125
ゴイサギ 84
ゴイシシジミ 139
コウフオカモノアラガイ 159
コウベツブゲンゴロウ 125
コオイムシ 117
コオオベソマイマイ類の一種 160
コオナガミズスマシ 126
コオバシギ 86
コガシラミズムシ 125
コガタコオロギ 114
コガタノゲンゴロウ 126
コガタミズアブ 135
コガネグモ 153
コガムシ 126
コキクガシラコウモリ 78
コキマダラセセリ 139
コケオニグモ 153
コケラマイマイ 160
コサギ 84
コサナエ 109

コサメビタキ 88
コシアカスカシバ 145
コシアカツバメ 87
コシボソヤンマ 109
コジャノメ 140
ゴジュウカラ 88
コジュリン 88
コシロシタバ 145
コチドリ 85
コチャバネセセリ 139
コチョウゲンボウ 87
コツバメ 140
コツブゲンゴロウ 125
コノハズク 86
コバネアオイトトンボ 109
コハンミョウモドキ 124
コバンムシ 117
コブアリスアブ 135
コブアリノスアブ 135
コベソマイマイ 160
ゴボウトガリヨトウ 145
ゴマガイ 158
ゴマジロオニグモ 153
ゴマダラシャチホコ 144
コマツエンマグモ 153
コマドリ 88
ゴマフガムシ 126
コマルケシゲンゴロウ 125
コミズスマシ 126
コミミズク 86
コメツキガニ 148
コモリアオホソゴミムシ 125
コヤマトンボ 110
コヨシキリ 88
コルリ 88

サ

サクラマス (降海型) 101
ササゴイ 84
サシバ 86
サドヤマトガイ 158
サビシラトリ 160
サメビタキ 88
サラサヤンマ 109
サラサリンガ 144
サルハマシギ 86

サワガニ 148
サンカノゴイ 84
サンコウチョウ 87
サンショウクイ 87
サンロウドヨウグモ 153

シ

ジェーンアシワガガンボ 135
シオヤトンボ 110
シタキモモトスカシバ 145
シナイモツゴ 101
シナノホオヒゲコウモリ 79
シノビグモ 154
シベリアヒゲナガケシキスイ 127
シマアジ 84
シマケシゲンゴロウ 125
シマゲンゴロウ 126
シマヘビ 92
シマヨシノボリ 102
ジムグリ 92
シャープゲンゴロウモドキ 126
シャープツブゲンゴロウ 125
ジャノメチョウ 140
ジュウイチ 85
ジュズカケハゼ 102
シュレーゲルアオガエル 96
ジュンサイハムシ 128
ジョウザンミドリシジミ 140
ショウジョウクロバエ 135
シラタエビ 148
シラホシハナムグリ (在来個体群) 127
シルビアシジミ 140
シロウオ 102
シロシタバ 144
シロスジカミキリ 128
シロチドリ 85
シロホソバ 144
シロマダラ 92
シンジュサン 144
シントウトガリネズミ 78

ス

スカシベッコウ 159
スゲオオドクガ 144
スゲドクガ 144
スゲハムシ 128

スジエビ 148
スジグロチャバネセセリ 139
スジグロボタル 127
スジケシガイ 159
スジゲンゴロウ 126
スジハゼ 102
スジボソヤマキチョウ 139
スズガモ 84
スズキコモリグモ 154
スナガイ 159
スナゴカマツカ 101
スナハラゴミムシ 125
スナヤツメ種群 101
スミナガシ 140

セ

セアカオサムシ 124
セイタカシギ 85
セイドウマルセイボウ 131
セグロイナゴ 114
セグロセキレイ 88
セスジイトトンボ 109
セスジゲンゴロウ 126
セッカ 88
ゼニタナゴ 101
セマルガムシ 126
センダイムシクイ 88

ソ

ソリハシシギ 86

タ

タイコウチ 117
ダイサギ 84
ダイシャクシギ 85
ダイゼン 85
ダイミョウセセリ 139
タイリククロスジヘビトンボ 120
タガイ 160
タカオキリガ 145
タカキビ 160
タカチホヘビ 92
タカブシギ 86
タガメ 117
タカヤマヒダリマキマイマイ 160
タケウチエダシヤク 144

タゴガエル 96
タシギ 85
タナゴ 101
タマガムシ 126
タマガワナガドロムシ 127
タマシギ 86

チ

チゴガニ 148
チゴハヤブサ 87
チゴモズ 87
チチブ 102
チチブコウモリ 79
チャイロシマチビゲンゴロウ 125
チャイロヒゲピロウドカミキリ 128
チャバネクビアカツヤゴモクムシ 124
チャマダラセセリ 139
チャムネハラホソハネカクシ 126
チュウガタコガネグモ 153
チュウサギ 84
チュウジシギ 85
チュウシャクシギ 85
チュウヒ 86
チョウゲンボウ 87
チョウセンゴモクムシ 124
チョウセンスナガイ 159
チョウトンボ 110

ツ

ツキノワグマ 79
ツシマトリノフンダマシ 153
ツチガエル 96
ツツドリ 85
ツブゲンゴロウ 125
ツボミ 158
ツマキレオナガミズスマシ 126
ツマグロキチョウ 139
ツマグロスジハゼ 102
ツマグロバッタ 114
ツマジロウラジャノメ 140
ツミ 86
ツメギセル 159
ツヤキベリアオゴミムシ 125
ツヤケシアカバウミベハネカクシ 127
ツヤネクイハムシ 128
ツヤヒメヒョウタンゴミムシ 124

ツルシギ 85

テ

テナガエビ 148

テングコウモリ 79

ト

トウカイビロウドマイマイ 160

トウカイビロードマイマイ 160

ドウガネエンマムシ 126

トウキョウコオオベソマイマイ 160

トウキョウサンショウウオ 96

トウキョウダルマガエル 96

トウキョウトラカミキリ 128

トウキョウヒラマキ 159

トウキョウホラヒメグモ 153

ドウシグモ 153

トウネン 86

トウホククロセンブリ 120

トウヨシノボリ 102

トゲアシゴモクムシ 124

トゲグモ 153

ドジョウ 101

トダセスジゲンゴロウ 125

トビ 86

トビハゼ 102

トモエガモ 84

トラツグミ 88

トラフカミキリ 128

トラフシジミ 140

トラフズク 86

トラフトンボ 110

ドロノキハムシ 128

トワダオオカ 135

ナ

ナガイツツグモ 154

ナガオカモノアラガイ 159

ナカグロキバネクビナガゴミムシ 125

ナガチビヒョウタンゴミムシ 124

ナカバヤシモモブトカミキリ 128

ナガレタゴガエル 96

ナキイナゴ 114

ナゴヤサナエ 109

ナタネキバサナギガイ 159

ナタネモドキ 159

ナマリキシタバ 145

ナマリキリガ 145

ナミハンミョウ 124

ニ

ニゴイ 101

ニシキオニグモ 153

ニシキサラグモ 153

ニセトックリゴミムシ 125

ニッコウイワナ 101

ニッパラキビ 160

ニッパラマシラグモ 153

ニッポントゲバゴマフガムシ 126

ニホンアカガエル 96

ニホンアマガエル 96

ニホンイシガメ 92

ニホンイタチ 79

ニホンウサギコウモリ 79

ニホンウナギ 101

ニホンカナヘビ 92

ニホンカモシカ 79

ニホンカワウソ 79

ニホンカワトンボ 109

ニホンコテングコウモリ 79

ニホンザル 78

ニホンジネズミ 78

ニホンスッポン 92

ニホンスナモグリ 148

ニホンテン 79

ニホンノウサギ 78

ニホンマムシ 92

ニホンモモンガ 78

ニホンヤモリ 92

ニホンリス 78

ヌ

ヌカエビ 148

ヌマチチブ 102

ネ

ネアカヨシヤンマ 109

ネグロクサアブ 135

ネグロセンブリ 120

ネジロカミキリ 128

ノ

ノスリ 86

ハ

ハイイロチュウヒ 86
ハイイロヒレアシシギ 86
ハイイロボクトウ 145
ハイタカ 86
ハギマシコ 88
ハクサンベッコウ 159
ハグロトンボ 109
ハコネサンショウウオ 96
ハコネヒメベッコウ 159
ハコネマイマイ 160
ハサミシャコエビ 148
ハジロカイツブリ 84
ハタケノウマオイ 114
ハタネズミ 78
ハチクマ 86
ハチモドキハナアブ 135
ハッカハムシ 128
ハッチョウトンボ 110
ハナグモリ 160
ハナムグリ 127
ハネナシアメンボ 117
ハネビロエゾトンボ 110
パバアメンボ 117
ハブタエヒラマキ 159
ハマグリ 160
ハマシギ 86
ハマスズ 114
ハマベゴミムシ 124
ハマベニクバエ 135
ハマベハイイロニクバエ 135
ハマベミズギワゴミムシ 124
ハヤシミドリシジミ 140
ハヤブサ 87
バラヒラタハバチ 131
ハラビロトンボ 110
ハルゼミ 117
バン 85
ハンノキカミキリ 128
ハンノヒメコガネ 127

ヒ

ヒオドシチョウ 140

ヒカゲチョウ 140
ヒガシシマドジョウ 101
ヒガシニホントカゲ 92
ヒガシヒダサンショウウオ 96
ヒクイナ 85
ヒゲコガネ 127
ヒゲナガムシヒキ 135
ヒゲナガモブトカミキリ 128
ヒゲブトハナムグリ 127
ヒサマツハチモドキハナアブ 135
ヒシクイ 84
ヒゼンキビ 159
ヒダクチナガハバチ 131
ヒダリマキモノアラガイ 159
ヒトツメアオゴミムシ 125
ヒトリガ 144
ヒナカマキリ 113
ヒナコウモリ 79
ヒナタムシヤドリカワザンショウ 158
ヒヌマイトトンボ 109
ヒバカリ 92
ヒバリ 87
ヒミズ 78
ヒメアカネ 110
ヒメアシブトクチバ 145
ヒメアトスカシバ 145
ヒメアマツバメ 85
ヒメウラナミジャノメ 140
ヒメカサキビ 160
ヒメガムシ 126
ヒメキマダラセセリ 139
ヒメキマダラヒカゲ 140
ヒメコガシラミズムシ 125
ヒメシジミ 140
ヒメシマチビゲンゴロウ 125
ヒメシロシタバ 145
ヒメシロチョウ 139
ヒメセマルガムシ 126
ヒメネズミ 78
ヒメハゼ 102
ヒメハリマキビ 159
ヒメハルゼミ 117
ヒメヒミズ 78
ヒメヒラタシデムシ 126
ヒメビロウドカミキリ 128
ヒメミズカマキリ 117

ヒメミズスマシ 126
ヒラタクワガタ 127
ヒラタマルゴミムシ 124
ヒラドカワザンショウ 158
ヒラベッコウ 159
ヒラマキミズマイマイ 159
ヒラマキモドキ 159
ビリンゴ 102
ビロウドマイマイ 160
ビロードキンクロ 84
ビロードマイマイ 160
ヒロクチコギセル 159
ヒロゴモクムシ 124

フ

フクズミコスカシバ 145
フクロウ 86
フジジガバチ 131
フタオビアリスアブ 135
フタオビアリノスアブ 135
フタスジカタビロハナカミキリ 127
フタスジチョウ 140
フタモンクビナガゴミムシ 125
フタモンマルクビゴミムシ 124
ブッポウソウ 87
フトネクイハムシ 128
フトヘナタリ 158
ブリットンツヤヒラタゴミムシ 124
フルカワフトハキリバチ 131

ヘ

ヘイケボタル 127
ベッコウトンボ 110
ヘナタリ 158
ベニイトトンボ 109
ベニシタバ 144
ベニバハナカミキリ 127
ベニマシコ 88
ヘラシギ 86
ヘリグロチャバネセセリ 139
ベンケイガニ 148

ホ

ボウズハゼ 102
ホウロクシギ 85
ホオジロ 88

ホオジロガモ 84
ホオジロムササビ 78
ホシガラス 87
ホシチャバネセセリ 139
ホシハジロ 84
ホシミスジ 140
ホソチビゴモクムシ 124
ホソチビヒョウタンゴミムシ 124
ホソネクイハムシ 128
ホソバセセリ 139
ホソハンミョウ 124
ホソミオツネントンボ 109
ホッケミズムシ 117
ホトケドジョウ 101
ホトトギス 85
ホンサナエ 109

マ

マイコアカネ 110
マエアカヒトリ 144
マガシ 84
マサゴハゼ 102
マサトヨキビ 160
マシジミ 160
マダラケシミズギワゴミムシ 124
マダラコガシラミズムシ 125
マダラヤンマ 109
マツカサガイ 160
マツムシ 114
マツムラハラブトハナアブ 135
マミジロ 88
マメイタイセキグモ 153
マメガムシ 126
マメシジミ類の一種 160
マメタニシ 158
マユタテアカネ 110
マルガタゲンゴロウ 126
マルケシゲンゴロウ 125
マルコガタノゲンゴロウ 126
マルタ 101
マルタニシ 158
マルチビゲンゴロウ 125
マルヒラタガムシ 126

ミ

ミイデラゴミムシ 125

ミカボコブガ 144
ミコアイサ 84
ミサゴ 86
ミズアブ 135
ミズカマキリ 117
ミズコハクガイ 159
ミズゴマツボ 158
ミスジキリガ 145
ミスジチョウ 140
ミズスマシ 126
ミズラモグラ 78
ミゾゴイ 84
ミソサザイ 88
ミドリシジミ 139
ミナミメダカ 102
ミミズハゼ 102
ミヤケミズムシ 117
ミヤコタナゴ 101
ミヤコドリ 85
ミヤマアカネ 110
ミヤマオビキリガ 145
ミヤマカラスアゲハ 139
ミヤマシジミ 140
ミヤマセセリ 139
ミヤマチャバネセセリ 139
ミヤマヒダリマキマイマイ 160
ミュビシギ 86

ム

ムカシヤンマ 110
ムササビ 78
ムサシスミタナグモ 153
ムサシトゲセイボウ 131
ムサシトミヨ 101
ムサシノジュズカケハゼ 102
ムサシハイタカグモ 154
ムツトゲイセキグモ 153
ムツボシクモバチ 131
ムツモンコムズギワゴミムシ 124
ムナグロ 85
ムナビロアオゴミムシ 125
ムナビロツヤミズギワゴミムシ 124
ムネミゾチビゴモクムシ 124
ムモンアカシジミ 139

メ

メガネサナエ 109
メスグロヒョウモン 140
メダイチドリ 85
メナダ 102
メボソムシクイ 88

モ

モートンイトトンボ 109
モクズガニ 148
モクメシヤチホコ 144
モズ 87
モノアラガイ 159
モノサシトンボ 109
モモジロコウモリ 79
モモボソヒラズムシヒキ 135
モヨウハゼ 102
モリアオガエル 96
モリアブラコウモリ 78

ヤ

ヤイロチョウ 87
ヤエンオニグモ 153
ヤグラギセル 159
ヤスマツヒメハナバチ 131
ヤセアナナシマイマイ 160
ヤチネズミ 78
ヤナギハムシ 128
ヤネホソバ 144
ヤヒコカラスヨトウ 145
ヤブサメ 87
ヤホシホソマダラ 145
ヤマアカガエル 96
ヤマカガシ 92
ヤマガラ 87
ヤマキサゴ 158
ヤマキチョウ 139
ヤマキマダラヒカゲ 140
ヤマコウモリ 78
ヤマサナエ 109
ヤマシギ 85
ヤマセミ 87
ヤマトアシナガバチ 131
ヤマトオサガニ 148
ヤマトクロスジヘビトンボ 120
ヤマトケシマグソコガネ 127

ヤマトゴマフガムシ 126
ヤマトシジミ 160
ヤマトスナハキバチ 131
ヤマトセンブリ 120
ヤマトタマムシ 127
ヤマトトックリゴミムシ 125
ヤマトホソガムシ 126
ヤマトマシラグモ 153
ヤマトマダラバツタ 114
ヤマトモンシデムシ 126
ヤマトヤギヌماغモ 153
ヤマドリ 84
ヤマネ 78
ヤマメ (陸封型) 101
ヤリタナゴ 101

ユ

ユビナガコウモリ 79
ユビナガスジエビ 148
ユビナガホンヤドカリ 148

ヨ

ヨコジマナガハナアブ 135
ヨコハマシジラガイ 160
ヨコフカニグモ 154
ヨシガモ 84
ヨシゴイ 84
ヨシダカワザンショウ 158
ヨシノユカシキモグリバエ 135
ヨタカ 85
ヨツボシカミキリ 127
ヨツボシゴミムシ 125
ヨツボシチビヒラタカミキリ 127
ヨツボシトンボ 110

リ

リスアカネ 110
リュウキュウサンショウクイ 87

ル

ルイスツブゲンゴロウ 125
ルイスヒラタガムシ 126
ルリエンマムシ 126
ルリボシヤンマ 109
ルリヨシノボリ 102

レ

レンズガイ 159

ワ

ワスレナグモ 153
ワモンキシタバ 144

学名索引 (植物・藻類)

A

- Abelia tetrasepala* 65
Abies veitchii 45
Acer australe 58
Achillea alpina var. *longiligulata* 63
Achyranthes longifolia 59
Aconitum × *fudjisanense* 53
Aconitum japonicum subsp. *maritimum* 53
Aconitum pterocaula 53
Acorus calamus 45
Actaea asiatica 53
Actinidia arguta var. *hypoleuca* 59
Actinostemma tenerum 56
Acystopteris japonica 42
Adenophora divaricata 63
Adenophora nikoensis var. *petrophila* 63
Adenophora remotiflora 63
Adonis multiflora 53
Adonis ramosa 53
Adoxa moschatellina 65
Aeginetia sinensis 63
Aeschynomene indica 54
Agastache rugosa 62
Agrimonia coreana 55
Agrostis valvata 52
Ajuga ciliata var. *villosior* 62
Ajuga incisa 62
Ajuga japonica 62
Ajuga makinoi 62
Ajuga shikotanensis 62
Ajuga shikotanensis f. *hirsuta* 62
Ajuga yesoensis var. *tsukubana* 62
Ajugoides humilis 62
Aldrovanda vesiculosa 59
Alisma canaliculatum 46
Alisma plantago-aquatica var. *orientale* 46
Alisma rariflorum 46
Allium inutile 49
Allium monanthum 49
Allium thunbergii 49
Alnus japonica 56
Alnus matsumurae 56
Alopecurus japonicus 52
Amana edulis 47
Amana erythronioides 47
Amelanchier asiatica 55
Amsonia elliptica 61
Anaphalis margaritacea var. *margaritacea* 63
Anaphalis margaritacea var. *yedoensis* 64
Anaphalis sinica 64
Anaphalis sinica var. *viscosissima* 64
Ancistrocarya japonica 61
Anemone flaccida 53
Anemone nikoensis 53
Anemone pseudoaltaica 53
Anemone raddeana 53
Anemonopsis macrophylla 53
Angelica hakonensis 65
Angelica inaequalis 65
Angelica japonica 65
Anthoxanthum horsfieldii var. *japonicum* 52
Anthoxanthum nitens var. *sachalinense* 52
Apios fortunei 54
Apodicarpum ikenoi 65
Aquilegia buergeriana var. *buergeriana* 53
Arabis serrata var. *sikokiana* 58
Arachniodes amabilis var. *fimbriata* 43
Arachniodes borealis 43
Arachniodes chinensis 43
Arachniodes exilis 44
Arachniodes fargesii 44
Arachniodes mutica 44
Arachniodes nipponica 44
Aralia glabra 65
Arisaema heterophyllum 45
Arisaema nikoense subsp. *nikoense* 45
Arisaema planilaminum 45
Aristolochia debilis 45
Aristolochia kaempferi 45
Artemisia capillaris 64
Artemisia keiskeana 64
Asarum blumei 45
Asarum sieboldii 45
Asarum tamaense 45
Asparagus schoberioides 49
Asplenium capillipes 42
Asplenium pekinense 42
Asplenium pseudowilfordii 42
Asplenium ruprechtii 42
Asplenium ruta-muraria 42

Asplenium scolopendrium 42
Asplenium wilfordii 42
Asplenium wrightii 42
Asplenium yoshinagae 42
Aster dimorphophyllus 64
Aster fastigiatus 64
Aster kantoensis 64
Aster leiophyllus var. *harae* 64
Aster rugulosus 64
Aster tripolium 64
Aster viscidulus 64
Astilbe microphylla 54
Astragalus reflexistipulus 54
Athyrium atkinsonii 43
Athyrium clivicola 43
Athyrium crenuloserrulatum 43
Athyrium decurrentialatum
 f. *platyphyllum* 43
Athyrium deltoidofrons 43
Athyrium imbricatum 43
Athyrium iseanum var. *iseanum* 43
Athyrium nikkoense 43
Athyrium otophorum 43
Athyrium pinetorum 43
Athyrium spinulosum 43
Atractylodes ovata 64
Atriplex patens 59
Atriplex subcordata 59
Azolla japonica 42

B

Balanophora nipponica 58
Batrachospermum gelatinosum 74
Berberis amurensis 53
Berchemia pauciflora 55
Berchemiella berchemiifolia 55
Betula chichibuensis 56
Betula corylifolia 56
Betula davurica 56
Betula globispica 56
Betula grossa 56
Betula maximowicziana 56
Betula platyphylla var. *japonica* 56
Betula schmidtii 56
Bidens tripartita 64
Bistorta suffulta 58

Bistorta tenuicaulis var. *tenuicaulis* 58
Blechnum amabile 43
Blechnum niponicum 43
Blyxa echinosperma 46
Blyxa japonica 46
Bolboschoenus fluviatilis subsp. *yagara* 50
Bolboschoenus planiculmis 50
Bonnaya veronicifolia 62
Botrychium nipponicum 41
Botrychium strictum 41
Botrychium virginianum 41
Brachyelytrum japonicum 52
Brasenia schreberi 45
Buddleja japonica 62
Bulbophyllum drymoglossum 47
Bulbophyllum inconspicuum 47
Bulbostylis barbata 50
Bulbostylis densa 50
Bupleurum longiradiatum var. *elatus* 65
Bupleurum stenophyllum 66
Buxus microphylla var. *japonica* 53

C

Calanthe discolor 47
Calanthe nipponica 47
Calanthe reflexa 47
Caldesia parnassiifolia 46
Callicarpa dichotoma 62
Callitriche palustris 61
Caloglossa ogasawaraensis 74
Calypso bulbosa var. *speciosa* 47
Capillipedium parviflorum 52
Cardamine fallax 58
Cardamine leucantha 58
Cardamine lyrata 58
Carex aequialta 50
Carex albata 50
Carex arenicola 50
Carex biwensis 50
Carex brownii 50
Carex capillacea 50
Carex capricornis 50
Carex cinerascens 50
Carex filipes var. *filipes* 50
Carex grallatoria var. *heteroclita* 50
Carex heterolepis 50

Carex humilis var. *nana* 50
Carex idzuroei 50
Carex karashidaniensis 50
Carex kiotensis 50
Carex kujuzana 50
Carex lasiolepis 50
Carex longerostrata var. *longerostrata* 50
Carex longerostrata var. *tenuistachya* 50
Carex maackii 50
Carex maculata 50
Carex maximowiczii var. *levisaccus* 50
Carex mollicula 50
Carex neurocarpa 51
Carex omiana var. *omiana* 51
Carex onoei 51
Carex otaruensis 51
Carex phacota var. *gracilispica* 51
Carex pisiformis 51
Carex planata 51
Carex podogyne 51
Carex pumila 51
Carex rugata 51
Carex scabrifolia 51
Carex vesicaria 51
Carpesium divaricatum var. *matsuei* 64
Carpesium macrocephalum 64
Catolobus pendulus 58
Caulophyllum robustum 53
Celastrus flagellaris 56
Celastrus stephanotifolius 56
Cephalanthera erecta 47
Cephalanthera erecta var. *subaphylla* 47
Cephalanthera falcata 47
Cephalanthera longibracteata 47
Cerasus hisauchiana 55
Cerasus incisa 55
Cerasus incisa var. *bukosanensis* 55
Cerasus itosakura 55
Cerasus nipponica var. *nipponica* 55
Cerasus tamaclivorum 55
Ceratophyllum demersum 52
Ceratopteris gaudichaudii var. *vulgaris* 42
Chamaecrista nomame 54
Chamaegastrodia sikokiana 47
Chamaesyce humifusa 57
Chamerion angustifolium 57
Chara braunii 74
Chara globularis var. *globularis* 74
Chara zeylanica 74
Cheilanthes argentea 42
Cheilanthes brandtii 42
Cheilanthes krameri 42
Chelonopsis longipes 62
Chelonopsis yagiharana 62
Chenopodium acuminatum var. *vachelii* 59
Chenopodium bryoniifolium 59
Chimaphila japonica 59
Chionographis hisauchiana subsp. *hisauchiana* 46
Chorda asiatica 75
Chrysanthemum lavandulifolium 64
Chrysosplenium grayanum 54
Chrysosplenium japonicum 54
Chrysosplenium kamtschaticum 54
Chrysosplenium pilosum var. *fulvum* 54
Cicuta virosa 66
Cimicifuga simplex 53
Cinna latifolia 52
Circaea cordata 57
Cirsium dipsacolepis 64
Cirsium pendulum 64
Cirsium purpuratum 64
Cirsium sieboldii 64
Cirsium tamastoloniferum 64
Cladrastis sikokiana 54
Cleistogenes hackelii 52
Clematis alpina subsp. *ochotensis* var. *fusijamana* 53
Clematis chinensis var. *fujisanensis* 53
Clematis patens f. *leucantha* 53
Clematis tosaensis 53
Clematis williamsii 53
Clintonia udensis 47
Cnidium japonicum 66
Codonopsis javanica subsp. *japonica* 63
Codonopsis ussuriensis 63
Coelachne japonica 52
Compsopogon caeruleus 74
Coptis lutescens 53
Coptis quinquefolia 53
Coriaria japonica 56
Cornus canadensis 59
Corydalis heterocarpa var. *japonica* 52

Corydalis raddeana 52
Corylus heterophylla var. *thunbergii* 56
Crepidiastrum chelidoniifolium 64
Crepidomanes latealatum 41
Crepidomanes schmidtianum var.
schmidtianum 41
Crotalaria sessiliflora 54
Cuscuta australis 61
Cynanchum wilfordii 61
Cynoglossum furcatum var. *villosulum* 61
Cyperus cyperoides 51
Cyperus exaltatus var. *iwasakii* 51
Cyperus nipponicus 51
Cyperus pacificus 51
Cyperus serotinus 51
Cyperus tenuispica 51
Cypripedium debile 47
Cypripedium japonicum 47
Cypripedium macranthos var. *speciosum* 47
Cyrtomium caryotideum 44
Cyrtomium yamamotoi 44
Cyrtosia septentrionalis 47
Cystopteris sudetica var. *sudetica* 42

D

Dactylorhiza viridis 47
Dactyloctenium aegyptium 47
Damnacanthus indicus subsp. *major* 60
Daphne koreana 58
Daphne pseudomezereum 58
Davallia mariesii 44
Deinostema violaceum 61
Dendrobium moniliforme 47
Dennstaedtia scabra 42
Deparia dimorphophylla 43
Deparia kiusiana 43
Deparia lancea 43
Deparia pseudoconilii var. *pseudoconilii* 43
Deparia pseudoconilii var. *subdeltoidifrons* 43
Deparia pycnosora var. *albosquamata* 43
Deparia pycnosora var. *mucilagina* 43
Deparia viridifrons 43
Deschampsia flexuosa 52
Desmarestia viridis 75
Deutzia uniflora 59
Dianthus superbus var. *longicalycinus* 59

Dichocarpum trachyspermum 53
Dicranopteris linearis 41
Dimeria ornithopoda var. *tenera* 52
Dioscorea bulbifera 46
Diplaziopsis cavaleriana 42
Diplazium chinense 43
Diplazium hachijoense 43
Diplazium mettenianum 43
Diplazium nipponicum 43
Diplazium wichurae var. *wichurae* 43
Diplomorpha ganpi 58
Diplopterygium glaucum 41
Dipsacus japonicus 65
Disporum viridescens 47
Dopatrium junceum 61
Draba nemorosa 58
Drosera rotundifolia 59
Dryopteris atrata 44
Dryopteris caudipinna 44
Dryopteris championii 44
Dryopteris cycadina 44
Dryopteris decipiens 44
Dryopteris dickinsii 44
Dryopteris fuscipes 44
Dryopteris gymnophylla 44
Dryopteris kinkiensis 44
Dryopteris kobayashii 44
Dryopteris kuratae 44
Dryopteris medioxima 44
Dryopteris monticola 44
Dryopteris nipponensis 44
Dryopteris polylepis 44
Dryopteris sacrosancta 44
Dryopteris sparsa var. *sparsa* 44
Dryopteris subhikonensis 44
Dryopteris tokyoensis 44
Dunbaria villosa 54

E

Eclipta thermalis 64
Elaeagnus montana var. *ovata* 55
Elatine triandra var. *pedicellata* 56
Elatostema densiflorum 55
Eleocharis attenuata 51
Eleocharis kamschatrica f. *reducta* 51
Eleocharis kuroguwai 51

Eleocharis mamillata var. *cyclocarpa* 51
Eleocharis parvinox 51
Eleocharis pellucida f. *elata* 51
Eleocharis wichurae 51
Eleutherococcus hypoleucus 65
Elsholtzia nipponica 62
Elymus humidus 52
Enkianthus cernuus f. *rubens* 60
Ephippianthus sawadanus 47
Ephippianthus schmidtii 47
Epimedium grandiflorum var.
thunbergianum 53
Epipactis papillosa 47
Epipactis thunbergii 47
Equisetum palustre 41
Erigeron thunbergii 64
Eriocaulon alpestre var. *robustius* 49
Eriocaulon cinereum 50
Eriocaulon decemflorum 50
Eriocaulon parvum 50
Eriocaulon taquetii 50
Eriophorum gracile 51
Erythronium japonicum 47
Eschenbachia japonica 64
Eubotryoides grayana var. *grayana* 60
Euonymus melananthus 56
Eupatorium japonicum 64
Euphorbia adenochlora 57
Euphorbia ebracteolata 57
Euphorbia sendaica 57
Euphrasia maximowiczii 63
Euryale ferox 45

F

Fimbristylis aestivalis 51
Fimbristylis complanata f. *exaltata* 51
Fimbristylis diphyloides 51
Fimbristylis dipsacea 51
Fimbristylis longispica 51
Fimbristylis sieboldii 51
Fimbristylis squarrosa 51
Fimbristylis velata 51
Flueggea suffruticosa 57
Fritillaria kaiensis 47

G

Gagea japonica 47
Gagea lutea 47
Galearis cyclochila 47
Galium japonicum 60
Galium kikumugura 60
Galium kinuta 60
Galium niewerthii 60
Galium tokyoense 60
Galium trifidum var. *brevipedunculatum* 60
Galium verum 60
Gastrochilus matsuran 47
Gastrochilus toramanus 48
Gastrodia confusa 48
Gastrodia elata 48
Gastrodia elata f. *viridis* 48
Gastrodia elata var. *pallens* 48
Gentiana scabra var. *buergeri* 60
Gentiana squarrosa 60
Gentiana thunbergii var. *thunbergii* 60
Gentianopsis contorta 60
Geranium krameri 57
Geranium onoei var. *onoei* 57
Geranium soboliferum var. *hakusanense* 57
Geranium tripartitum 57
Geum aleppicum 55
Geum ternatum 55
Glyceria acutiflora subsp. *japonica* 52
Glyceria depauperata var. *infirma* 52
Goniophlebium niponicum 44
Goniophlebium someyae 44
Goodyera biflora 48
Goodyera foliosa var. *maximowicziana* 48
Goodyera pendula 48
Goodyera repens 48
Goodyera schlechtendaliana 48
Goodyera velutina 48
Gratiola japonica 61
Gymnadenia conopsea 48
Gymnocarpium dryopteris 42
Gymnocarpium oyamense 42
Gymnocarpium robertianum 42

H

Habenaria sagittifera 48
Halenia corniculata 60

Haplopteris flexuosa 42
Haplopteris fudzinoi 42
Hedysarum vicioides subsp. *japonicum* var.
japonicum 54
Helonias breviscapa var. *breviscapa* 46
Hemerocallis dumortieri var. *musashiensis* 49
Hemerocallis fulva var. *disticha* 49
Hemerocallis middendorffii var. *esculenta* 49
Hepatica nobilis var. *japonica* 53
Heribaudiella fluviatilis 74
Herminium lanceum 48
Hieracium umbellatum 64
Hildenbrandia rivularis 74
Huperzia selago 41
Hydrilla verticillata 46
Hydrocharis dubia 46
Hylomecon japonica 52
Hylotelephium verticillatum var.
lithophilos 54
Hylotelephium viride 54
Hymenophyllum badium 41
Hymenophyllum mikawanum 41
Hymenophyllum wrightii 41
Hypericum ascyron subsp. *ascyron* var.
ascyron 56
Hypericum oliganthum 56
Hypodematium crenatum subsp. *fauriei* 43
Hystrix duthiei subsp. *longearistata* 52

I

Inula britannica subsp. *japonica* 64
Inula linariifolia 64
Inula salicina var. *asiatica* 64
Iris domestica 49
Iris ensata var. *spontanea* 49
Iris gracilipes 49
Iris laevigata 49
Iris sanguinea 49
Isachne nipponensis 52
Ischaemum aristatum var. *crassipes* 52
Isodon japonicus 62
Isoetes japonica 41
Ixeridium alpicola 64
Ixeris chinensis subsp. *strigosa* 64
Ixeris polycephala 64
Ixeris tamagawaensis 64

J

Juncus alatus 50
Juncus diastrophanthus 50
Juncus fauriei 50
Juncus gracillimus 50
Juncus krameri 50
Juncus maximowiczii 50
Juncus papillosus 50
Juncus setchuensis var. *effusoides* 50
Juncus wallichianus 50
Juniperus chinensis var. *sargentii* 45
Juniperus rigida 45

K

Koeleria macrantha 52
Kuhlhasseltia nakaiana 48

L

Lathraea japonica 63
Lathyrus davidii 54
Lathyrus japonicus 54
Lathyrus quinquenervius 54
Laurocerasus spinulosa 55
Lecanorchis japonica 48
Lecanorchis nigricans var. *patipetala* 48
Lecanorchis suginoana 48
Leersia japonica 52
Leersia oryzoides 52
Lemna trisulca 46
Leontopodium japonicum 64
Leonurus japonicus 62
Leonurus macranthus 62
Lepisorus annuifrons 44
Leptochloa chinensis 52
Lespedeza buergeri 54
Lespedeza tomentosa 54
Lespedeza virgata 54
Libanotis ugoensis var. *japonica* 65
Ligularia kaialpina 64
Lilium leichtlinii f. *pseudotigrinum* 47
Lilium medeoloides 47
Limnophila chinensis subsp. *aromatica* 61
Limnophila sessiliflora 61
Lindera triloba 45
Linum stelleroides 57
Liparis japonica 48

Liparis krameri 48
Liparis krameri f. *viridis* 48
Liparis kumokiri 48
Liparis makinoana 48
Liparis nervosa 48
Lithospermum erythrorhizon 61
Lithospermum zollingeri 61
Litsea coreana 45
Lobelia sessilifolia 63
Lonicera mochidzukiana var.
mochidzukiana 65
Lonicera praeflorens var. *japonica* 65
Lonicera strophiphora var. *glabra* 65
Loxogramme duclouxii 44
Loxogramme grammitoides 44
Loxogramme salicifolia 44
Ludwigia epilobioides subsp. *greatrexii* 58
Ludwigia ovalis 58
Ludwigia peploides subsp. *stipulacea* 58
Luzula multiflora 50
Luzula plumosa subsp. *plumosa* 50
Lycopodium clavatum var. *nipponicum* 41
Lycopodium obscurum 41
Lycopus lucidus 62
Lycopus maackianus 62
Lycoris sanguinea var. *kiushiana* 49
Lycoris sanguinea var. *sanguinea* 49
Lysimachia barystachys 59
Lysimachia europaea 59
Lysimachia fortunei 59
Lysimachia leucantha 59
Lysimachia thyrsiflora 59
Lysimachia vulgaris var. *davurica* 59
Lythrum salicaria 57

M

Maianthemum japonicum 49
Maianthemum viridiflorum 49
Malaxis monophyllos 48
Malus toringo 55
Marsilea quadrifolia 42
Melica onoei 52
Menispermum dauricum f. *pilosum* 53
Mentha canadensis 62
Mentha japonica 62
Menyanthes trifoliata 63

Microlepia pseudostrigosa 42
Micropolypodium okuboi 44
Mimulus nepalensis 63
Miricacalia makinoana 64
Mitchella undulata 60
Mitrasacme indica 61
Mitrasacme pygmaea 61
Moliniopsis japonica 52
Monachosorum maximowiczii 42
Monochasma shearereri 63
Monochoria korsakowii 49
Monostroma nitidum 75
Monotropa hypopithys 60
Monotropa uniflora 60
Mosla hirta 62
Mosla japonica 62
Muhlenbergia ramosa 52
Myriophyllum spicatum 54
Myriophyllum ussuriense 54
Myriophyllum verticillatum 54
Myrmechis japonica 48

N

Nabalus tanakae 64
Najas chinensis 46
Najas gracillima 46
Najas graminea 46
Najas marina 46
Najas minor 46
Nanocnide japonica 56
Neillia tanakae 55
Nemacystus decipiens 75
Nemalionopsis tortuosa 74
Neofinetia falcata 48
Neolepisorus ensatus 44
Neottia japonica 48
Neottia makinoana 48
Neottia papilligera 48
Neottia puberula 48
Neottianthe cucullata 48
Nervilia nipponica 48
Nihon japonica 61
Nihon krameri 61
Nitella acuminata var. *capitulifera* 74
Nitella flexilis var. *flexilis* 74
Nitella furcata var. *furcata* 74

Nitella japonica 74
Nitella mirabilis var. *inokasiraensis* 74
Nitella oligospira 74
Nitella orientalis 74
Nitella paucicostata 74
Nitella spiciformis 74
Nitella spiciformis var. *oligogyra* 74
Nitella sublucens 74
Nitella tenuissima var. *japonica* 74
Nuphar japonica 45
Nymphaea tetragona 45
Nymphoides indica 63
Nymphoides peltata 63

O

Oberonia japonica 48
Odontosoria chinensis 42
Oldenlandia brachypoda 60
Ophioglossum petiolatum 41
Ophioglossum thermale 41
Ophioglossum vulgatum 41
Oreorchis patens 48
Orobanche coerulescens 63
Osmunda claytoniana 41
Osmunda lancea 41
Osmundastrum cinnamomeum var.
fokiense 41
Ottelia alismoides 46
Oxalis griffithii var. *kantoensis* 56
Oxalis obtriangulata 56

P

Padus ssiori 55
Paeonia japonica 53
Paeonia obovata 53
Parasenecio adenostyloides 64
Parasenecio maximowiczianus var. *alatus* 64
Parasenecio yatabei 64
Parietaria micrantha 56
Parietaria micrantha var. *coreana* 56
Paris verticillata 47
Parnassia foliosa var. *foliosa* 56
Parnassia palustris var. *palustris* 56
Patrinia scabiosifolia 65
Patrinia triloba var. *palmata* 65
Pecteilis radiata 48

Pedicularis gloriosa 63
Pedicularis resupinata subsp. *oppositifolia* 63
Pedicularis resupinata subsp. *teucrifolia*
var. *caespitosa* 63
Peltoboykinia tellimoides 54
Penthorum chinense 54
Peracarpa carnosus 63
Perilla hirtella 62
Peristrophe japonica var. *subrotunda* 62
Persicaria breviochreatea 58
Persicaria erectominor 58
Persicaria foliosa var. *paludicola* 58
Persicaria hastatosagittata 58
Persicaria japonica 58
Persicaria maackiana 58
Persicaria odorata subsp. *conspicua* 58
Persicaria taquetii 58
Persicaria trigonocarpa 58
Phacellanthus tubiflorus 63
Phacelurus latifolius 52
Phegopteris bukoensis 42
Phegopteris connectilis 43
Phellodendron amurense 58
Phellodendron amurense var. *japonicum* 58
Phlegmariurus cryptomerinus 41
Phragmites karka 52
Phtheirospermum japonicum 63
Physaliastrum chamaesarachoides 61
Physaliastrum echinatum 61
Physaliastrum japonicum 61
Physaliastrum japonicum f. *kimurae* 61
Picea alcoquiana 45
Picea jezoensis var. *hondoensis* 45
Picea torano 45
Picris hieracioides subsp. *japonica* var.
akaishiensis 65
Pilea peploides 56
Pilea pumila var. *hamaoi* 56
Pinus parviflora 45
Plagiogyria euphlebia 42
Plagiogyria japonica var. *japonica* 42
Plantago japonica 61
Platanthera florentii 48
Platanthera hologlottis 48
Platanthera hondoensis 48
Platanthera iinumae 48

- Platanthera japonica* 48
Platanthera mandarinorum subsp.
mandarinorum var. *oreades* 48
Platanthera ophrydioides f. *monophylla* 48
Platanthera sachalinensis 48
Platanthera tipuloides subsp. *nipponica* 49
Platanthera ussuriensis 49
Platycodon grandiflorus 63
Pleurosoriposis makinoi 44
Poa tuberifera 52
Pogonia japonica 49
Pogonia minor 49
Pogostemon stellatus 63
Pogostemon yatabeanus 63
Polygala japonica 55
Polygala tatarinowii 55
Polygonatum involucreatum 49
Polygonatum macranthum 49
Polygonatum odoratum var. *pluriflorum* 49
Polygonum polyneuron 58
Polypodium fauriei 44
Polypodium sibiricum 45
Polystichum braunii 44
Polystichum fibrillosopaleaceum 44
Polystichum igaense 44
Polystichum longifrons 44
Polystichum mayebarae 44
Polystichum ohmurae 44
Polystichum retrosopaleaceum 44
Polystichum rigens 44
Polystichum shimurae 44
Polystichum tsus-simense 44
Ponerorchis graminifolia 49
Potamogeton crispus 46
Potamogeton cristatus 46
Potamogeton distinctus 46
Potamogeton fryeri 46
Potamogeton maackianus 46
Potamogeton natans 46
Potamogeton octandrus 46
Potamogeton oxyphyllus 46
Potamogeton panormitanus 46
Potamogeton perfoliatus 46
Potamogeton pusillus 46
Potamogeton wrightii 46
Potentilla chinensis 55
Potentilla fruticosa f. *mandshurica* 55
Potentilla nipponica 55
Prasiola japonica 74
Primula reinii var. *reinii* 59
Primula sieboldii 59
Pseudognaphalium hypoleucum 65
Pseudopyxis depressa 60
Pseudopyxis heterophylla 60
Pseudoraphis sordida 52
Pseudostellaria heterantha 59
Pseudostellaria heterantha var. *linearifolia* 59
Pseudostellaria heterophylla 59
Pseudostellaria palibiniana 59
Psilotum nudum 41
Pteridophyllum racemosum 52
Pteris nipponica 42
Pteris semipinnata 42
Pteris terminalis var. *fauriei* 42
Pteris terminalis var. *terminalis* 42
Pterygocalyx volubilis 60
Pterygopleurum neurophyllum 66
Pulsatilla cernua 53
Pyrola alpina 60
Pyrola asarifolia subsp. *incarnata* 60
Pyrola nephrophylla 60
Pyropia tenera 74
Pyrrrosia hastata 45
Pyrrrosia lingua 45
- Q**
-
- Quercus aliena* 56
Quercus aliena f. *pellucida* 56
- R**
-
- Ranunculus nipponicus* var. *submersus* 53
Ranunculus ternatus 53
Rhamnus costata 55
Rhamnus davurica var. *nipponica* 55
Rhamnus japonica var. *decipiens* 55
Rhamnus japonica var. *microphylla* 55
Rhododendron benhallii 60
Rhododendron brachycarpum 60
Rhododendron degronianum 60
Rhododendron keiskei 60
Rhododendron keiskei var. *hypoglaucom* 60
Rhododendron molle subsp. *japonicum* 60

- Rhododendron multiflorum* f. *brevicalyx* 60
Rhododendron pentandrum 60
Rhododendron pentaphyllum var. *nikoense* 60
Rhododendron quinquefolium 60
Rhynchosia volubilis 54
Rhynchospora fujiana 51
Ribes ambiguum 53
Ribes fasciculatum 54
Ribes maximowiczianum 54
Rorippa cantoniensis 58
Rosa nipponensis 55
Rotala mexicana 57
Rubia hexaphylla 60
Rubus idaeus subsp. *melanolasius* 55
Rubus phoenicolasius 55
Rubus pseudojaponicus 55
Rubus pungens var. *oldhamii* 55
Rubus sumatranus 55
Rumex dentatus subsp. *klotzschianus* 58
Rumex longifolius 59
Rumex madaio 59
Ruppia maritima 46
- S**
- Sacciolepis indica* var. *oryzeturum* 52
Sagittaria aginashi 46
Sagittaria pygmaea 46
Salix dolichostyla subsp. *serissifolia* 57
Salix eriocarpa 57
Salix futura 57
Salix japonica 57
Salix shiraii 57
Salvia lutescens var. *intermedia* 63
Salvia plebeia 63
Salvinia natans 42
Sasaella ramosa 52
Saururus chinensis 45
Saussurea amabilis 65
Saussurea maximowiczii 65
Saussurea pulchella 65
Saussurea sinuatooides 65
Saussurea tanakae 65
Saussurea triptera 65
Saussurea ussuriensis var. *ussuriensis* 65
Saxifraga cortusifolia 54
Saxifraga fortunei var. *alpina* 54
Saxifraga fusca var. *kikubuki* 54
Scabiosa japonica var. *japonica* 65
Schisandra chinensis 45
Schizocodon ilicifolius var. *australis* 59
Schizopepon bryoniifolius 56
Schoenoplectiella gemmifera 51
Schoenoplectiella lineolata 51
Schoenoplectiella mucronata var. *tatarana* 51
Schoenoplectiella triangulata 51
Schoenoplectus nipponicus 51
Sciaphila nana 46
Scirpus fuirenoides 51
Scirpus mitsukurianus 51
Scleria parvula 51
Scrophularia buergeriana 62
Scrophularia kakudensis 62
Scrophularia musashiensis 62
Scutellaria amabilis 63
Scutellaria brachyspica 63
Scutellaria dependens 63
Scutellaria laeteviolacea 63
Scutellaria laeteviolacea var. *abbreviata* 63
Scutellaria shikokiana var. *shikokiana* 63
Sedum hakonense 54
Selaginella helvetica 41
Selaginella nipponica 41
Selaginella shakotanensis 41
Selaginella tamamontana 41
Selliguea veitchii 45
Serratula coronata subsp. *insularis* 65
Sheathia arcuata 74
Shortia uniflora var. *kantoensis* 59
Silene baccifera var. *japonica* 59
Silene firma 59
Silene firma f. *pubescens* 59
Silene miqueliana 59
Siphonostegia chinensis 63
Siphonostegia laeta 63
Sisymbrium luteum 58
Sium ninsi 66
Sium suave var. *nipponicum* 66
Sium suave var. *ovatum* 66
Smilax stans 47
Solanum japonense 61
Solanum japonense var. *takaoyamense* 61
Sonchus brachyotus 65

Sophora flavescens 54
Sparganium erectum 49
Sparganium erectum var. *macrocarpum* 49
Sparganium fallax 49
Sparganium japonicum 49
Sparganium subglobosum 49
Spiraea chamaedryfolia var. *pilosa* 55
Spiraea nipponica var. *nipponica* 55
Sporobolus japonicus 52
Stictyosiphon soriferus 75
Stipa coreana var. *japonica* 52
Stipa pekinensis 52
Swertia bimaculata 60
Swertia japonica 60
Swertia pseudochinensis 61
Swertia tosaensis 61
Symplocarpus nipponicus 46

T

Taeniophyllum glandulosum 49
Tanakaea radicans 54
Taxillus kaempferi 58
Taxus cuspidata 45
Tephroseris flammea subsp. *glabrifolia* 65
Tephroseris integrifolia subsp. *kirilowii* 65
Tephroseris pierotii 65
Tetragonia tetragonoides 59
Thalictrum actaeifolium 53
Thalictrum minus var. *chionophyllum* 53
Thalictrum simplex var. *brevipes* 53
Thelypteris angustifrons 43
Thelypteris esquirolii 43
Thelypteris musashiensis 43
Thelypteris nipponica var. *borealis* 43
Themeda barbata 52
Thrixspermum japonicum 49
Thuja standishii 45
Tiarella polyphylla 54
Tilia japonica 58
Tilingia tachiroei 66
Tillaea aquatica 54
Tipularia japonica 49
Tofieldia coccinea var. *coccinea* 46
Tomophyllum sakaguchianum 45
Torularia atra 74
Trapa incisa 57

Trapa japonica 57
Trapa natans 57
Trapella sinensis 61
Triadenum japonicum 56
Tricyrtis affinis 47
Tricyrtis hirta 47
Tricyrtis latifolia 47
Trillium tschonoskii 47
Tripora divaricata 63
Tripterispermum japonicum 61
Turritis glabra 58
Tylophora floribunda 61

U

Ulmus davidiana var. *japonica* 55
Ulmus laciniata 55
Urtica laetevirens 56
Utricularia australis 62
Utricularia macrorhiza 62
Utricularia minor 62
Utricularia uliginosa 62

V

Vaccinium smallii var. *glabrum* 60
Vallisneria denseserrulata 46
Vallisneria natans 46
Vandenboschia × *stenosiphon* 41
Veratrum maackii 47
Veratrum maackii var. *maackioides* 47
Veronica polita subsp. *lilacina* 61
Veronica rotunda var. *petiolata* 62
Veronica rotunda var. *subintegra* 62
Veronica undulata 62
Veronicastrum japonicum var. *japonicum* 62
Viburnum sieboldii 65
Viburnum urceolatum f. *procumbens* 65
Vicia amoena 54
Vicia cracca 54
Vicia nipponica 54
Vicia pseudo-orobus 54
Vincetoxicum acuminatum 61
Vincetoxicum atratum 61
Vincetoxicum macrophyllum var. *nikoense* 61
Vincetoxicum magnificum 61
Vincetoxicum pycnostelma 61

Vincetoxicum sublanceolatum var.
 auriculatum 61
Vincetoxicum sublanceolatum var.
 macranthum 61
Viola acuminata 56
Viola biflora 56
Viola chaerophylloides var. *sieboldiana* 57
Viola collina 57
Viola hirtipes 57
Viola mirabilis var. *subglabra* 57
Viola patrinii 57
Viola raddeana 57
Viola rostrata 57
Viola selkirkii 57
Viola shikokiana 57
Viola sieboldii 57
Viola variegata var. *nipponica* 57
Viola violacea var. *makinoi* 57
Viola violacea var. *violacea* 57
Viola yazawana 57
Viola yezoensis 57
Viola yezoensis f. *discolor* 57
Virescentia helminthosa 74

W

Weigela × *kariyosensis* 65
Weigela maximowiczii 65
Woodsia glabella 43
Woodsia macrochlaena 43
Woodwardia orientalis 43

X

Xanthium strumarium subsp. *sibiricum* 65

Y

Yuania amagiensis 49

Z

Zanthoxylum armatum var. *subtrifoliatum* 58
Zeuxine agyokuana 49

学名索引 (動物)

A

- Acalolepta degener* 128
Acalolepta kusamai 128
Acanthocinus orientalis 128
Acanthogobius lactipes 102
Accipiter gentilis 86
Accipiter gularis 86
Accipiter nisus 86
Acentrogobius pflaumi 102
Acentrogobius sp.2 102
Acentrogobius virgatulus 102
Achalinus spinalis 92
Acheilognathus melanogaster 101
Acheilognathus tabira erythropterus 101
Acheilognathus typus 101
Acrocephalus bistrigiceps 88
Acrocephalus orientalis 88
Acrionicta carbonaria 145
Actias aliena 144
Actias gnoma 144
Actitis hypoleucos 86
Acupalpus sobosanus 124
Aegista mikuriyensis 160
Aegista proba goniosoma 160
Aegista sp.1 160
Aegista sp.2 160
Aegista tokyoensis 160
Aegista vatheleti 160
Aeromachus inachus 139
Aeschnophlebia anisoptera 109
Aeschnophlebia longistigma 109
Aeshna juncea 109
Aeshna mixta soneharai 109
Aix galericulata 84
Alauda arvensis 87
Alcedo atthis 87
Aloa lactinea 144
Amantis nawai 113
Amara ampliata 124
Amata germana 144
Ammophila clavus japonica 131
Amphicoma pectinata 127
Amphiops mater 126
Amphipyra subrigua 145
Anadastus pulchelloides 127
Anas falcata 84
Anas formosa 84
Anas querquedula 84
Andrena yasumatsui 131
Anguilla japonica 101
Angustassiminea cf. *arasitologica* 158
Angustassiminea castanea 158
Angustassiminea yoshidayukioi 158
Anomala multistriata 127
Anoplius viaticus 131
Anser albifrons 84
Anser fabalis 84
Anthracus horni 124
Antigius butleri 139
Antrodiaetus roretzii 153
Anyphaena ayshides 154
Apodemus argenteus 78
Apodemus speciosus 78
Appasus japonicus 117
Appasus major 117
Apus nipalensis 85
Apus pacificus 85
Aquarius elongatus 117
Arachnura logio 153
Araneus macacus 153
Araneus seminiger 153
Araneus variegatus 153
Araragi enthea 139
Archicolliuris bimaculata nipponica 125
Arctia caja 144
Ardea alba 84
Arenaria interpres 86
Argiope amoena 153
Argiope boesenbergi 153
Argyronome laodice 140
Argyronome ruslana 140
Armatocillenus aestuarii 124
Armatocillenus yokohamae 124
Artopoetes pryeri 139
Asiagomphus melaenops 109
Asiagomphus pryeri 109
Asidemia inexpecta 145
Asio flammeus 86
Asio otus 86
Assiminea hiradoensis 158

Assimineea japonica 158
Atanygnathus terminalis 126
Atrocalopteryx atrata 109
Aythya ferina 84
Aythya marila 84

B

Balataea octomaculata 145
Barbastella darjelingensis 79
Batillaria multiformis 158
Batillaria zonalis 158
Batocera lineolata 128
Batozonellus annulatus 131
Batozonellus lacerticida 131
Bekkochlamys micrograpta 159
Bekkochlamys septentrionalis 159
Bekkochlamys serena 159
Belisana akebona 153
Bembecinus hungaricus japonicus 131
Bembidion articulatum 124
Bembidion leucolenum 124
Bembidion pogonoides 124
Bembidion semiluitum semiluitum 124
Bensonella plocidens 159
Beringiana japonica 160
Berosus japonicus 126
Berosus nipponicus 126
Berosus punctipennis 126
Biston takeuchii 144
Bledius salsus 126
Bombus ussurensis 131
Botaurus stellaris 84
Boyeria maclachlani 109
Brachyta bifasciata japonica 127
Brahmaea japonica 144
Bucephala clangula 84
Buergeria buergeri 96
Bufo japonicus formosus 96
Buprestis haemorrhoidalis japonensis 127
Burara aquilina 139
Butastur indicus 86
Buteo buteo 86
Butorides striata 84

C

Cagosima sanguinolenta 128

Calidris alba 86
Calidris alpina 86
Calidris canutus 86
Calidris ferruginea 86
Calidris ruficollis 86
Calidris temminckii 86
Calidris tenuirostris 86
Callophrys ferrea 140
Calommata signata 153
Calopteryx japonica 109
Camptoceras hirasei 159
Camptoloma interioratum 144
Canis lupus 79
Capricornis crispus 79
Caprimulgus indicus 85
Capsula sparganii 145
Carabus granulatus telluris 124
Carassius buergeri subsp.2 101
Carassius sp. 101
Carpodacus roseus 88
Carychium noduliferum 159
Carychium pessimum 159
Catocala actaea 145
Catocala columbina 145
Catocala electa 144
Catocala nagioides 145
Catocala nivea 144
Catocala xarippe 144
Celes akitanus 114
Ceriagrion melanurum 109
Ceriagrion nipponicum 109
Ceriana japonica 135
Cerithidea moerchii 158
Cerithideopsis largillierti 158
Certhia familiaris 88
Cerura felina 144
Cetonia pilifera 127
Cettia diphone 87
Chalcophora japonica japonica 127
Charadrius alexandrinus 85
Charadrius dubius 85
Charadrius mongolus 85
Charadrius placidus 85
Chelon haematocheilus 102
Chimarrogale platycephalus 78
Chiromantes dehaani 148

Chiromantes haematocheir 148
Chlaenius abstersus 125
Chlaenius deliciosus 125
Chlaenius hamifer 125
Chlaenius pericallus 125
Chlaenius praefectus 125
Chlaenius prostenus 125
Chlaenius sericimicans 125
Chlaenius spoliatus motschulskyi 125
Chloridolum japonicum 127
Chlorophanus grandis 128
Chlorophorus yedoensis 128
Choaspes benjaminii 139
Chrysochroa fulgidissima fulgidissima 127
Chrysolina exanthematica 128
Chrysolina virgata 128
Chrysomela populi 128
Chrysomela vigintipunctata 128
Chrysozephyrus brilliantinus 139
Cicindela chinensis japonica 124
Cicindela gracilis 124
Cicindela laetescripta 124
Cidariplura signata 144
Cinclus pallasii 88
Cipangopaludina japonica 158
Cipangopaludina laeta 158
Circus cyaneus 86
Circus spilonotus 86
Cisticola juncidis 88
Clistocoeloma sinense 148
Clivina castanea 124
Cobitis sp. BIWAE type C 101
Coccinella ainu 127
Coelambus chinensis 125
Coelostoma orbiculare 126
Coelostoma stultum 126
Coenomyia basalis 135
Conistra grisescens 145
Conocephalus halophilus 114
Conothele fragaria 153
Copelatus japonicus 126
Copelatus nakamurai 125
Corbicula japonica 160
Corbicula leana 160
Cosmodiscus platynotus 124
Cottus pollux 102

Coturnix japonica 84
Crangon uritai 148
Craspedonotus tibialis 124
Cristaria clessini 160
Crocidura dsinezumi 78
Cryphoeca shinkaii 153
Cryptalaus berus 127
Ctenistes oculus 127
Cucullia jankowskii 145
Cuculus canorus 85
Cuculus optatus 85
Cuculus poliocephalus 85
Culmenella prashadi 159
Cyanopica cyanus 87
Cyanoptila cyanomelana 88
Cybister brevis 126
Cybister japonicus 126
Cybister lewisianus 126
Cybister tripunctatus orientalis 126
Cymindis collaris 125
Cynops pyrrhogaster 96

D

Daimio tethys 139
Damora sagana 140
Delichon dasypus 87
Dendrocellus geniculatus 125
Dendrocopos leucotos 87
Dendrocopos major 87
Dexopollenia flava 135
Dianemobius csikii 114
Dianemobius furumagiensis 114
Dichorragia nesimachus 140
Dineutus orientalis 126
Dioszeghyana mirabilis 145
Diplocheila elongata 125
Diplommatina cassa 158
Diplommatina collarifera 158
Dischissus mirandus 125
Donacia bicoloricornis 128
Donacia clavareau 128
Donacia nitidior 128
Donacia vulgaris 128
Doosia japonica 153
Dorcus hopei 127
Dryophytes japonicus 96

Drypta fulveola 125
Dymecodon pilirostris 78
Dyschirius cheloscelis 124
Dyschirius steno 124
Dytiscus sharpi 126

E

Egretta garzetta 84
Egretta intermedia 84
Eilema degenerella 144
Eilema fuscodorsalis 144
Elampus musashinus 131
Elaphe climacophora 92
Elaphe quadrivirgata 92
Elaphrus punctatus 124
Emberiza cioides 88
Emberiza rustica 88
Emberiza schoeniclus 88
Emberiza variabilis 88
Emberiza yessoensis 88
Enochrus lewisi 126
Enochrus subsignatus 126
Eophona personata 88
Eothenomys andersoni 78
Epacromius japonicus 114
Epithea marginata 110
Eptesicus japonensis 78
Eriocheir japonicus 148
Erynnis montana 139
Euhadra callizona 160
Euhadra scaevola scaevola 160
Eumenes fraterculus 131
Eumeta variegata 145
Euprepiophis conspicillatus 92
Eupsilia contracta 145
Eurema laeta 139
Eurina sabroskyi 135
Euroscaptor mizura 78
Eurynorhynchus pygmeus 86
Eurystomus orientalis 87
Euscyrtus japonicus 114
Eusphingonotus japonicus 114
Euterpnosia chibensis chibensis 117
Euurobracon yokahamae 131

F

Fabriciana adippe 140
Fabriciana nerippe 140
Falcileptoneta japonica 153
Falco columbarius 87
Falco peregrinus 87
Falco subbuteo 87
Falco tinnunculus 87
Favonigobius gymnauchen 102
Favonius jezoensis 139
Favonius orientalis 140
Favonius taxila 140
Favonius ultramarinus 140
Fixsenia w-album 140
Fulica atra 85

G

Galerucella nipponensis 128
Gallinago gallinago 85
Gallinago hardwickii 85
Gallinago megala 85
Gallinago solitaria 85
Gallinula chloropus 85
Gasteracantha kuhlii 153
Gastrimargus marmoratus 114
Gastrocopta armigerella 159
Gastrocopta coreana 159
Gastropacha orientalis 144
Gekko japonicus 92
Geothelphusa dehaani 148
Gerris babai 117
Gerris nepalensis 117
Glandirana rugosa 96
Glaucanome angulata 160
Glirulus japonicus 78
Gloydus blomhoffii 92
Gonepteryx aspasia 139
Gonepteryx maxima 139
Gorsachius goisagi 84
Gortyna fortis 145
Graphelmis shirahatai 127
Graphoderus adamsii 126
Gymnogobius breunigii 102
Gymnogobius castaneus 102
Gymnogobius macrogathos 102
Gymnogobius sp.1 102

Gymnogobius urotaenia 102
Gynacantha japonica 109
Gyraulus chinensis spirillus 159
Gyraulus illibatus 159
Gyraulus soritai 159
Gyraulus tokyoensis 159
Gyrinus curtus 126
Gyrinus gestroi 126
Gyrinus japonicus 126

H

Haematopus ostralegus 85
Halcyon coromanda 87
Haliplus japonicus 125
Haliplus kamiyai 125
Haliplus ovalis 125
Haliplus sharpi 125
Haplodrassus hatsushibai 154
Harpalus calceatus 124
Harpalus corporosus 124
Harpalus crates 124
Hebius vibakari vibakari 92
Hedychrum simile aereum 131
Helice tridens 148
Hemibarbus barbatus 101
Hemicarabus tuberculatus 124
Heriaeus mellottei 154
Hesperia florinda 139
Hesperocorixa distanti hokkensis 117
Heteroceris japonicus 127
Heteroscelus brevipes 86
Hexacentrus japonicus 114
Hierococcus hyperythrus 85
Himantopus himantopus 85
Hirundo daurica 87
Hydaticus bowringi 126
Hydaticus pacificus conspersus 126
Hydaticus rhantoides 126
Hydaticus satoi 126
Hydrochara affinis 126
Hydrochara libera 126
Hydrochus japonicus 126
Hydrometra albolineata 117
Hydrophilus acuminatus 126
Hydrovatus acuminatus 125
Hydrovatus subtilis 125

Hynobius fossigenus 96
Hynobius tokyoensis 96
Hypena claripennis 144
Hyphydrus japonicus 125
Hyporhamphus intermedius 102

I

Ilybius apicalis 126
Ilyocoris cimicoides exclamatoris 117
Ilyoplax pusilla 148
Indolestes peregrinus 109
Inversiunio jokohamensis 160
Iratsume orsedice 139
Isoteinon lamprospilus 139
Ixobrychus sinensis 84

J

Japanochlamys hakonensis 159
Japanolaccophilus nipponensis 125
Japonia sadoensis 158
Japonica lutea 139
Japonica saepestriata 139
Jodia sericea 145

K

Kirkaldyia deyrolli 117

L

Laccophilus difficilis 125
Laccophilus kobensis 125
Laccophilus lewisius 125
Laccophilus sharpi 125
Laccotrephes japonensis 117
Lachnocrepis japonica 125
Lachnoderma asperum 125
Laelia coenosa 144
Laelia gigantea 144
Lanius bucephalus 87
Lanius cristatus 87
Lanius tigrinus 87
Laomedia astacina 148
Larra amplipennis 131
Larus crassirostris 86
Lasiommata deidamia 140
Latouchia typica 153
Lefua echigonia 101

- Leiodytes frontalis* 125
Leiopus guttatus 128
Lepidopisum verrucosum 160
Leptalina unicolor 139
Leptidea amurensis 139
Lepus brachyurus 78
Lestes japonicus 109
Lestes sponsa 109
Lethe diana 140
Lethe sicelis 140
Lethenteron reissneri complex 101
Leucomyia alba 135
Leucopsarion petersii 102
Leucosticte arctoa 88
Libelloides ramburi 121
Libellula angelina 110
Libellula quadrimaculata asahinai 110
Limecola contabulata 160
Limenitis camilla 140
Limenitis glorifica 140
Limicola falcinellus 86
Limnoporos esakii 117
Limosa lapponica 85
Limosa limosa 85
Locustella pryeri 88
Lopinga achine 140
Loxia curvirostra 88
Loxoblemmus magnatus 114
Lucilia chini 135
Luciogobius guttatus 102
Luciola cruciata 127
Luciola lateralis 127
Luehdorfia japonica 139
Luscinia akahige 88
Luscinia cyane 88
Lutra nippon 79
Lycodon orientalis 92
Lycosa suzukii 154
Lyriothemis pachygastra 110
- M**
-
- Macaca fuscata* 78
Macrobrachium nipponense 148
Macromia amphigena amphigena 110
Macromia daimoji 110
Macrophthalmus japonicus 148
Macrophthalmus abbreviatus 148
Macroscelesia longipes 145
Mallota abdominalis 135
Mallota rubripes 135
Mangora herbeoides 153
Mantis religiosa 113
Margites fulvidus 127
Martes melampus 79
Masirana nippara 153
Mauremys japonica 92
Mecopoda nipponensis 114
Mecostethus parapleurus 114
Mecynippus pubicornis 128
Megaceryle lugubris 87
Megachile lagopoda furukawai 131
Megalophaedusa dorcas 159
Megalophaedusa martensi 159
Megalophaedusa rex 159
Megalophaedusa rhopalina 159
Megalophaedusa yagurai 159
Meganola mikabo 144
Melanitta americana 84
Melanitta fusca 84
Meles anakuma 79
Melittia inouei 145
Melittia sangaica 145
Meretrix lusoria 160
Mergellus albellus 84
Mergus serrator 84
Meta japonica 153
Metadon bifasciatus 135
Microdon shirakii 135
Micromys minutus 78
Microtus montebelli 78
Milvus migrans 86
Miniopterus fuliginosus 79
Minois dryas 140
Misgurnus anguillicaudatus 101
Misgurnus sp. (Clade A) 101
Mnais costalis 109
Mogera imaizumii 78
Mongolotettix japonicus 114
Monoceromyia pleuralis 135
Monticola solitarius 88
Mortonagrion Hirosei 109
Mortonagrion selenion 109

Motacilla grandis 88
Mugilogobius abei 102
Murina hilgendorfi 79
Murina silvatica 79
Muscicapa dauurica 88
Muscicapa sibirica 88
Mustela erminea 79
Mustela itatsi 79
Mycalesis francisca 140
Myelaphus dispar 135
Myotis frater 79
Myotis hosonoi 79
Myotis macrodactylus 79

N

Nannophya pygmaea 110
Nebria livida angulata 124
Nebria pulcherrima 124
Nebrioporus anchoralis 125
Nebrioporus nipponicus 125
Necydalis gigantea gigantea 127
Neope nipponica 140
Neosuccinea kofui 159
Neozephyrus japonicus 139
Nephargynnis anadyomene 140
Neptis alwina 140
Neptis philyra 140
Neptis pryeri 140
Neptis rivularis 140
Nesticus shinkaii 153
Nicrophorus japonicus 126
Nihonogomphus viridis 109
Nihonotripea japonica 148
Ninox scutulata 86
Niphanda fusca 140
Nipponarion carinatus 159
Nipponochlamys hakusana 159
Nipponochlamys semisericata 159
Nipponochloritis oscitans 160
Nipponochloritis pumila 160
Nipponomyia kuwanai 135
Nipponorhynchus bimaculatus 131
Nipponorhynchus mirabilis 131
Nisaetus nipalensis 86
Nodularia nipponensis 160
Nokona pernix 145

Noterus japonicus 125
Nothorhina punctata 127
Nucifraga caryocatactes 87
Numenius arquata 85
Numenius madagascariensis 85
Numenius phaeopus 85
Nyctalus aviator 78
Nycticorax nycticorax 84
Nymphalis antiopa 140
Nymphalis vaualbum 140
Nymphalis xanthomelas 140

O

Ochlodes ochraceus 139
Ochlodes venatus 139
Odacantha puziloi 125
Odontomyia garatas 135
Omophron aequalis 124
Oncomelania fupensis nosophora 158
Oncorhynchus masou masou 101
Onychodactylus japonicus 96
Oodes helopioides tokyoensis 125
Oodes vicarius 125
Oodes virens 125
Opsariichthys platypus 101
Orbona fragariae 145
Orchelimum kasumigauraense 114
Ordgarius hobsoni 153
Ordgarius sexspinosus 153
Orectochilus agilis 126
Orectochilus punctipennis 126
Orthetrum japonicum 110
Orthonevra karumaiensis 135
Orthosia satoi 145
Oryzias latipes 102
Osmoderma opicum 127
Otesiopsis japonica 159
Otus lempiji 86
Otus sunia 86
Oxyloma hirasei 159

P

Pagurus minutus 148
Palaemon macrodactylus 148
Palaemon orientis 148
Palaemon paucidens 148

Palaeostauropus obliteratus 144
Pamphilius hilaris 131
Panagaeus japonicus 125
Pandion haliaetus 86
Papilio maackii 139
Papilio macilentus 139
Paracercion hieroglyphicum 109
Paracercion plagiosum 109
Paracercion sieboldii 109
Parachauliodes continentalis 120
Parachauliodes japonicus 120
Parafossarulus striatula japonicus 158
Parakaliella hizenensis 159
Parakaliella pagoduloides 159
Parallelia dulcis 145
Paranaspia anaspidoidea 127
Paraplectana tsushimensis 153
Parasesarma pictum 148
Paratachys plagiatus shimosa 124
Paratya improvisa 148
Patelloida conulus 158
Pelodiscus sinensis 92
Pelophylax porosus porosus 96
Pelopidas jansonis 139
Peltodytes intermedius 125
Pericrocotus divaricatus divaricatus 87
Pericrocotus divaricatus tegimae 87
Periophthalmus modestus 102
Pernis ptilorhynchus 86
Peronmerus auripilis 125
Petaurista leucogenys 78
Phalaropus fulicarius 86
Phalaropus lobatus 86
Pharagmataecia castaneae 145
Phasianus colchicus 84
Pheropsophus jessoensis 125
Philomachus pugnax 86
Phonarellus ritsemai 114
Phoxinus lagowskii steindachneri 101
Phrynarachne katoi 154
Phucobius simulator 127
Phylloscopus borealoides 88
Phylloscopus coronatus 88
Phylloscopus xanthodryas 88
Phymatodes quadrimaculatus 127
Phytoecia coeruleomicans 128
Picus awokera 87
Pipistrellus endoi 78
Pirenella nipponica 158
Pirenella pupiformis 158
Pisidium sp. 160
Pitta nymphe 87
Platalea minor 85
Platamartus jakowlewi 127
Platambus fimbriatus 126
Plateumaris sericea 128
Platycnemis foliacea sasakii 109
Platynus thoreyi nipponicum 124
Plebejus argus 140
Plebejus argyrognomon 140
Plebejus subsolanus 140
Plecotus sacrimontis 79
Plestiodon finitimus 92
Plusilla rosalia 145
Pluvialis fulva 85
Pluvialis squatarola 85
Podiceps cristatus 84
Podiceps grisegena 84
Podiceps nigricollis 84
Poecile varius 87
Poecilophilides rusticola 127
Pogonocherus seminiveus 128
Pogonus japonicus 124
Polistes japonicus 131
Polyphylla laticollis 127
Polypylis hemisphaerula 159
Porzana fusca 85
Praethoessa varia 139
Primocerioides petri 135
Pristolycus sagulatus 127
Pronodularia cf. *japanensis* 3 160
Protaetia brevitarsis brevitarsis 127
Prunella rubida 88
Psammodytes japonicus 127
Pseudalemma miwai 144
Pseudocopera annulata 109
Pseudocopera tokyoensis 109
Pseudogobio polystictus 101
Pseudogobius masago 102
Pseudopanolis takao 145
Pseudorasbora pumila pumila 101
Pseudorhynchus japonicus 114

Pteromys momonga 78
Pteronemobius yezoensis 114
Pterostichus fortis 124
Pungitius sp.4 101
Pyramidula conica 159
Pyrgus maculatus 139
Pyrrhula pyrrhula 88

R

Radix auricularia japonica 159
Rallus aquaticus 85
Rana japonica 96
Rana ornativentris 96
Rana sakuraii 96
Rana tagoi tagoi 96
Ranatra chinensis 117
Ranatra unicolor 117
Rapala arata 140
Regimbartia attenuata 126
Regulus regulus 87
Reinia variegata 159
Rhabdophis tigrinus 92
Rhantus yessoensis 126
Rhinogobius brunneus 102
Rhinogobius fluviatilis 102
Rhinogobius kurodai 102
Rhinogobius mizunoi 102
Rhinogobius nagoyae 102
Rhinogobius sp.OR 102
Rhinolophus cornutus 78
Rhinolophus ferrumequinum 78
Rhodinia fugax 144
Rhyothemis fuliginosa 110
Rosama cinnamomea 144
Rostratula benghalensis 86
Ruspolia interrupta 114

S

Salangichthys ishikawae 101
Salvelinus leucomaenis pluvius 101
Samia cynthia 144
Saprinus planiusculus 126
Saprinus splendens 126
Sarasaeschna pryleri 109
Sasakia charonda 140
Satsuma fausta 160

Satsuma myomphala 160
Saturnia japonica 144
Scarites sulcatus 124
Scasiba scribai 145
Sceliphron madraspatanum 131
Sciurus lis 78
Scolopax rusticola 85
Scopimera globosa 148
Sebastosema bubonaria 144
Segestria nipponica 153
Selenops bursarius 154
Serrognathus platymelus pilifer 127
Sesarmops intermedia 148
Shaogomphus postocularis postocularis 109
Shinobius orientalis 154
Shirakiacris shirakii 114
Shirozua jonasi 139
Sialis japonica 120
Sialis tohokuensis 120
Sialis yamatoensis 120
Sicyopterus japonicus 102
Sinopoda forcipata 154
Sitalina insignis 159
Sitalina japonica 160
Sitta europaea 88
Somatochlora clavata 110
Somatochlora viridiaenea 110
Sorex shinto 78
Speyeria aglaja 140
Sphinx caliginea 144
Sphinx crassistriga 144
Spilomyia gigantea 135
Stenothyra japonica 158
Stenygrinum quadrinotatum 127
Sterna albifrons 86
Sternolophus rufipes 126
Stethophyma magister 114
Stichopogon gracilifemur 135
Stizus perrisi 131
Stratiomys japonica 135
Strix uralensis 86
Stylurus nagoyanus 109
Stylurus oculus 109
Sus scrofa 79
Sympecma paedisca 109
Sympetrum croceolum 110

Sympetrum eroticum eroticum 110
Sympetrum kunkeli 110
Sympetrum parvulum 110
Sympetrum pedemontanum elatum 110
Sympetrum risi risi 110
Sympetrum uniforme 110
Synanthedon fukuzumii 145
Synclisis japonica 121
Synuchus callitheres callitheres 124
Synuchus orbicollis 124
Syrmaticus soemmerringii 84

T

Tachybaptus ruficollis 84
Tachysurus tokiensis 101
Takydromus tachydromoides 92
Tanakia lanceolata 101
Tanakia tanago 101
Tanypteryx pryeri 110
Tapinopa guttata 153
Taraka hamada 139
Taranucnus nishikii 153
Telema nipponica 153
Teleogryllus yezoemma 114
Temnostoma vespiforme 135
Terpnosia vacua 117
Terpsiphone atrocaudata 87
Thanatophilus rugosus 126
Thanatophilus sinuatus 126
Themus niisatoi 127
Thyestilla gebleri 128
Thymelicus leoninus 139
Thymelicus sylvaticus 139
Thyreus centrimacula 131
Tinoderus singularis 125
Tipulodina joana 135
Toxorhynchites towadensis towadensis 135
Trapezium liratum 160
Treron sieboldii 84
Tribolodon brandtii 101
Trichotichnus kantoonus 124
Tridentiger brevispinis 102
Tridentiger obscurus 102
Trigomphus melampus 109
Tringa erythropus 85
Tringa glareola 86

Tringa nebularia 86
Tringa ochropus 86
Tringa stagnatilis 86
Tringa totanus 85
Trochochlamys fraterna 160
Trochochlamys praealta 160
Trochochlamys sp.1 160
Trochochlamys sp.2 160
Trochochlamys subcrenulata 160
Troglodytes troglodytes 88
Turdus cardis 88

U

Upogebia major 148
Uragus sibiricus 88
Urosphena squameiceps 87
Urotrichus talpoides 78
Ursus thibetanus 79

V

Vanellus cinereus 85
Velarifictorus ornatus 114
Vertigo cf. *okinoerabuensis* 159
Vertigo ovata 159
Vespertilio sinensis 79
Vulpes vulpes 79

W

Wagimo signatus 139
Waldemaria japonica 158

X

Xenocorixa vittipennis 117
Xenogryllus marmoratus marmoratus 114
Xenus cinereus 86
Xylotrechus chinensis 128
Xysticus transversomaculatus 154
Xysticus trizonatus 154
Xystrocera globosa 127

Y

Ypthima argus 140

Z

Zhangixalus arboreus 96
Zhangixalus schlegelii 96

Zinaida pellucida 139
Zizina emelina 140
Zoothera dauma 88
Zoothera sibirica 88
Zophoessa callipteris 140

**2020 Red List of Threatened Species Tokyo:
23-ward and Tama area version**

Edited and published March 2021 by:
Natural Environment Division, Bureau of Environment
Tokyo Metropolitan Government
2-8-1 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-8001, Japan

令和 3 年 3 月発行
環境資料第 32098 号

令和 2 年度
登録番号 78

東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）
～ 東京都レッドリスト（本土部）2020 年版 ～

編集・発行 東京都環境局自然環境部
〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話 03-5388-3548